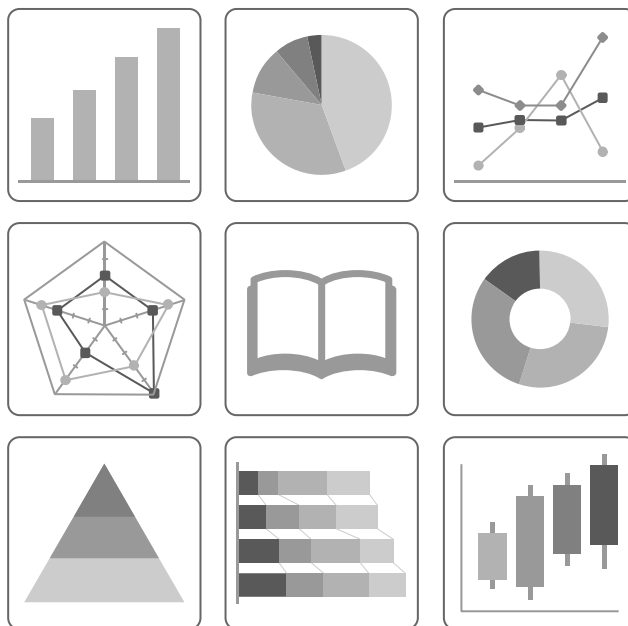


ふじみ野市

男女共同参画に関する市民意識調査

報告書



令和5年10月

ふじみ野市

目 次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果.....	2
(1)	回答者属性.....	2
(2)	男女共同参画全般について.....	4
(3)	家庭生活・子育て・介護について.....	37
(4)	就業について.....	77
(5)	社会参加について.....	114
(6)	健康・人権について.....	131
(7)	DV（配偶者等からの暴力）について.....	139
(8)	新型コロナウイルス感染症の影響について.....	177
(9)	男女共同参画行政について.....	181

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、市民の男女共同参画に関する実情や希望を把握し、その結果を令和5年度に見直しを行う計画に反映させることも目的に実施しました。

2 調査対象

ふじみ野市在住の満18歳以上を無作為抽出

3 調査期間

令和5年8月2日から令和5年8月18日

4 調査方法

郵送による配布

郵送・WEB回収

5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
2,000通	722通 (内WEB 230通)	36.1%

6 調査結果の表示方法

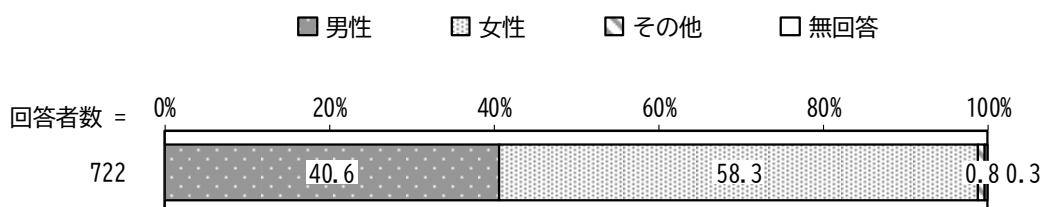
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。

Ⅱ 調査結果

(1) 回答者属性

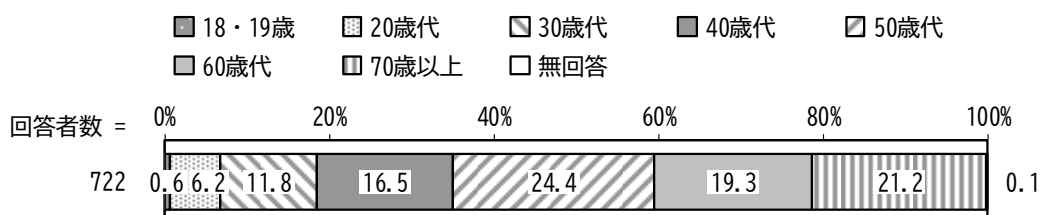
A. あなたの性別は、次のうちどれですか。(1つに○)

「女性」の割合が 58.3%、「男性」の割合が 40.6%、「その他」の割合が 0.8%となっています。



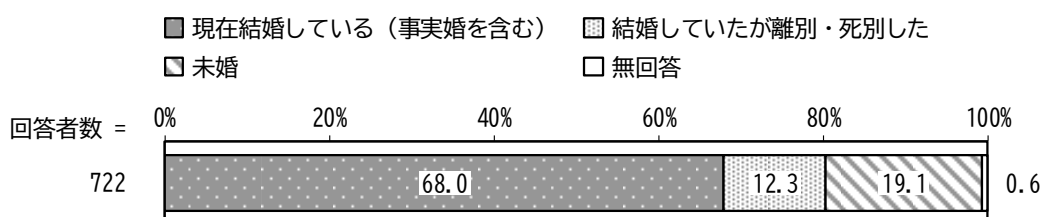
B. あなたの年齢は、次のうちどれですか。(1つに○)

「50 歳代」の割合が 24.4%と最も高く、次いで「70 歳以上」の割合が 21.2%、「60 歳代」の割合が 19.3%となっています。



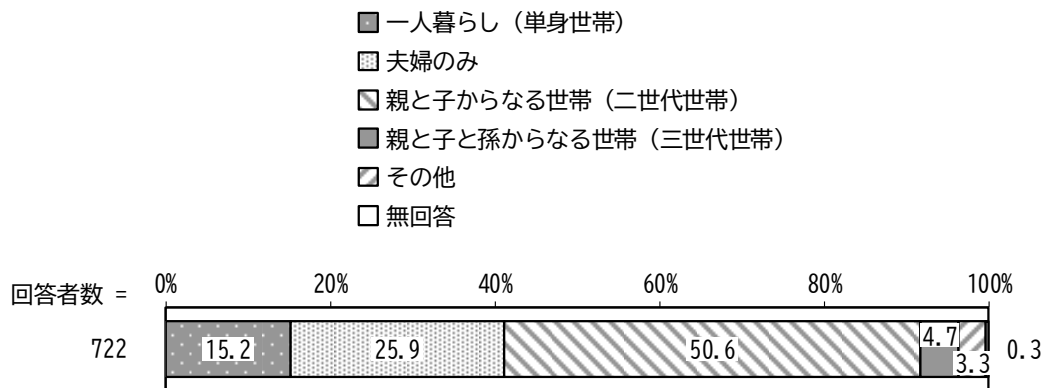
C. あなたは、結婚（事実婚を含む）していますか。(1つに○)

「現在結婚している（事実婚を含む）」の割合が 68.0%と最も高く、次いで「未婚」の割合が 19.1%、「結婚していたが離別・死別した」の割合が 12.3%となっています。



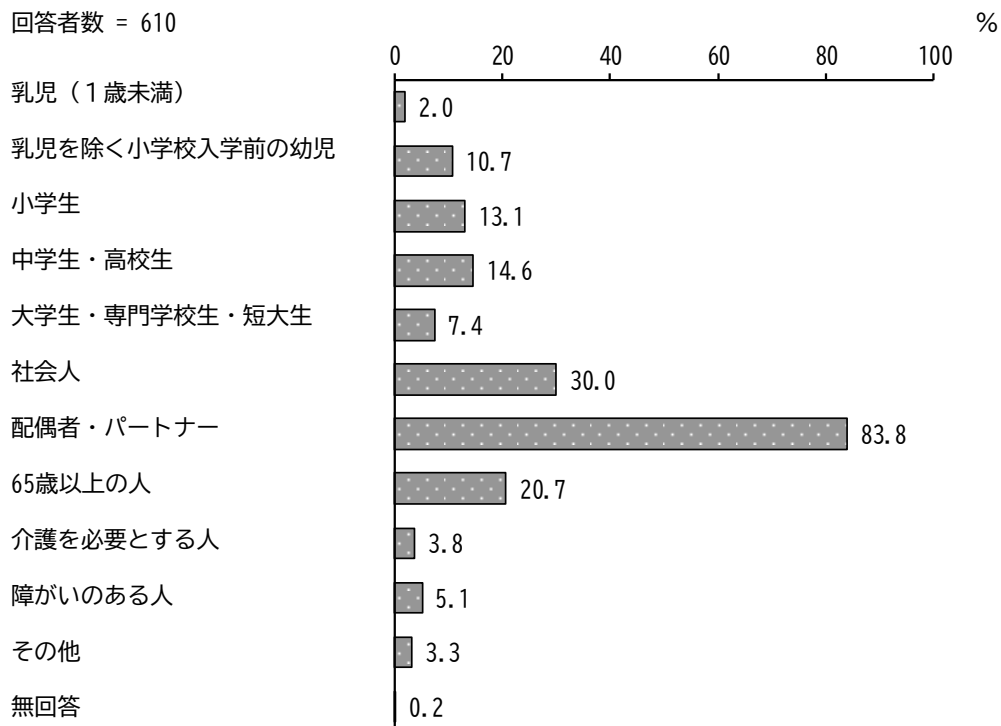
D. あなたの家族構成は、次のうちどれですか。（1つに○）

「親と子からなる世帯（二世帯世帯）」の割合が 50.6%と最も高く、次いで「夫婦のみ」の割合が 25.9%、「一人暮らし（単身世帯）」の割合が 15.2%となっています。



E. あなたと一緒に住んでいる人について、次の中からあてはまるものはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

「配偶者・パートナー」の割合が 83.8%と最も高く、次いで「社会人」の割合が 30.0%、「65歳以上の人」の割合が 20.7%となっています。



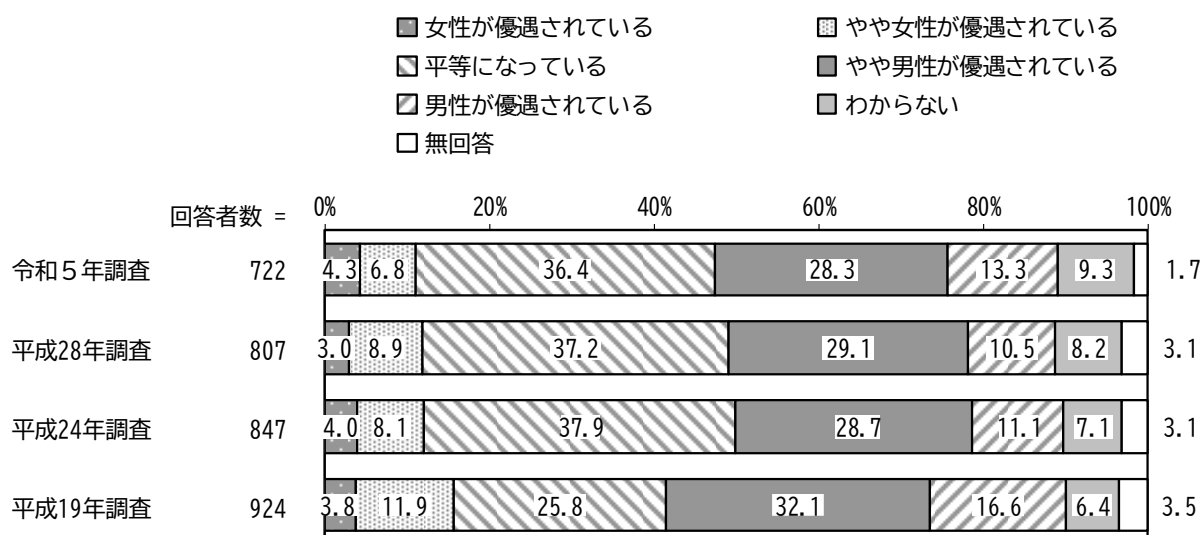
(2) 男女共同参画全般について

問1 あなたは、次のような項目で男女の地位が平等になっていると思いますか。
(それぞれの項目について1つに○)

①家庭生活では

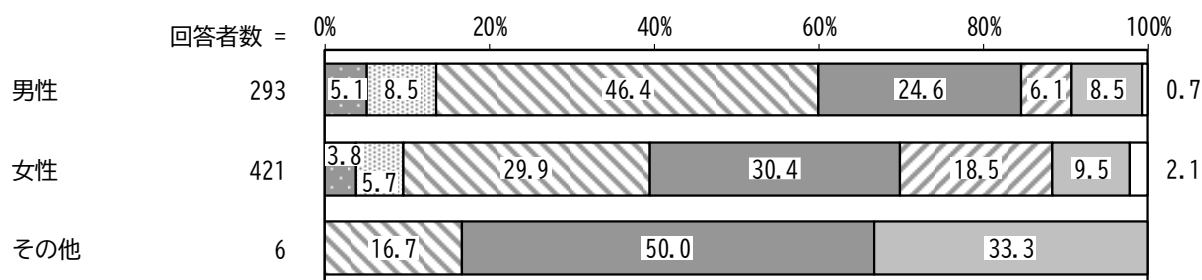
「やや男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」を合わせた＜男性が優遇されている＞の割合が41.6%、「平等になっている」の割合が36.4%となっています。

平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



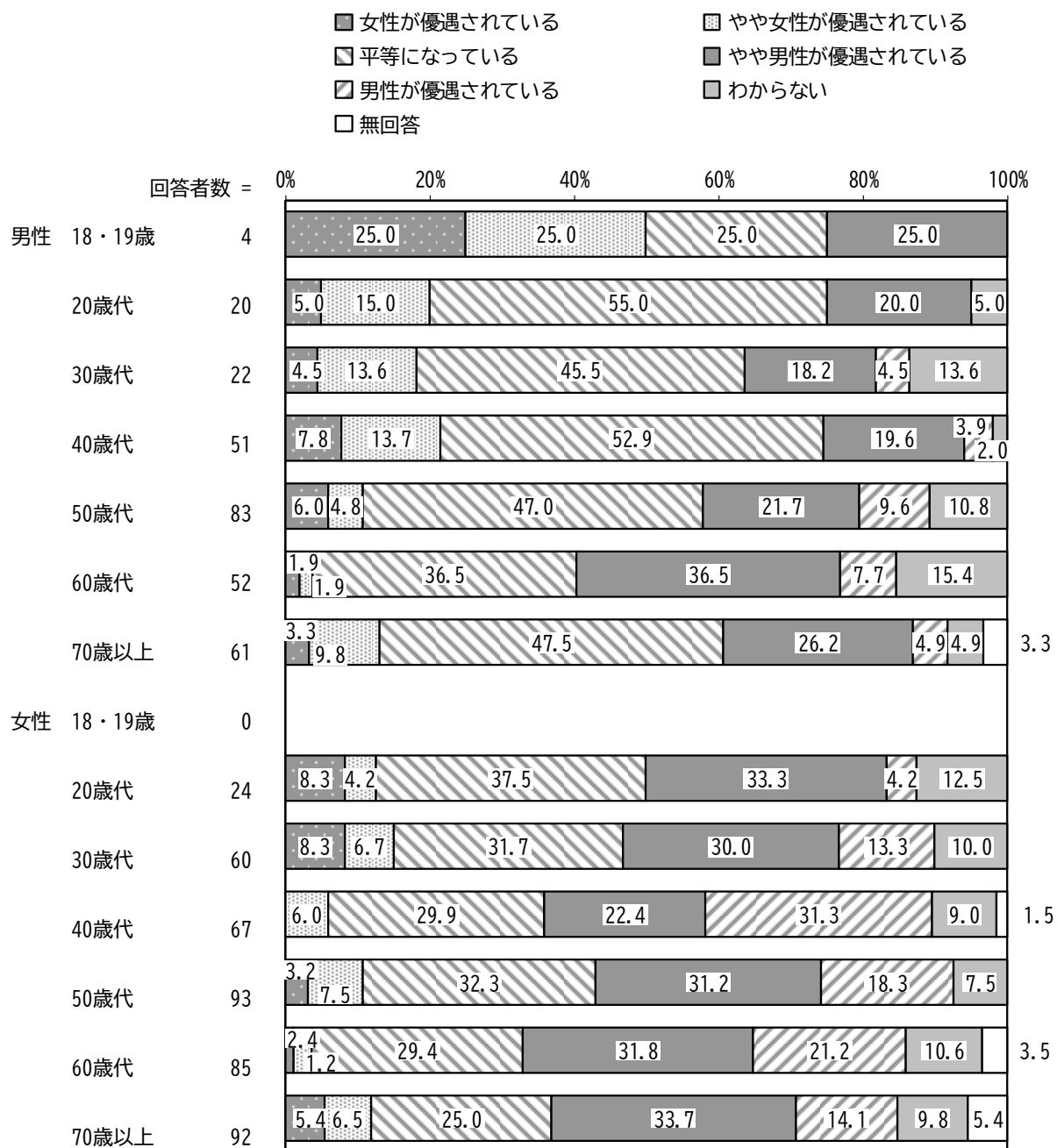
【性別】

性別にみると、男性で「平等になっている」、女性で＜男性が優遇されている＞の割合が高くなっています。



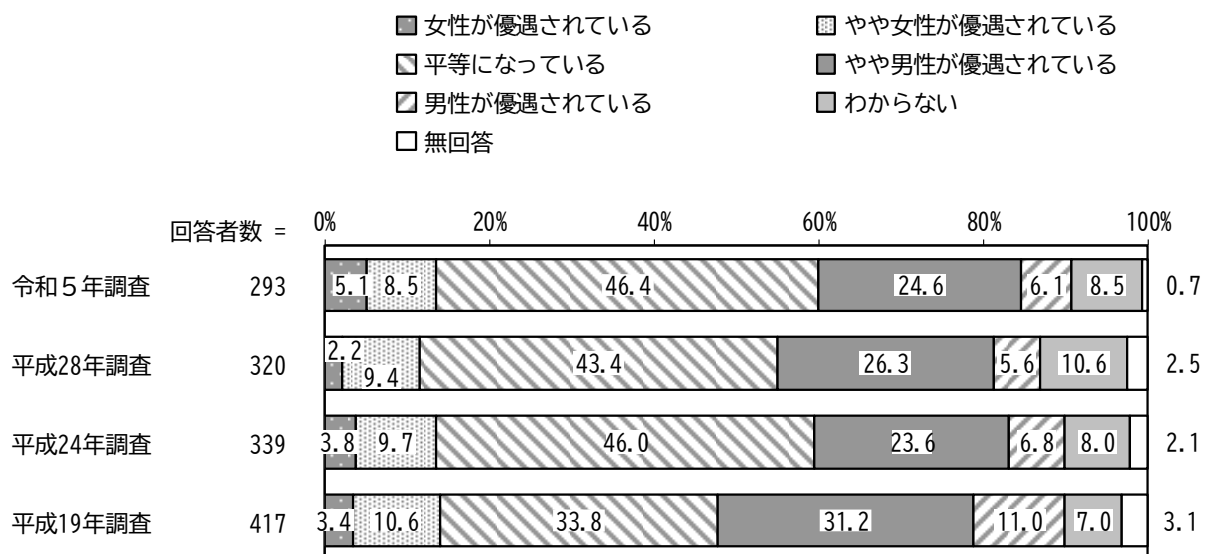
【性・年代別】

性・年代別にみると、男性 20 歳代で「平等になっている」の割合が高くなっています。



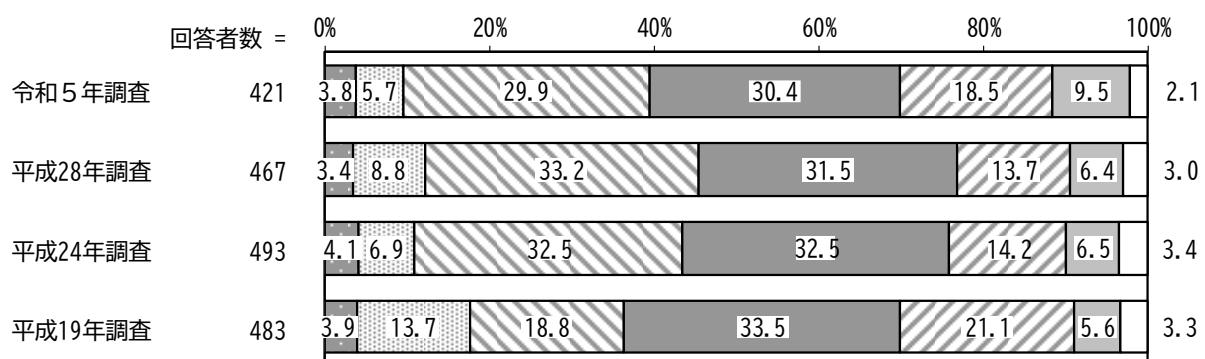
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【経年比較・女性】

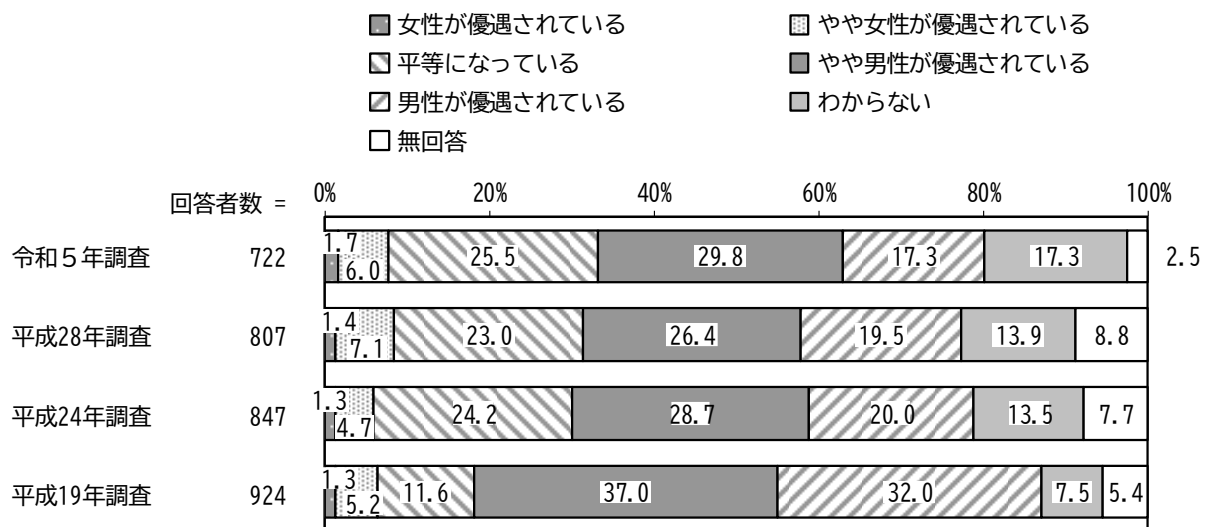
平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②職場では

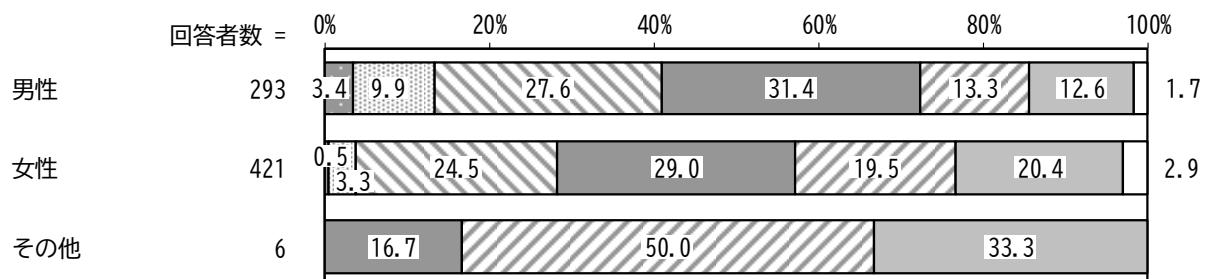
＜男性が優遇されている＞の割合が 47.1%、「平等になっている」の割合が 25.5%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



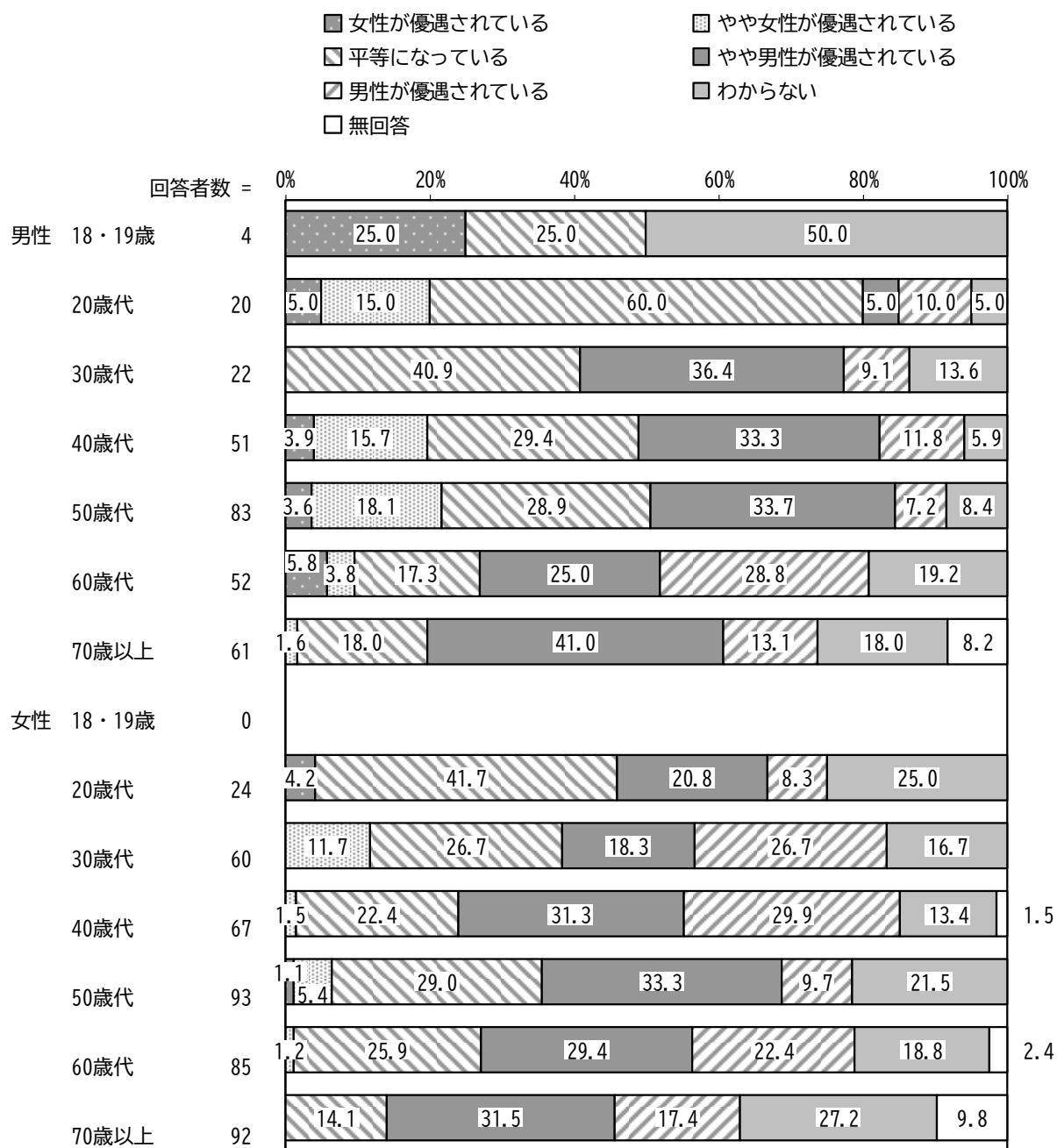
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



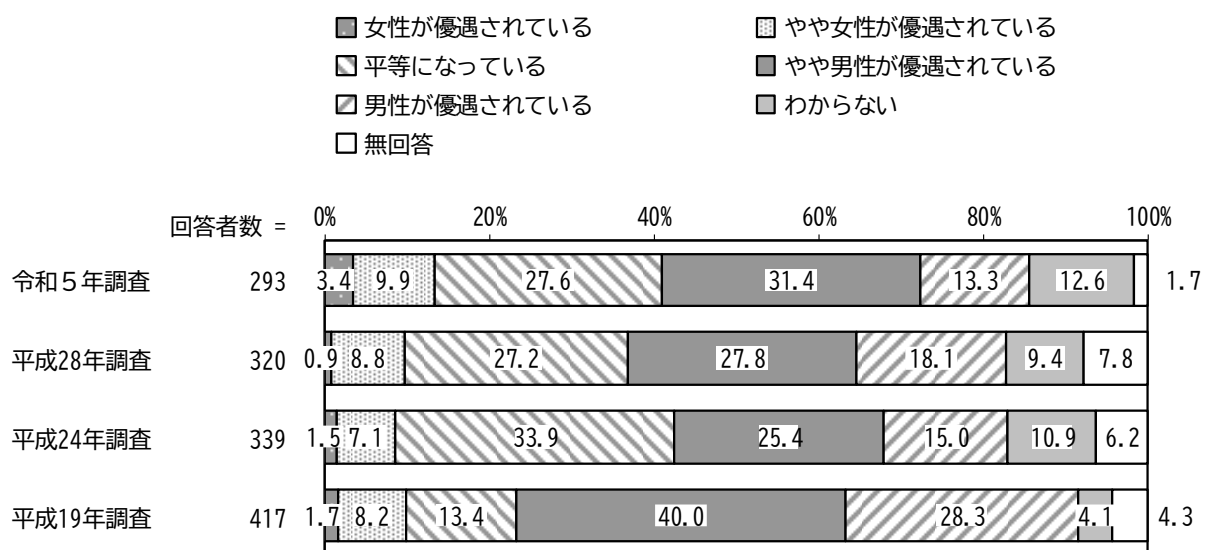
【性・年代別】

性・年代別にみると、男性 20 歳代で「平等になっている」、女性 40 歳代で＜男性が優遇されている＞の割合が高くなっています。



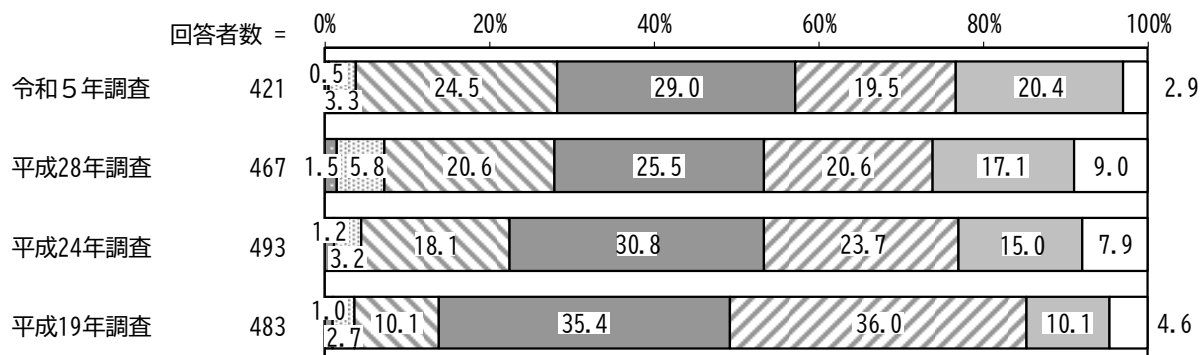
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【経年比較・女性】

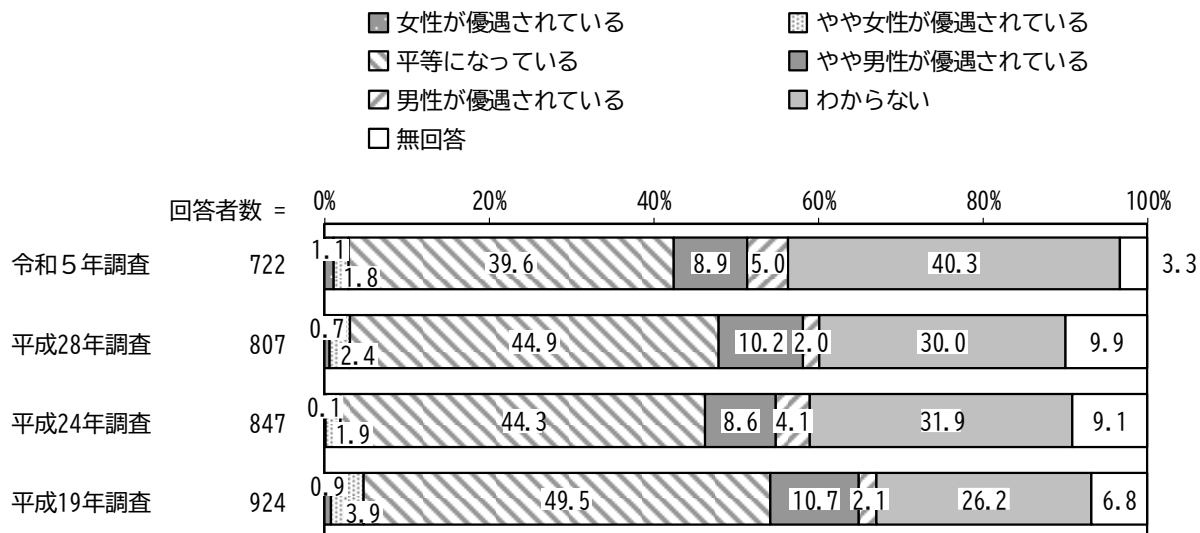
平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



③学校教育の場では

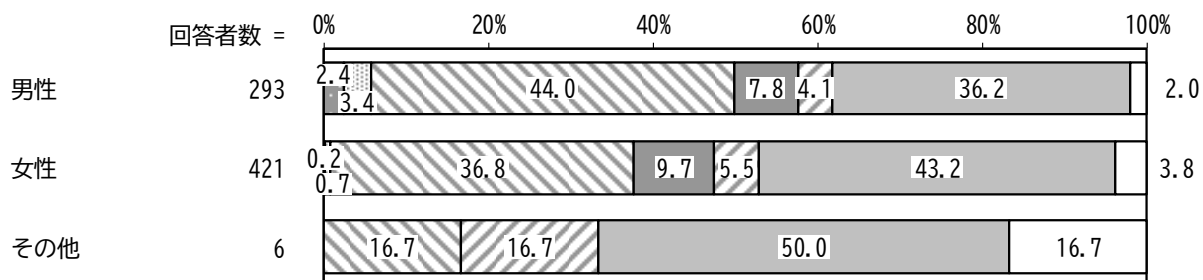
「わからない」の割合が40.3%と最も高く、次いで「平等になっている」の割合が39.6%となっています。

平成28年調査と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。一方、「平等になっている」の割合が減少しています。



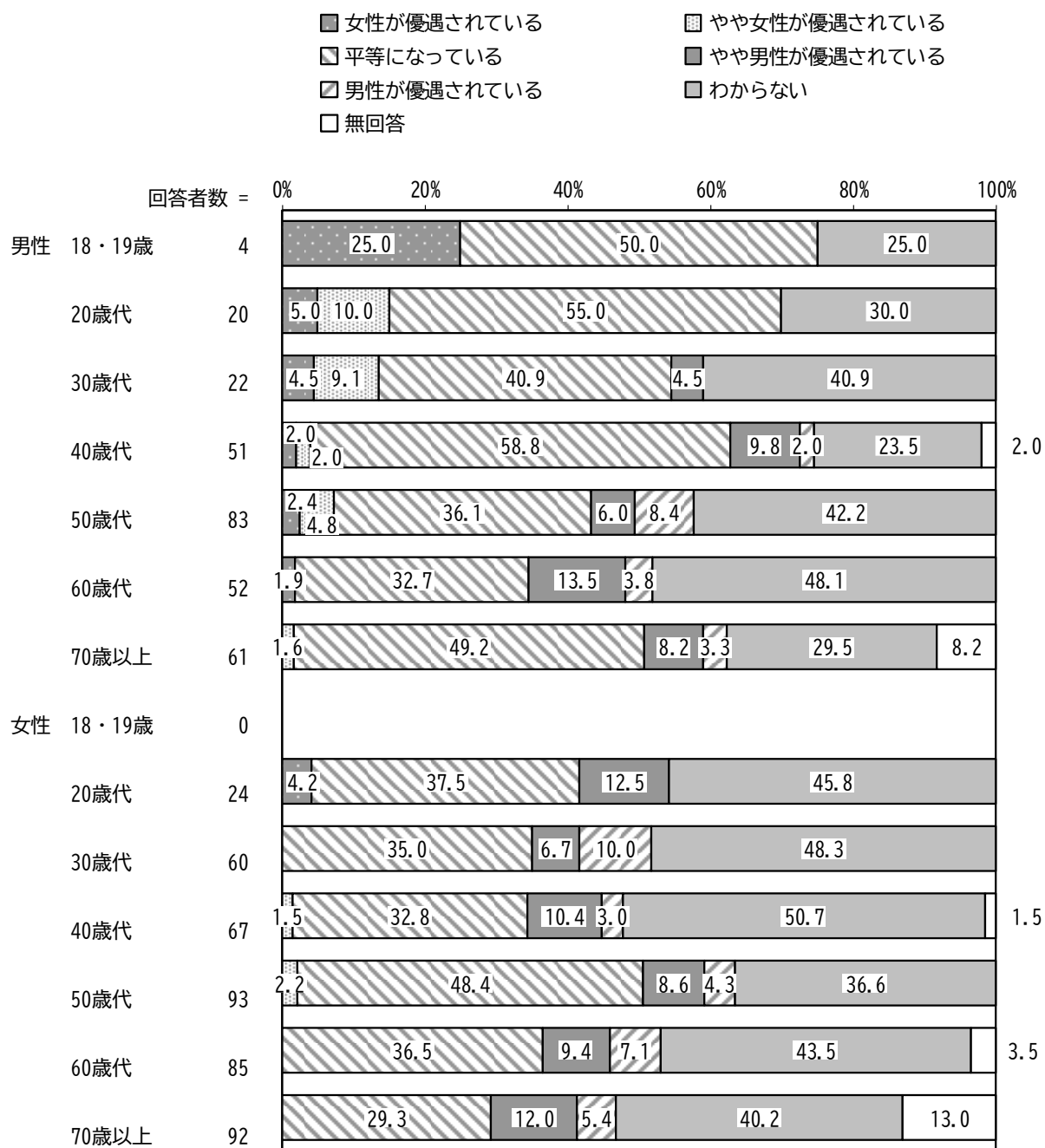
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



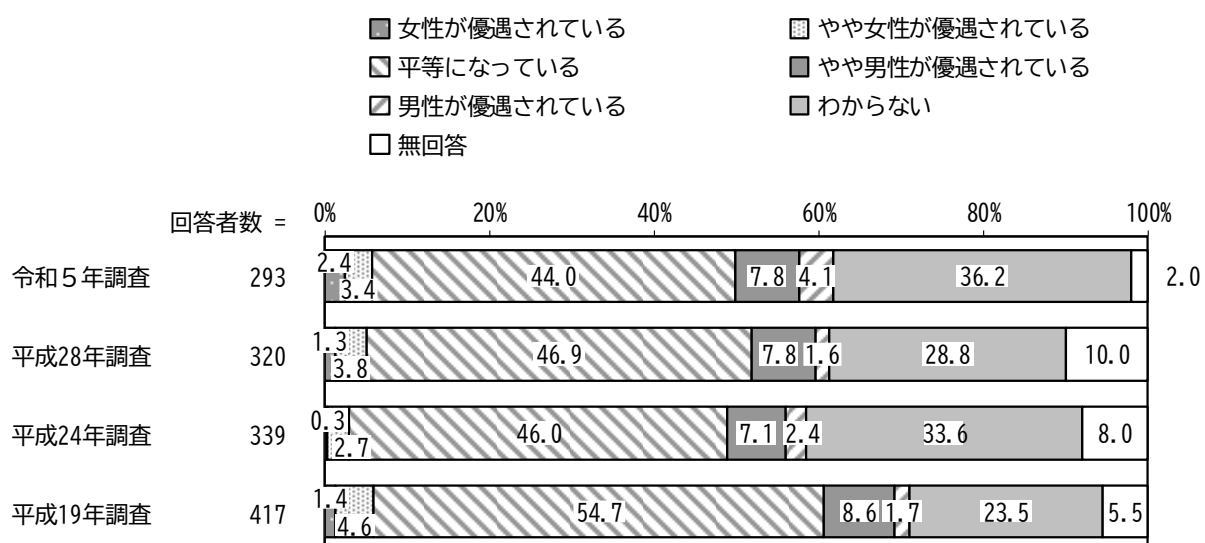
【性・年代別】

性・年代別にみると、男性 40 歳代で「平等になっている」の割合が高くなっています。



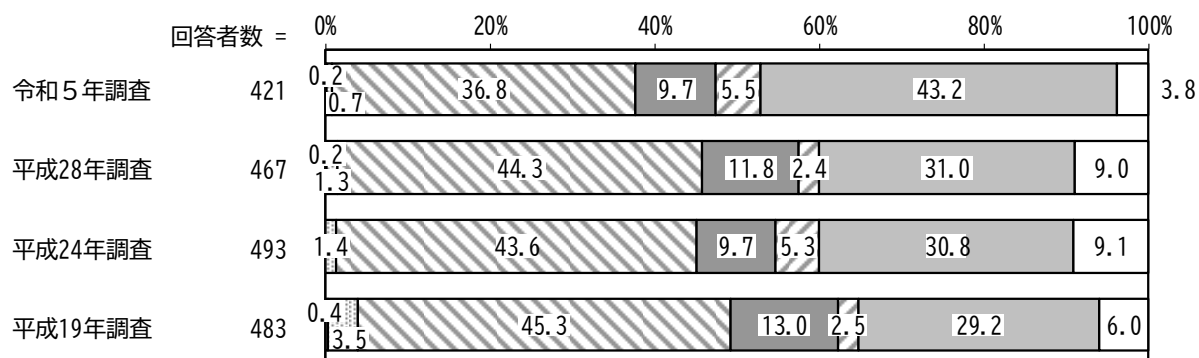
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。



【経年比較・女性】

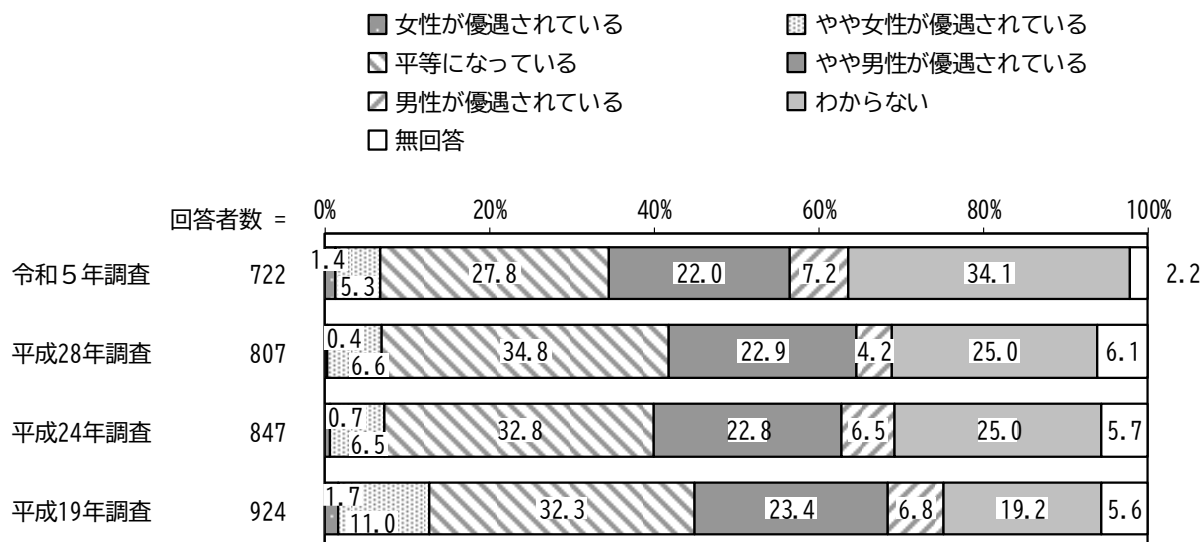
平成 28 年調査と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。一方、「平等になっている」の割合が減少しています。



④地域活動の場では

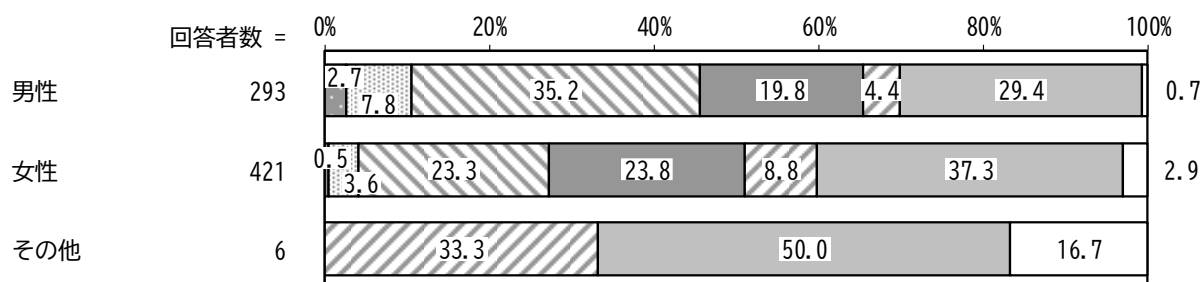
「わからない」の割合が34.1%と最も高く、次いで「平等になっている」の割合が27.8%、＜男性が優遇されている＞の割合が29.2%となっています。

平成28年調査と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。一方、「平等になっている」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、男性で「平等になっている」、女性で＜男性が優遇されている＞の割合が高くなっています。



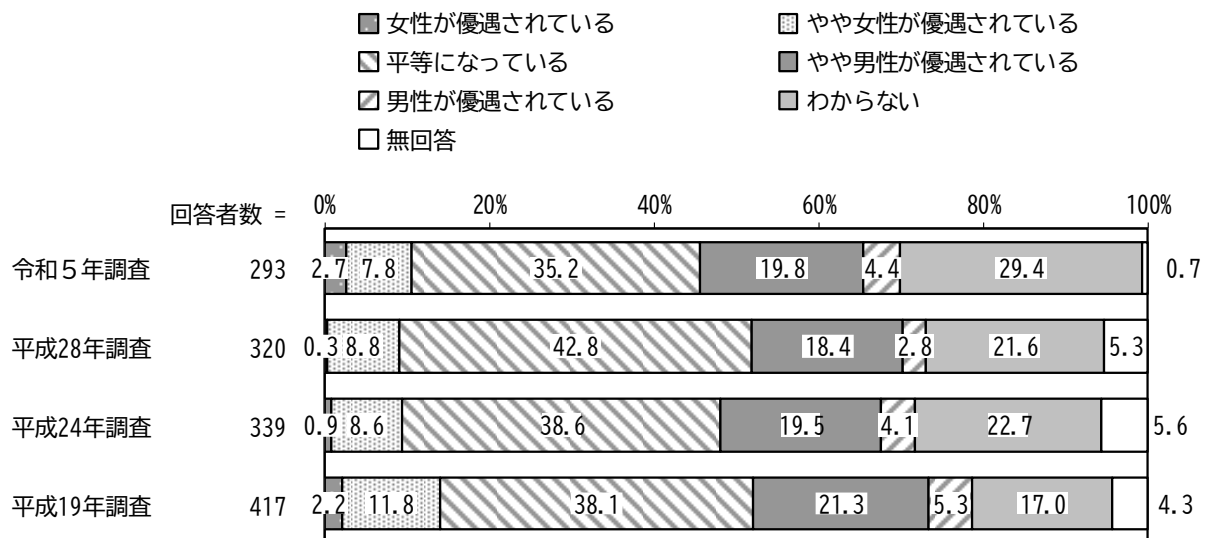
【性・年代別】

性・年代別にみると、女性 20 歳代で「わからない」の割合が高くなっています。



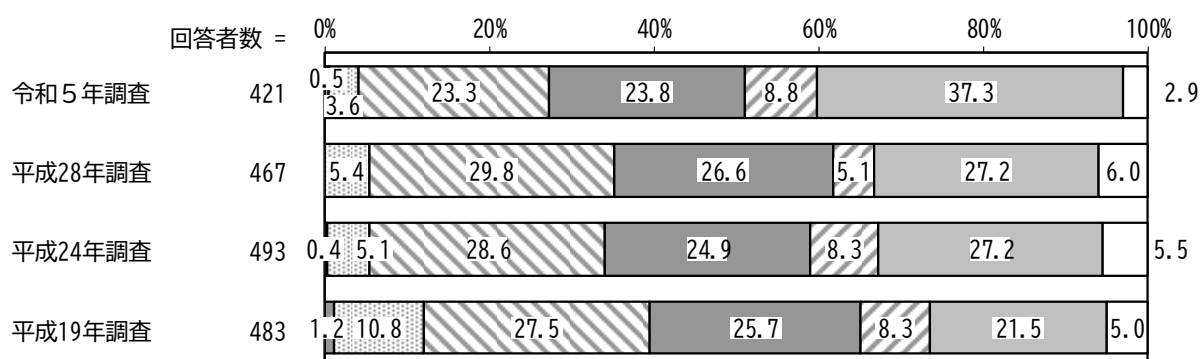
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。一方、「平等になっている」の割合が減少しています。



【経年比較・女性】

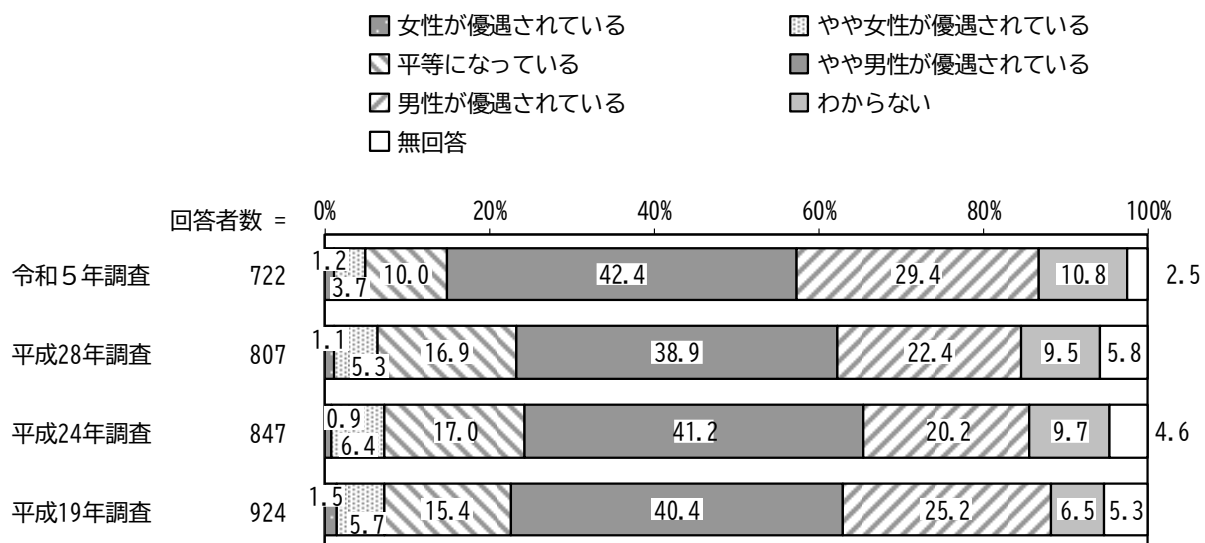
平成 28 年調査と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。一方、「平等になっている」の割合が減少しています。



⑤社会通念や風潮（習慣やしきたり）では

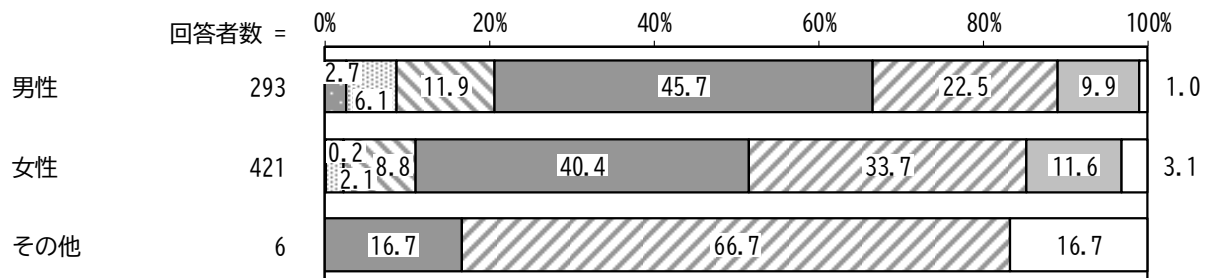
<男性が優遇されている>の割合が 71.8%、「わからない」の割合が 10.8%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、<男性が優遇されている>の割合が増加しています。一方、「平等になっている」の割合が減少しています。



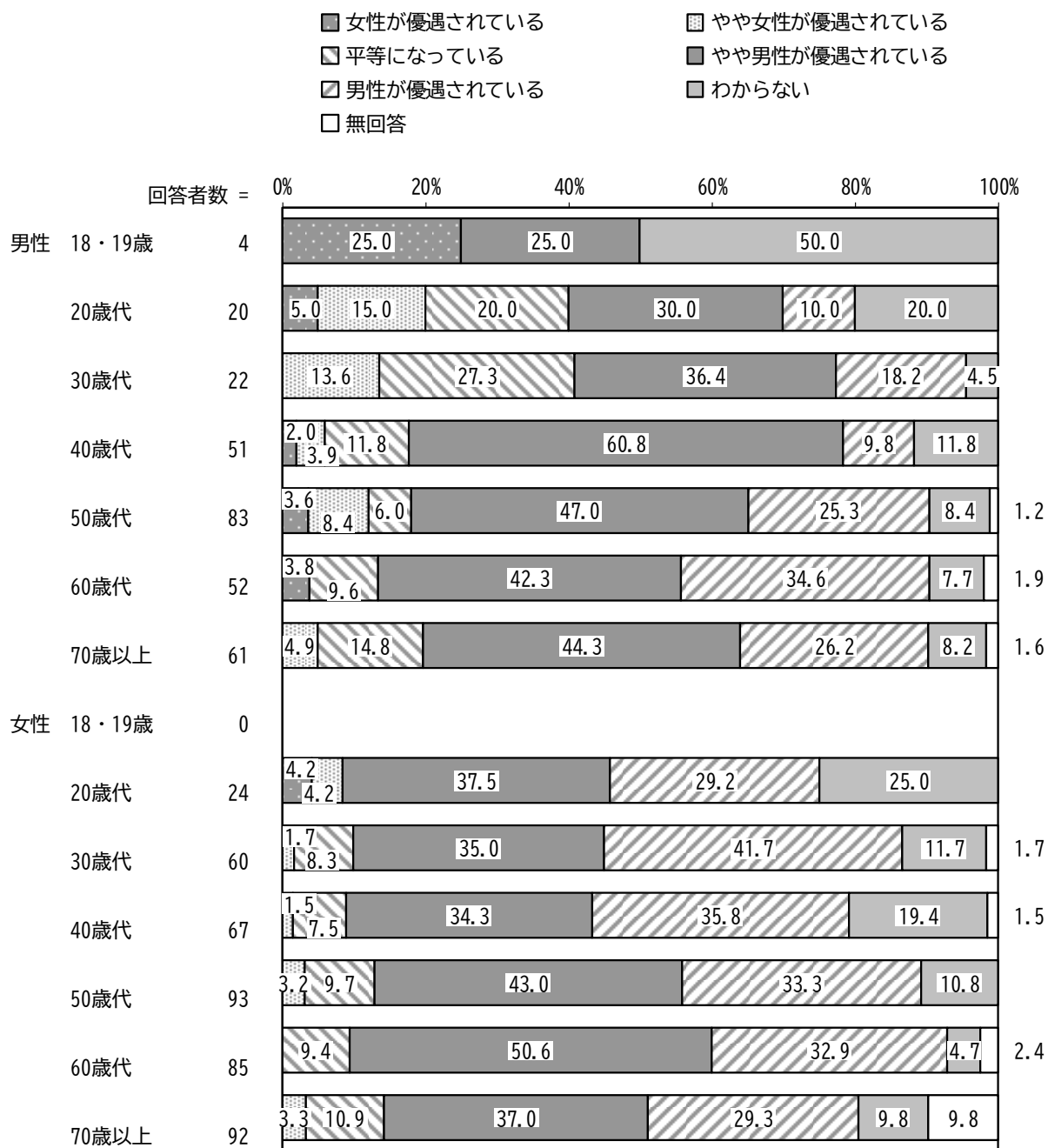
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



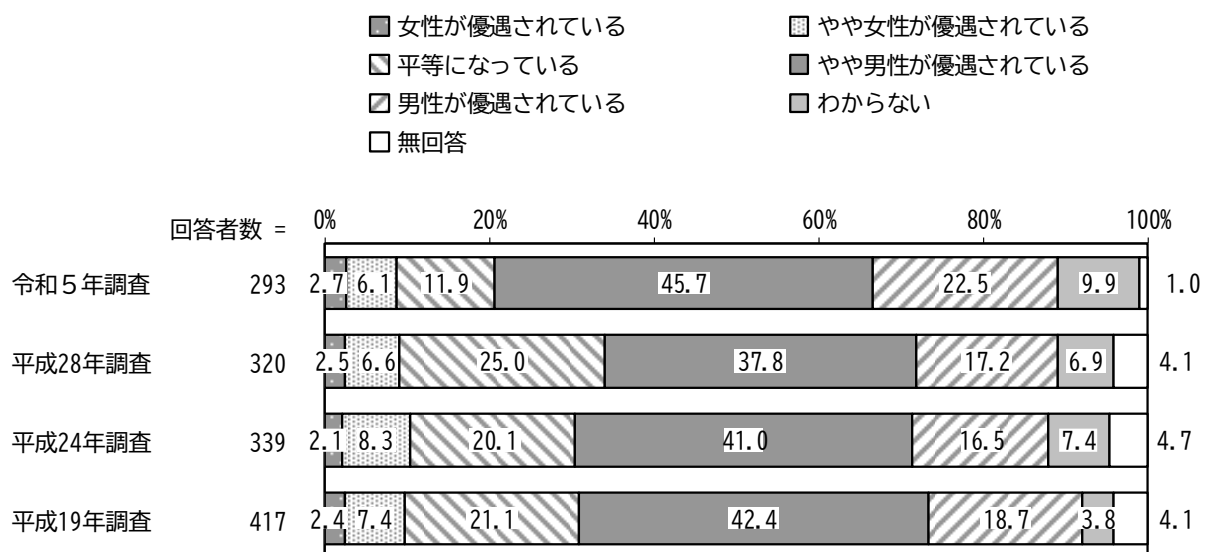
【性・年代別】

性・年代別にみると、女性 60 歳代で＜男性が優遇されている＞の割合が高くなっています。



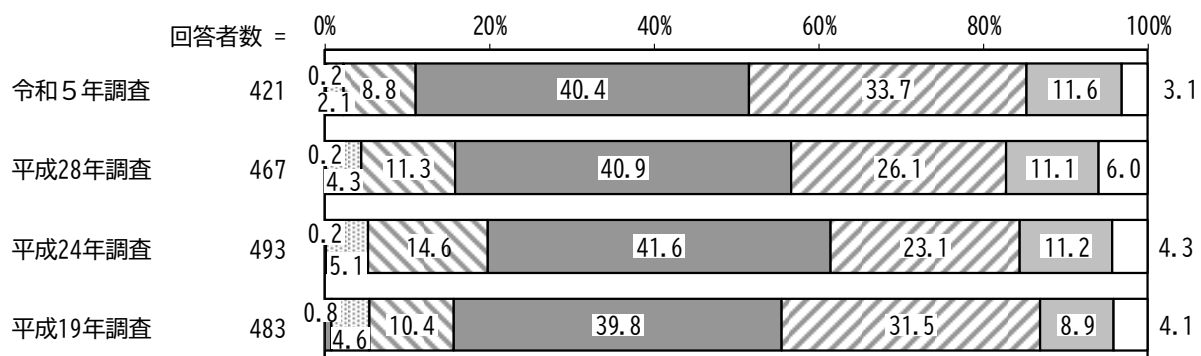
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、＜男性が優遇されている＞の割合が増加しています。一方、「平等になっている」の割合が減少しています。



【経年比較・女性】

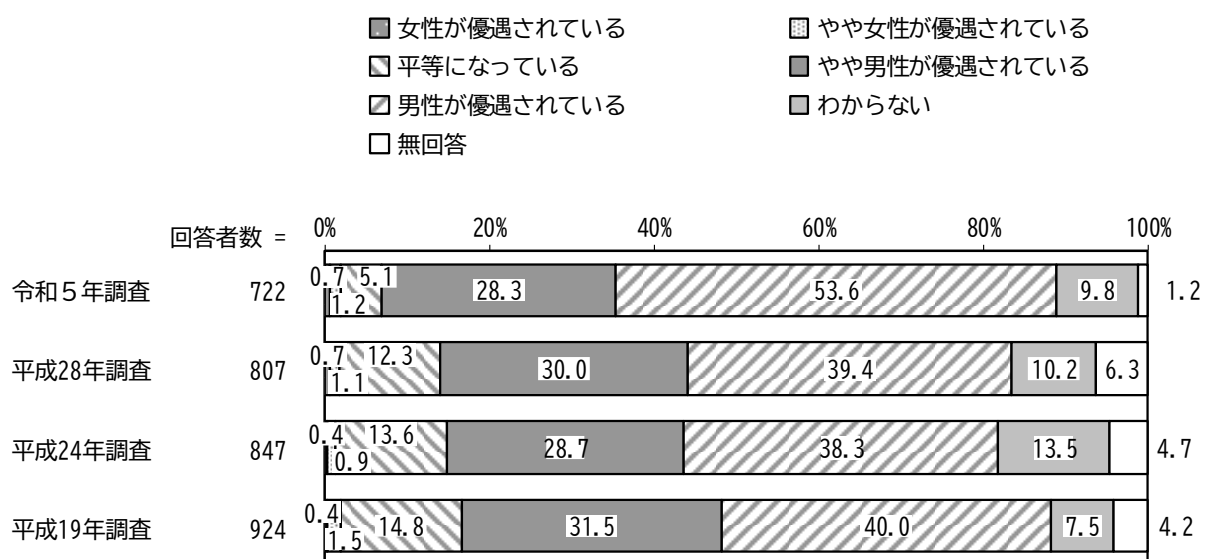
平成 28 年調査と比較すると、＜男性が優遇されている＞の割合が増加しています。



⑥政治の場では

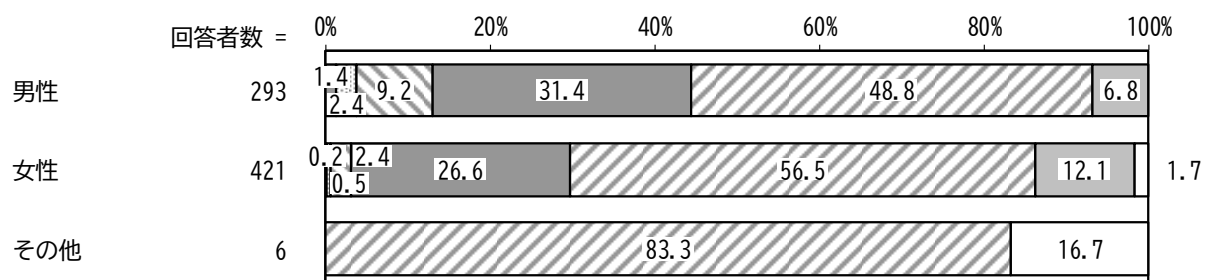
＜男性が優遇されている＞の割合が 81.9%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、＜男性が優遇されている＞の割合が増加しています。一方、「平等になっている」の割合が減少しています。



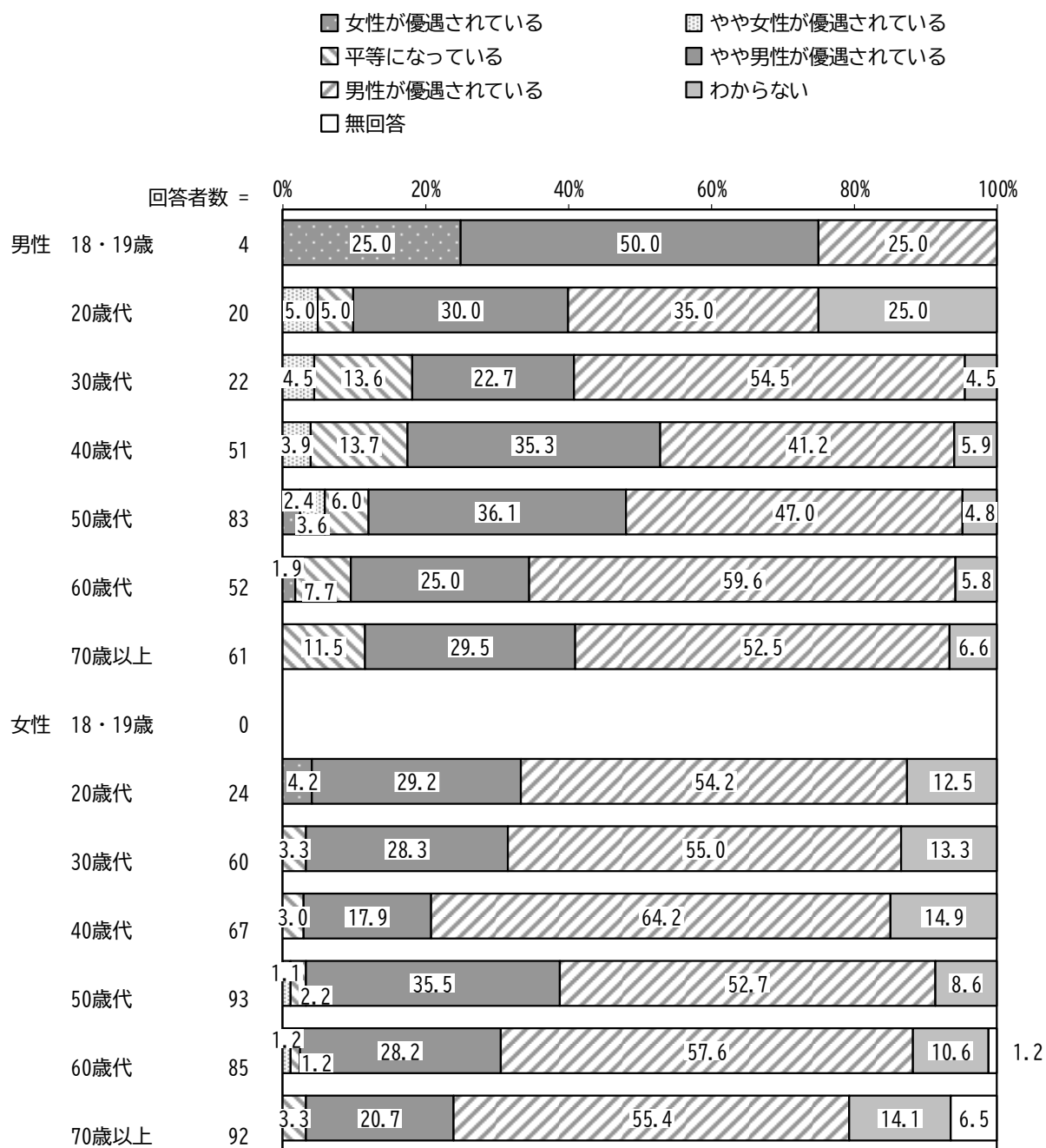
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



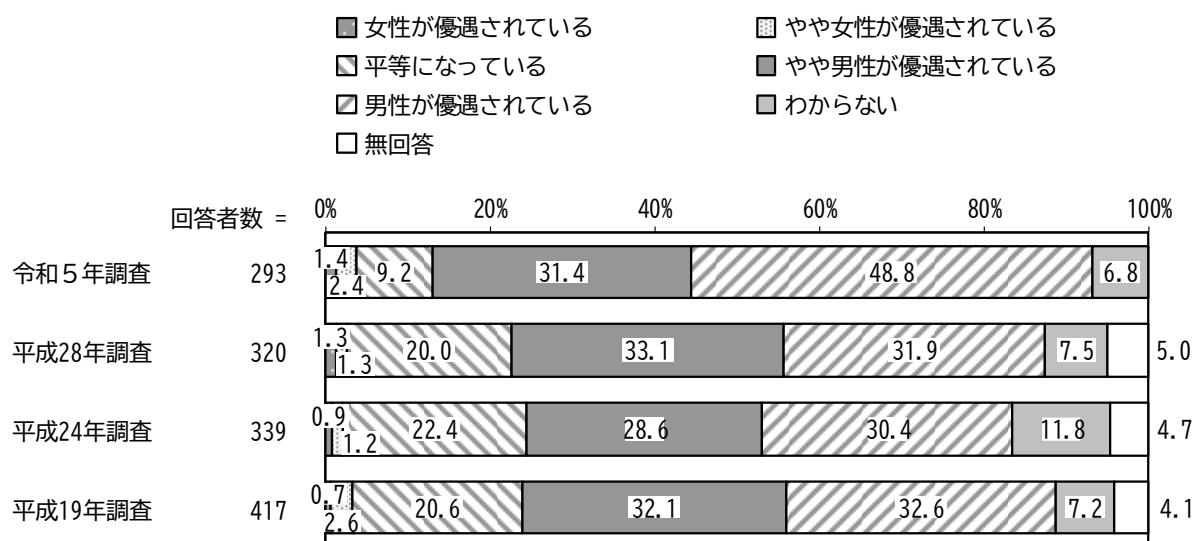
【性・年代別】

性・年代別にみると、女性 50 歳代で＜男性が優遇されている＞の割合が高くなっています。



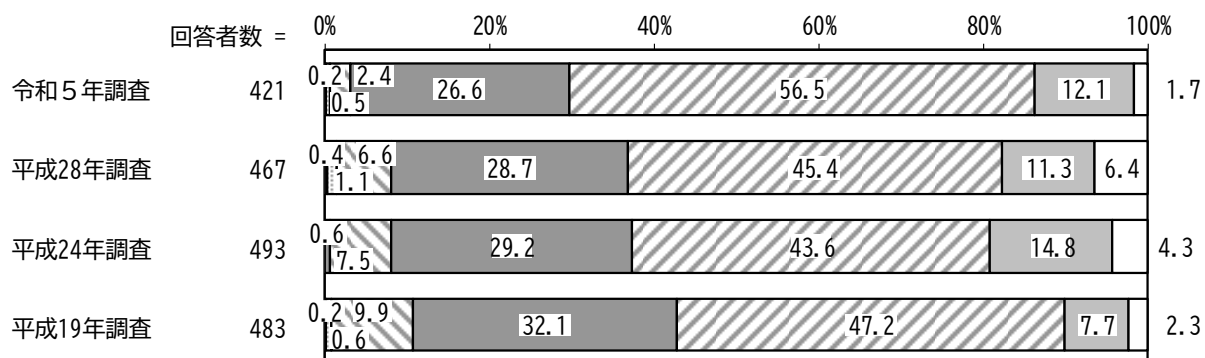
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、＜男性が優遇されている＞の割合が増加しています。一方、「平等になっている」の割合が減少しています。



【経年比較・女性】

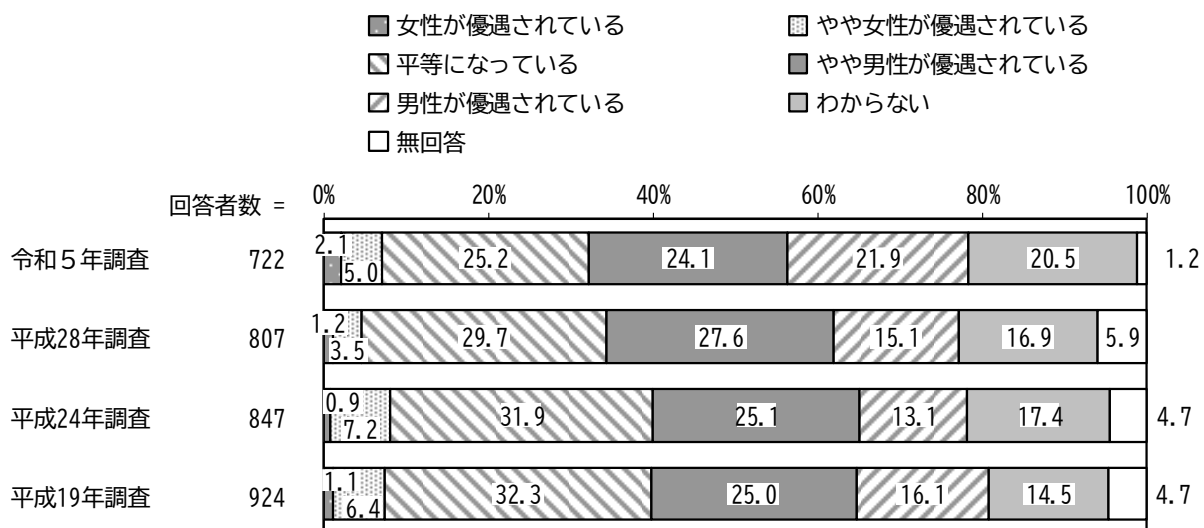
平成 28 年調査と比較すると、＜男性が優遇されている＞の割合が増加しています。



⑦法律や制度では

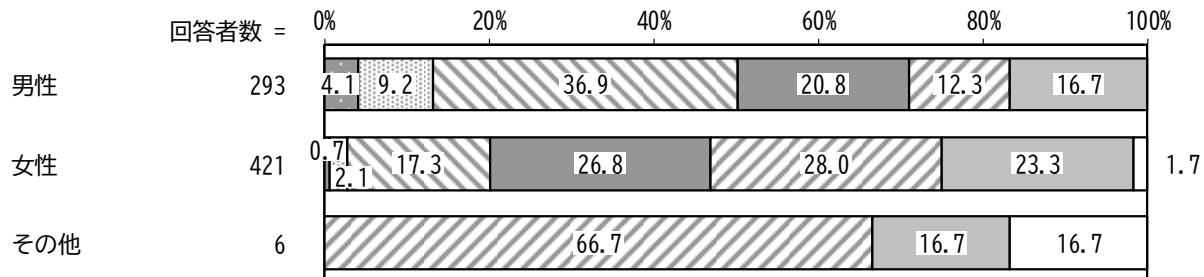
＜男性が優遇されている＞の割合が 46.0%、「平等になっている」の割合が 25.2%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



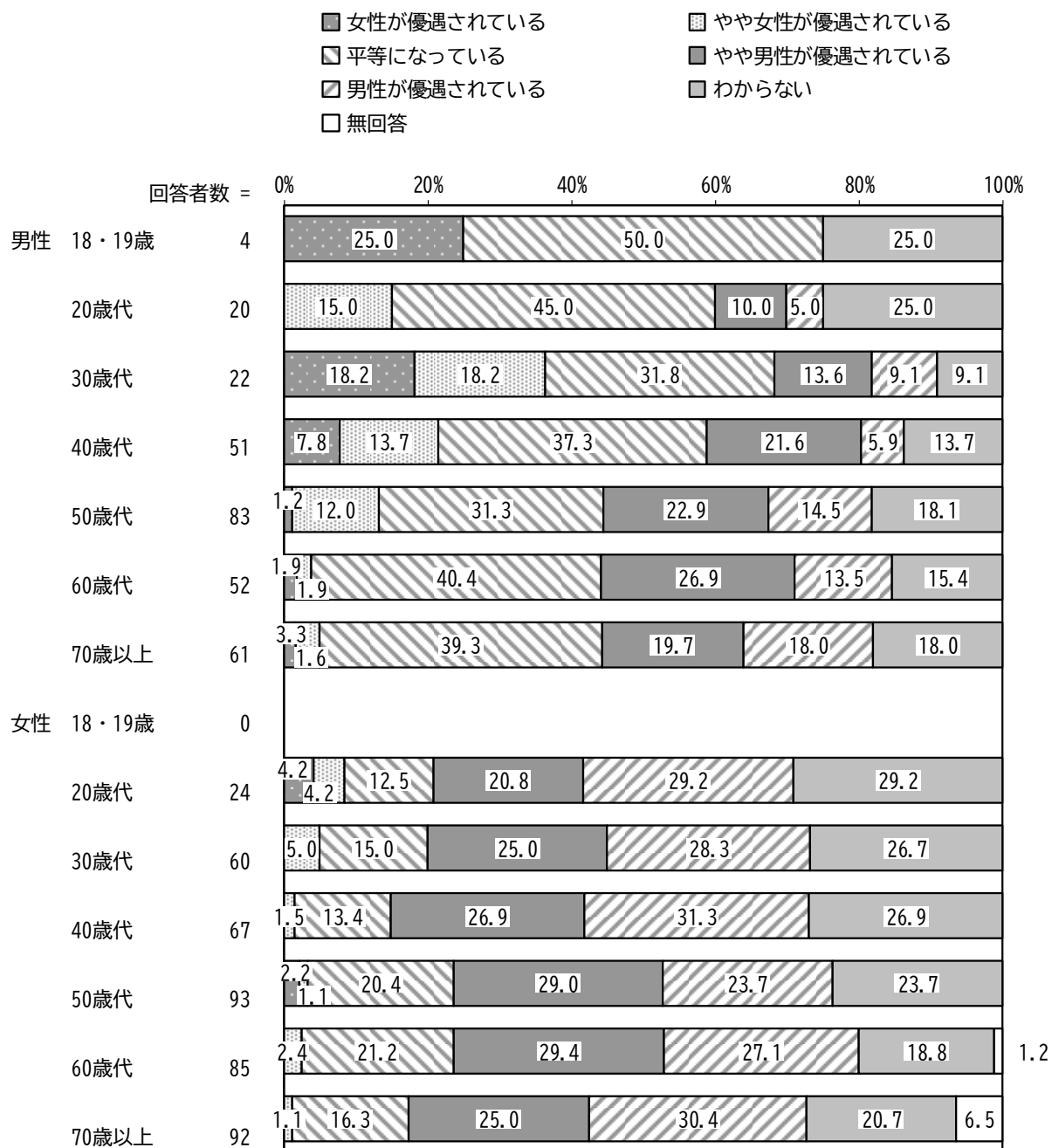
【性別】

性別にみると、男性で「平等になっている」、女性で＜男性が優遇されている＞の割合が高くなっています。



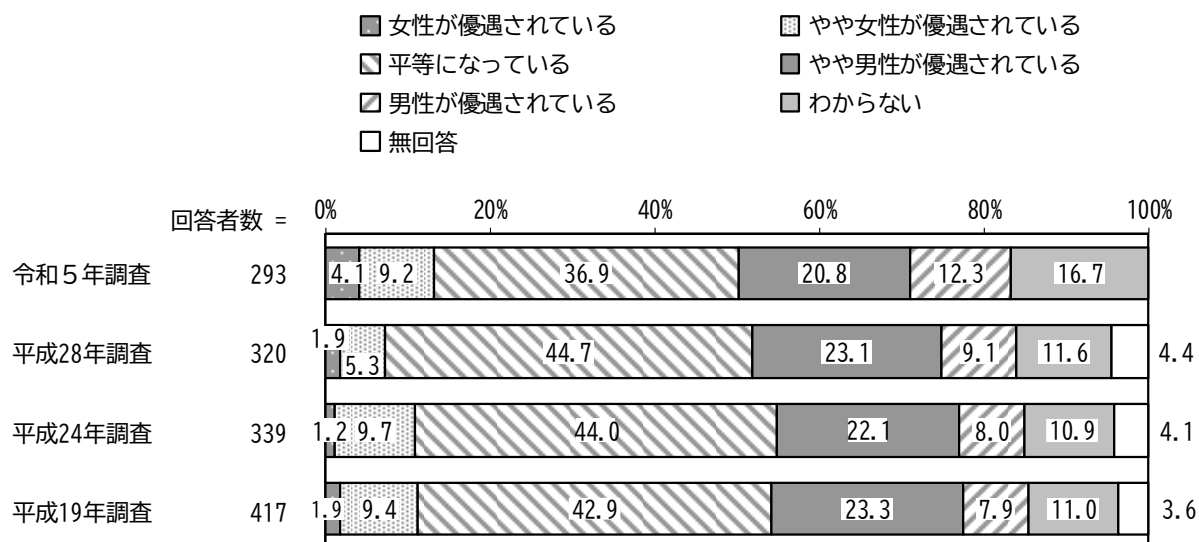
【性・年代別】

性・年代別にみると、男性 20 歳代で「平等になっている」、女性 40 歳代で＜男性が優遇されている＞の割合が高くなっています。



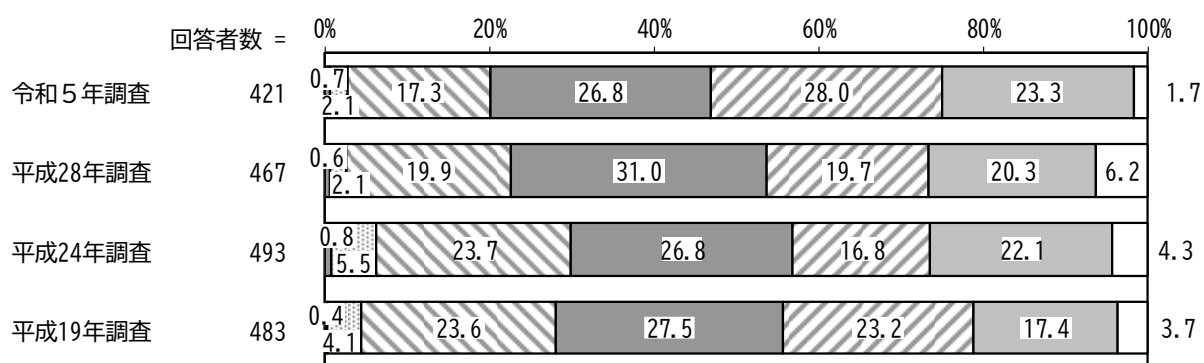
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。一方、「平等になっている」の割合が減少しています。



【経年比較・女性】

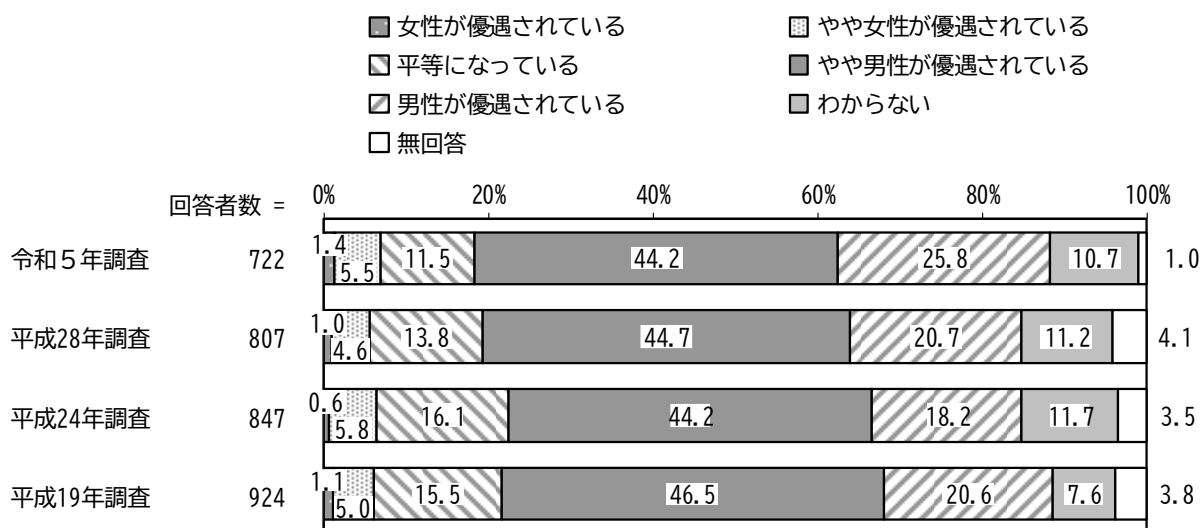
平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑧社会全体では

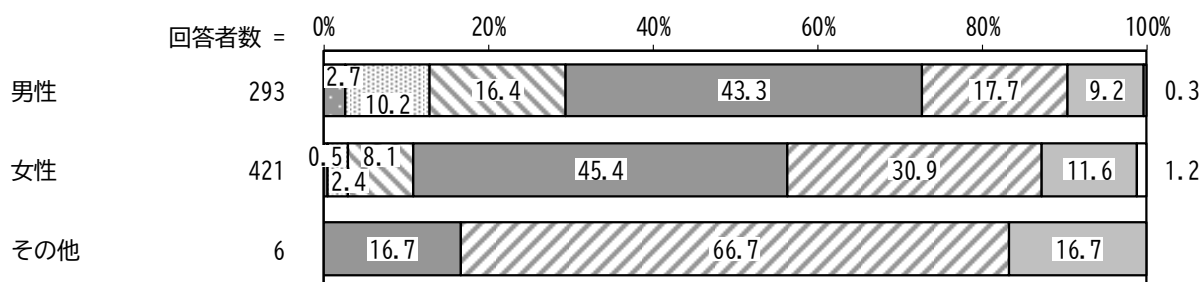
＜男性が優遇されている＞の割合が 70.0%、「平等になっている」の割合が 11.5%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



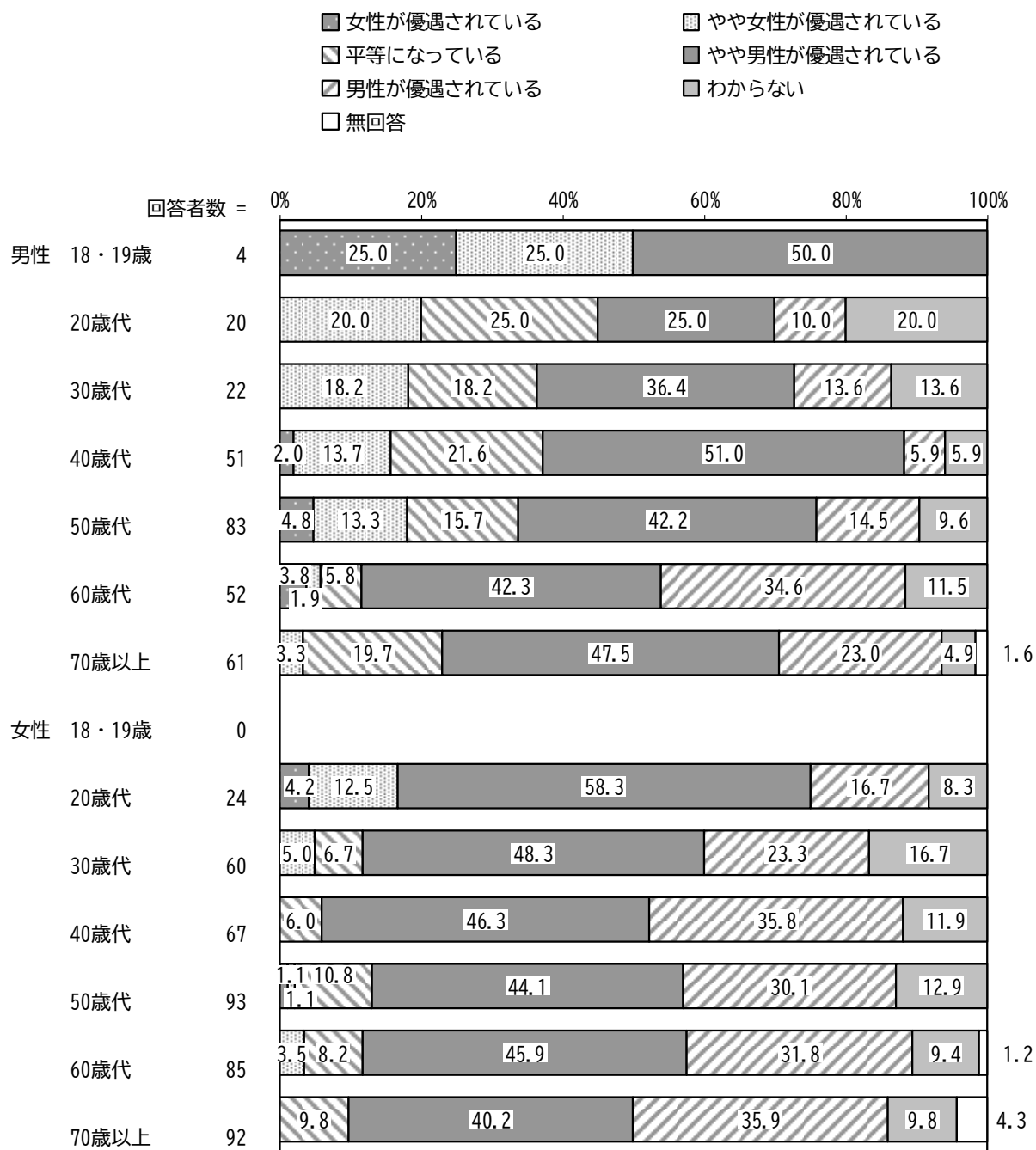
【性別】

性別にみると、女性で＜男性が優遇されている＞の割合が高くなっています。



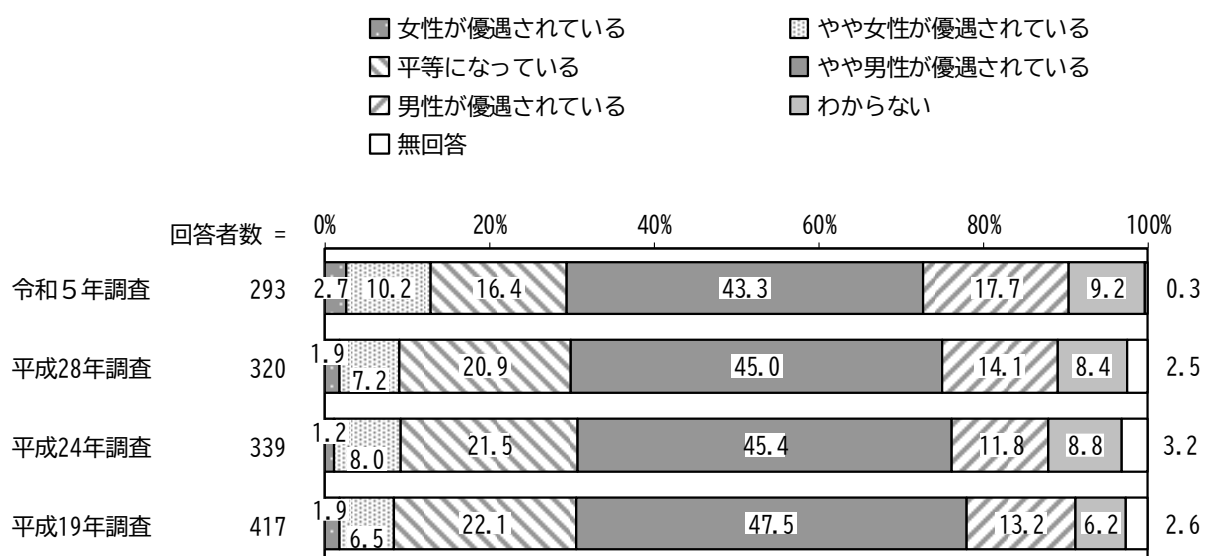
【性・年代別】

性・年代別にみると、女性 20 歳代で＜男性が優遇されている＞の割合が高くなっています。



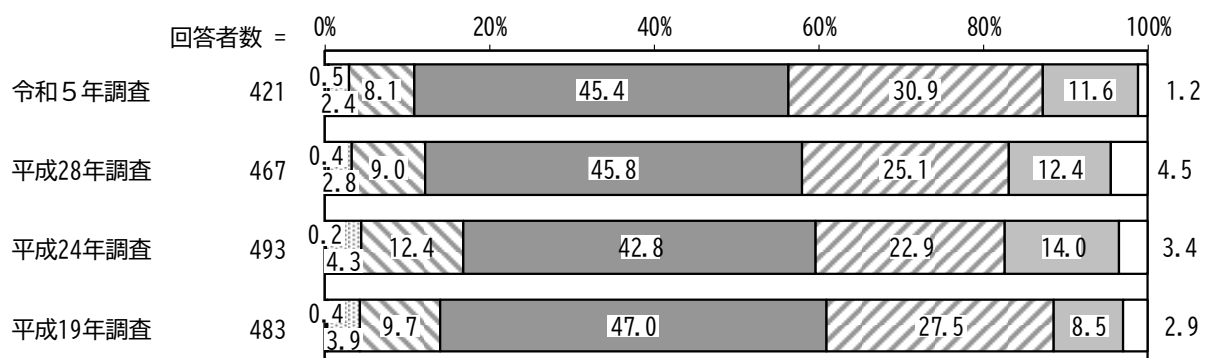
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【経年比較・女性】

平成 28 年調査と比較すると、＜男性が優遇されている＞の割合が増加しています。

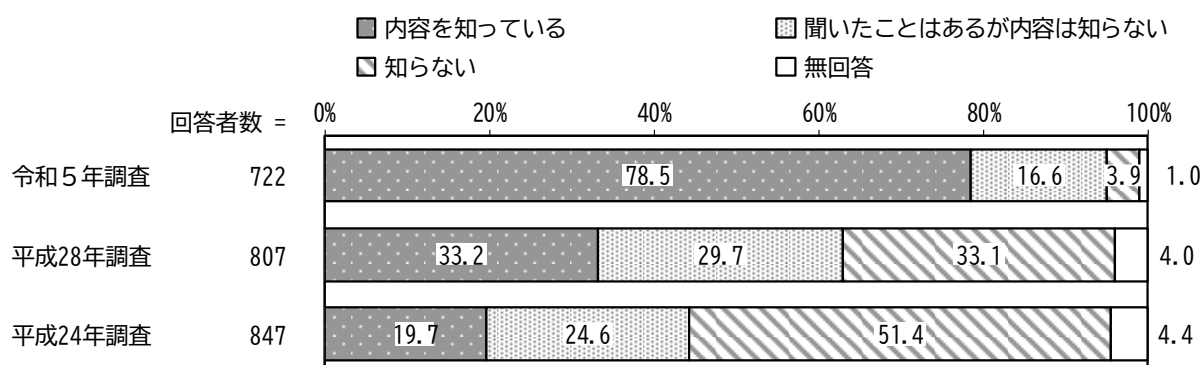


問2 次にあげる男女共同参画に関する社会の動きやことばについて、見たり聞いたりしたことがありますか。(それぞれの項目について1つに○)

①ジェンダー（社会的性別）

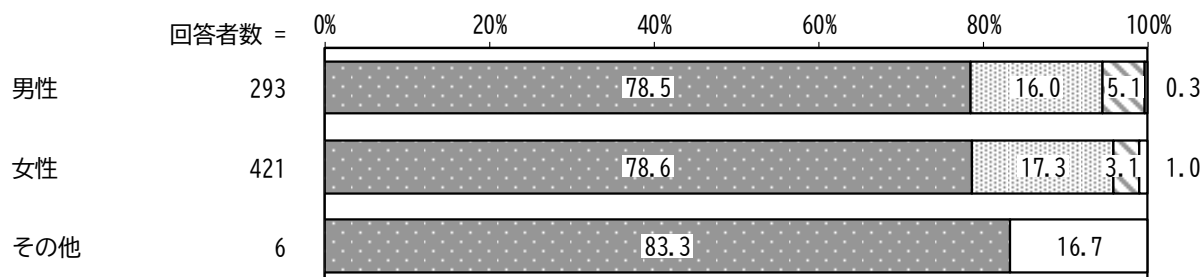
「内容を知っている」の割合が78.5%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が16.6%となっています。

平成28年調査と比較すると、「内容を知っている」の割合が増加しています。一方、「聞いたことはあるが内容は知らない」「知らない」の割合が減少しています。



【性別】

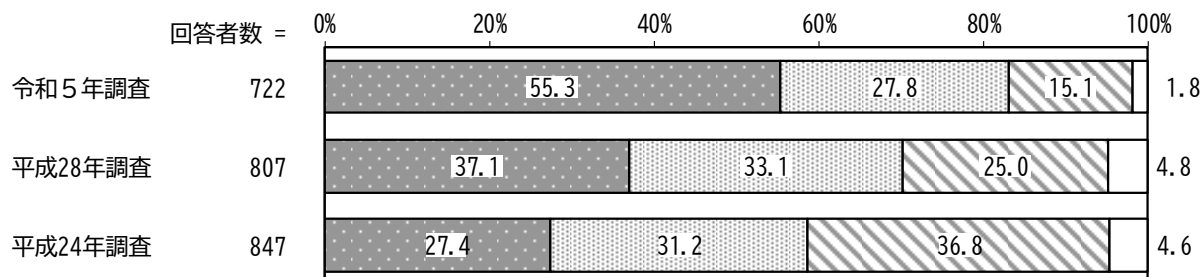
性別にみると、大きな差はみられません。



②ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

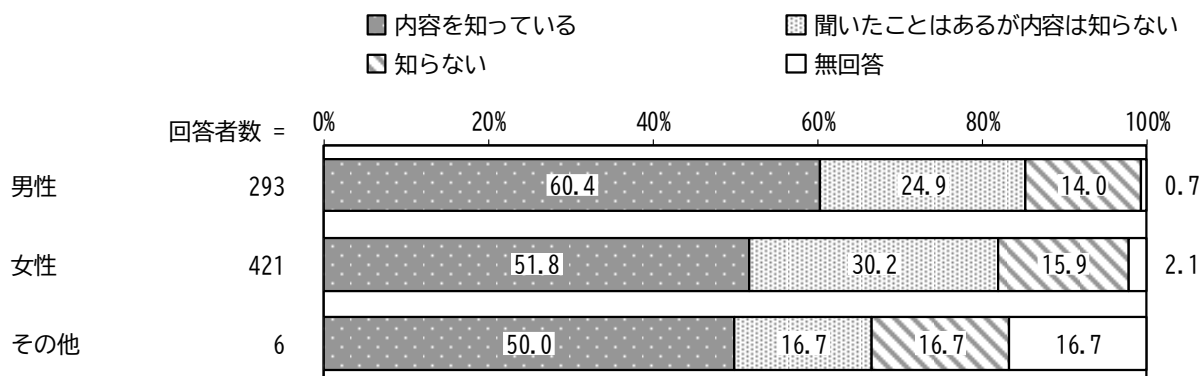
「内容を知っている」の割合が55.3%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が27.8%、「知らない」の割合が15.1%となっています。

平成28年調査と比較すると、「内容を知っている」の割合が増加しています。一方、「聞いたことはあるが内容は知らない」「知らない」の割合が減少しています。



【性別】

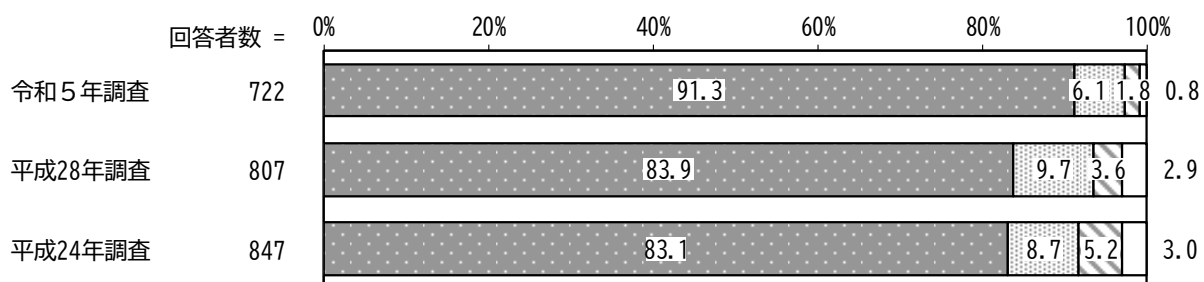
性別にみると、男性で「内容を知っている」の割合が高くなっています。



③セクシュアル・ハラスメント

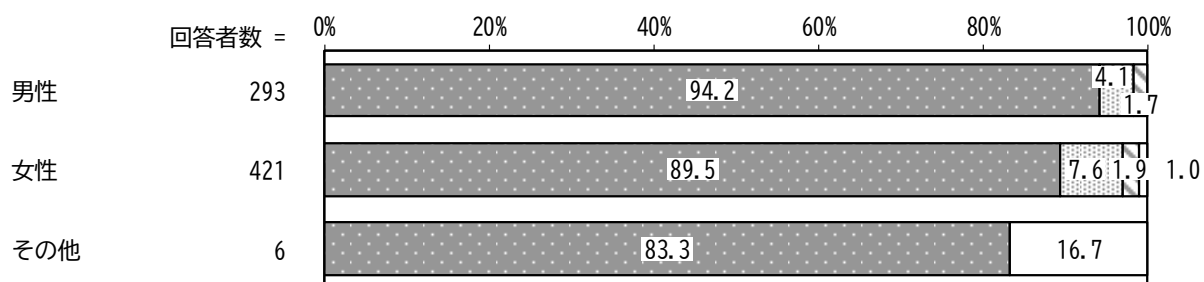
「内容を知っている」の割合が91.3%と最も高くなっています。

平成28年調査と比較すると、「内容を知っている」の割合が増加しています。



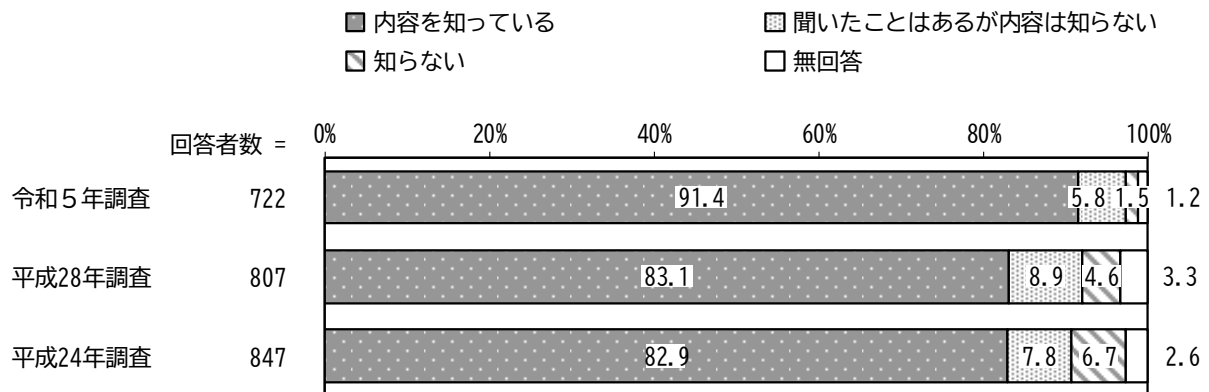
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



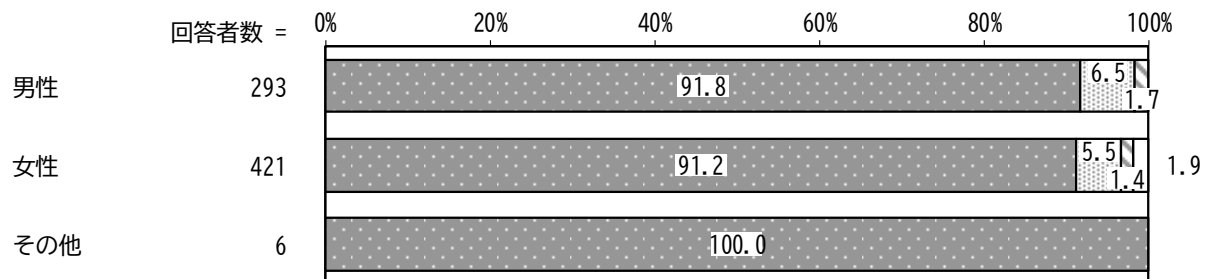
④DV（ドメスティック・バイオレンス）

平成 28 年調査と比較すると、「内容を知っている」の割合が増加しています。



【性別】

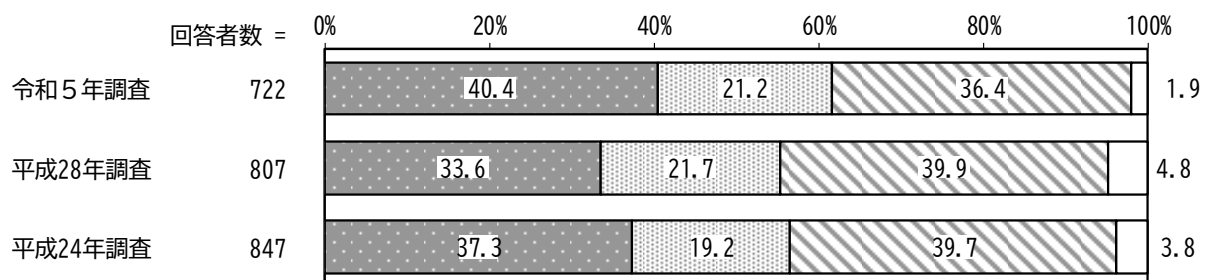
性別にみると、大きな差はみられません。



⑤デートDV

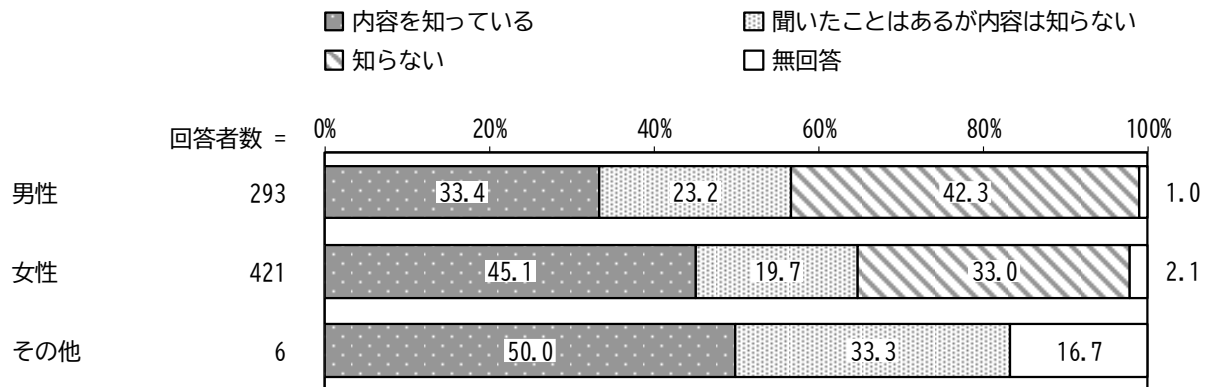
「内容を知っている」の割合が 40.4%と最も高く、次いで「知らない」の割合が 36.4%、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が 21.2%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「内容を知っている」の割合が増加しています。



【性別】

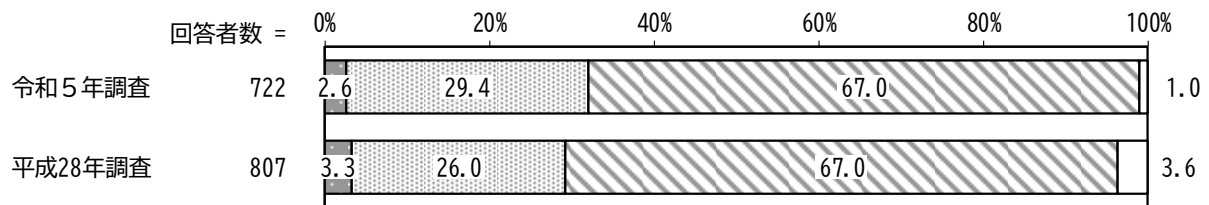
性別にみると、男性で「知らない」の割合が高くなっています。



⑥ふじみ野市男女共同参画推進条例

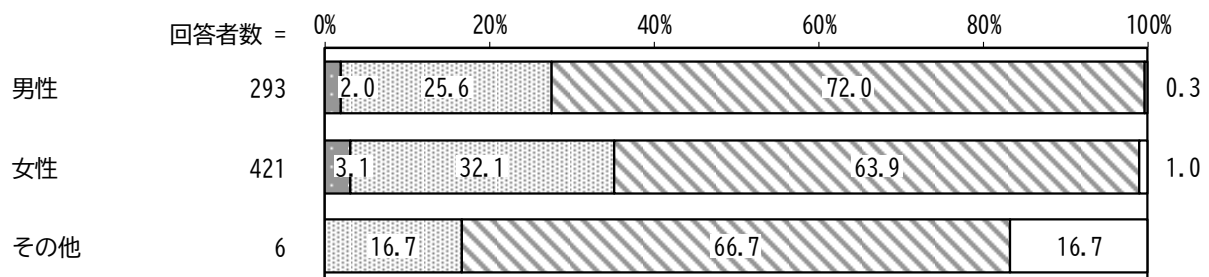
「知らない」の割合が 67.0%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が 29.4%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

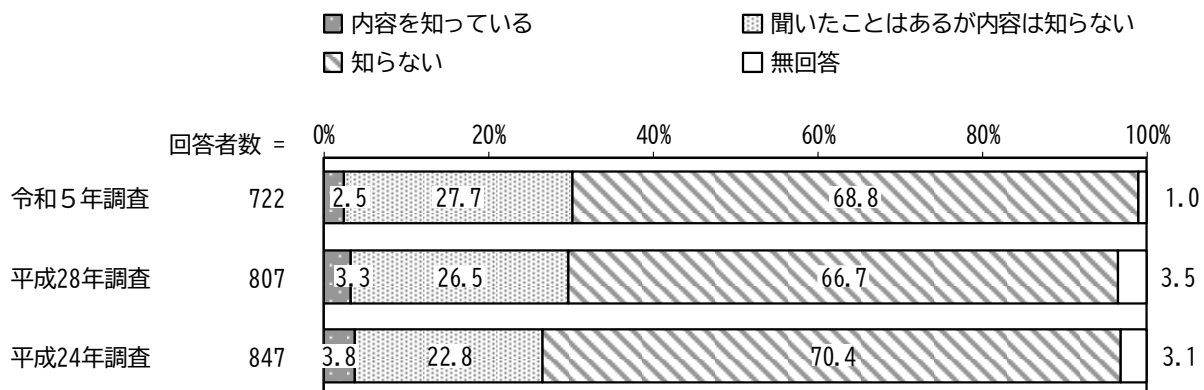
性別にみると、男性で「知らない」の割合が高くなっています。



⑦ふじみ野市男女共同参画基本計画

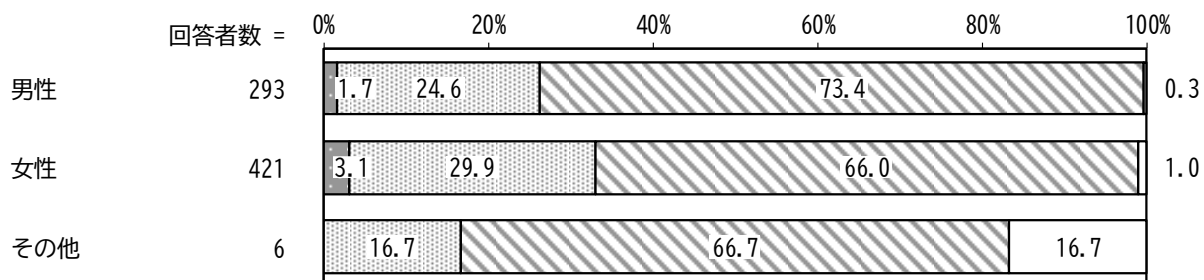
「知らない」の割合が 68.8%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が 27.7%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

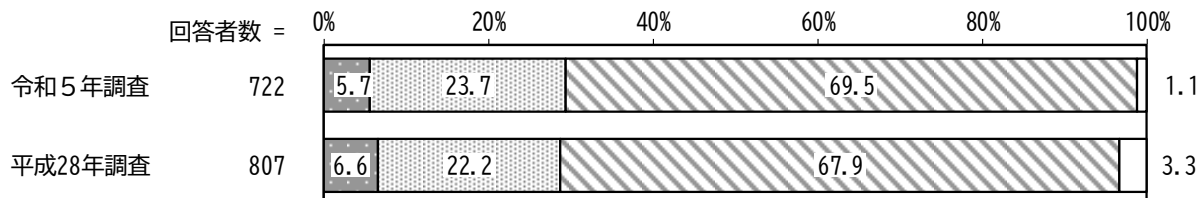
性別にみると、大きな差はみられません。



⑧ふじみ野市配偶者暴力相談支援センター

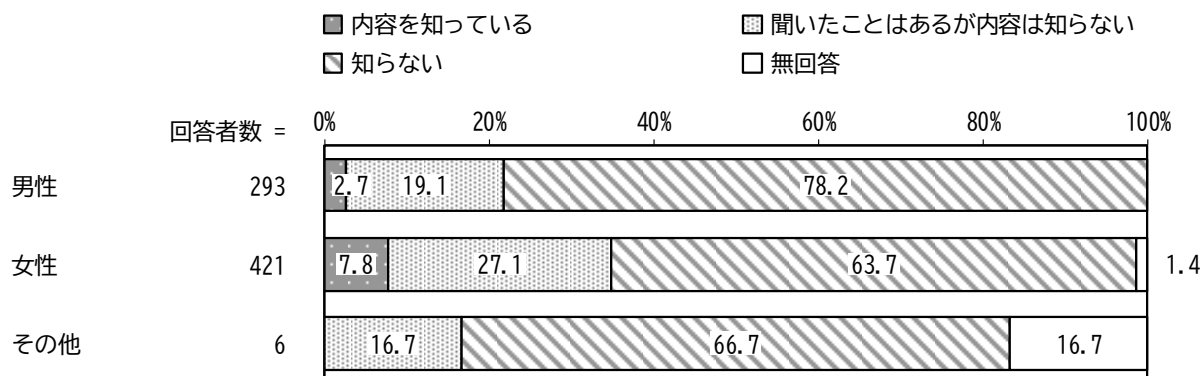
「知らない」の割合が 69.5%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が 23.7%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



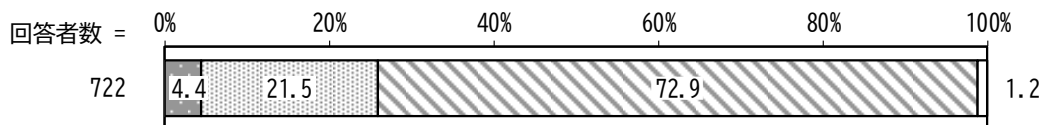
【性別】

性別にみると、男性で「知らない」の割合が高くなっています。



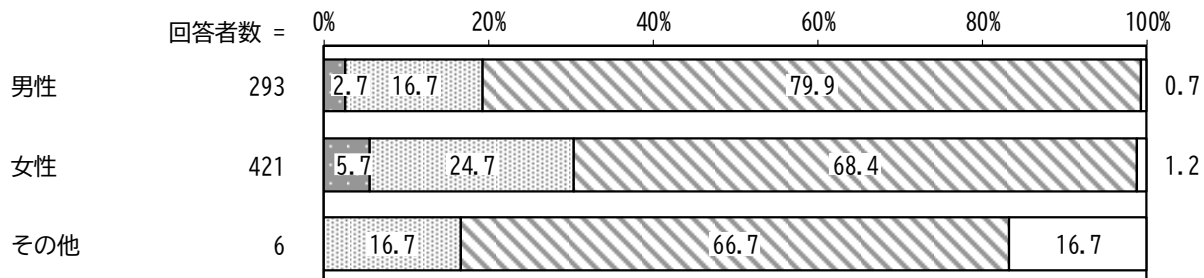
⑨ふじみ野市パートナーシップ宣誓制度

「知らない」の割合が 72.9%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が 21.5%となっています。



【性別】

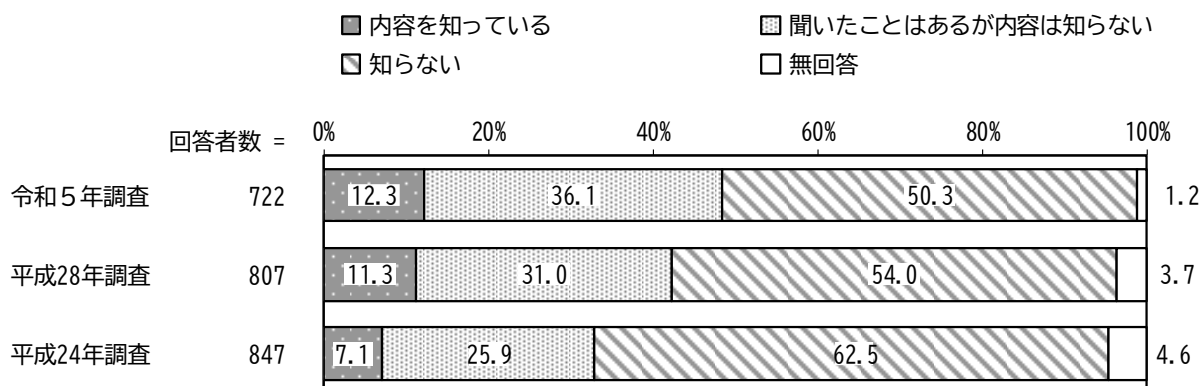
性別にみると、男性で「知らない」の割合が高くなっています。



⑩男女共同参画社会基本法

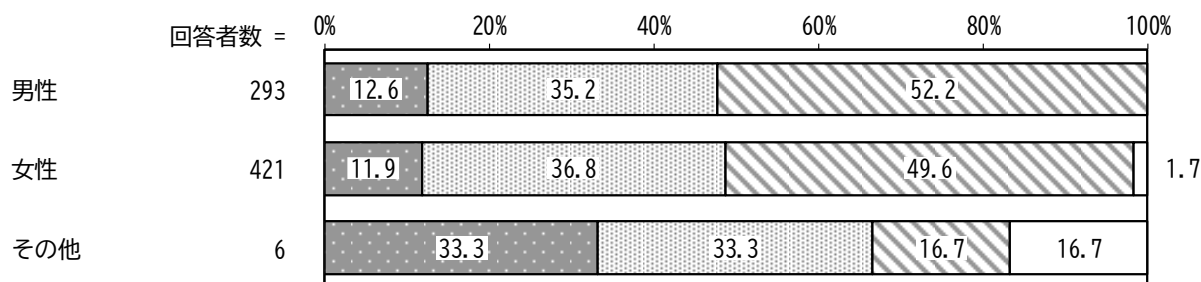
「知らない」の割合が 50.3%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が 36.1%、「内容を知っている」の割合が 12.3%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が増加しています。



【性別】

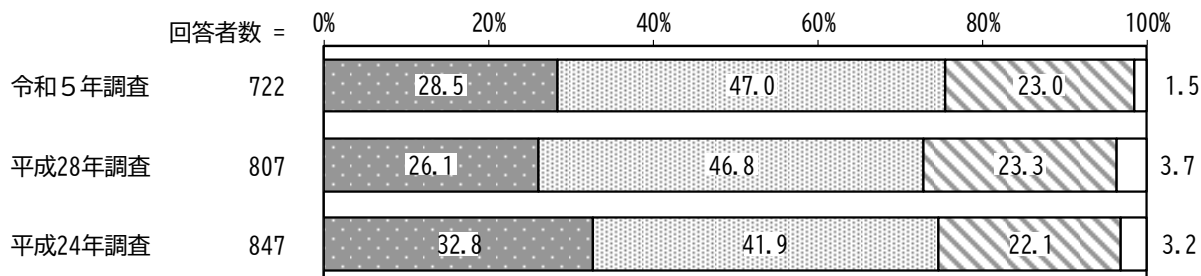
性別にみると、大きな差はみられません。



⑪配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）

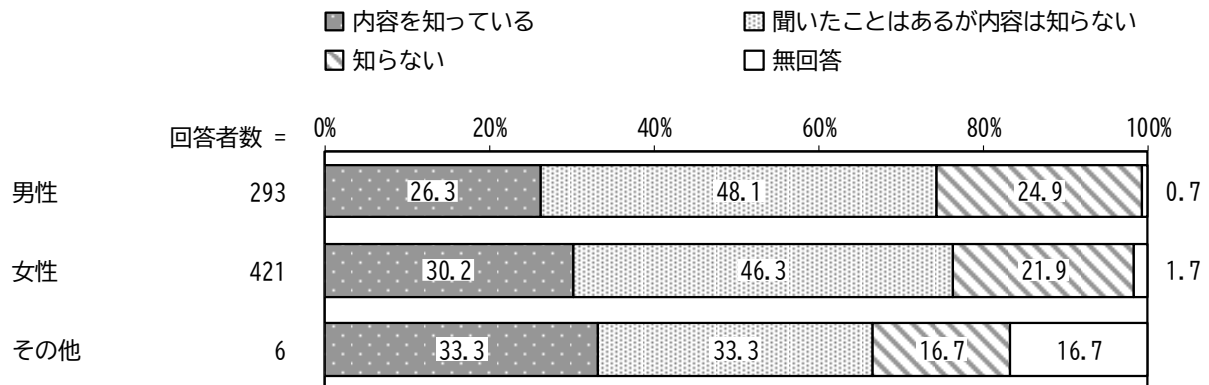
「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が 47.0%と最も高く、次いで「内容を知っている」の割合が 28.5%、「知らない」の割合が 23.0%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

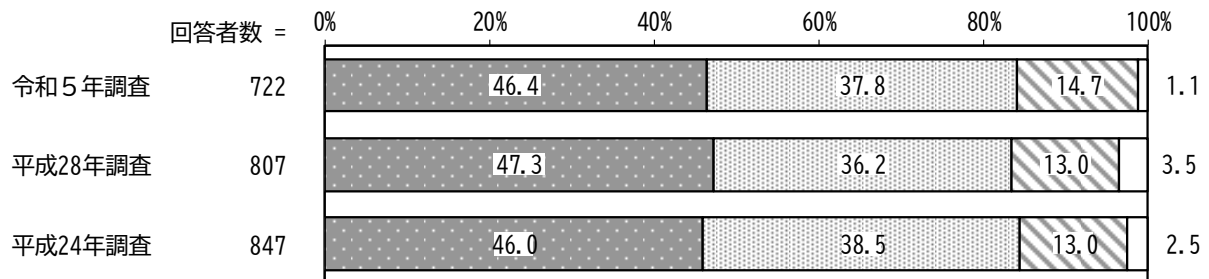
性別にみると、大きな差はみられません。



⑫育児・介護休業法

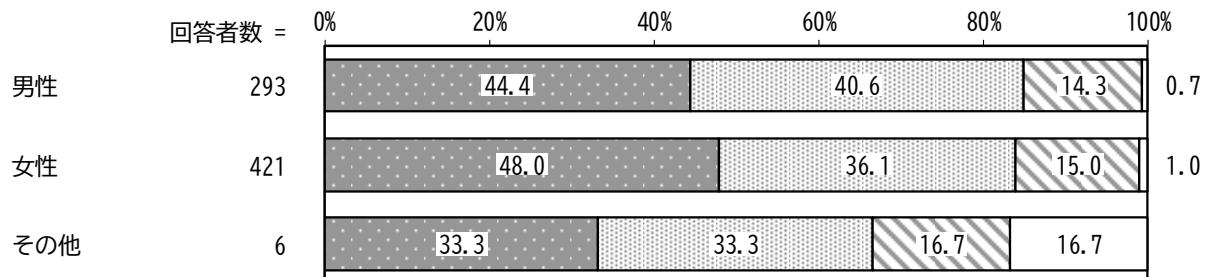
「内容を知っている」の割合が46.4%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が37.8%、「知らない」の割合が14.7%となっています。

平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

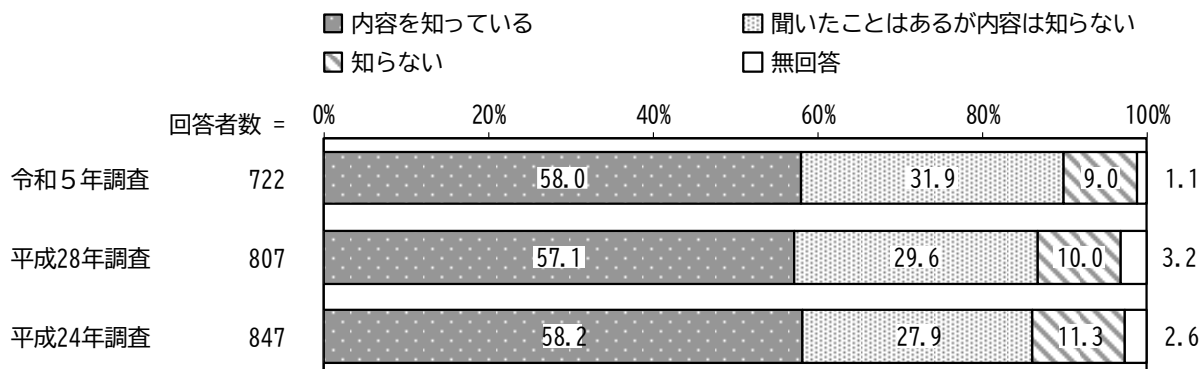
性別にみると、大きな差はみられません。



⑬男女雇用機会均等法

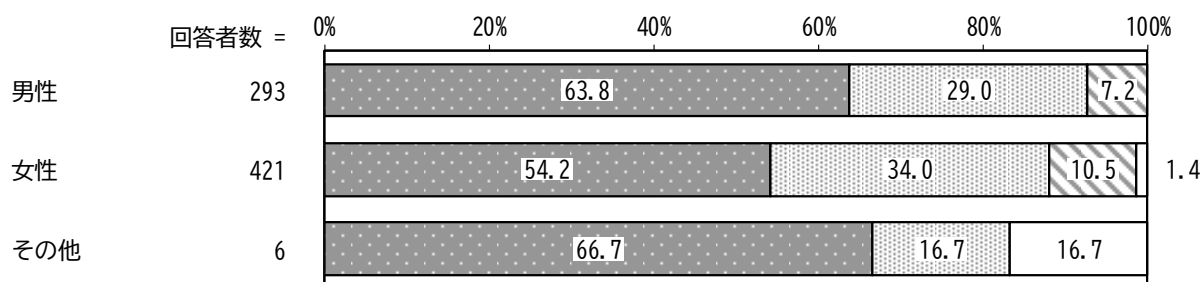
「内容を知っている」の割合が 58.0%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が 31.9%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



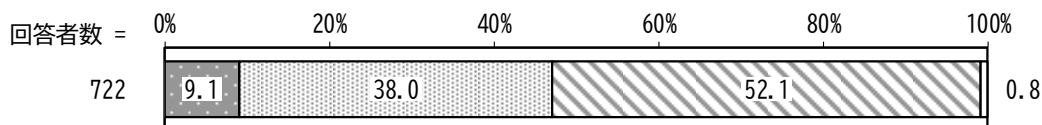
【性別】

性別にみると、男性で「内容を知っている」の割合が高くなっています。



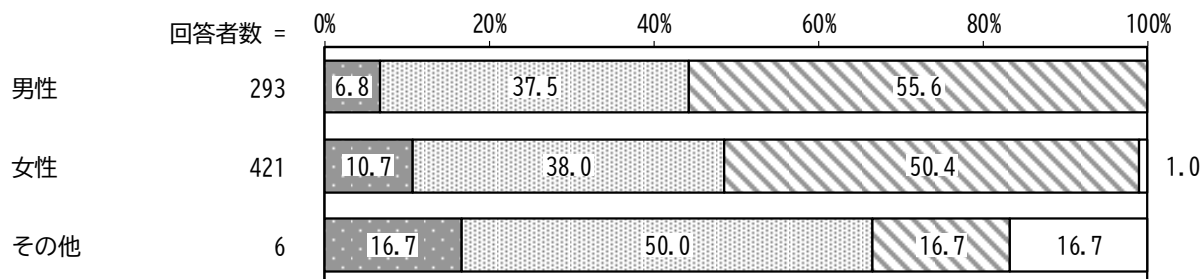
⑭困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（困難女性支援法）

「知らない」の割合が 52.1%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が 38.0%となっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



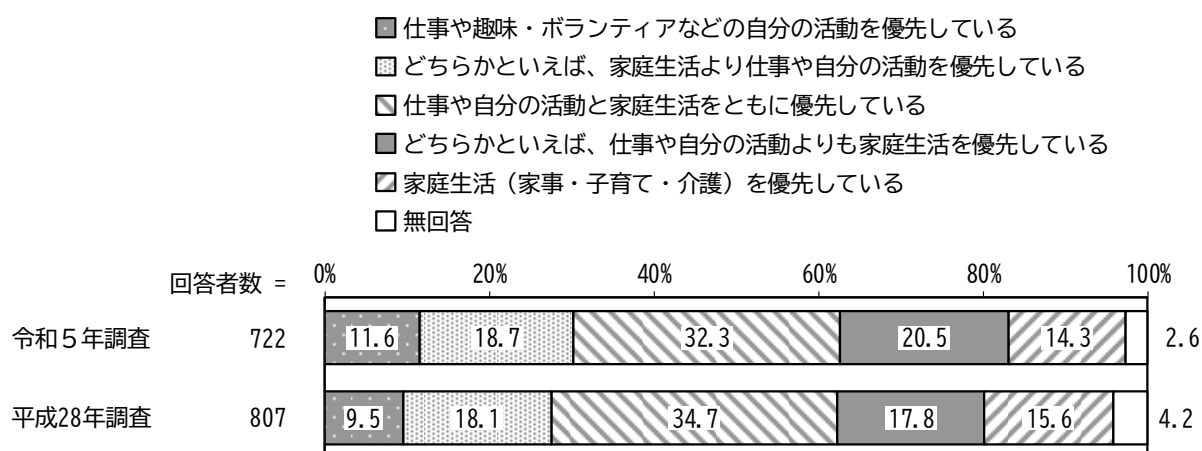
(3) 家庭生活・子育て・介護について

問3 家庭生活（家事・子育て・介護）について、あなたは「現実」では何を優先していますか。また、「希望」では何を優先したいですか。
（それぞれの項目について1つに○）

現実

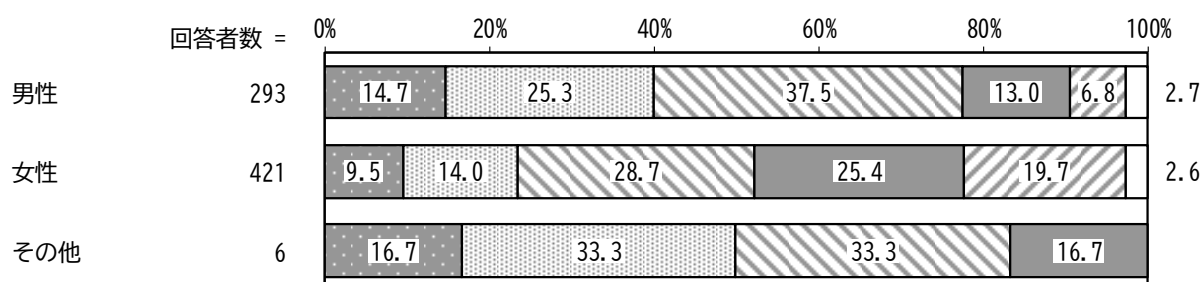
「仕事や自分の活動と家庭生活をともに優先している」の割合が 32.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先している」の割合が 20.5%、「どちらかといえば、家庭生活より仕事や自分の活動を優先している」の割合が 18.7%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

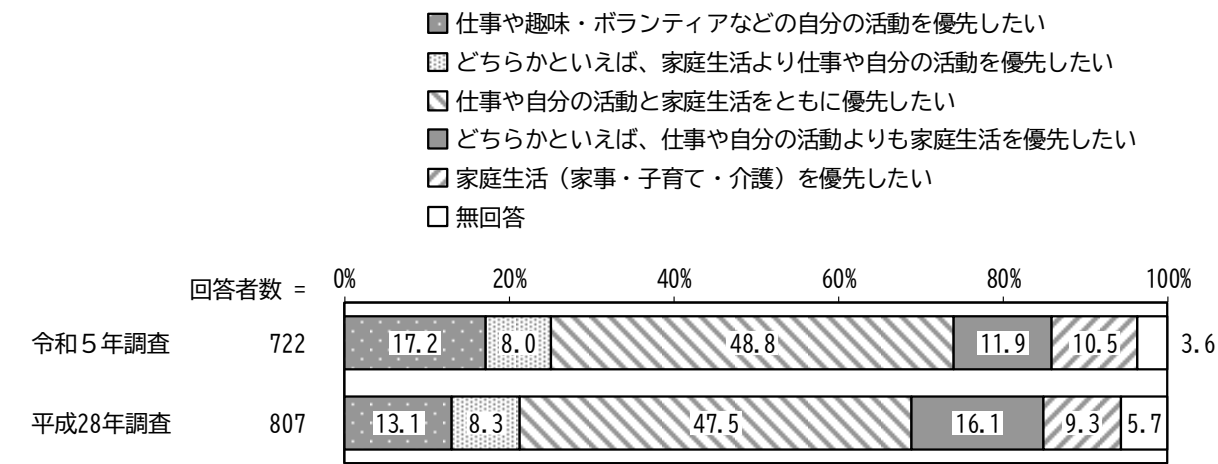
性別にみると、男性で「どちらかといえば、家庭生活より仕事や自分の活動を優先している」の割合が高くなっています。



希望

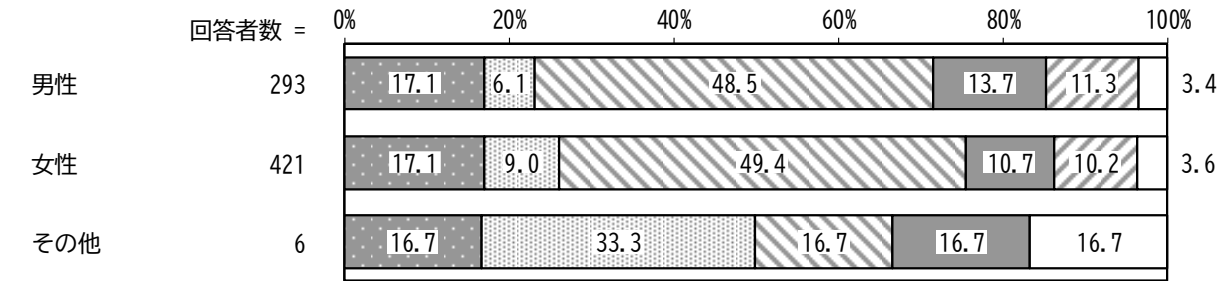
「仕事や自分の活動と家庭生活をともに優先したい」の割合が 48.8%と最も高く、次いで「仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動を優先したい」の割合が 17.2%、「どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先したい」の割合が 11.9%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

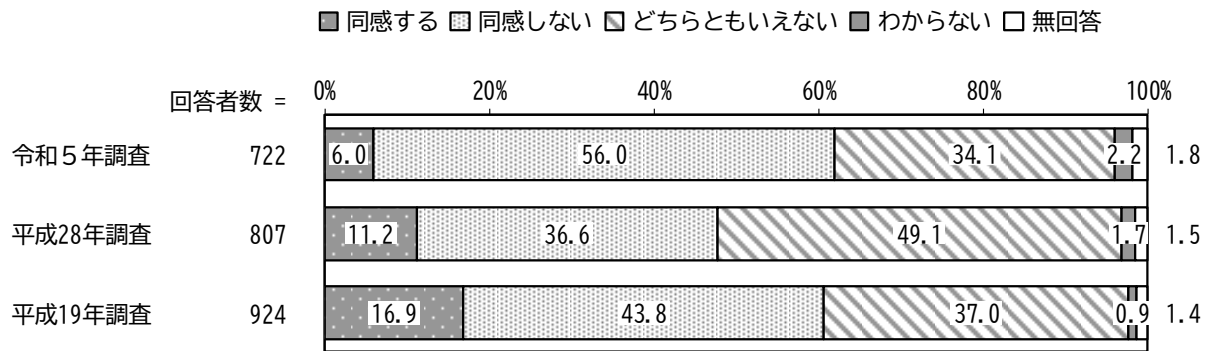
性別にみると、大きな差はみられません。



問4 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどう思いますか。
(1つに○)

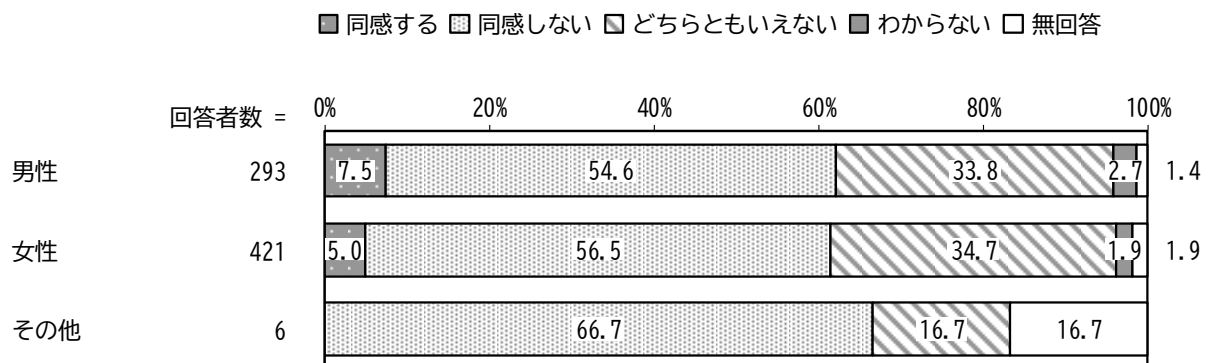
「同感しない」の割合が56.0%と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が34.1%となっています。

平成28年調査と比較すると、「同感しない」の割合が増加しています。一方、「同感する」「どちらともいえない」の割合が減少しています。



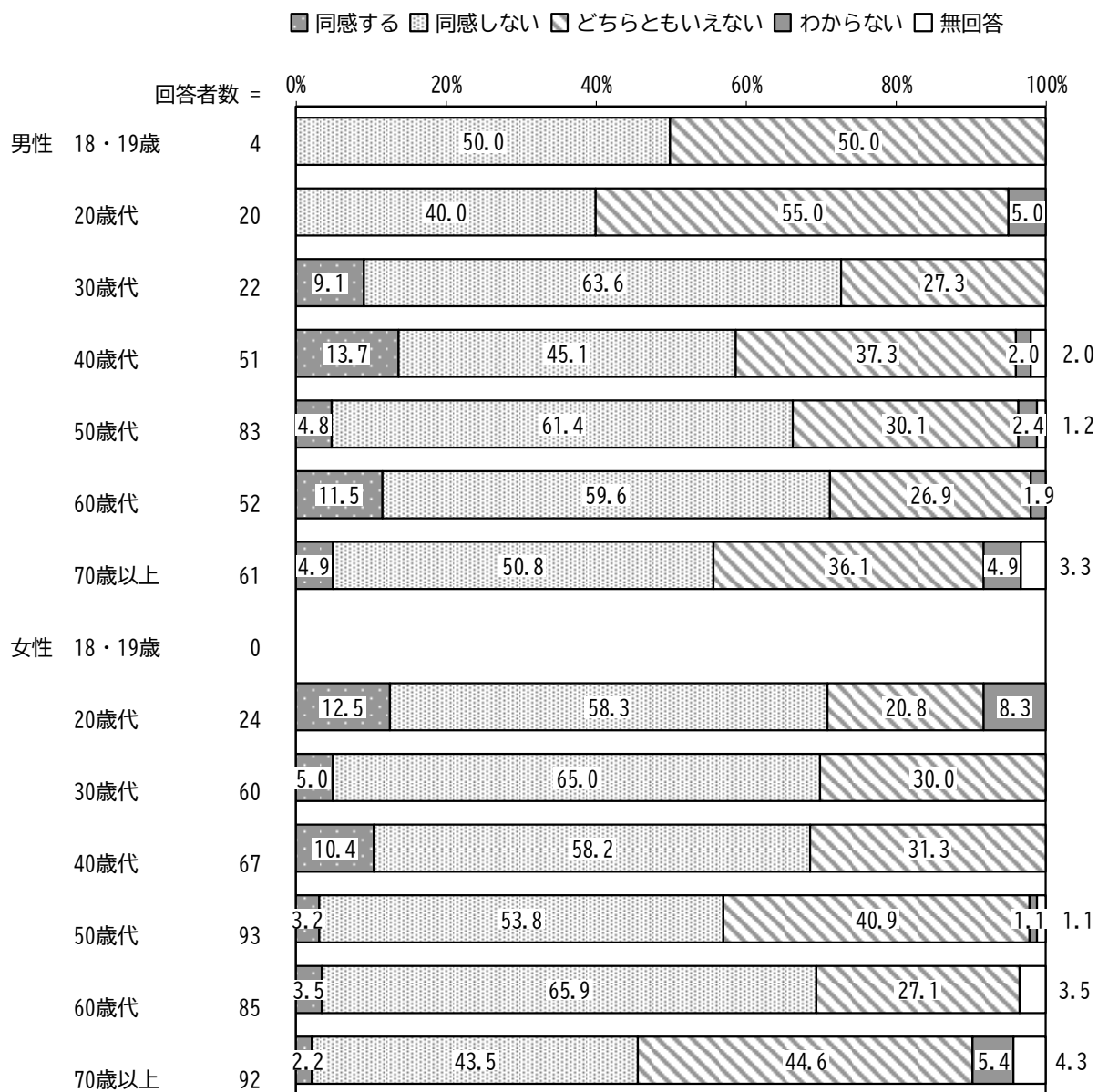
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【性・年代別】

性・年代別にみると、男性 20 歳代で「どちらともいえない」の割合が高くなっています。

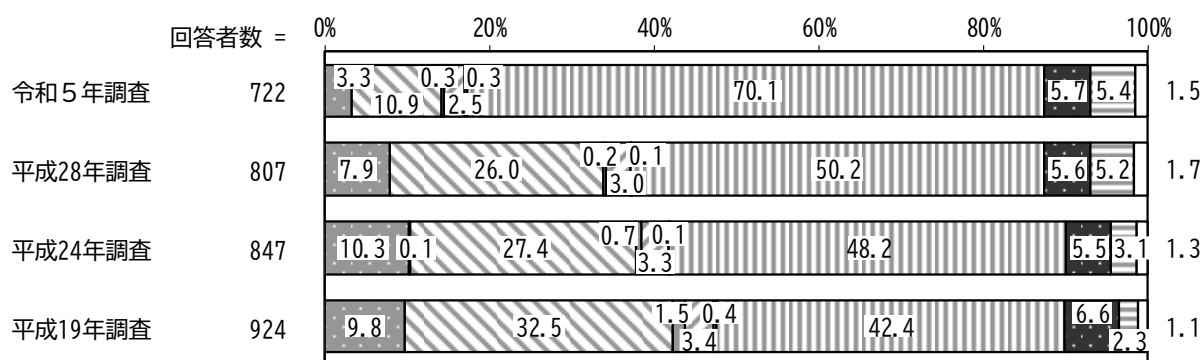


問5 男女の役割分担について、あなたの考えをお聞かせください。（1つに○）

「男女とも仕事をして、家事・育児も男女で分担する」の割合が70.1%と最も高く、次いで「男性は仕事、女性も家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」の割合が10.9%となっています。

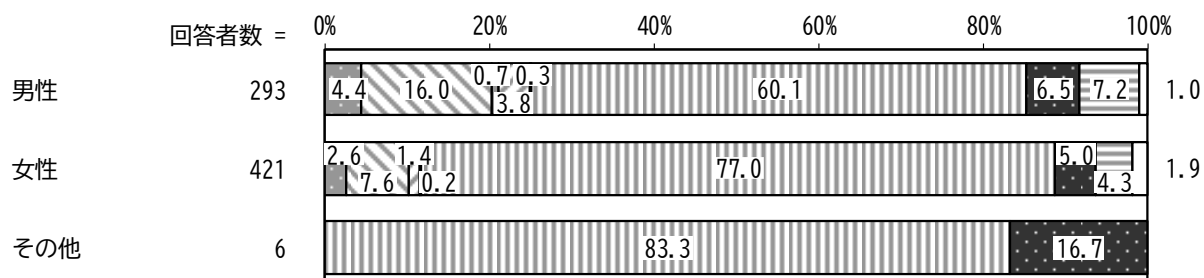
平成28年調査と比較すると、「男女とも仕事をして、家事・育児も男女で分担する」の割合が増加しています。一方、「男性は仕事、女性も家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」の割合が減少しています。

- 男性は仕事、女性は家事・育児を分担する
- 女性は仕事、男性は家事・育児を分担する
- 男性は仕事、女性も家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする
- 女性は仕事、男性も家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする
- 男女とも仕事をして、家事・育児は主に女性が分担する
- 男女とも仕事をして、家事・育児は主に男性が分担する
- 男女とも仕事をして、家事・育児も男女で分担する
- その他
- わからない
- 無回答



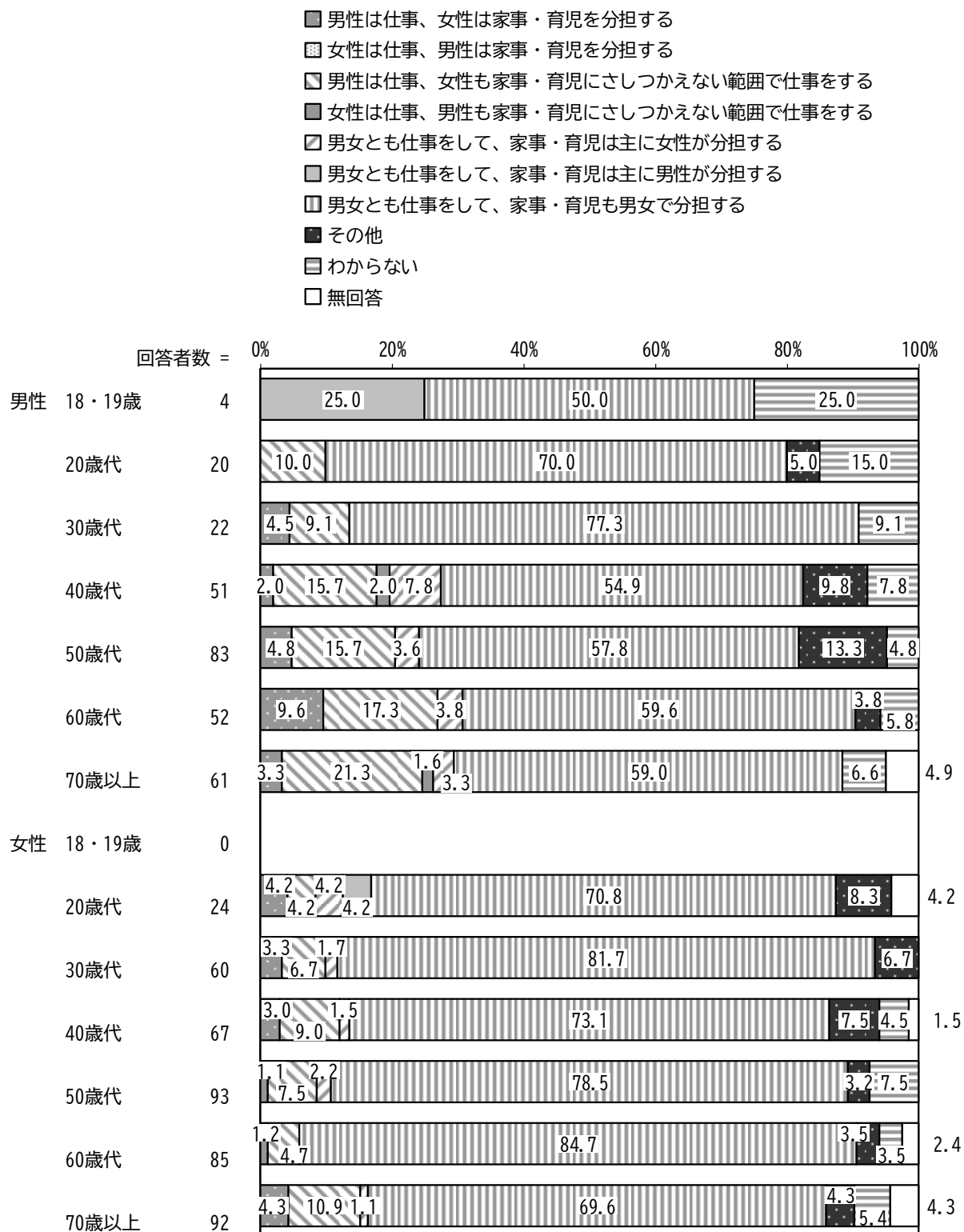
【性別】

性別にみると、女性で「男女とも仕事をして、家事・育児も男女で分担する」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

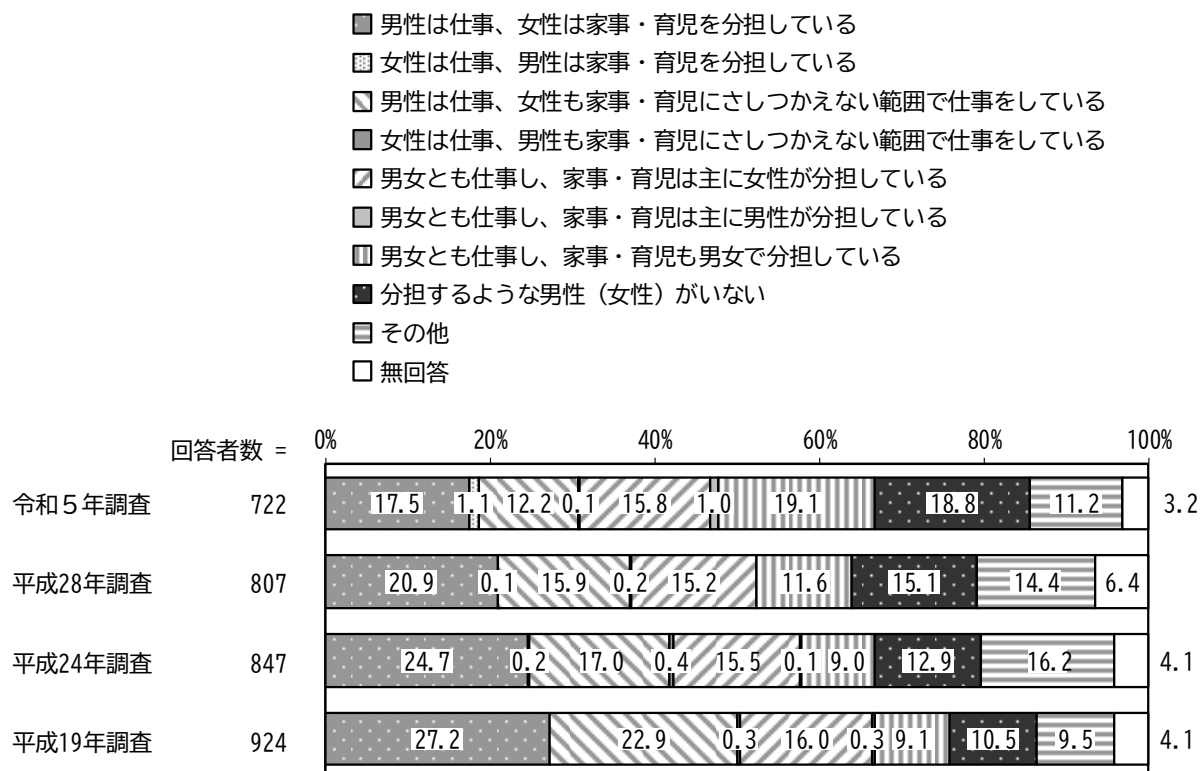
性・年代別にみると、女性 60 歳代で「男女とも仕事をして、家事・育児も男女で分担する」の割合が高くなっています。



問6 あなたのご家庭での役割はどうなっていますか。(1つに○)

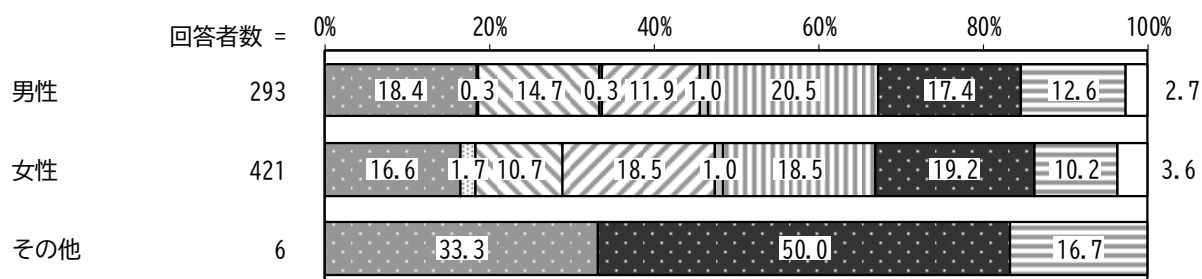
「男女とも仕事し、家事・育児も男女で分担している」の割合が19.1%と最も高く、次いで「分担するような男性(女性)がいない」の割合が18.8%、「男性は仕事、女性は家事・育児を分担している」の割合が17.5%となっています。

平成28年調査と比較すると、「男女とも仕事し、家事・育児も男女で分担している」の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性 20 歳代で「分担するような男性（女性）がいない」の割合が高くなっています。

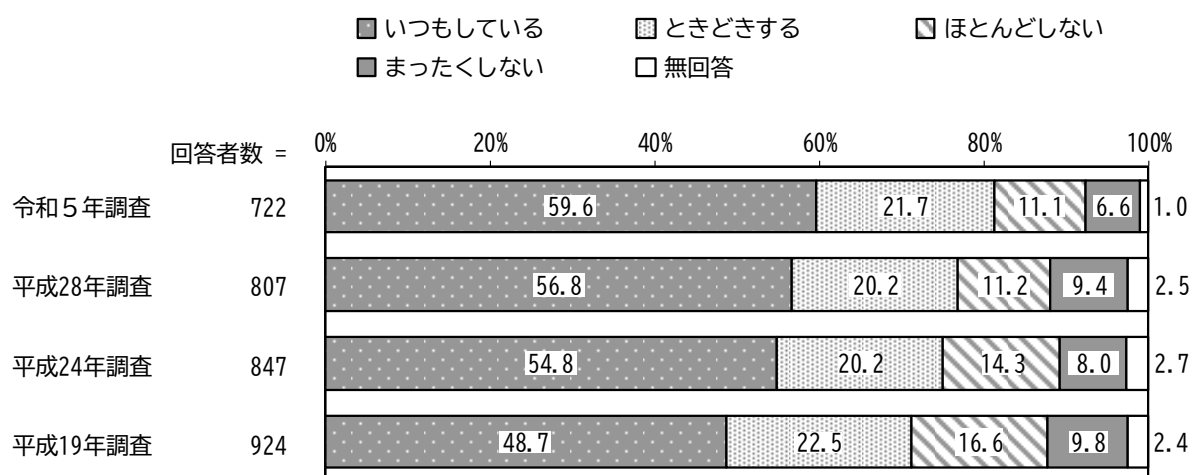


問7 あなたは、次のようなことをどの程度おこなっていますか。
(それぞれの項目について1つに○)

※⑦～⑩については「該当しない」の回答者を除いて集計しています。

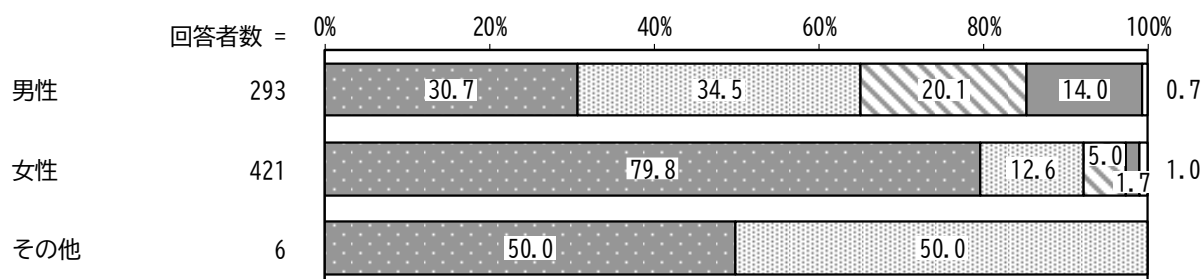
①食事のしたく

「いつもしている」の割合が 59.6%と最も高く、次いで「ときどきする」の割合が 21.7%、「ほとんどしない」の割合が 11.1%となっています。
平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



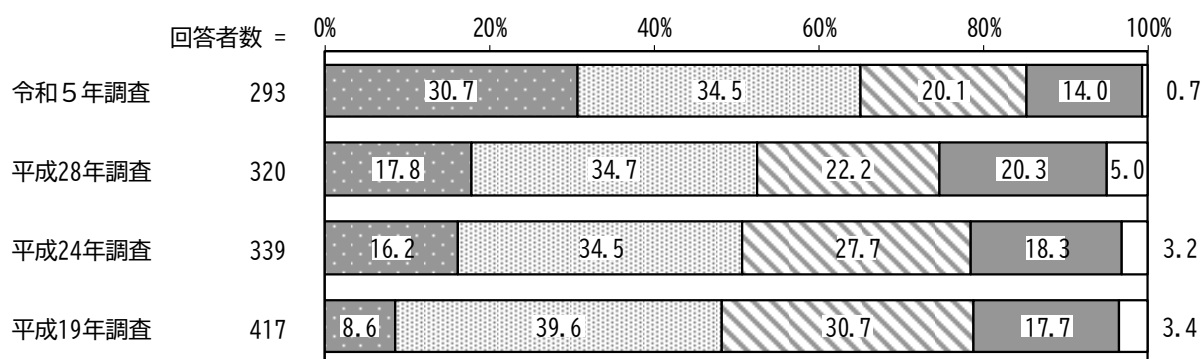
【性別】

性別にみると、女性で「いつもしている」の割合が高くなっています。



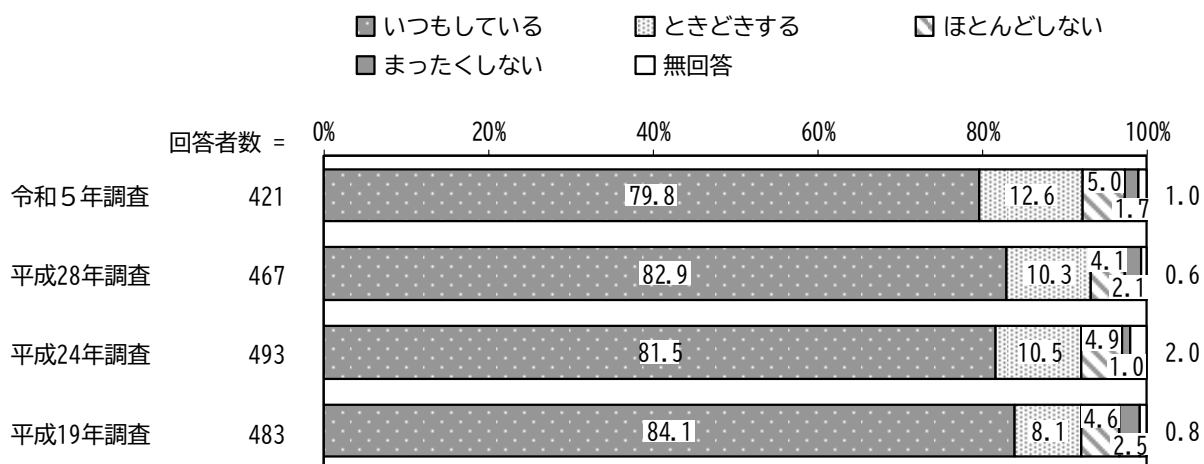
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「いつもしている」の割合が増加しています。一方、「まったくしない」の割合が減少しています。



【経年比較・女性】

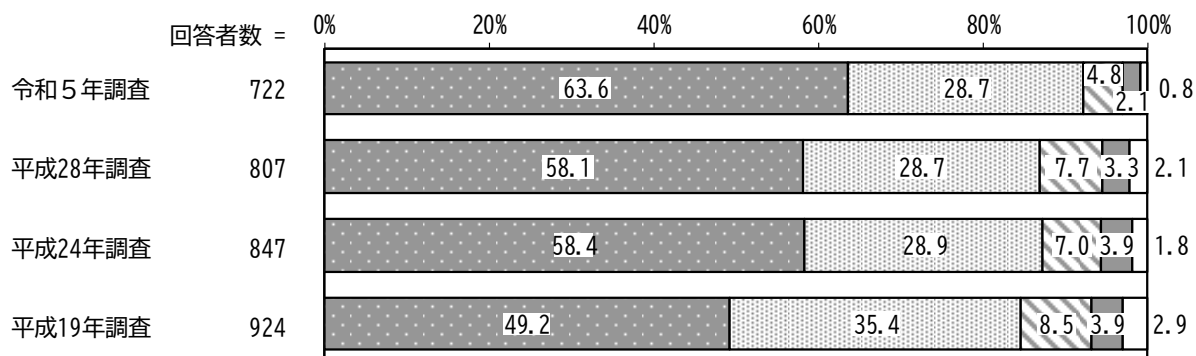
平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②食料品・日用品の買い物

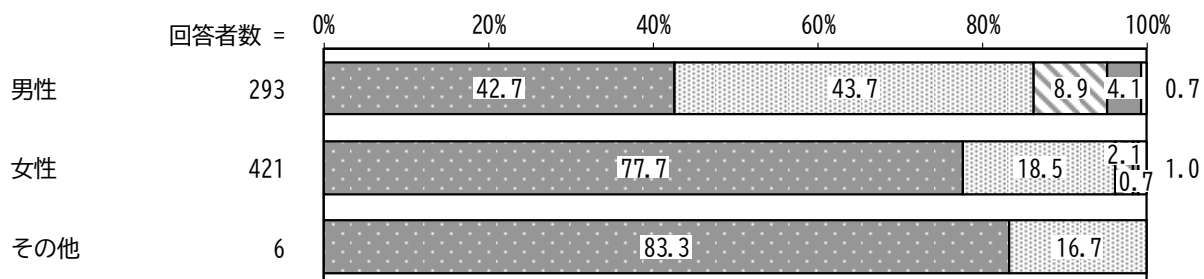
「いつもしている」の割合が 63.6%と最も高く、次いで「ときどきする」の割合が 28.7%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「いつもしている」の割合が増加しています。一方、「ときどきする」「ほとんどしない」「まったくしない」の割合が減少しています。



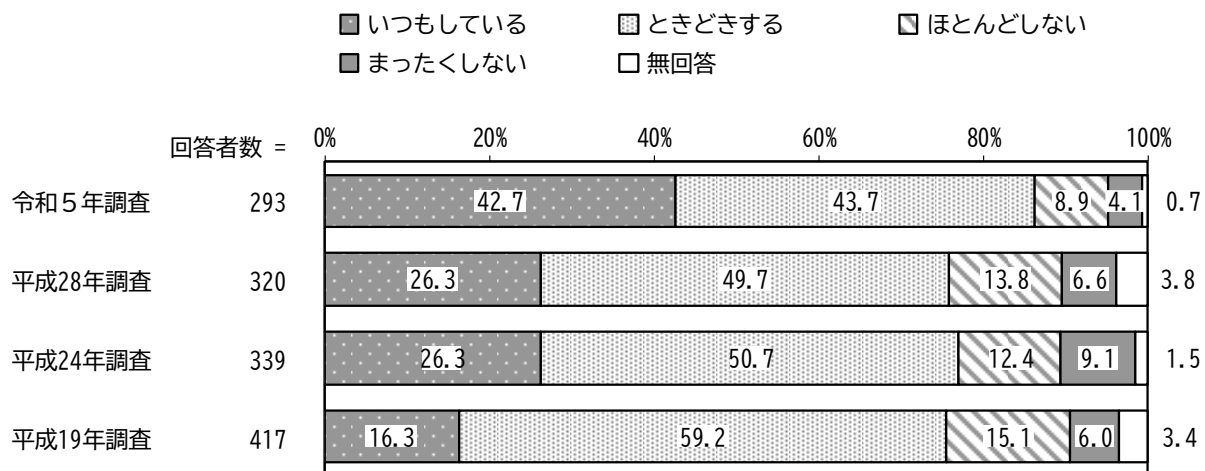
【性別】

性別にみると、男性で「ときどきする」の割合が高くなっています。



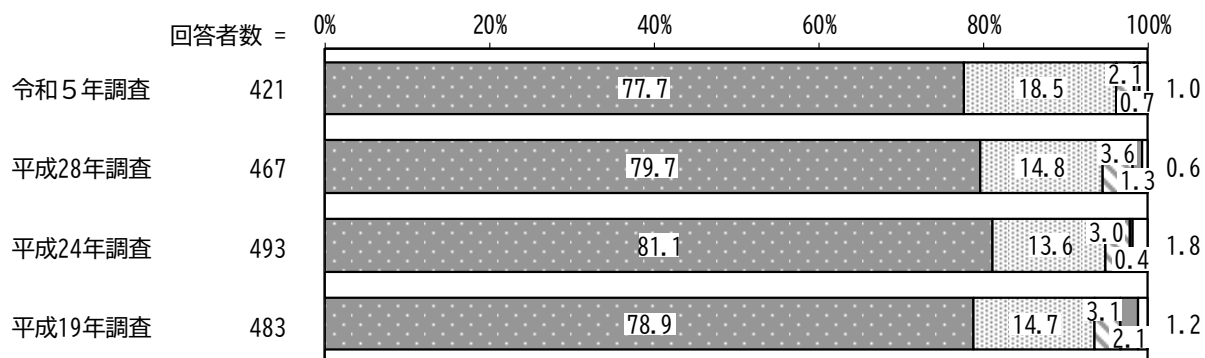
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「いつもしている」の割合が増加しています。一方、「ときどきする」の割合が減少しています。



【経年比較・女性】

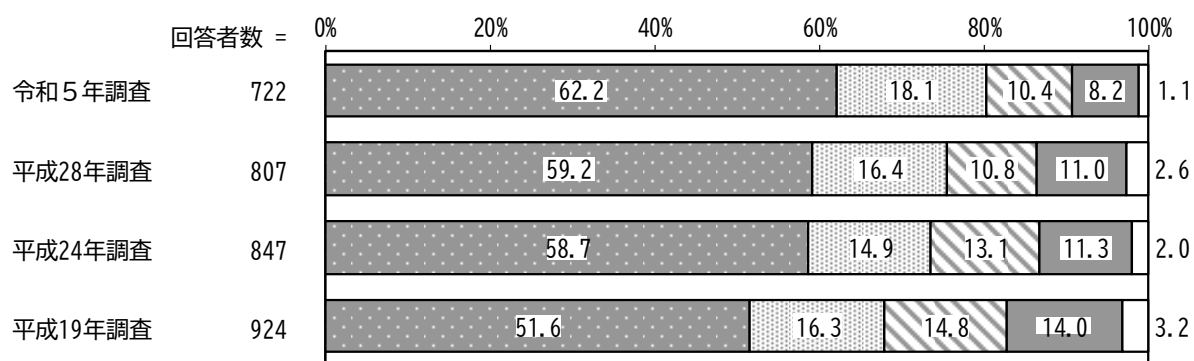
平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



③洗たく

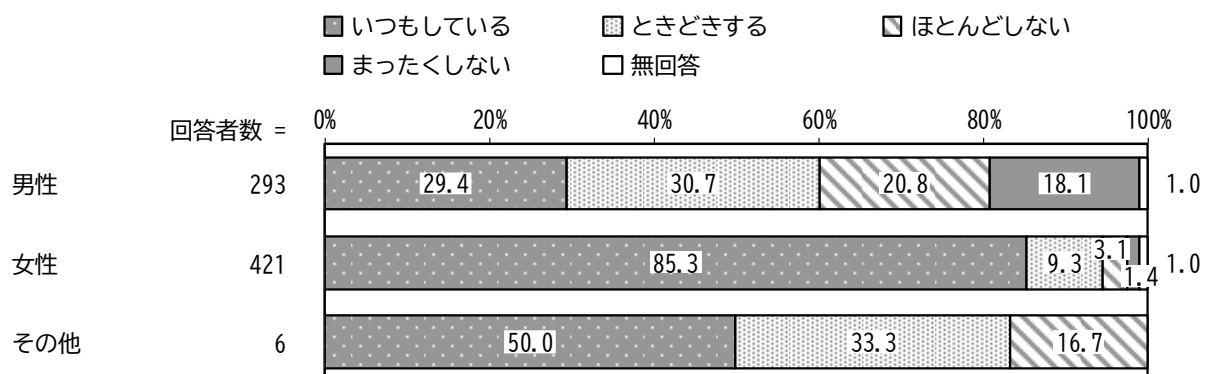
「いつもしている」の割合が 62.2%と最も高く、次いで「ときどきする」の割合が 18.1%、「ほとんどしない」の割合が 10.4%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



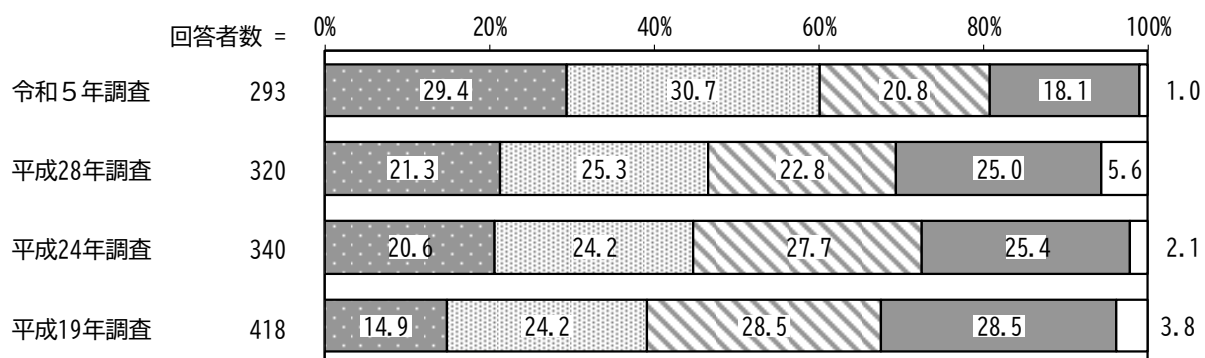
【性別】

性別にみると、女性で「いつもしている」の割合が高くなっています。



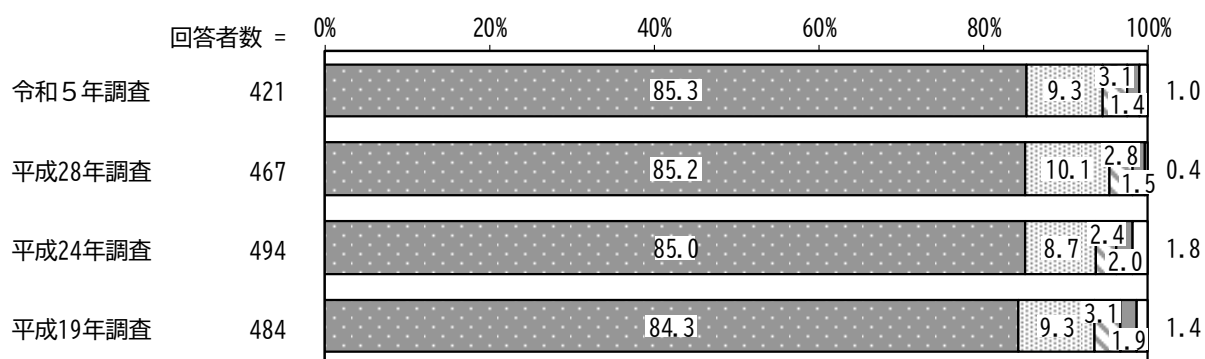
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「いつもしている」「ときどきする」の割合が増加しています。一方、「まったくしない」の割合が減少しています。



【経年比較・女性】

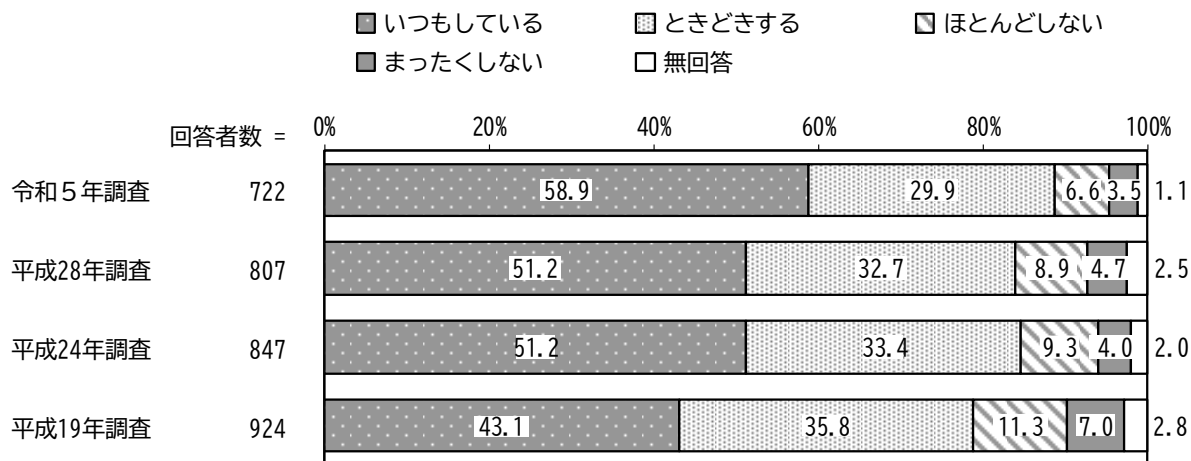
平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



④掃除（部屋・庭など）

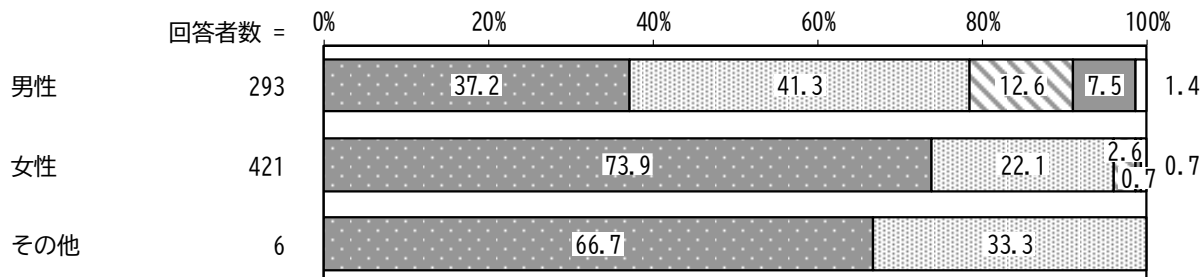
「いつもしている」の割合が 58.9%と最も高く、次いで「ときどきする」の割合が 29.9%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「いつもしている」の割合が増加しています。一方、「ほとんどしない」「まったくしない」の割合が減少しています。



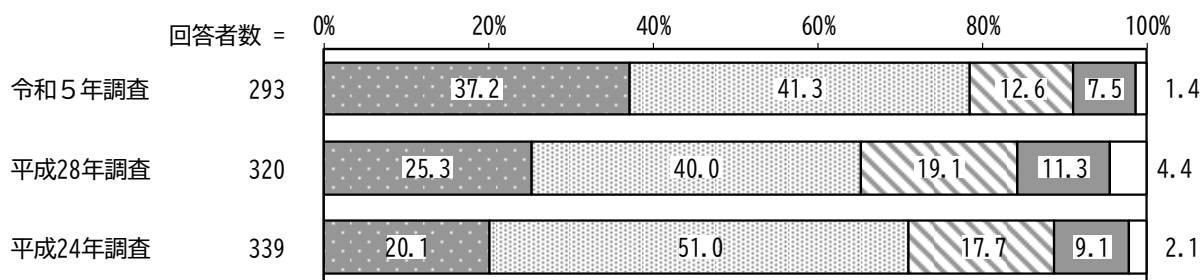
【性別】

性別にみると、女性で「いつもしている」の割合が高くなっています。



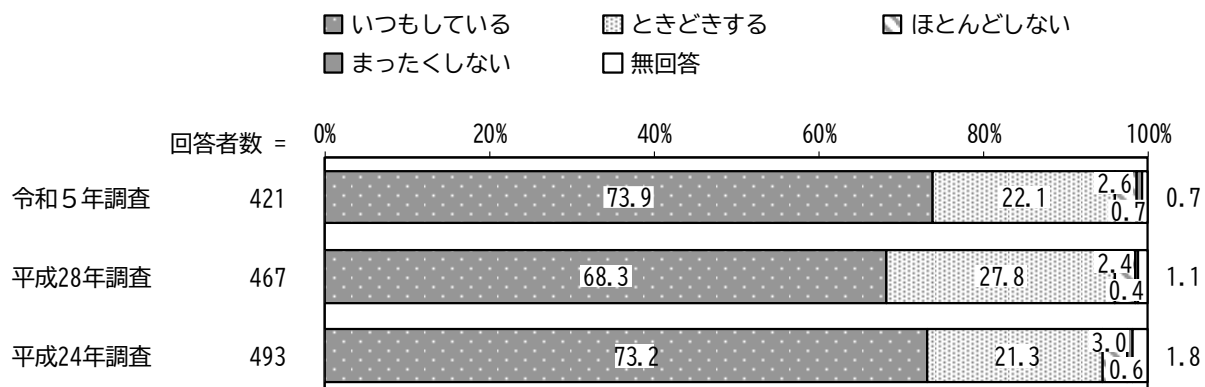
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「いつもしている」の割合が増加しています。一方、「ほとんどしない」の割合が減少しています。



【経年比較・女性】

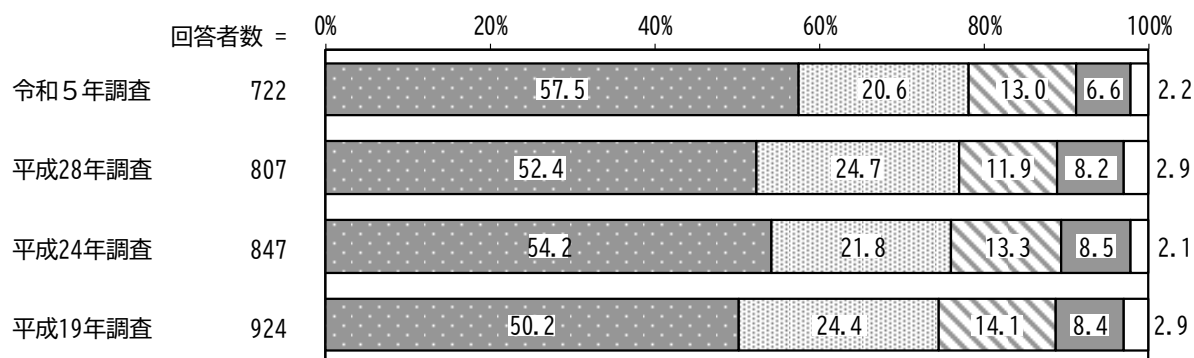
平成 28 年調査と比較すると、「いつもしている」の割合が増加しています。一方、「ときどきする」の割合が減少しています。



⑤ゴミ出し

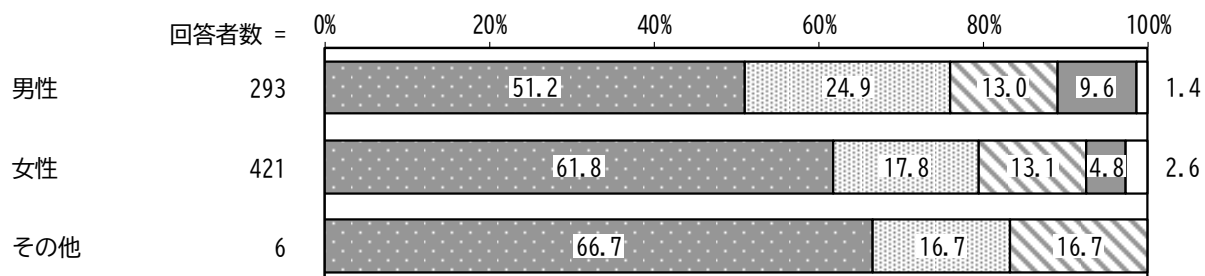
「いつもしている」の割合が 57.5%と最も高く、次いで「ときどきする」の割合が 20.6%、「ほとんどしない」の割合が 13.0%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「いつもしている」の割合が増加しています。一方、「まったくしない」の割合が減少しています。



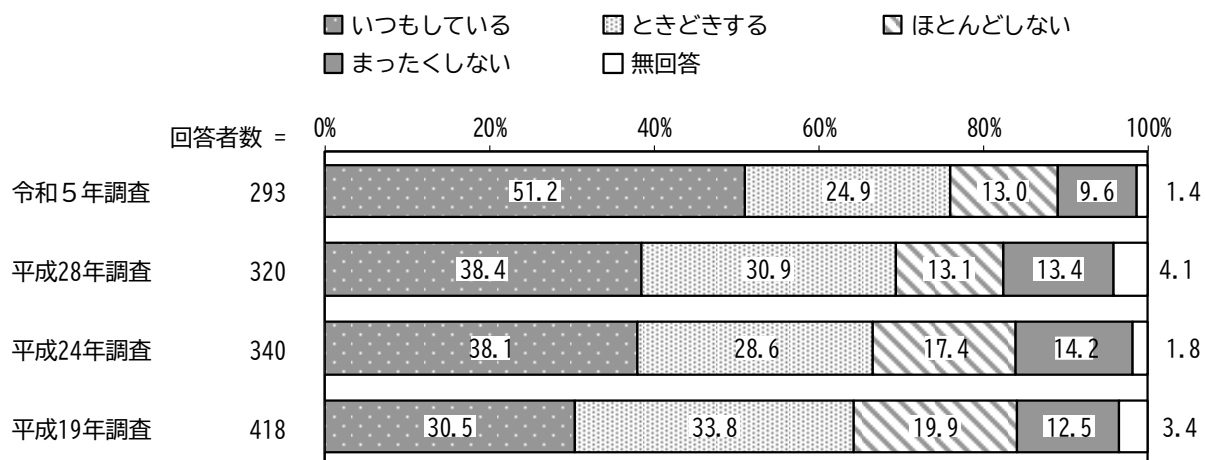
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



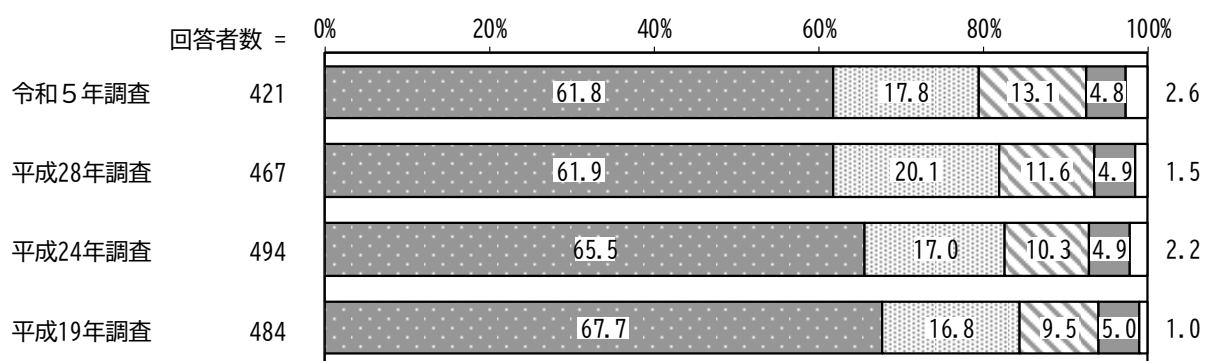
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「いつもしている」の割合が増加しています。一方、「ときどきする」の割合が減少しています。



【経年比較・女性】

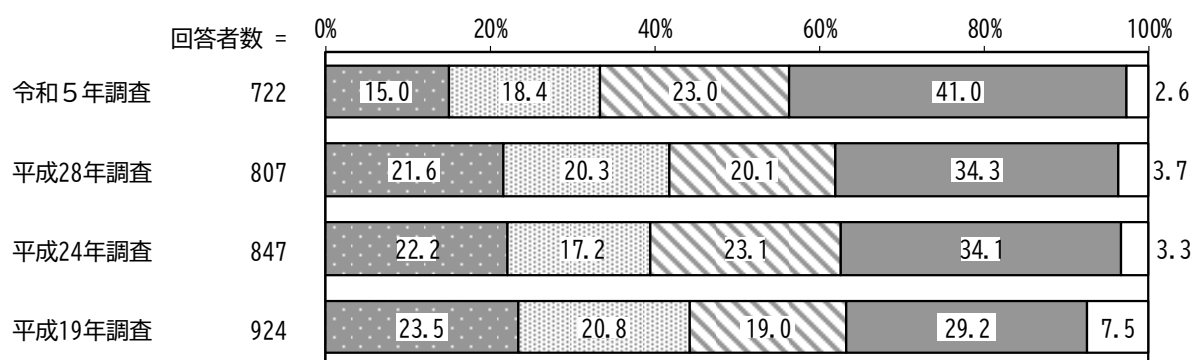
平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑥自治組織（町会・自治会・町内会）への参加

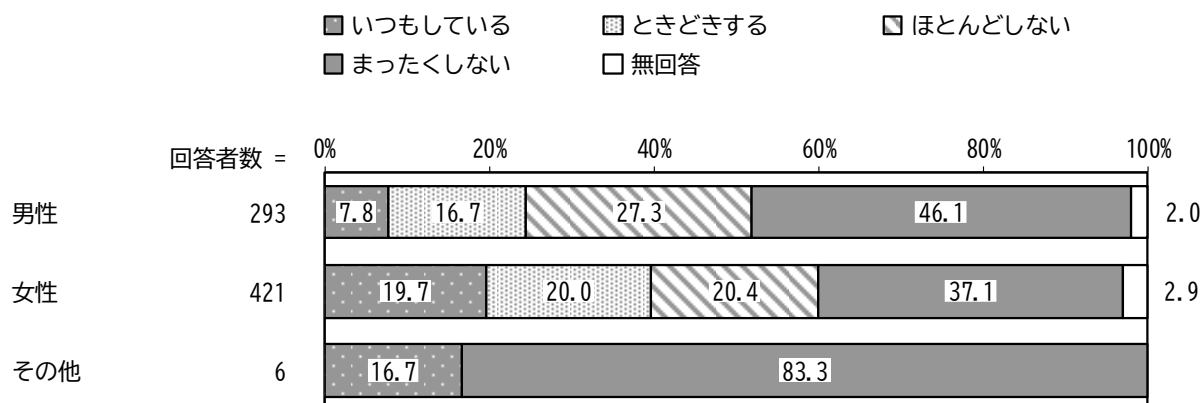
「まったくしない」の割合が 41.0%と最も高く、次いで「ほとんどしない」の割合が 23.0%、「ときどきする」の割合が 18.4%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「まったくしない」の割合が増加しています。



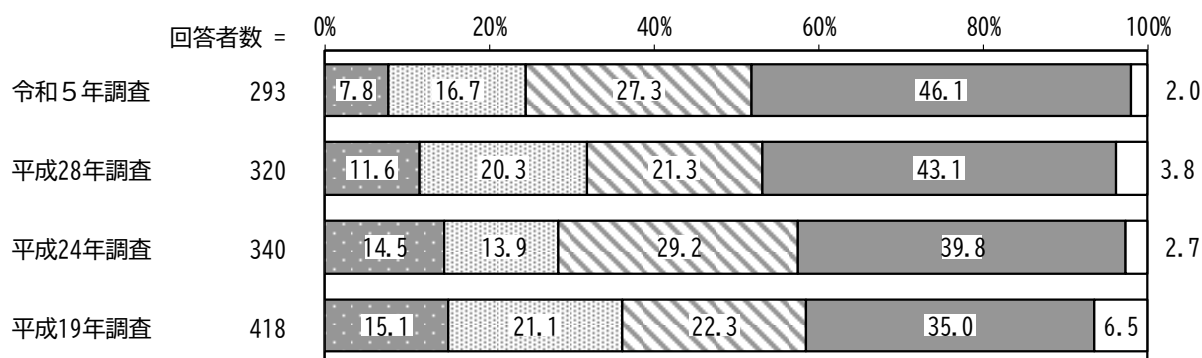
【性別】

性別にみると、男性で「まったくしない」の割合が高くなっています。



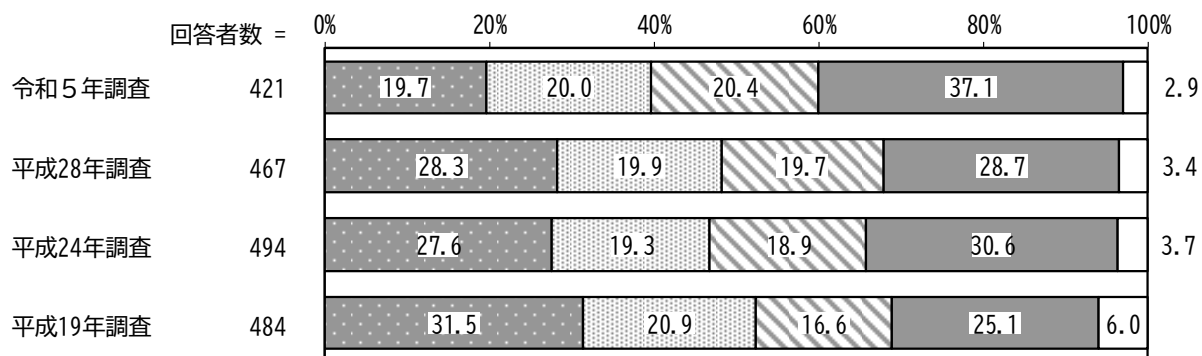
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「ほとんどしない」の割合が増加しています。



【経年比較・女性】

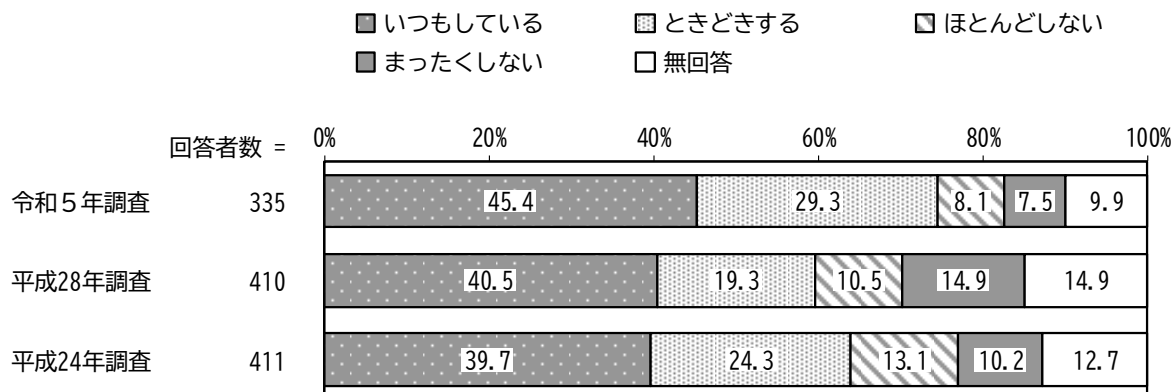
平成 28 年調査と比較すると、「まったくしない」の割合が増加しています。一方、「いつもしている」の割合が減少しています。



⑦子どもに関する行事への参加

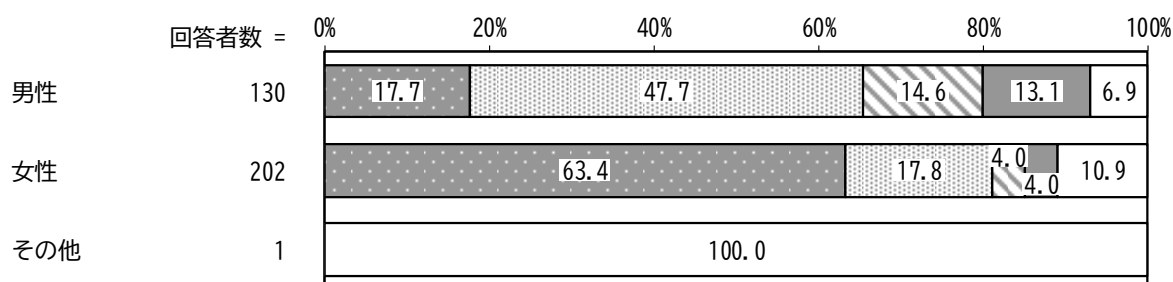
「いつもしている」の割合が45.4%と最も高く、次いで「ときどきする」の割合が29.3%となっています。

平成28年調査と比較すると、「ときどきする」の割合が増加しています。一方、「まったくしない」の割合が減少しています。



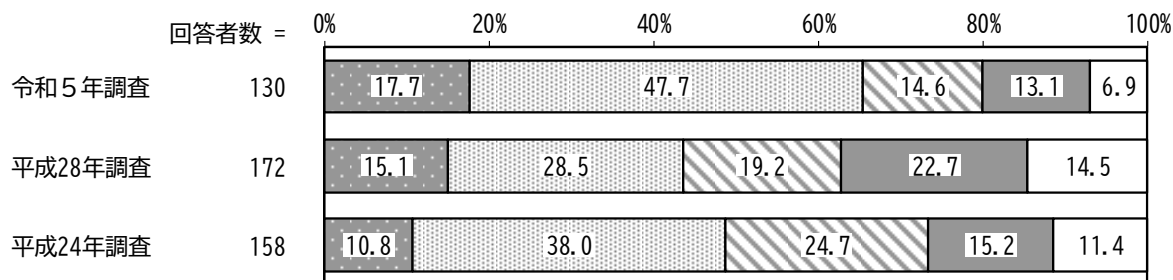
【性別】

性別にみると、男性で「ときどきする」の割合が高くなっています。



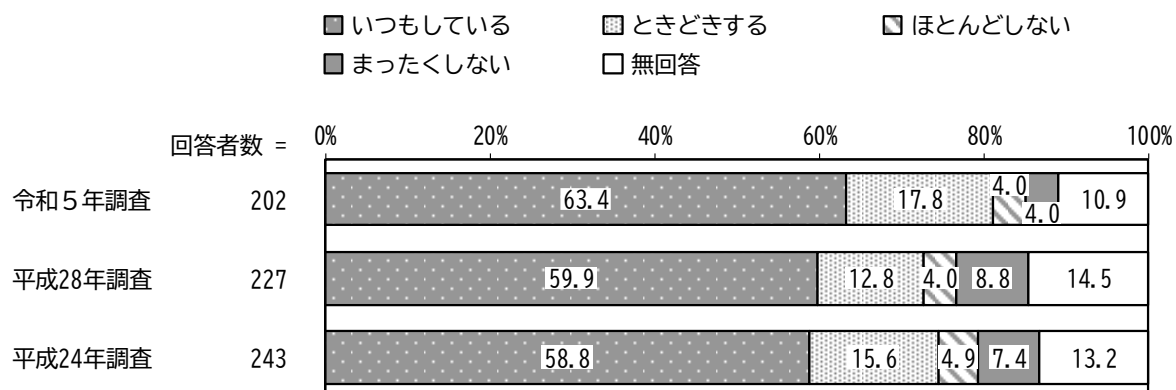
【経年比較・男性】

平成28年調査と比較すると、「ときどきする」の割合が増加しています。一方、「まったくしない」の割合が減少しています。



【経年比較・女性】

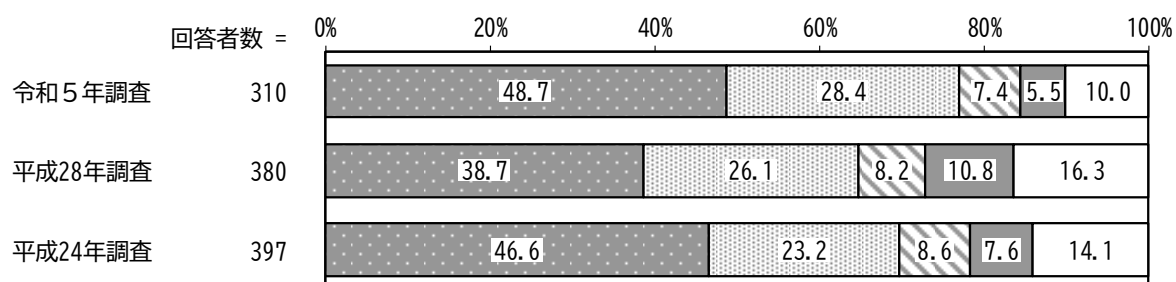
平成 28 年調査と比較すると、「ときどきする」の割合が増加しています。



⑧子どもの世話（勉強・遊び）

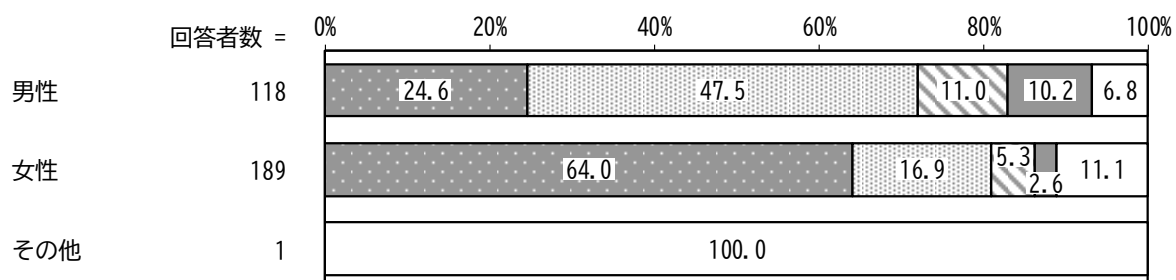
「いつもしている」の割合が 48.7%と最も高く、次いで「ときどきする」の割合が 28.4%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「いつもしている」の割合が増加しています。



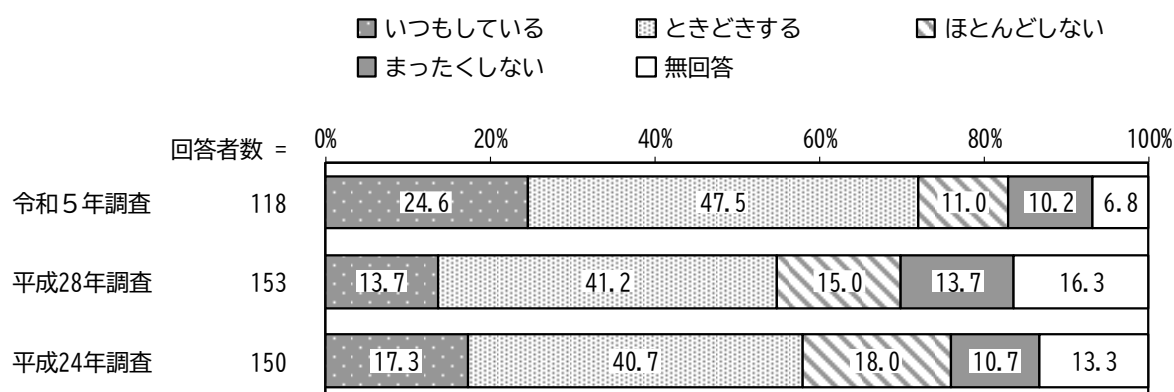
【性別】

性別にみると、男性で「ときどきする」の割合が高くなっています。



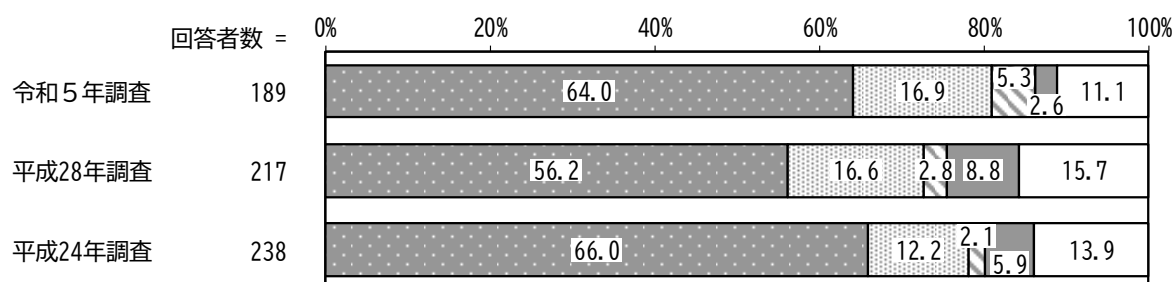
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「いつもしている」「ときどきする」の割合が増加しています。



【経年比較・女性】

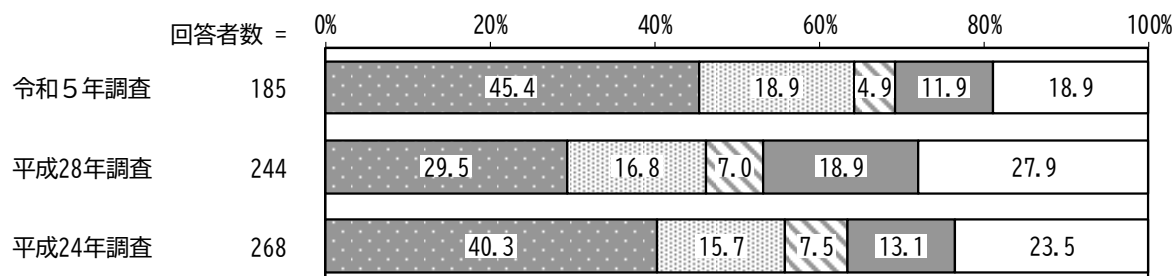
平成 28 年調査と比較すると、「いつもしている」の割合が増加しています。



⑨乳幼児の世話

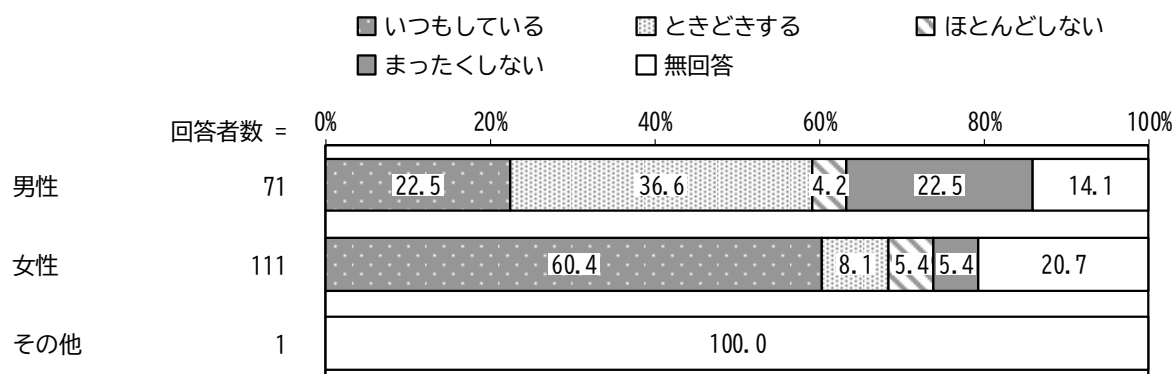
「いつもしている」の割合が 45.4%と最も高く、次いで「ときどきする」の割合が 18.9%、「まったくしない」の割合が 11.9%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「いつもしている」の割合が増加しています。一方、「まったくしない」の割合が減少しています。



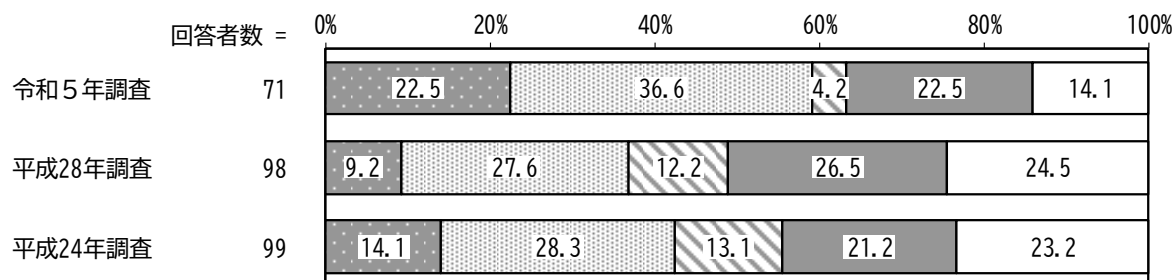
【性別】

性別にみると、男性で「ときどきする」の割合が高くなっています。



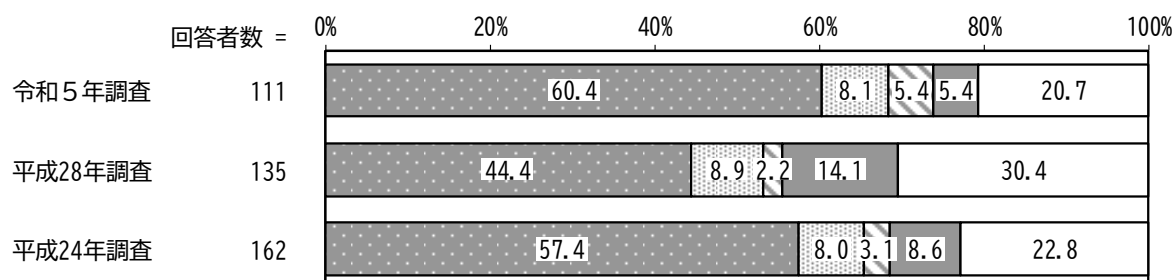
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「いつもしている」「ときどきする」の割合が増加しています。



【経年比較・女性】

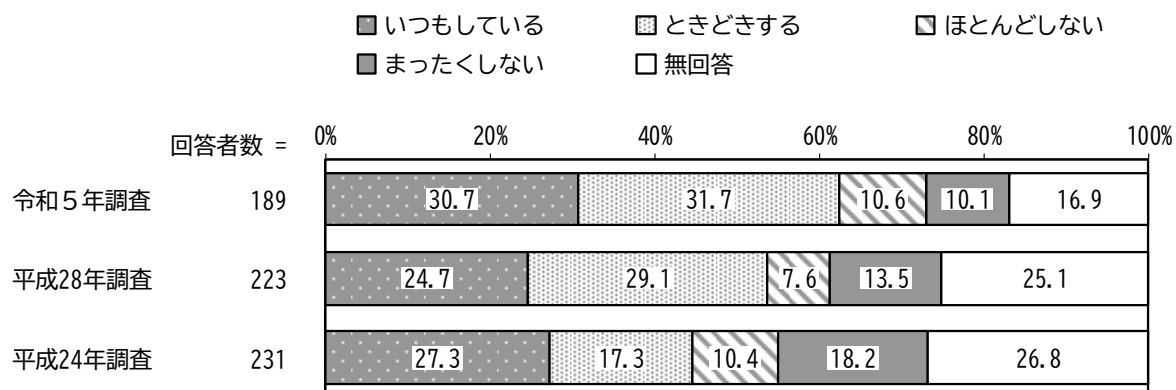
平成 28 年調査と比較すると、「いつもしている」の割合が増加しています。一方、「まったくしない」の割合が減少しています。



⑩介護が必要な家族の世話

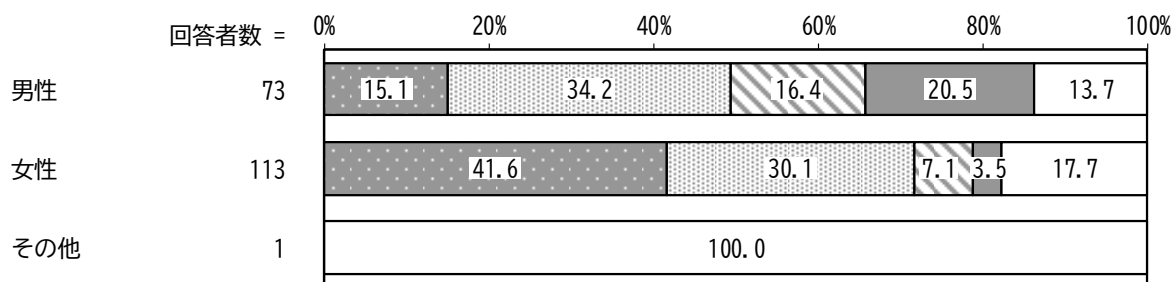
「ときどきする」の割合が 31.7%と最も高く、次いで「いつもしている」の割合が 30.7%、「ほとんどしない」の割合が 10.6%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「いつもしている」「ときどきする」の割合が増加しています。



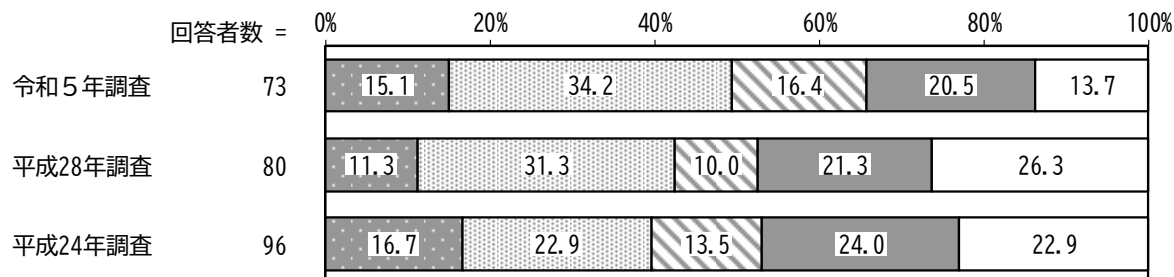
【性別】

性別にみると、女性で「いつもしている」の割合が高くなっています。



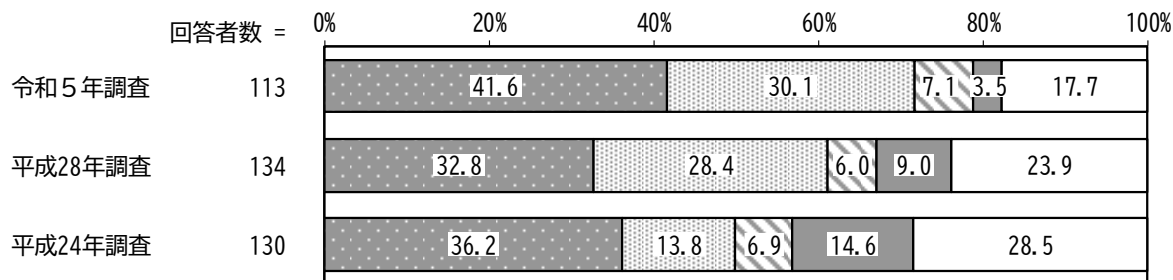
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「ほとんどしない」の割合が増加しています。



【経年比較・女性】

平成 28 年調査と比較すると、「いつもしている」の割合が増加しています。一方、「ほとんどしない」の割合が減少しています。



配偶者・パートナーがいる方のみ

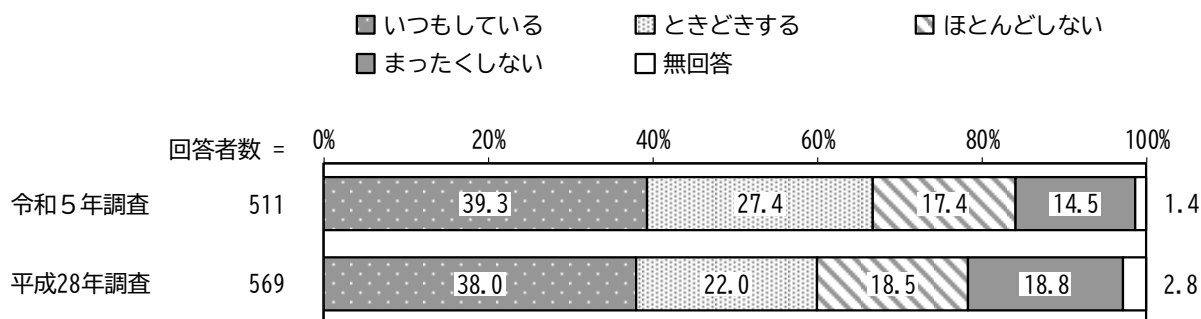
問8 あなたの配偶者・パートナーは、次のようなことをどの程度おこなっていますか。（それぞれの項目について1つに○）

※⑦～⑩については「該当しない」の回答者を除いて集計しています。

① 食事のしたく

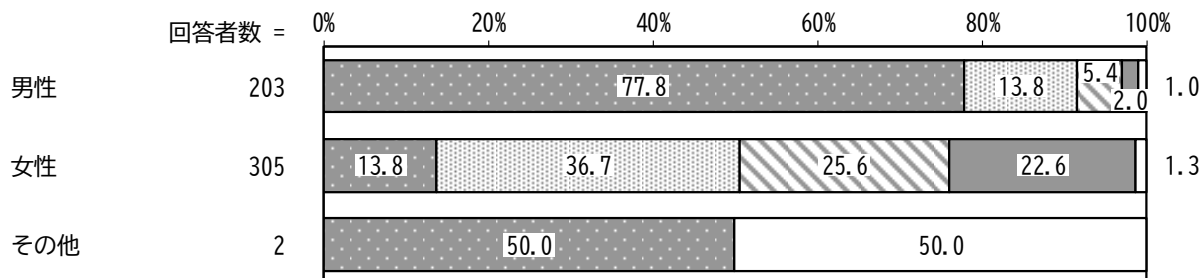
「いつもしている」の割合が 39.3%と最も高く、次いで「ときどきする」の割合が 27.4%、「ほとんどしない」の割合が 17.4%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「ときどきする」の割合が増加しています。



【性別】

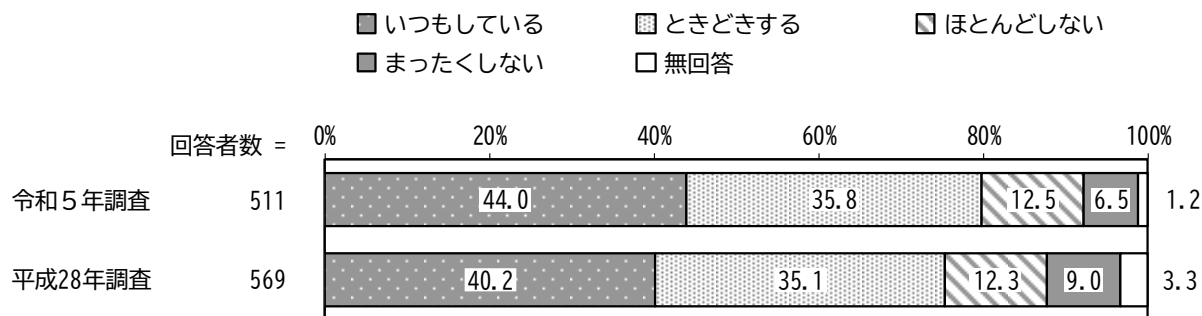
性別にみると、男性で「いつもしている」の割合が高くなっています。



② 食料品・日用品の買い物

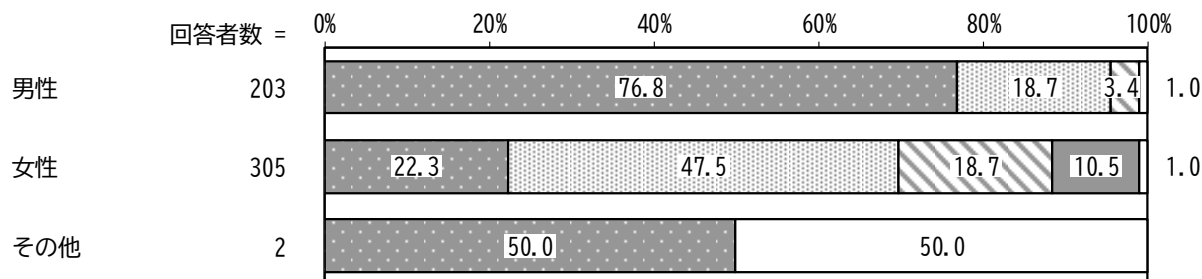
「いつもしている」の割合が 44.0%と最も高く、次いで「ときどきする」の割合が 35.8%、「ほとんどしない」の割合が 12.5%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

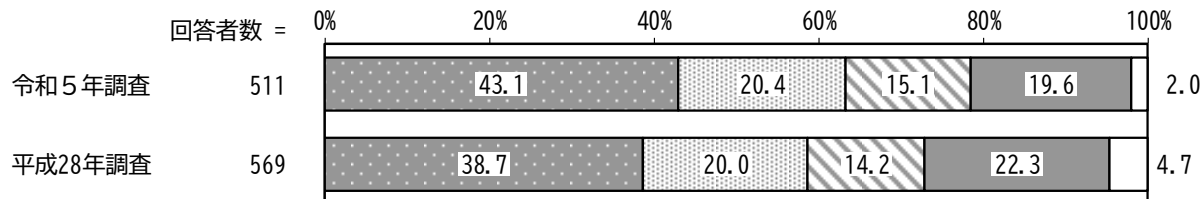
性別にみると、男性で「いつもしている」の割合が高くなっています。



③ 洗たく

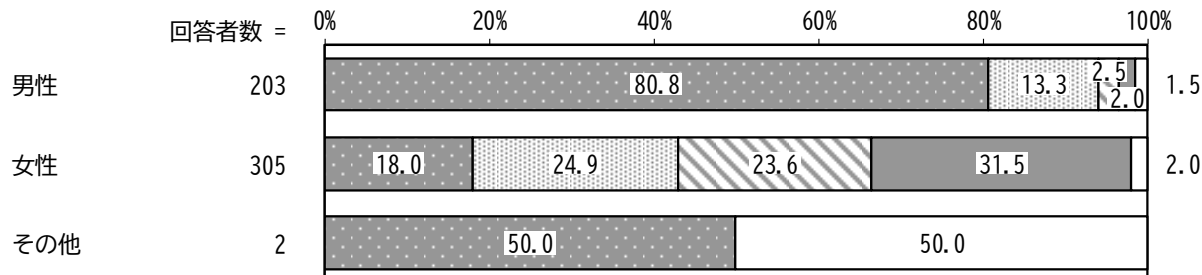
「いつもしている」の割合が 43.1%と最も高く、次いで「ときどきする」の割合が 20.4%、「まったくしない」の割合が 19.6%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

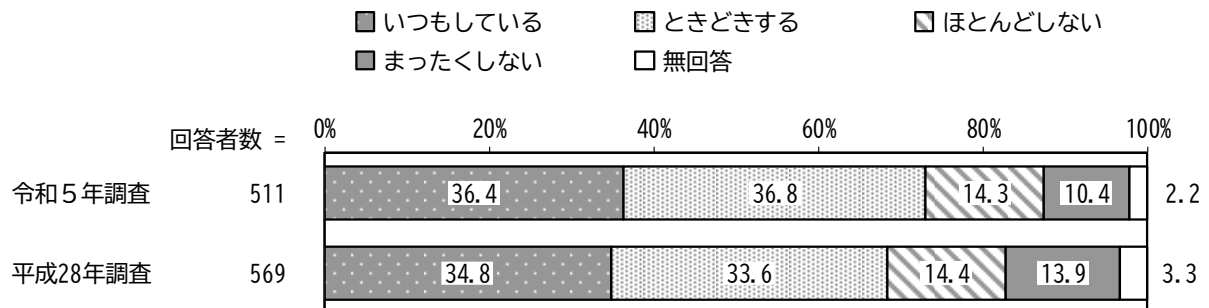
性別にみると、男性で「いつもしている」の割合が高くなっています。



④ 掃除（部屋・庭など）

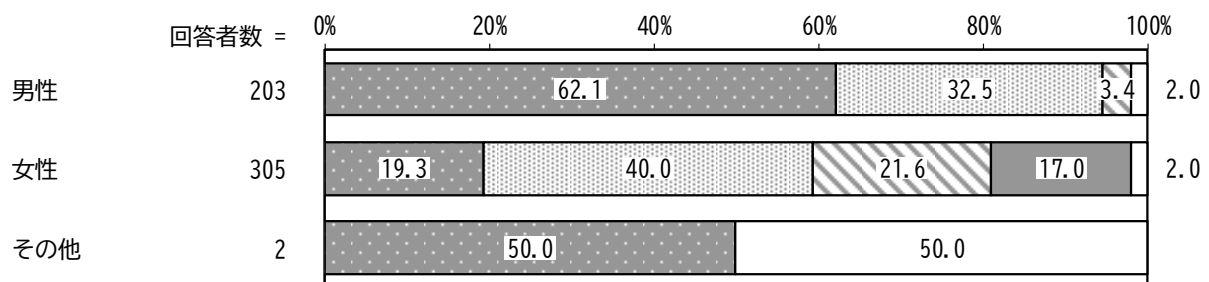
「ときどきする」の割合が 36.8%と最も高く、次いで「いつもしている」の割合が 36.4%、「ほとんどしない」の割合が 14.3%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

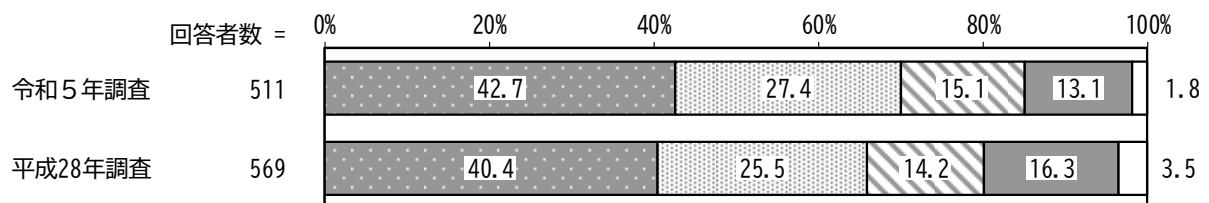
性別にみると、男性で「いつもしている」の割合が高くなっています。



⑤ ゴミ出し

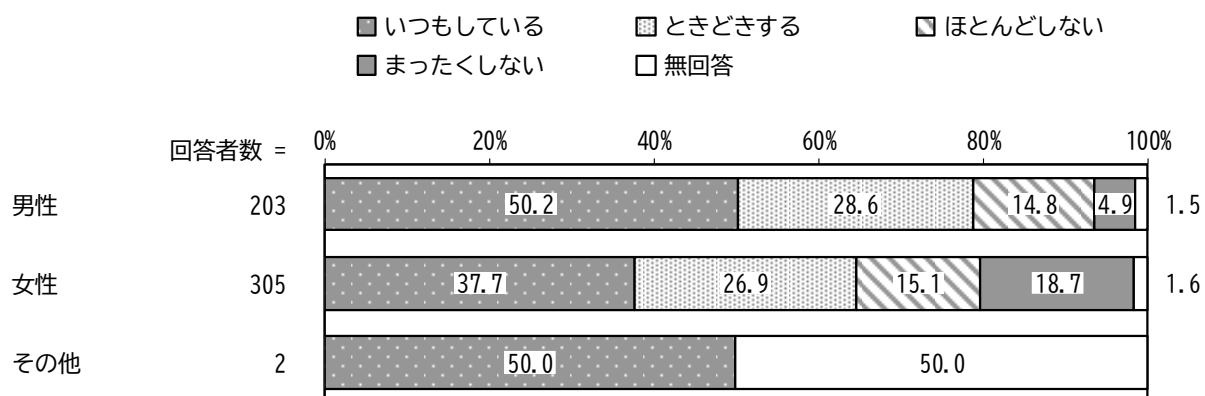
「いつもしている」の割合が 42.7%と最も高く、次いで「ときどきする」の割合が 27.4%、「ほとんどしない」の割合が 15.1%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

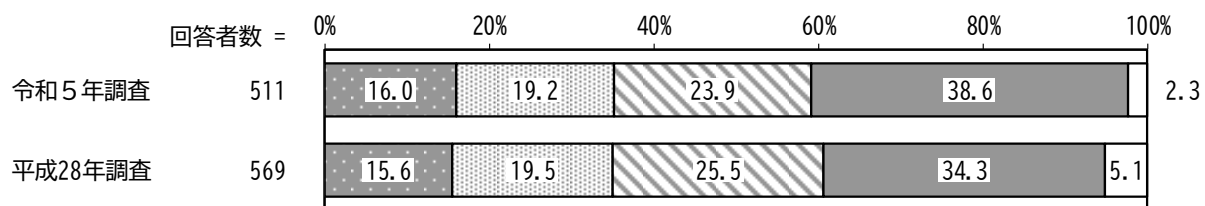
性別にみると、男性で「いつもしている」の割合が高くなっています。



⑥ 自治組織（町会・自治会・町内会）への参加

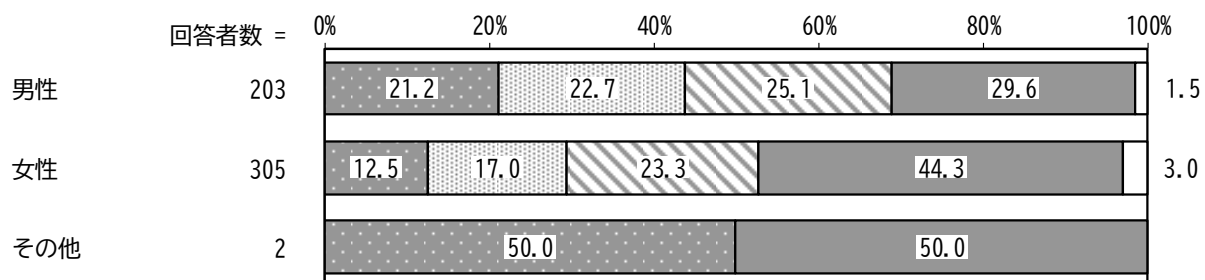
「まったくしない」の割合が38.6%と最も高く、次いで「ほとんどしない」の割合が23.9%、「ときどきする」の割合が19.2%となっています。

平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

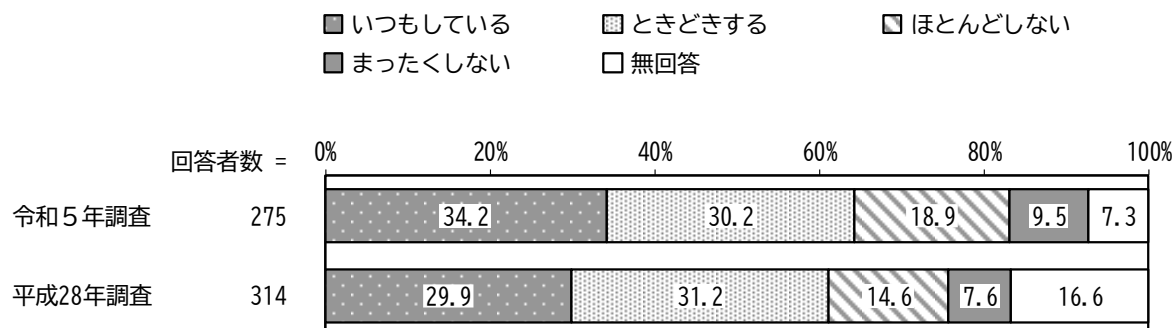
性別にみると、女性で「まったくしない」の割合が高くなっています。



⑦ 子どもに関する行事への参加

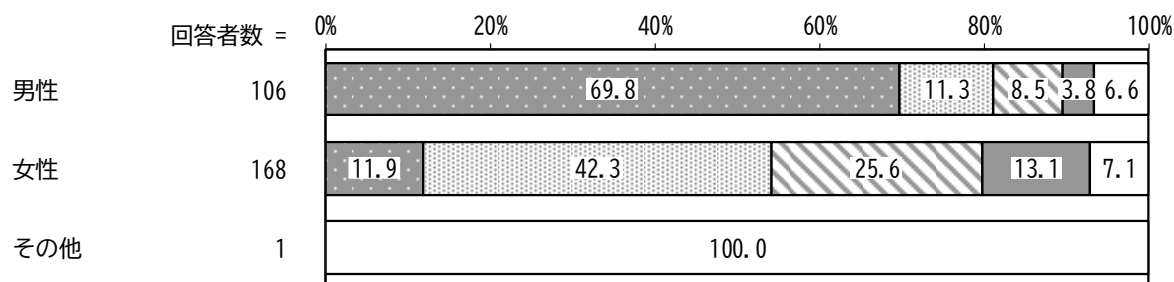
「いつもしている」の割合が 34.2%と最も高く、次いで「ときどきする」の割合が 30.2%、「ほとんどしない」の割合が 18.9%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

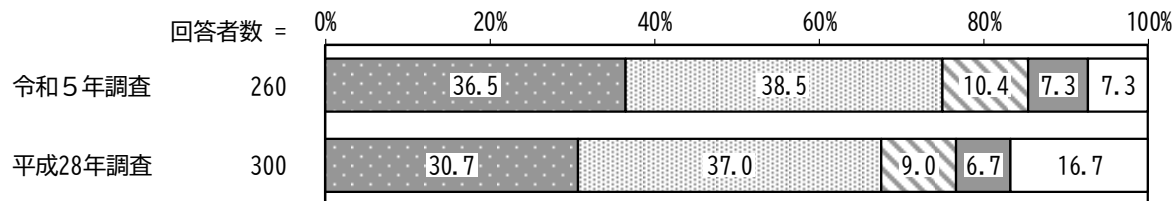
性別にみると、男性で「いつもしている」の割合が高くなっています。



⑧ 子どもの世話（勉強・遊び）

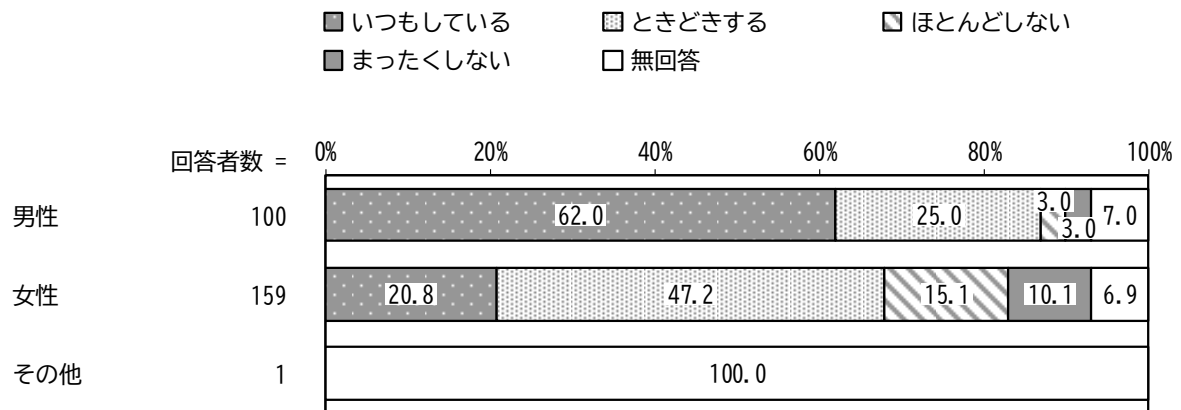
「ときどきする」の割合が 38.5%と最も高く、次いで「いつもしている」の割合が 36.5%、「ほとんどしない」の割合が 10.4%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「いつもしている」の割合が増加しています。



【性別】

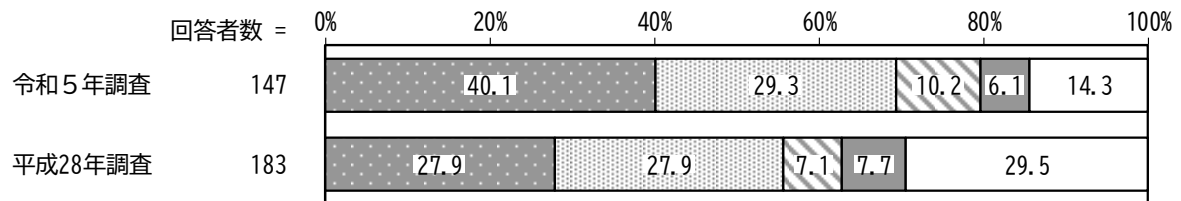
性別にみると、男性で「いつもしている」の割合が高くなっています。



⑨ 乳幼児の世話

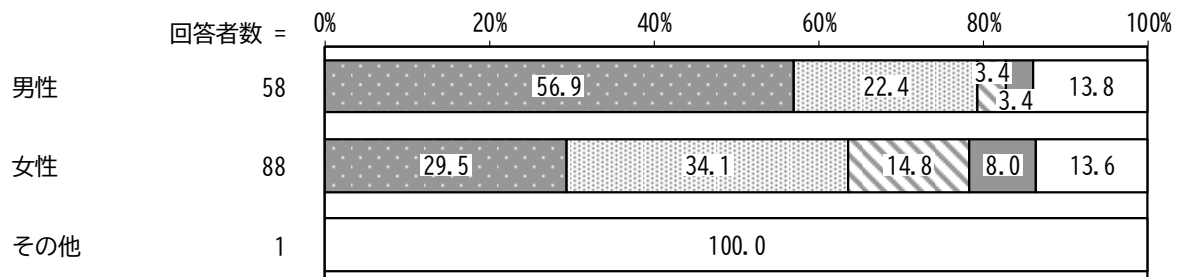
「いつもしている」の割合が 40.1%と最も高く、次いで「とときどきする」の割合が 29.3%、「ほとんどしない」の割合が 10.2%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「いつもしている」の割合が増加しています。



【性別】

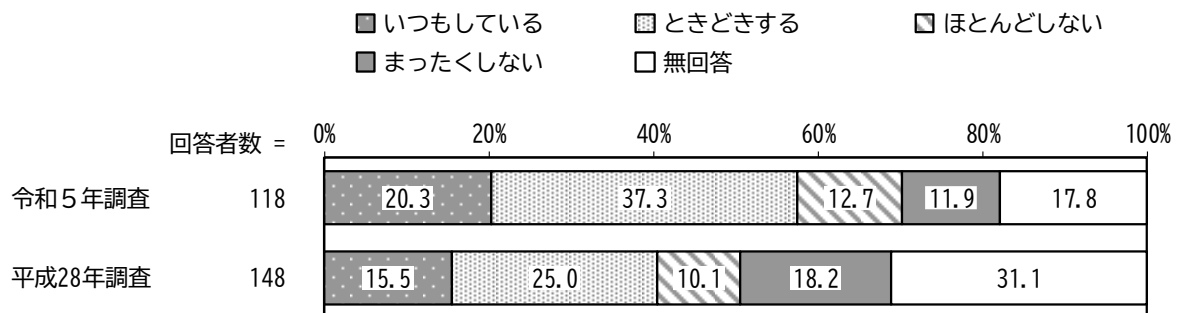
性別にみると、男性で「いつもしている」の割合が高くなっています。



⑩ 介護が必要な家族の世話

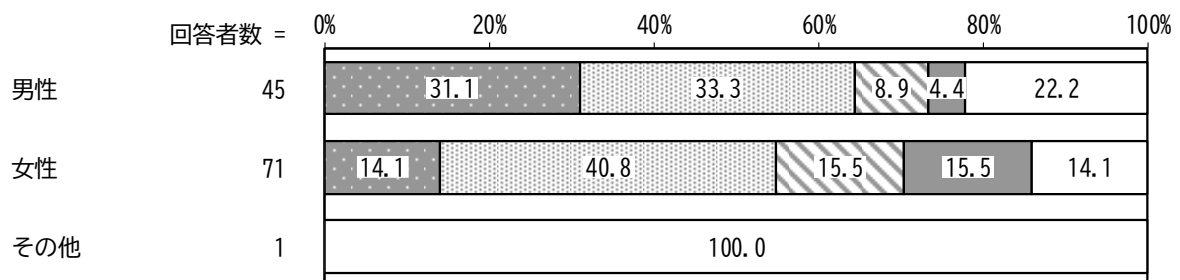
「ときどきする」の割合が 37.3%と最も高く、次いで「いつもしている」の割合が 20.3%、「ほとんどしない」の割合が 12.7%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「ときどきする」の割合が高くなっています。一方、「まったくしない」の割合が減少しています。



【性別】

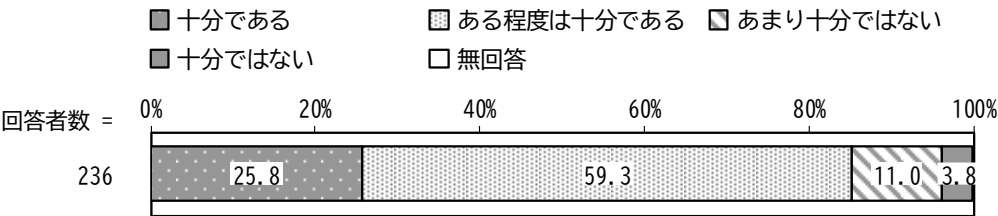
性別にみると、男性で「いつもしている」の割合が高くなっています。



現在、子育て中の方のみ

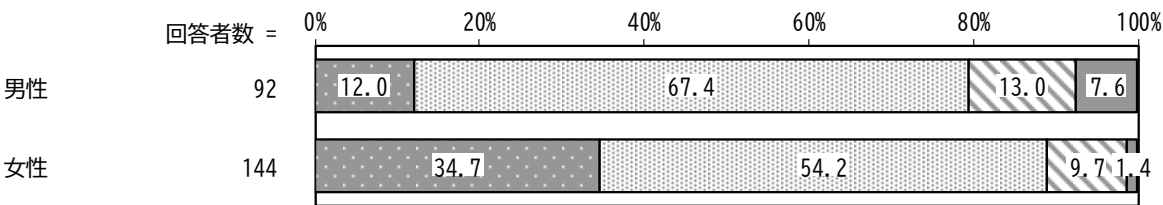
問9 あなたの子育てへのかかわりは十分だと思いますか。(1つに○)

「ある程度は十分である」(59.3%)と「十分である」(25.8%)を合わせた<十分である>は85.1%、「あまり十分ではない」(11.0%)と「十分でない」(3.8%)を合わせた<十分でない>は14.8%となっています。



【性別】

性別にみると、女性で<十分である>の割合が高くなっています。

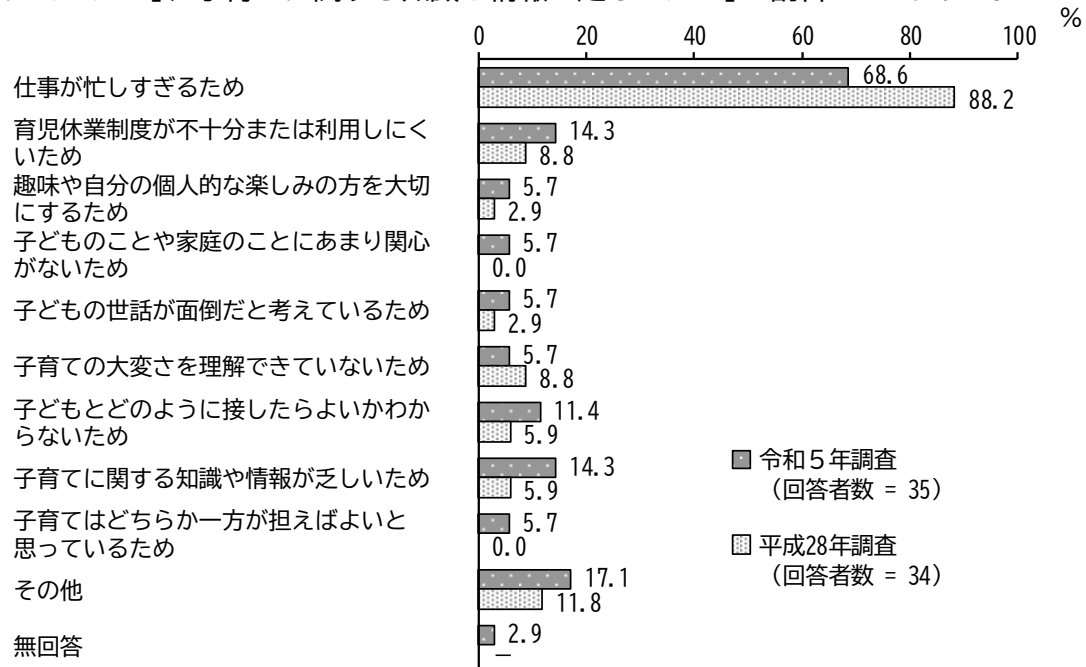


※その他の回答者数は0件となっています。

問9で「3. あまり十分ではない」「4. 十分ではない」に○とお答えの方のみ

問9-1 あなたが子育てに十分にかかわることができないとすれば、どのような原因があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「仕事が忙しすぎるため」の割合が68.6%と最も高く、次いで「育児休業制度が不十分または利用しにくい」の割合が14.3%となっています。



【性別】

性別にみると、女性で「子どもとどのように接したらよいかわからないため」の割合が高くなっています。

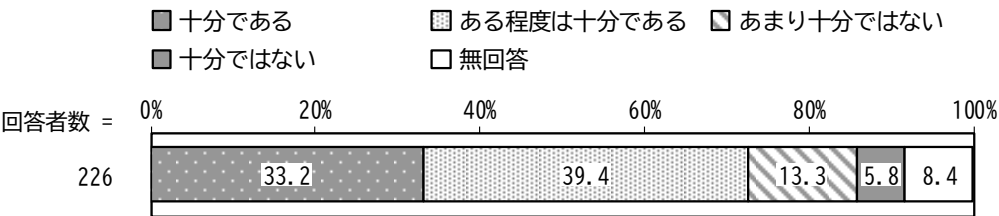
単位：％

区分	回答者数(件)	仕事が忙しすぎるため	育児休業制度が不十分または利用しにくい	趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にするため	子どものことや家庭のことにあまり関心がないため	子どもの世話が面倒だと考えているため	子育ての大変さを理解できていないため	子どもとどのように接したらよいかわからないため	子育てに関する知識や情報が乏しいため	子育てはどちらか一方が担えばよいと思っているため	その他	無回答
全 体	35	68.6	14.3	5.7	5.7	5.7	5.7	11.4	14.3	5.7	17.1	2.9
男性	19	68.4	21.1	5.3	10.5	5.3	—	5.3	10.5	10.5	15.8	—
女性	16	68.8	6.3	6.3	—	6.3	12.5	18.8	18.8	—	18.8	6.3

現在子育て中で、配偶者・パートナーがいる方のみ

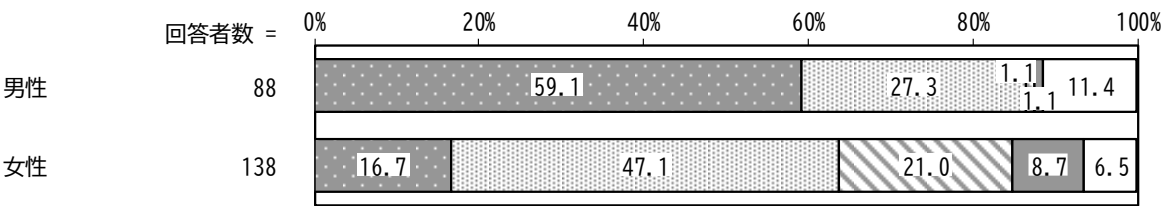
問 10 あなたの配偶者・パートナーの子育てへのかかわりは十分だと思いますか。
(1つに○)

「ある程度は十分である」(39.4%)と「十分である」(33.2%)を合わせた<十分である>は72.6%、「あまり十分ではない」(13.3%)と「十分でない」(19.1%)を合わせた<十分でない>は32.4%となっています。



【性別】

性別にみると、男性で<十分である>の割合が高くなっています。

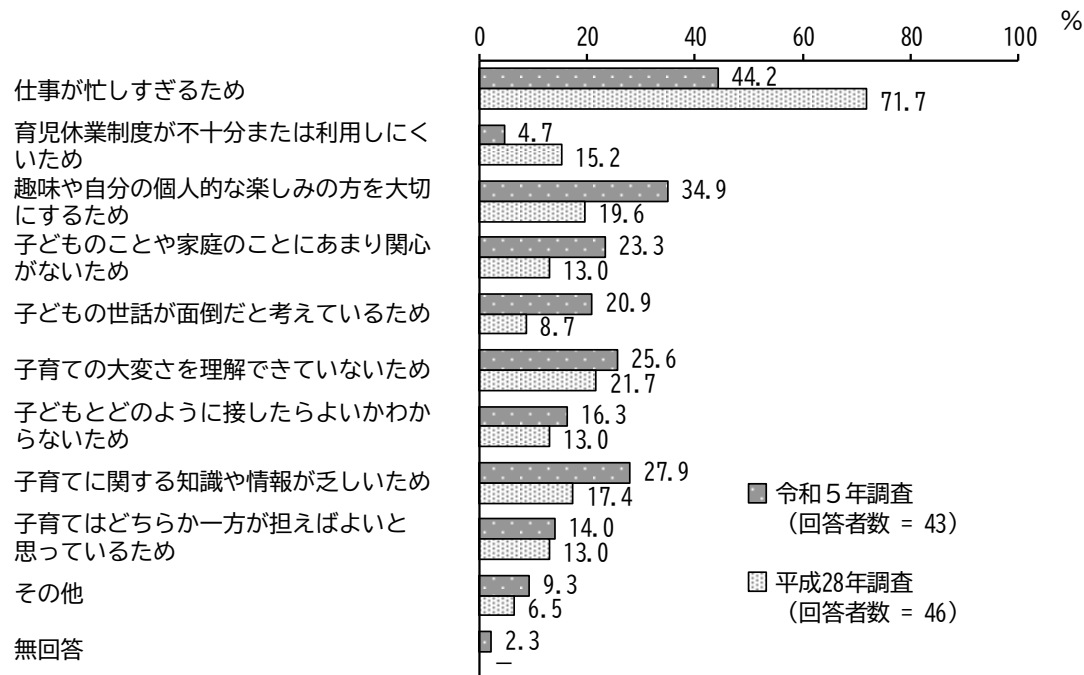


※その他の回答者数は0件となっています。

問 10 で「3. あまり十分ではない」「4. 十分ではない」に○とお答えの方のみ

問 10-1 あなたの配偶者・パートナーが子育てに十分にかかわることができないとすれば、どのような原因があると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「仕事が忙しすぎるため」の割合が 44.2%と最も高く、次いで「趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にするため」の割合が 34.9%、「子育てに関する知識や情報が乏しいため」の割合が 27.9%となっています。



【性別】
性別にみると、有効な回答が得られませんでした。

単位：％

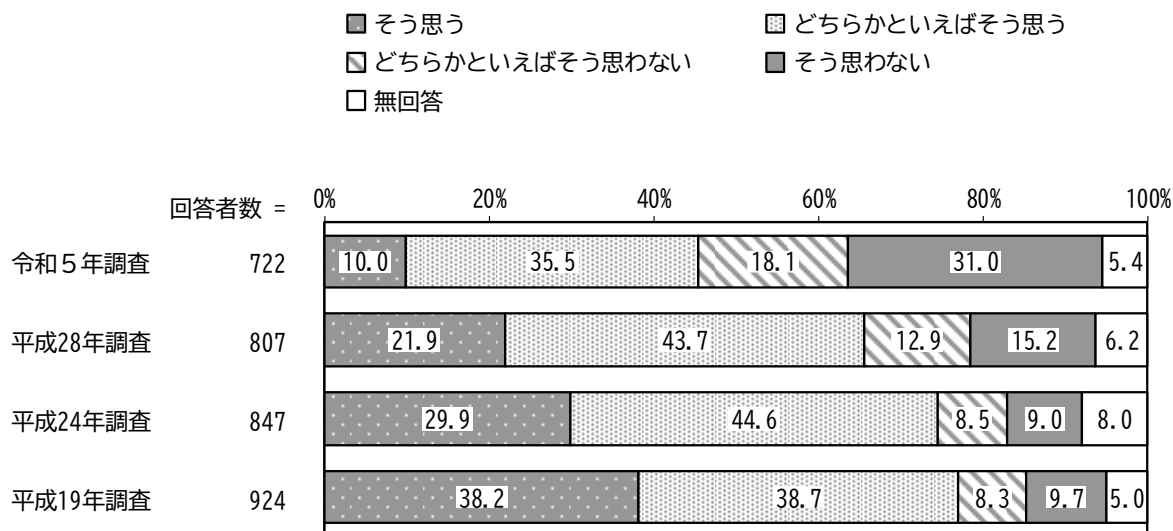
区分	回答者数（件）	仕事が忙しすぎるため	育児休業制度が不十分または利用しにくいため	趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にするため	子どものことや家庭のことにあまり関心がないため	子どもの世話が面倒だと考えているため	子育ての大変さを理解できていないため	子どもとどのように接したらよいかわからないため	子育てに関する知識や情報が乏しいため	子育てはどちらか一方が担えばよいと思っているため	その他	無回答
全 体	43	44.2	4.7	34.9	23.3	20.9	25.6	16.3	27.9	14.0	9.3	2.3
男性	2	－	－	－	－	－	－	－	50.0	－	50.0	－
女性	41	46.3	4.9	36.6	24.4	22.0	26.8	17.1	26.8	14.6	7.3	2.4

問 11 家庭での子育てや、学校での教育に関する以下の考えについて、あなたはどのように思いますか。(それぞれの項目について1つに○)

①男の子は男らしく、女の子は女らしく、育てた方がよい

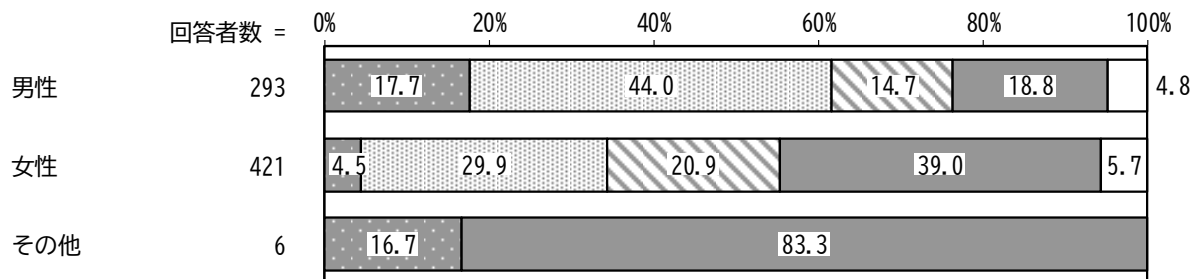
「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた＜そう思う＞の割合が 45.5%、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた＜そう思わない＞の割合が 49.1%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、＜そう思わない＞の割合が増加しています。一方、＜そう思う＞の割合が減少しています。

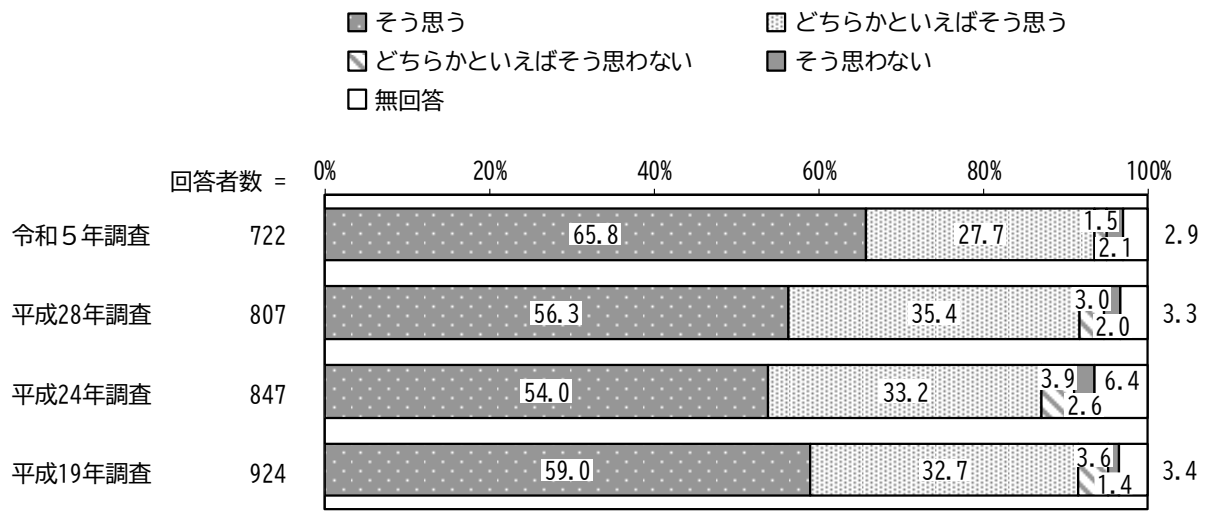


【性別】

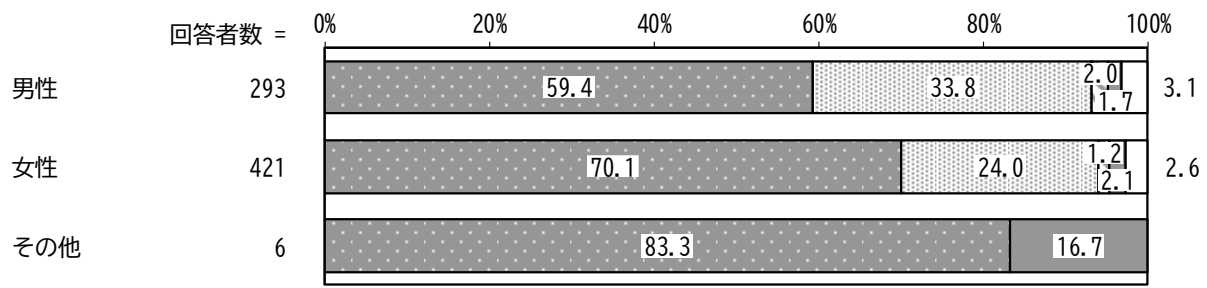
性別にみると、男性で＜そう思う＞の割合が高くなっています。



②男の子・女の子にかかわらず、家事等は平等に手伝わせるべきである
 <そう思う>の割合が 93.5%となっています。
 平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



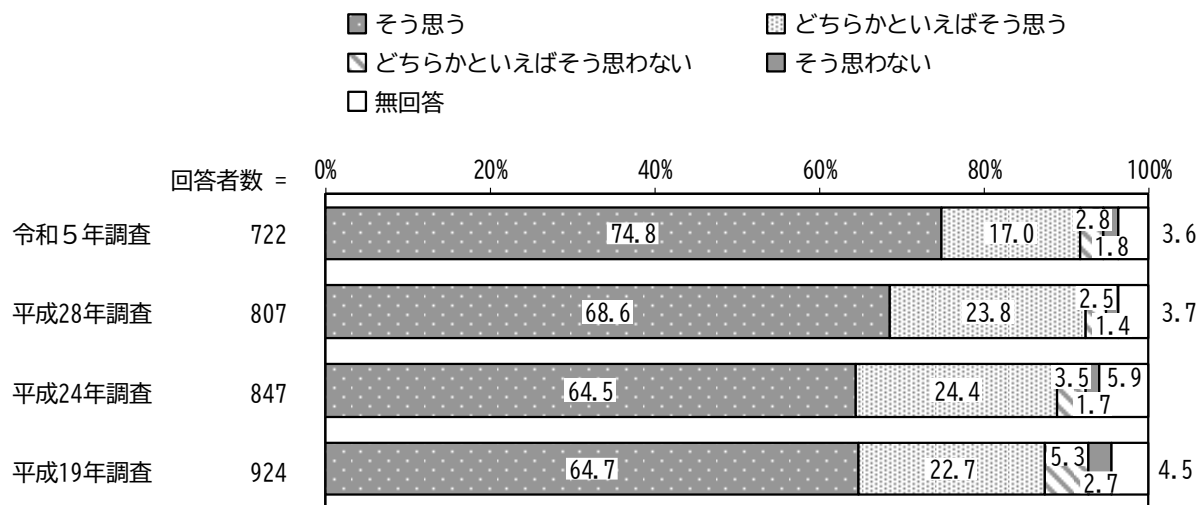
【性別】
 性別にみると、大きな差はみられません。



③進路指導は性別に関係なく同じように行われる方がよい

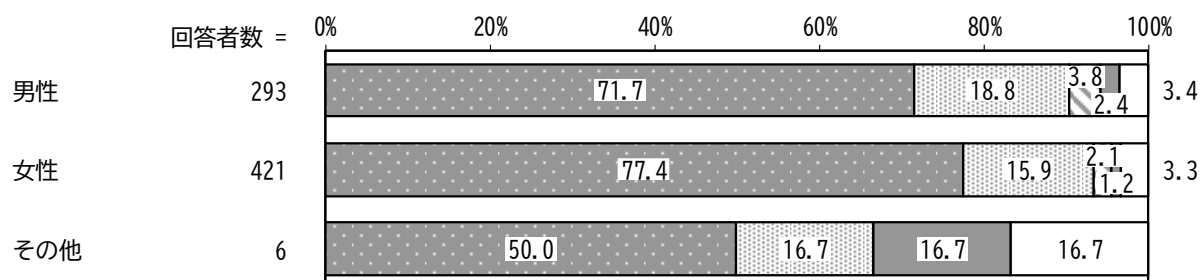
＜そう思う＞の割合が 91.8%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

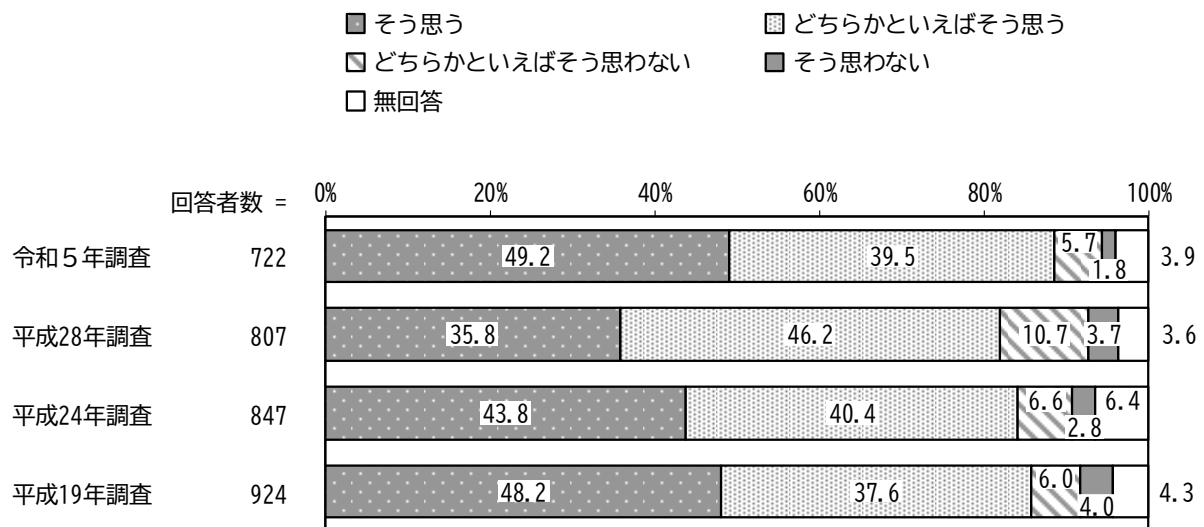
性別にみると、大きな差はみられません。



④性教育は、子どものときから教えた方がよい

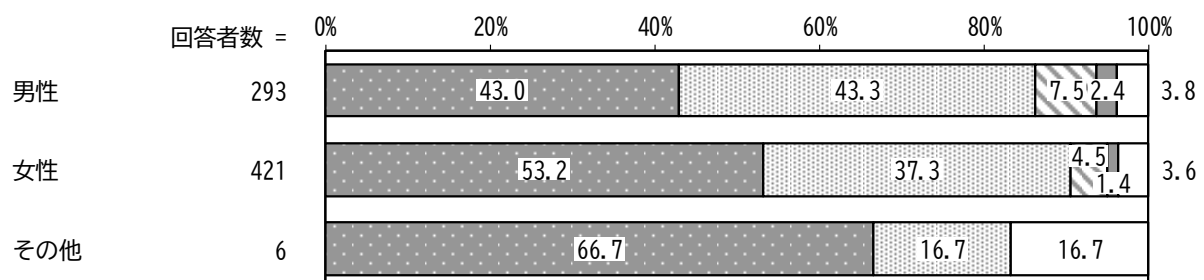
＜そう思う＞の割合が 88.7%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、＜そう思う＞の割合が増加しています。



【性別】

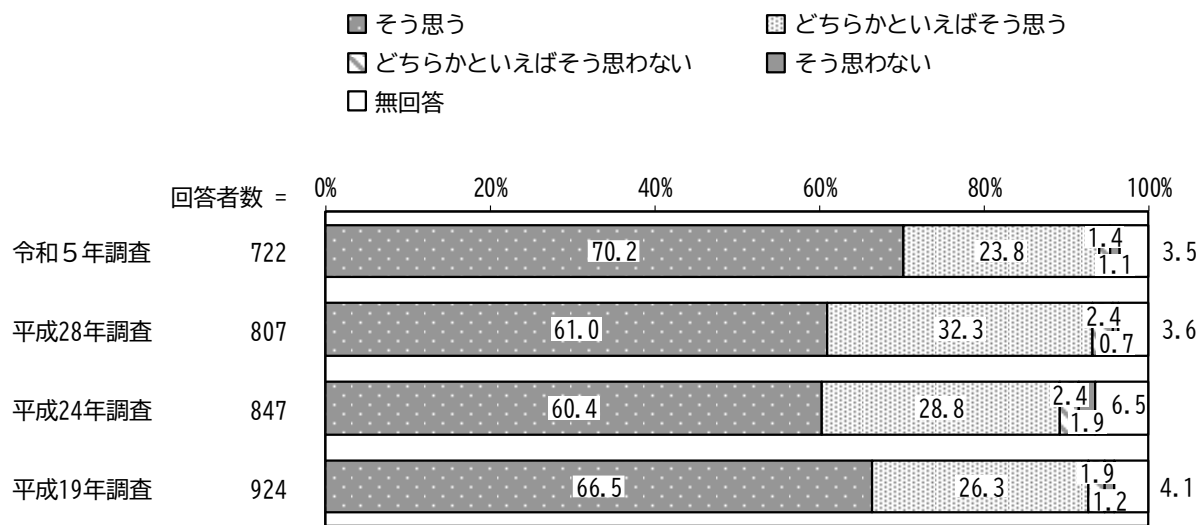
性別にみると、大きな差はみられません。



⑤技術・家庭科などを通じて、男女ともに実技的な教育を行うことが必要である

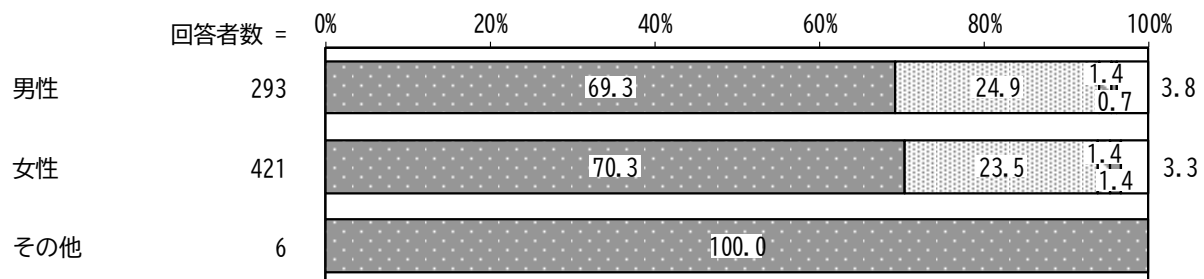
＜そう思う＞の割合が 94.0%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

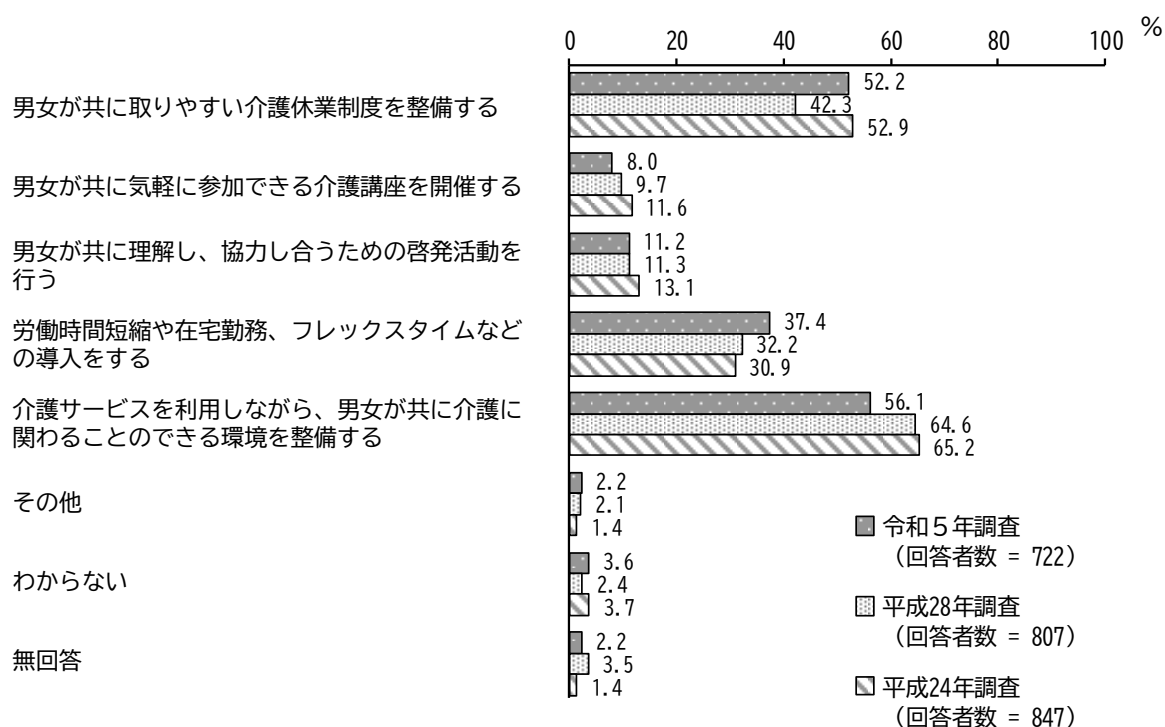
性別にみると、大きな差はみられません。



問 12 男女が協力して介護を担うためには、どのようなことが必要だと思われますか。
(2つまでに○)

「介護サービスを利用しながら、男女が共に介護に関わることのできる環境を整備する」の割合が56.1%と最も高く、次いで「男女が共に取りやすい介護休業制度を整備する」の割合が52.2%、「労働時間短縮や在宅勤務、フレックスタイムなどの導入をする」の割合が37.4%となっています。

平成28年調査と比較すると、「男女が共に取りやすい介護休業制度を整備する」「労働時間短縮や在宅勤務、フレックスタイムなどの導入をする」の割合が増加しています。一方、「介護サービスを利用しながら、男女が共に介護に関わることのできる環境を整備する」の割合が減少しています。



【性別】

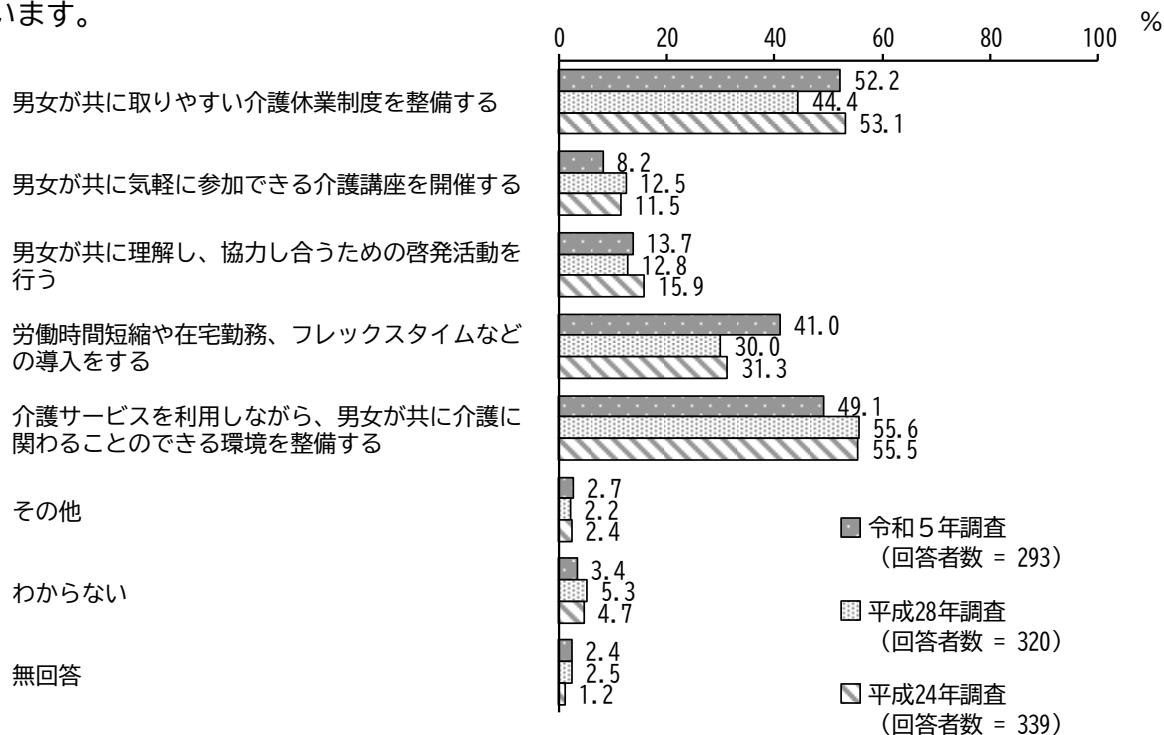
性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数（件）	男女が共に取りやすい介護休業制度を整備する	男女が共に気軽に参加できる介護講座を開催する	男女が共に理解し、協力し合うための啓発活動を行う	労働時間短縮や在宅勤務、フレックスタイムなどの導入をする	介護サービスを利用しながら、男女が共に介護に関わることのできる環境を整備する	その他	わからない	無回答
全 体	722	52.2	8.0	11.2	37.4	56.1	2.2	3.6	2.2
男性	293	52.2	8.2	13.7	41.0	49.1	2.7	3.4	2.4
女性	421	52.3	8.1	9.5	35.2	60.6	1.9	3.6	2.1
その他	6	50.0	－	16.7	16.7	66.7	－	16.7	－

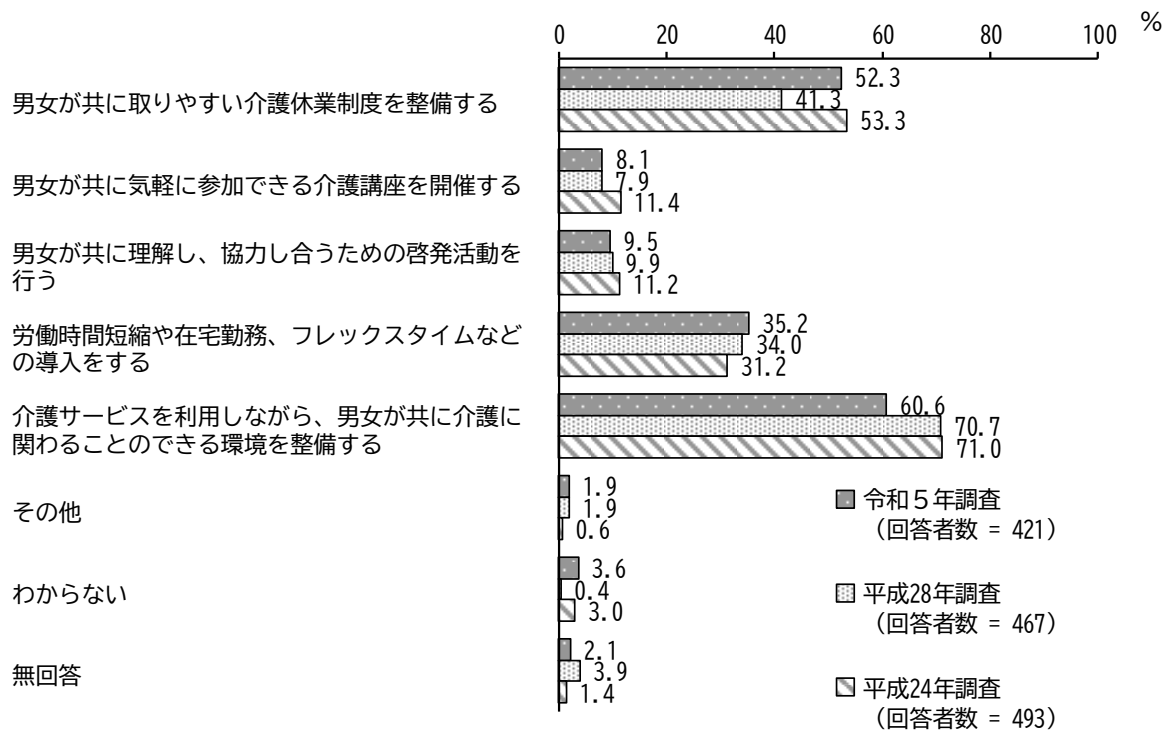
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「男女が共に取りやすい介護休業制度を整備する」「労働時間短縮や在宅勤務、フレックスタイムなどの導入をする」の割合が増加しています。一方、「介護サービスを利用しながら、男女が共に介護に関わることのできる環境を整備する」の割合が減少しています。



【経年比較・女性】

平成 28 年調査と比較すると、「男女が共に取りやすい介護休業制度を整備する」の割合が増加しています。一方、「介護サービスを利用しながら、男女が共に介護に関わることのできる環境を整備する」の割合が減少しています。

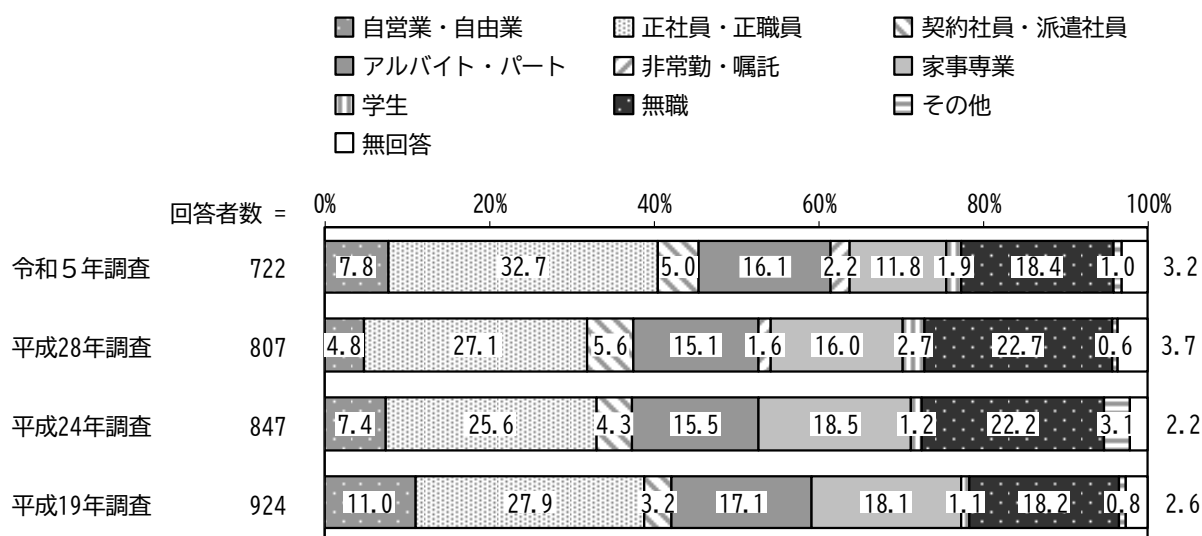


(4) 就業について

問 13 あなたの職業は、次のうちどれですか。(1つに○)

「正社員・正職員」の割合が32.7%と最も高く、次いで「無職」の割合が18.4%、「アルバイト・パート」の割合が16.1%となっています。

平成28年調査と比較すると、「正社員・正職員」の割合が増加しています。

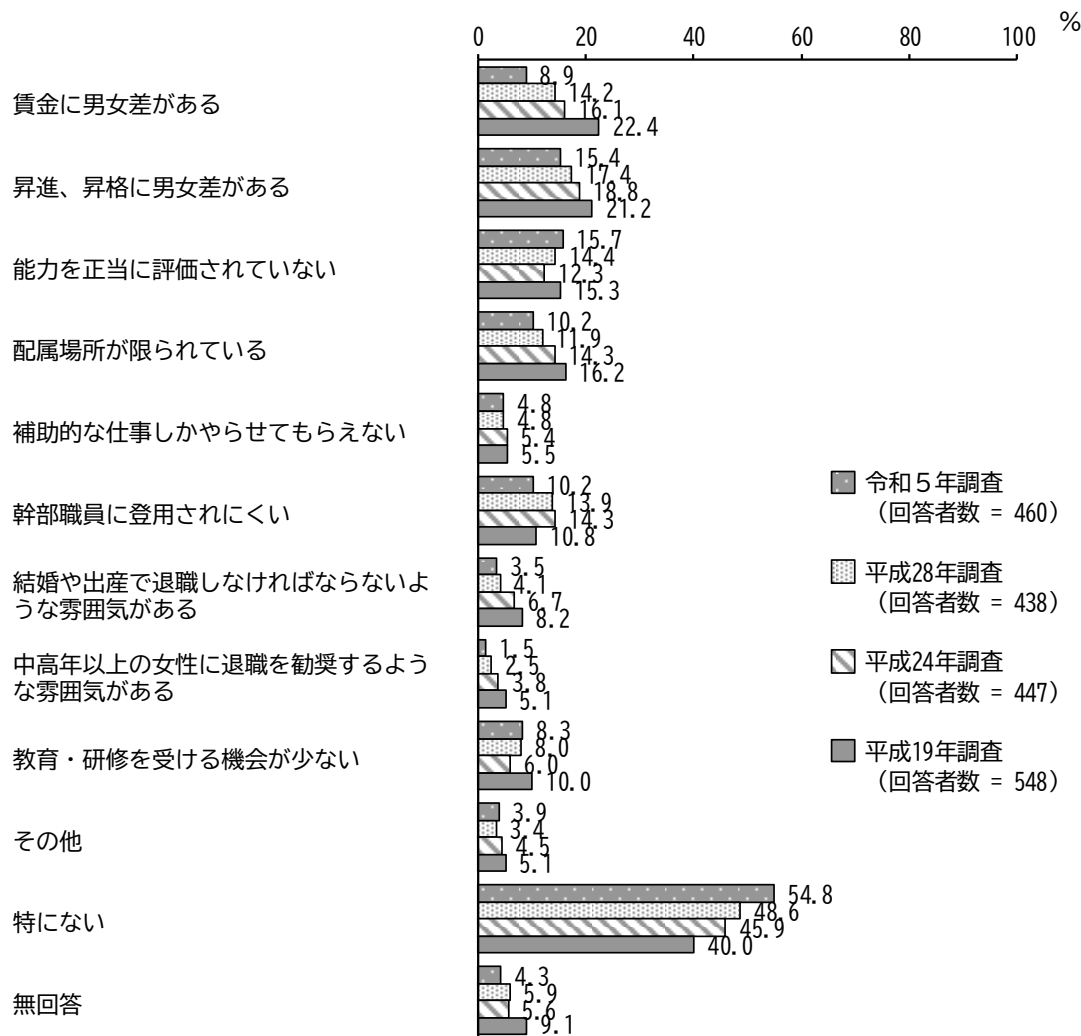


現在働いている方のみ

問 14 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して次のようなことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「特にない」の割合が 54.8%と最も高く、次いで「能力を正當に評価されていない」の割合が 15.7%、「昇進、昇格に男女差がある」の割合が 15.4%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「特にない」の割合が増加しています。一方、「賃金に男女差がある」の割合が減少しています。



【性別】

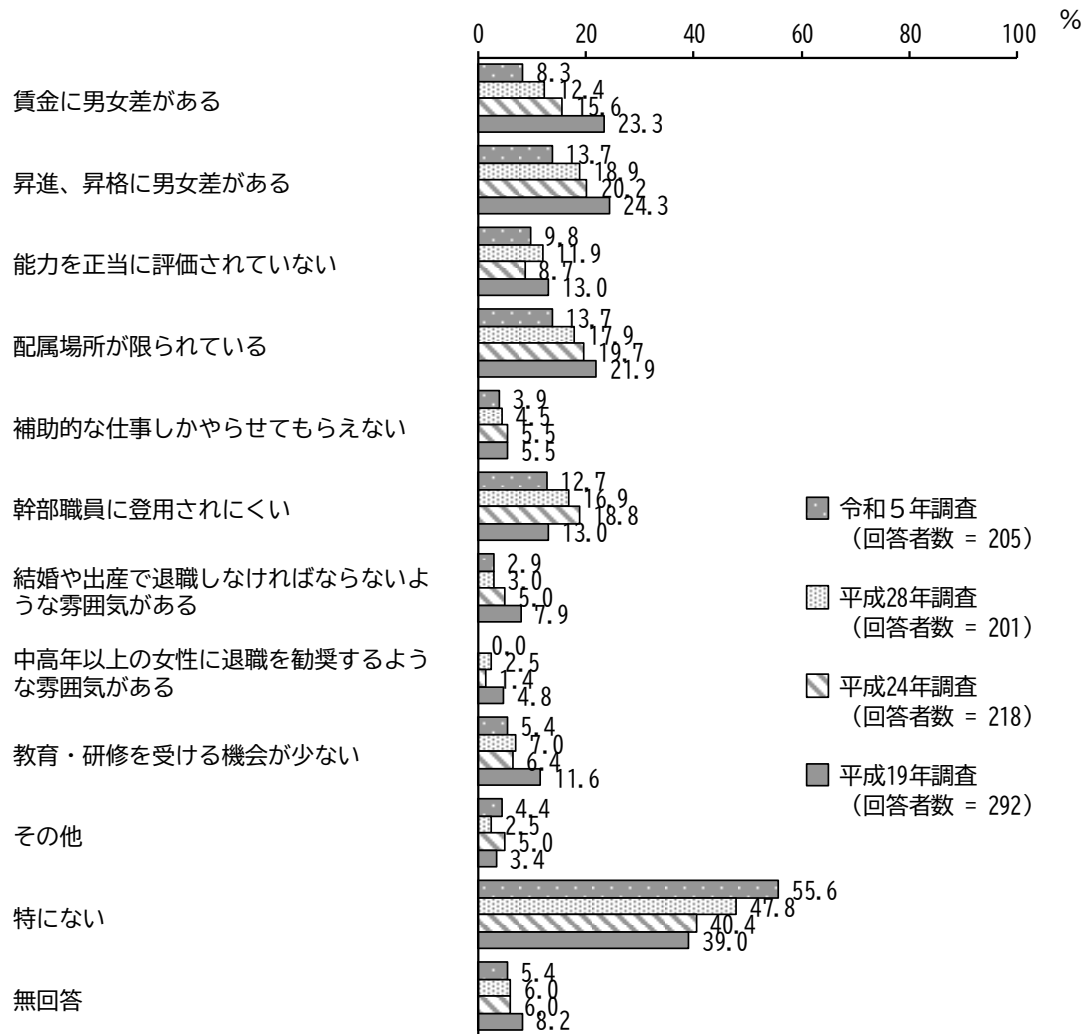
性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数（件）	賃金に男女差がある	昇進、昇格に男女差がある	能力を正当に評価されていない	配属場所が限られている	補助的な仕事しかやらせてもらえない	幹部職員に登用されにくい	結婚や出産で退職しなければならぬような雰囲気がある	中高年以上の女性に退職を勧奨するような雰囲気がある	教育・研修を受ける機会が少ない	その他	特になし	無回答
全 体	460	8.9	15.4	15.7	10.2	4.8	10.2	3.5	1.5	8.3	3.9	54.8	4.3
男性	205	8.3	13.7	9.8	13.7	3.9	12.7	2.9	—	5.4	4.4	55.6	5.4
女性	250	8.8	16.0	20.0	7.2	4.4	7.6	4.0	2.8	9.6	3.6	54.8	3.6
その他	4	25.0	50.0	25.0	25.0	75.0	50.0	—	—	50.0	—	25.0	—

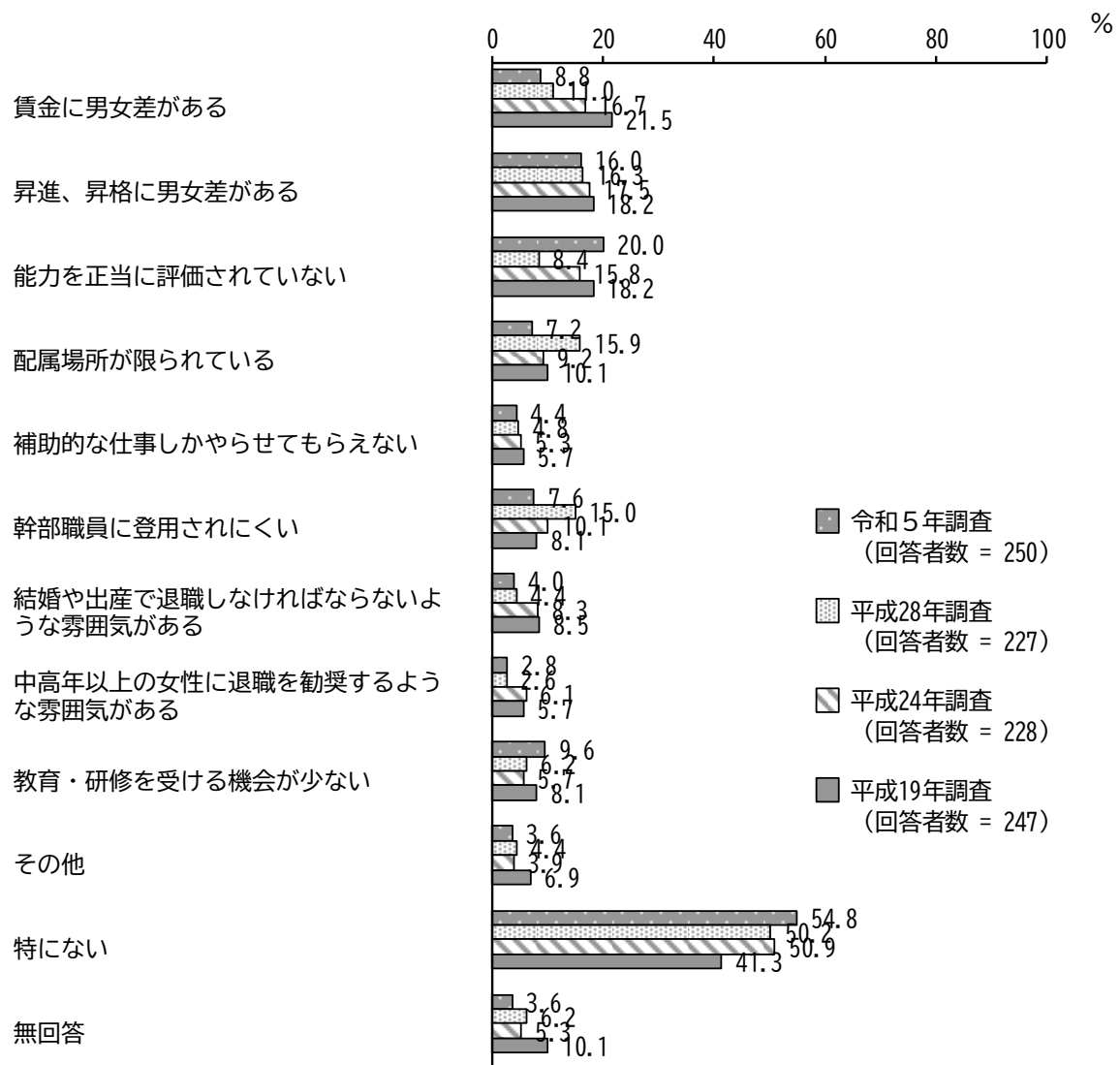
【経年比較・男性】

平成28年調査と比較すると、「特にない」の割合が増加しています。一方、「昇進、昇格に男女差がある」の割合が減少しています。



【経年比較・女性】

平成28年調査と比較すると、「能力を正當に評価されていない」の割合が増加しています。一方、「配属場所が限られている」「幹部職員に登用されにくい」の割合が減少しています。

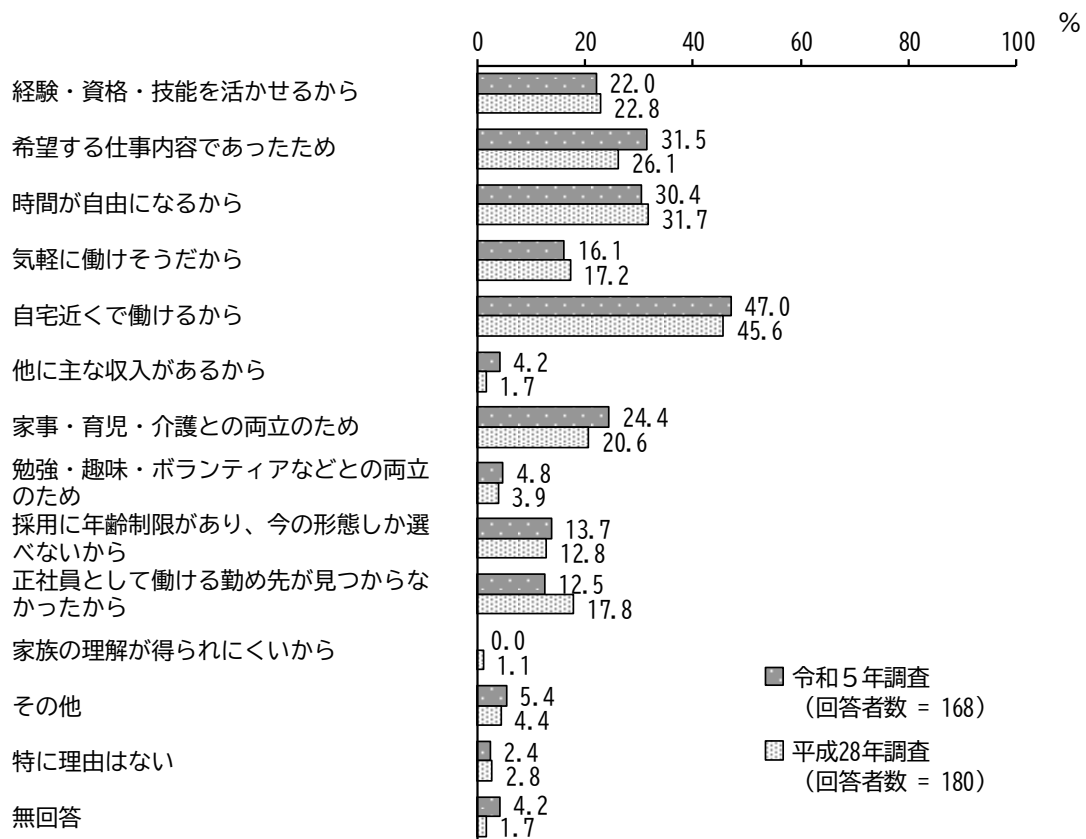


現在「契約社員・派遣社員」「アルバイト・パート」「非常勤・嘱託」として働いている方のみ

問 15 現在の形態で働いている主な理由は何ですか。（3つまでに○）

「自宅近くで働けるから」の割合が 47.0%と最も高く、次いで「希望する仕事内容であったため」の割合が 31.5%、「時間が自由になるから」の割合が 30.4%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「希望する仕事内容であったため」の割合が増加しています。一方、「正社員として働ける勤め先が見つからなかったから」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、男性で「採用に年齢制限があり、今の形態しか選べないから」の割合が高くなっています。

単位：％

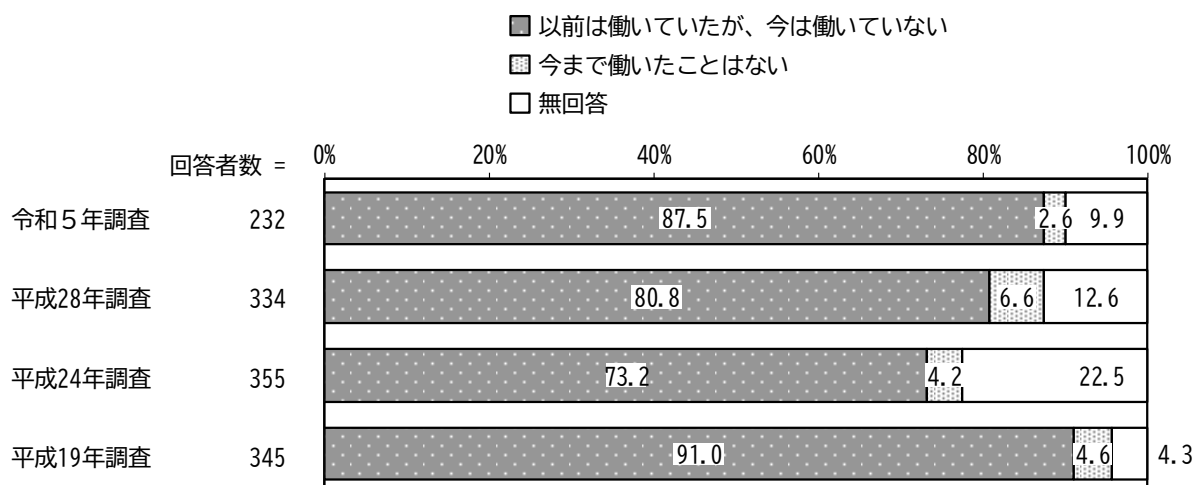
区分	回答者数（件）	経験・資格・技能を活かせるから	希望する仕事内容であったため	時間が自由になるから	気軽に働けそうだから	自宅近くで働けるから	他に主な収入があるから	家事・育児・介護との両立のため	勉強・趣味・ボランティアなどの両立のため	形態しか選べないから	採用に年齢制限があり、今の形態しか選べないから	正社員として働ける勤め先が見つからなかったから	家族の理解が得られにくいから	その他	特に理由はない	無回答
全 体	168	22.0	31.5	30.4	16.1	47.0	4.2	24.4	4.8	13.7	12.5	—	—	5.4	2.4	4.2
男性	32	28.1	31.3	21.9	12.5	25.0	12.5	3.1	6.3	37.5	12.5	—	—	15.6	6.3	6.3
女性	135	20.0	31.1	32.6	17.0	52.6	2.2	29.6	3.7	8.1	12.6	—	—	3.0	1.5	3.7

現在働いていない方のみ

問 16 あなたは、働いたこと（パート、自営業、臨時、内職等も含む）がありますか。（1つに○）

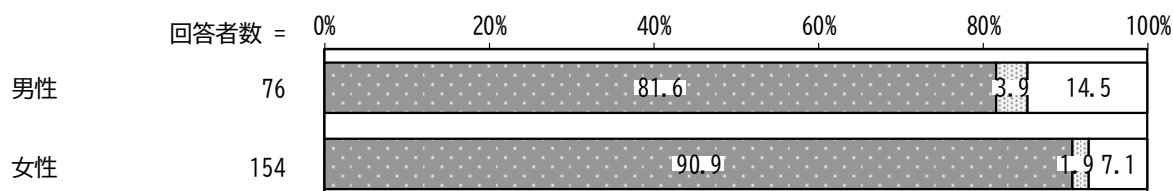
「以前は働いていたが、今は働いていない」の割合が 87.5%、「今まで働いたことはない」の割合が 2.6%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「以前は働いていたが、今は働いていない」の割合が増加しています。



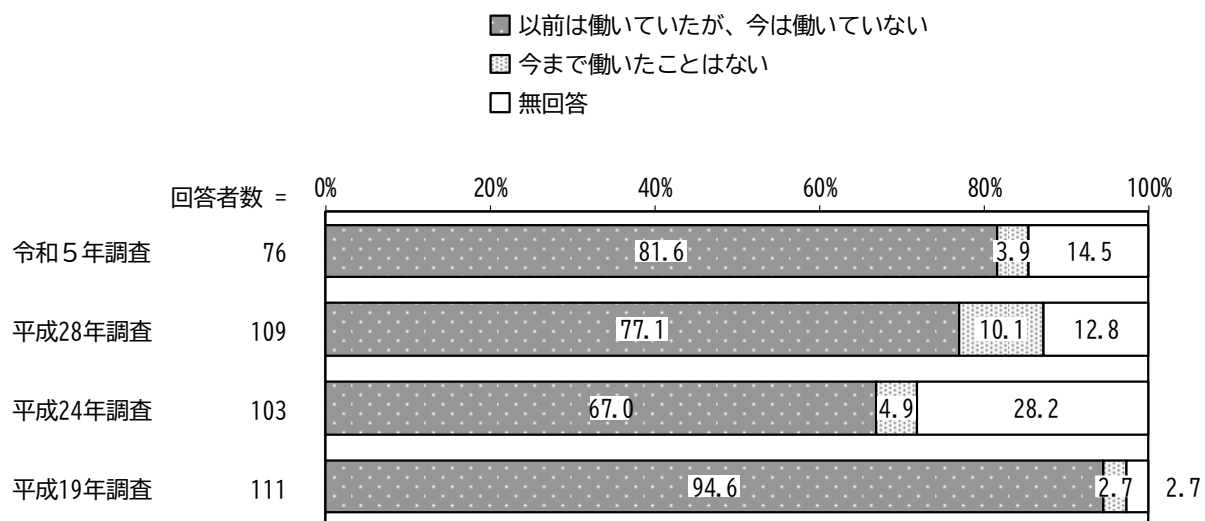
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



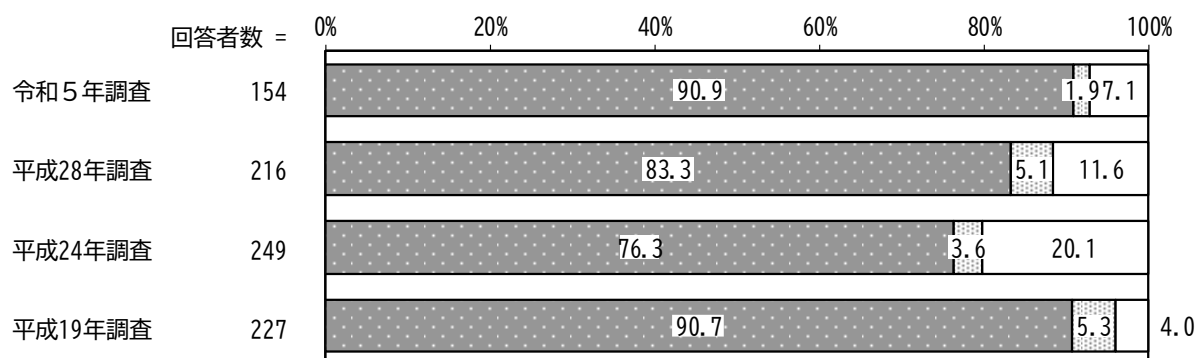
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「今まで働いたことはない」の割合が減少しています。



【経年比較・女性】

平成 28 年調査と比較すると、「以前は働いていたが、今は働いていない」の割合が増加しています。

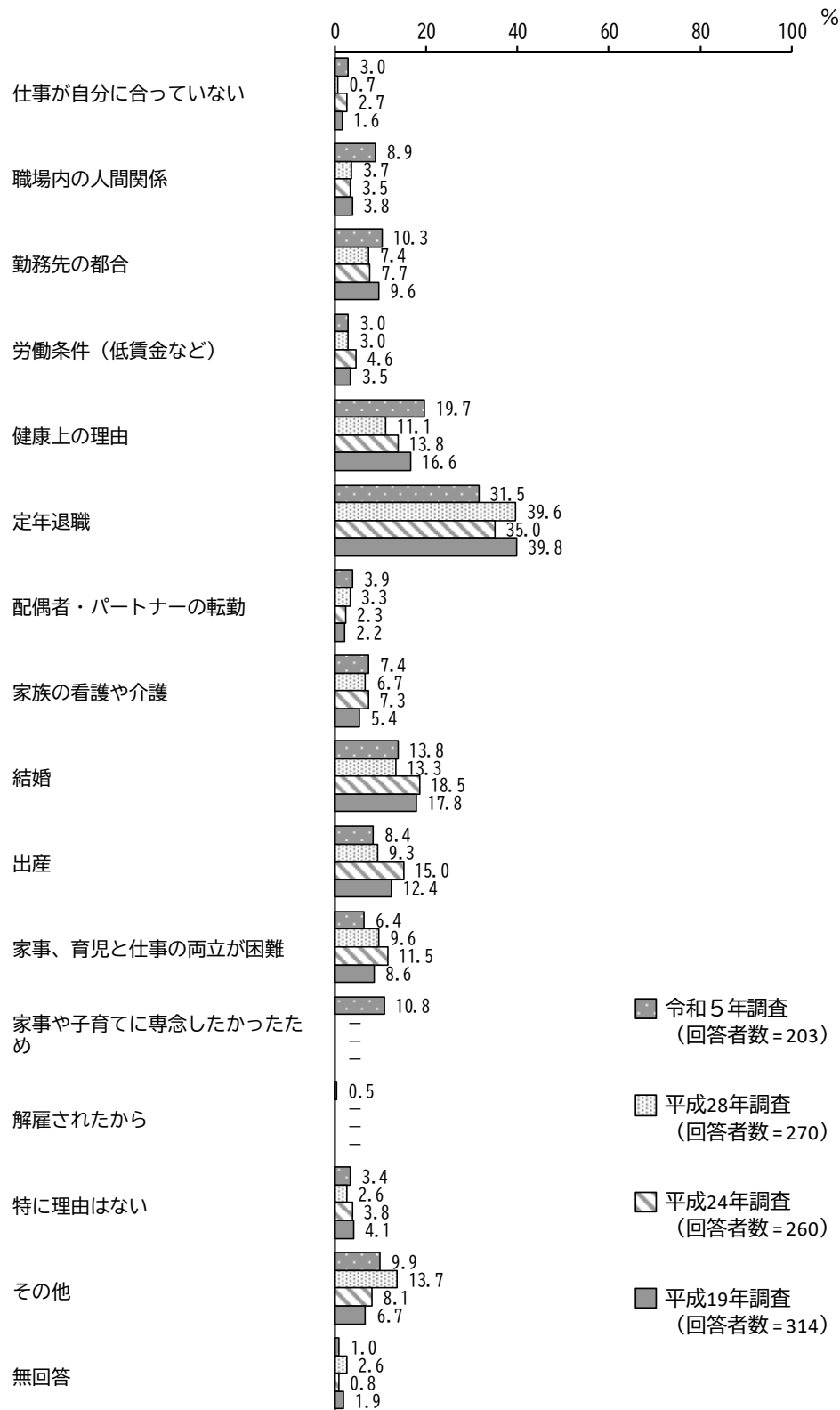


問 16 で「1. 以前は働いていたが、今は働いていない」とお答えの方のみ

問 16-1 あなたが仕事をやめた主な理由は何ですか。(3つまでに○)

「定年退職」の割合が 31.5%と最も高く、次いで「健康上の理由」の割合が 19.7%、「結婚」の割合が 13.8%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「職場内の人間関係」「健康上の理由」の割合が増加しています。一方、「定年退職」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、男性で「定年退職」の割合が高くなっています。

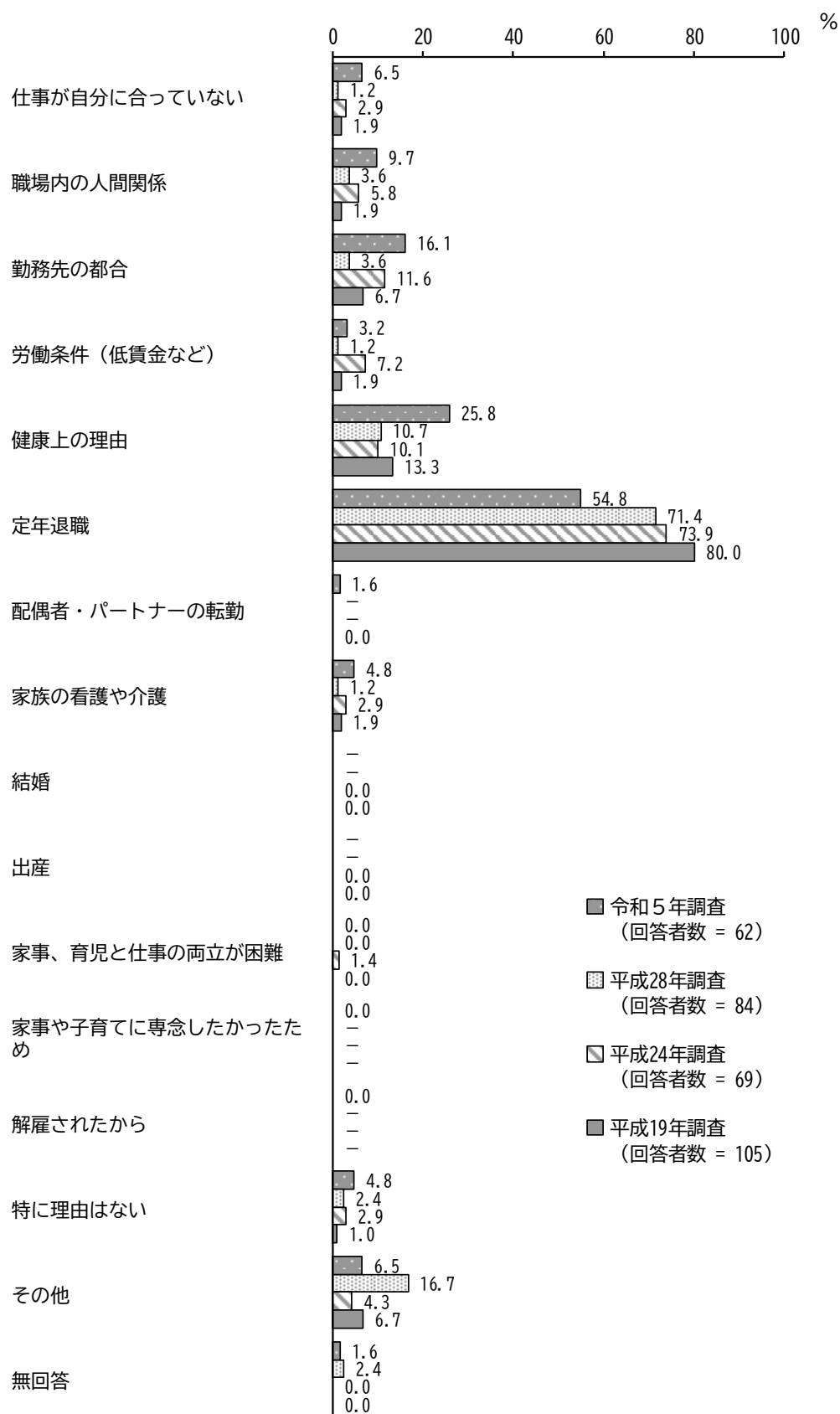
単位：％

区分	回答者数 (件)	仕事 が自分 に合っ てい ない	職 場 内 の 人 間 関 係	勤 務 先 の 都 合	労 働 条 件 (低 賃 金 な ど)	健 康 上 の 理 由	定 年 退 職	配 偶 者 ・ パ ー ト ナ ー の 転 勤	家 族 の 看 護 や 介 護
全 体	203	3.0	8.9	10.3	3.0	19.7	31.5	3.9	7.4
男性	62	6.5	9.7	16.1	3.2	25.8	54.8	1.6	4.8
女性	140	1.4	8.6	7.9	2.9	16.4	21.4	5.0	8.6

区分	結 婚	出 産	家 事 、 育 児 と 仕 事 の 両 立 が 困 難	家 事 や 子 育 て に 専 念 し た か つ た た め	解 雇 さ れ た か ら	特 に 理 由 は な い	そ の 他	無 回 答
全 体	13.8	8.4	6.4	10.8	0.5	3.4	9.9	1.0
男性	—	—	—	—	—	4.8	6.5	1.6
女性	20.0	12.1	9.3	15.7	0.7	2.9	11.4	0.7

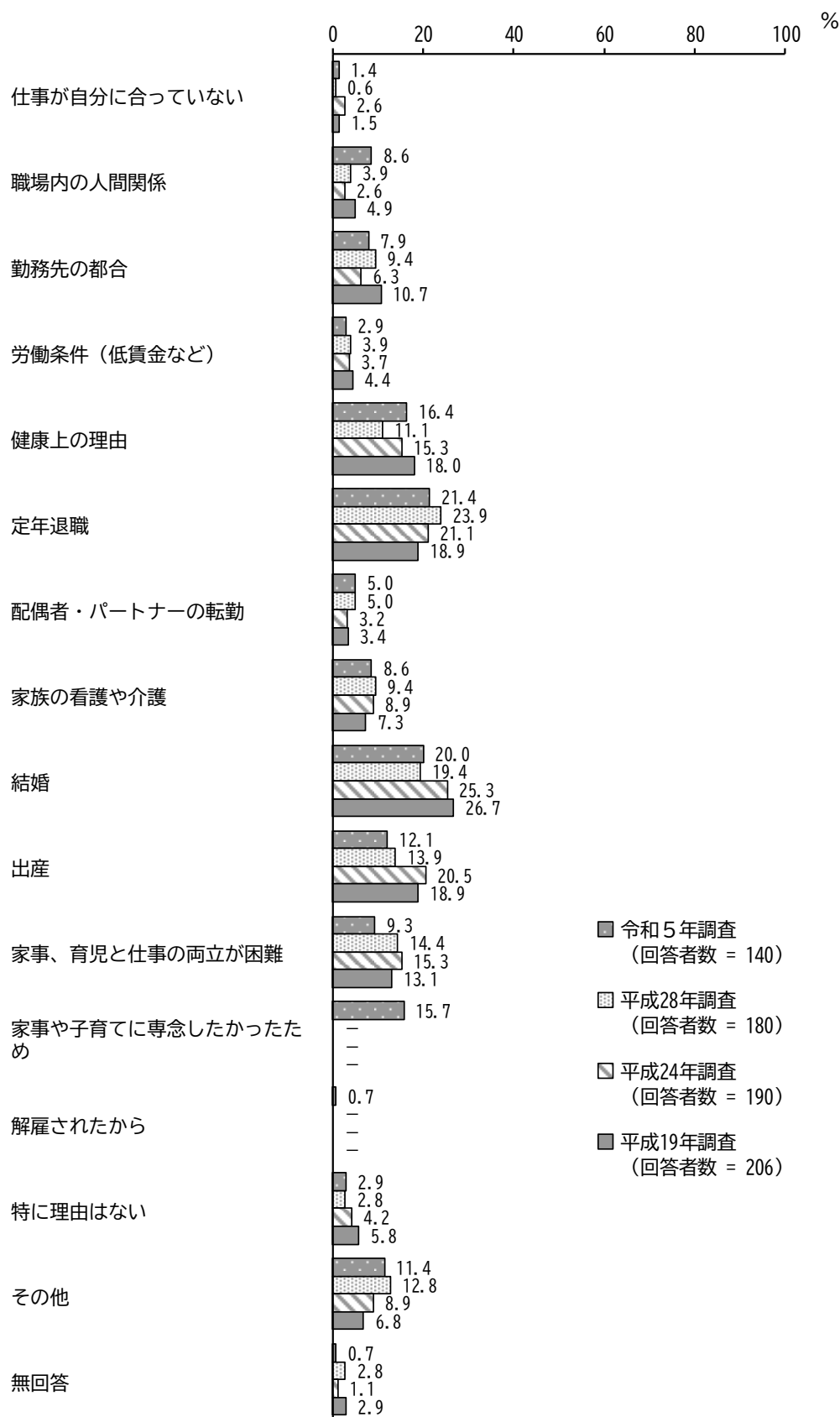
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「仕事が自分に合っていない」「職場内の人間関係」「勤務先の都合」「健康上の理由」の割合が増加しています。一方、「定年退職」の割合が減少しています。



【経年比較・女性】

平成 28 年調査と比較すると、「健康上の理由」「家事や子育てに専念したかったため」の割合が増加しています。一方、「家事、育児と仕事の両立が困難」の割合が減少しています。

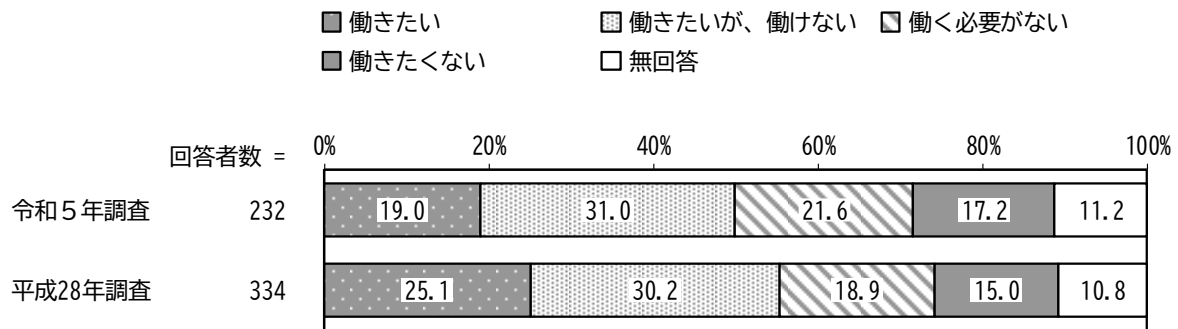


現在働いていない方のみ

問 17 現在または将来、あなたは働きたいと思いますか。ここでは雇われる働き方だけでなく、自分や仲間と新しく事業を始めることも含めてお答えください。
(1つに○)

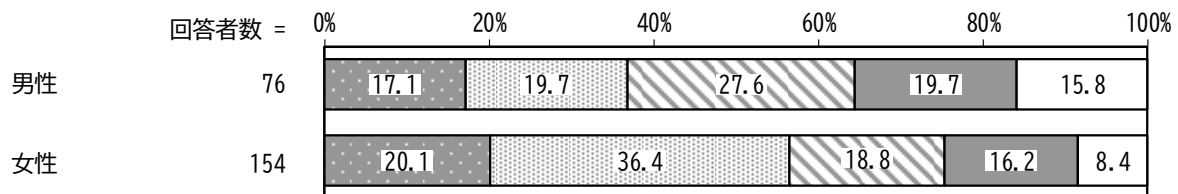
「働きたいが、働けない」の割合が 31.0%と最も高く、次いで「働く必要がない」の割合が 21.6%、「働きたい」の割合が 19.0%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別にみると、男性で「働く必要がない」の割合が高くなっています。

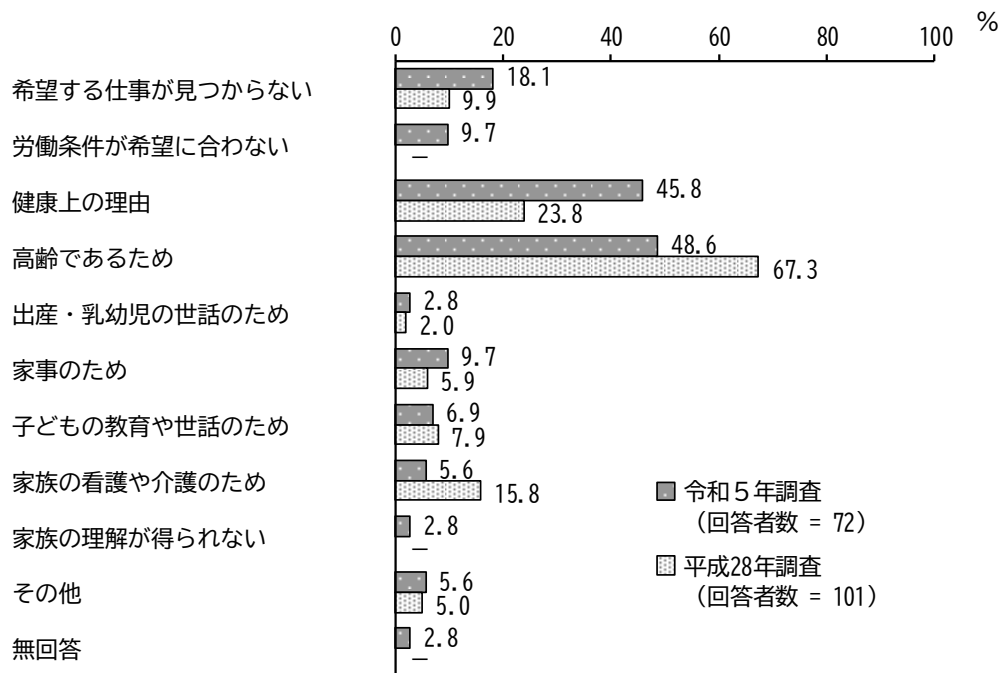


問 17 で「2. 働きたいが、働けない」とお答えの方のみ

問 17－1 その主な理由は何ですか。（3つまでに○）

「高齢であるため」の割合が 48.6%と最も高く、次いで「健康上の理由」の割合が 45.8%、「希望する仕事が見つからない」の割合が 18.1%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「希望する仕事が見つからない」「健康上の理由」の割合が増加しています。一方、「高齢であるため」「家族の看護や介護のため」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、男性で「健康上の理由」の割合が高くなっています。

単位：％

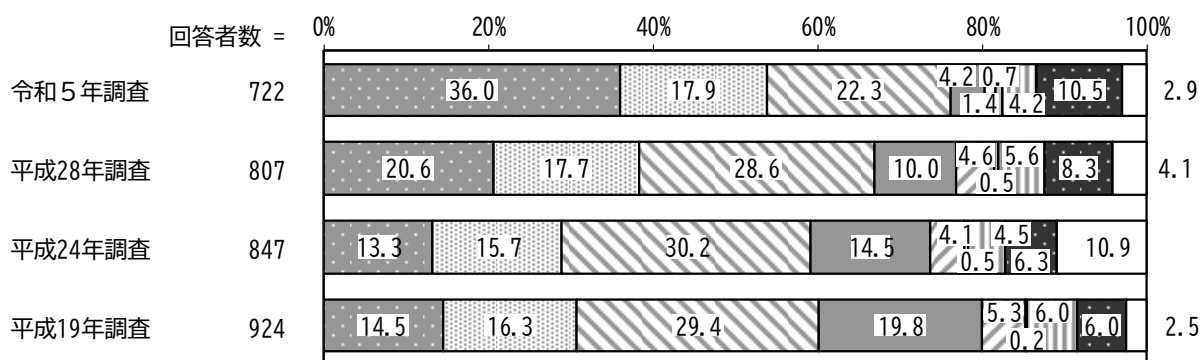
区分	回答者数 (件)	希望する仕事 が見つからない	労働条件が希望 に合わない	健康上の理由	高齢であるため	出産・乳幼児の世話 のため	家事のため	子どもの教育や世 話のため	家族の看護や介護 のため	家族の理解が得ら れない	その他	無回答
全 体	72	18.1	9.7	45.8	48.6	2.8	9.7	6.9	5.6	2.8	5.6	2.8
男性	15	13.3	—	60.0	33.3	—	6.7	—	—	—	6.7	13.3
女性	56	19.6	12.5	41.1	51.8	3.6	10.7	8.9	7.1	3.6	5.4	—

問 18 女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのは次のどれですか。
(1つに○)

「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」の割合が 36.0%と最も高く、次いで「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムなどで仕事を続ける」の割合が 22.3%、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」の割合が 17.9%となっています。

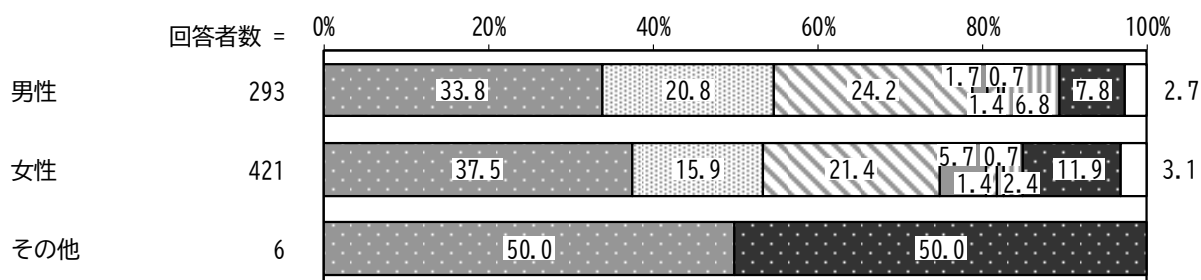
平成 28 年調査と比較すると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」の割合が増加しています。一方、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムなどで仕事を続ける」「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたらず家事や子育てに専念する」の割合が減少しています。

- 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムなどで仕事を続ける
- 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたらず家事や子育てに専念する
- 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する
- 仕事はもたない
- その他
- わからない
- 無回答



【性別】

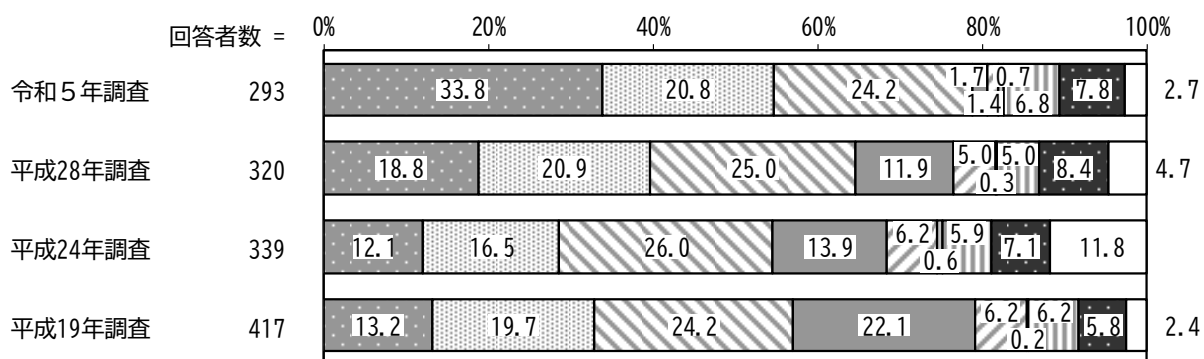
性別にみると、大きな差はみられません。



【経年比較・男性】

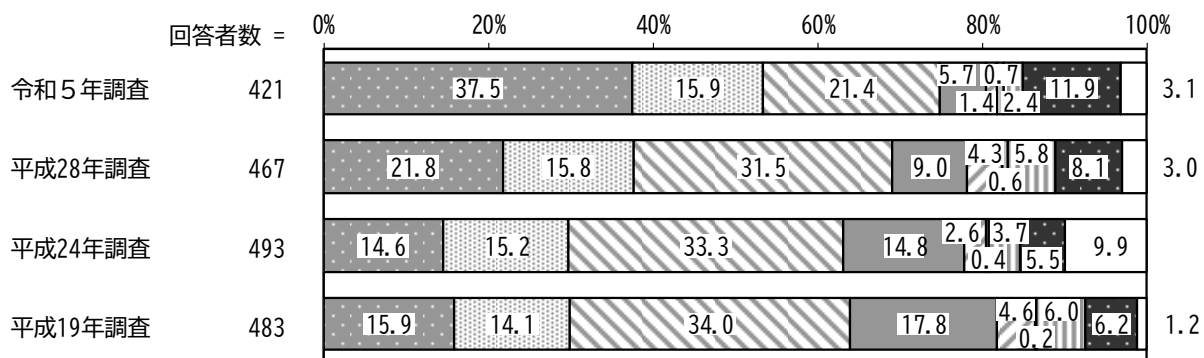
平成 28 年調査と比較すると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」の割合が増加しています。一方、「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する」の割合が減少しています。

- 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムなどで仕事を続ける
- 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する
- 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する
- 仕事はもたない
- その他
- わからない
- 無回答



【経年比較・女性】

平成 28 年調査と比較すると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」の割合が増加しています。一方、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムなどで仕事を続ける」の割合が減少しています。

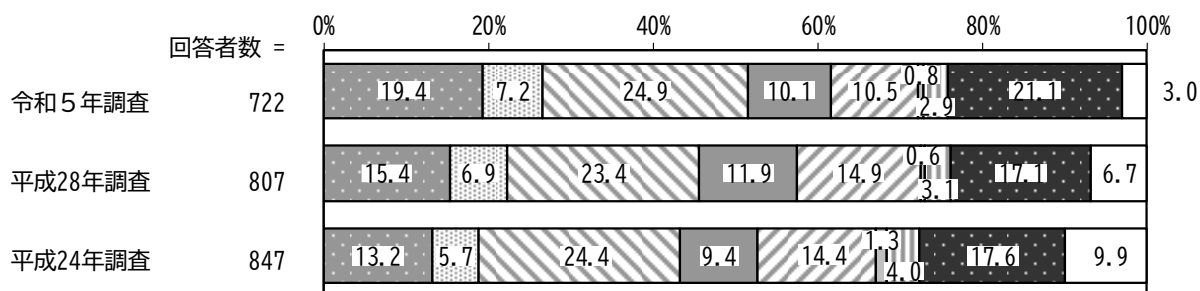


問 19 女性の働き方について、あなたのご家庭での現状は次のどれですか。
(1つに○)

「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムなどで仕事を続けている（いた）」の割合が24.9%と最も高く、次いで「該当しない」の割合が21.1%、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（いた）」の割合が19.4%となっています。

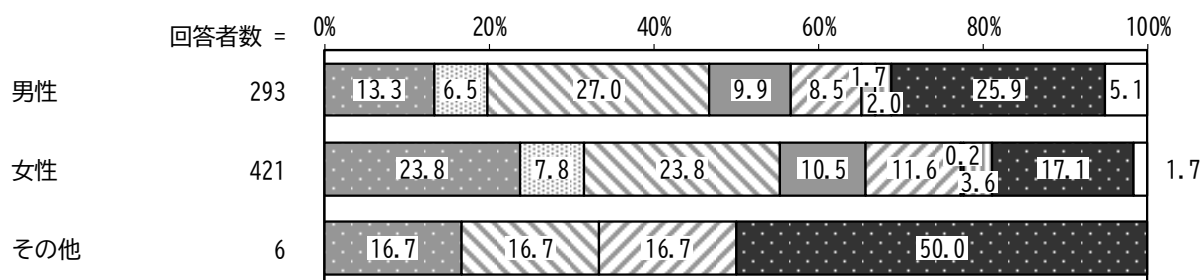
平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。

- 結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（いた）
- ▨ 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている（いた）
- ▧ 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムなどで仕事を続けている（いた）
- 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたらず家事や子育てに専念している（いた）
- ▨ 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念している（いた）
- 仕事を一度もしたことがない
- ▨ その他
- 該当しない
- 無回答



【性別】

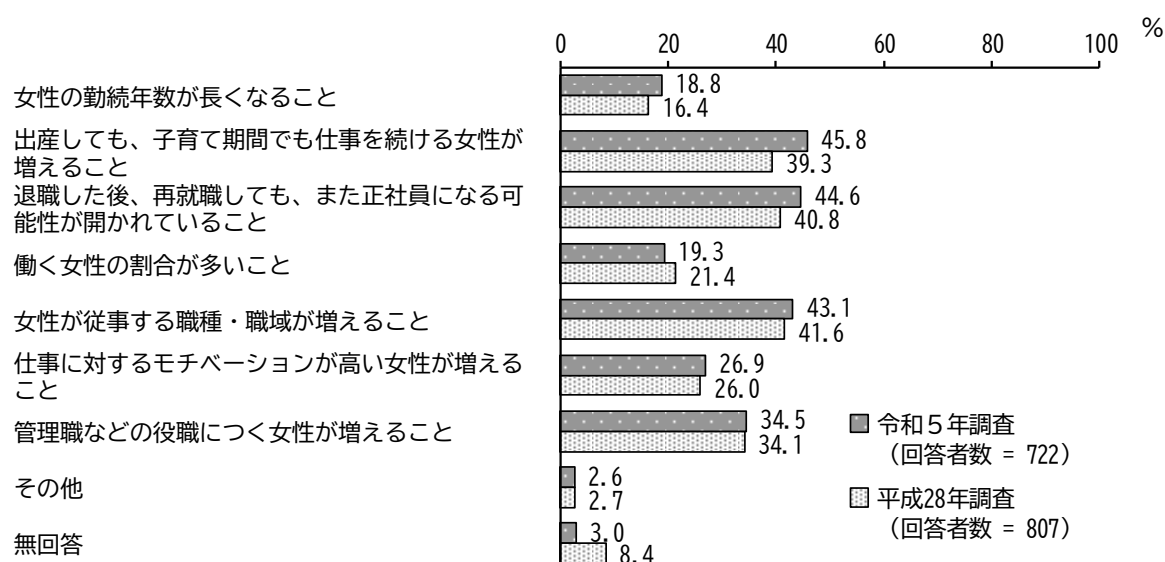
性別にみると、大きな差はみられません。



問 20 働く場で「女性の活躍が推進されている」とは主にどのような状態だと思いますか。(3つまでに○)

「出産しても、子育て期間でも仕事を続ける女性が増えること」の割合が 45.8%と最も高く、次いで「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」の割合が 44.6%、「女性が従事する職種・職域が増えること」の割合が 43.1%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「出産しても、子育て期間でも仕事を続ける女性が増えること」の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	女性の勤続年数が長くなること	出産しても、子育て期間でも仕事を続ける女性が増えること	退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること	働く女性の割合が多いこと	女性が従事する職種・職域が増えること	仕事に対するモチベーションが高い女性が増えること	管理職などの役職につく女性が増えること	その他	無回答
全 体	722	18.8	45.8	44.6	19.3	43.1	26.9	34.5	2.6	3.0
男性	293	16.4	43.7	41.0	19.8	45.4	24.2	32.4	4.1	3.4
女性	421	20.4	46.8	47.3	19.0	41.6	28.7	36.6	1.7	2.9
その他	6	33.3	66.7	33.3	—	33.3	16.7	—	—	—

【性・年代別】

性・年代別にみると、男性 20 歳代で「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」の割合が高くなっています。

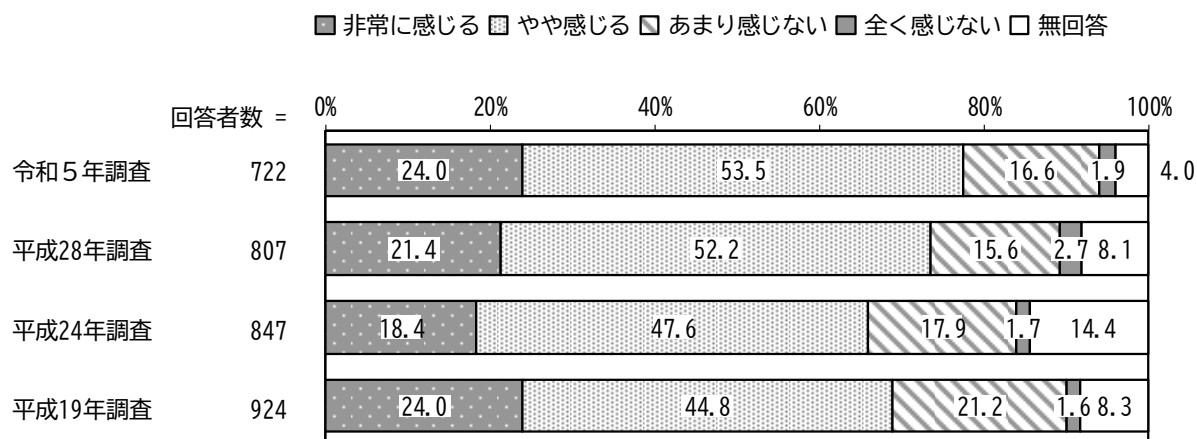
単位：％

区分	回答者数(件)	女性の勤続年数が長くなること	出産しても、子育て期間でも仕事を続ける女性が增えること	退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること	働く女性の割合が多いこと	女性が従事する職種・職域が増えること	仕事に対するモチベーションが高い女性が増えること	管理職などの役職につく女性が増えること	その他	無回答
全 体	722	18.8	45.8	44.6	19.3	43.1	26.9	34.5	2.6	3.0
男性 18・19 歳	4	25.0	25.0	25.0	—	50.0	50.0	50.0	—	25.0
20 歳代	20	10.0	40.0	75.0	30.0	60.0	20.0	30.0	—	—
30 歳代	22	13.6	50.0	36.4	22.7	22.7	18.2	36.4	18.2	—
40 歳代	51	11.8	51.0	41.2	11.8	35.3	21.6	31.4	9.8	—
50 歳代	83	16.9	45.8	42.2	21.7	42.2	30.1	26.5	3.6	2.4
60 歳代	52	15.4	44.2	32.7	25.0	51.9	19.2	44.2	—	1.9
70 歳以上	61	23.0	34.4	37.7	16.4	55.7	24.6	29.5	—	9.8
女性 18・19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20 歳代	24	25.0	41.7	50.0	25.0	45.8	16.7	41.7	8.3	—
30 歳代	60	18.3	63.3	43.3	11.7	35.0	33.3	41.7	1.7	1.7
40 歳代	67	13.4	61.2	55.2	14.9	41.8	20.9	44.8	1.5	1.5
50 歳代	93	21.5	49.5	39.8	20.4	31.2	35.5	40.9	2.2	—
60 歳代	85	22.4	41.2	47.1	24.7	48.2	32.9	35.3	1.2	2.4
70 歳以上	92	22.8	29.3	51.1	18.5	48.9	23.9	22.8	—	8.7
その他 18・19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20 歳代	1	—	100.0	100.0	—	100.0	—	—	—	—
30 歳代	3	66.7	66.7	33.3	—	—	33.3	—	—	—
40 歳代	1	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—
50 歳代	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
60 歳代	1	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—
70 歳以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

問 21 今の社会全体からみて、女性が働き続けることを困難にしたり、さまたげになっていることがあると感じますか。(1つに○)

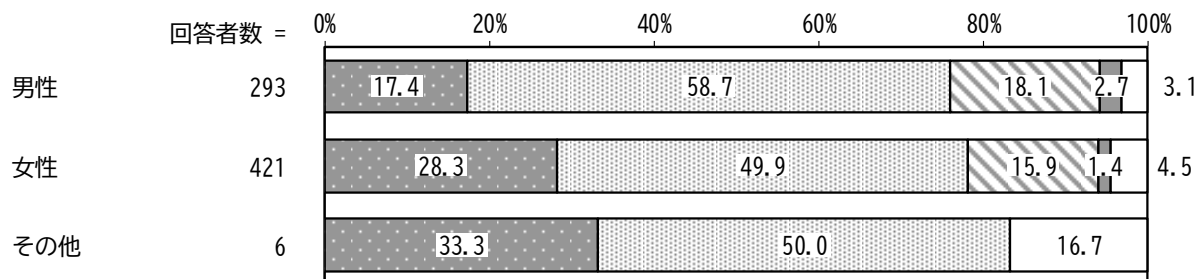
「非常に感じる」(24.0%)と「やや感じる」(53.5%)を合わせた<感じる>の割合が77.5%、「あまり感じない」(16.6%)、「全く感じない」(1.9%)を合わせた<感じない>の割合が18.5%となっています。

平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



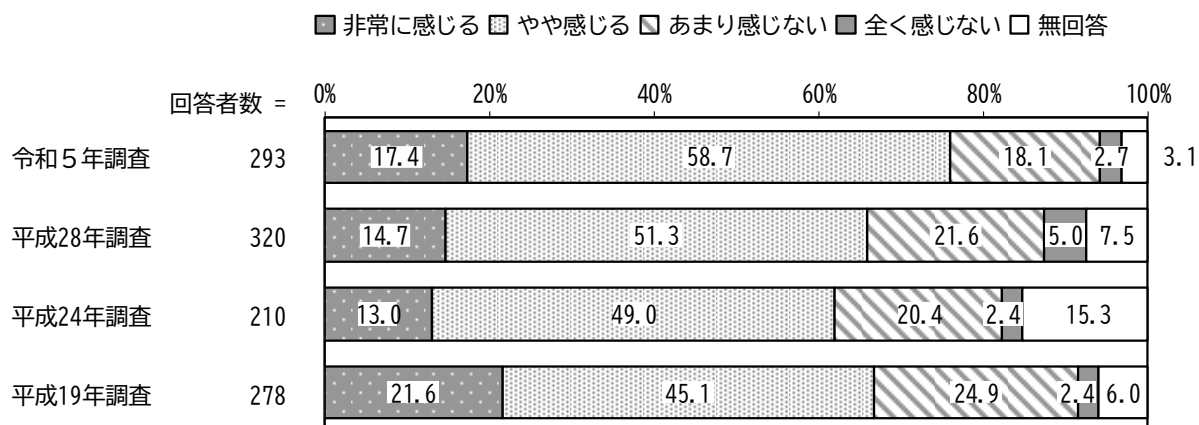
【性別】

性別にみると、男性で<感じる>の割合が高くなっています。



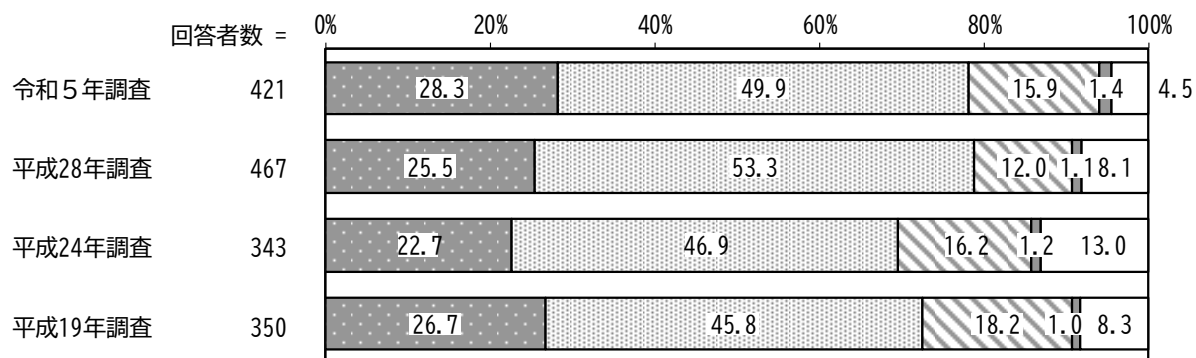
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「やや感じる」の割合が増加しています。



【経年比較・女性】

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。

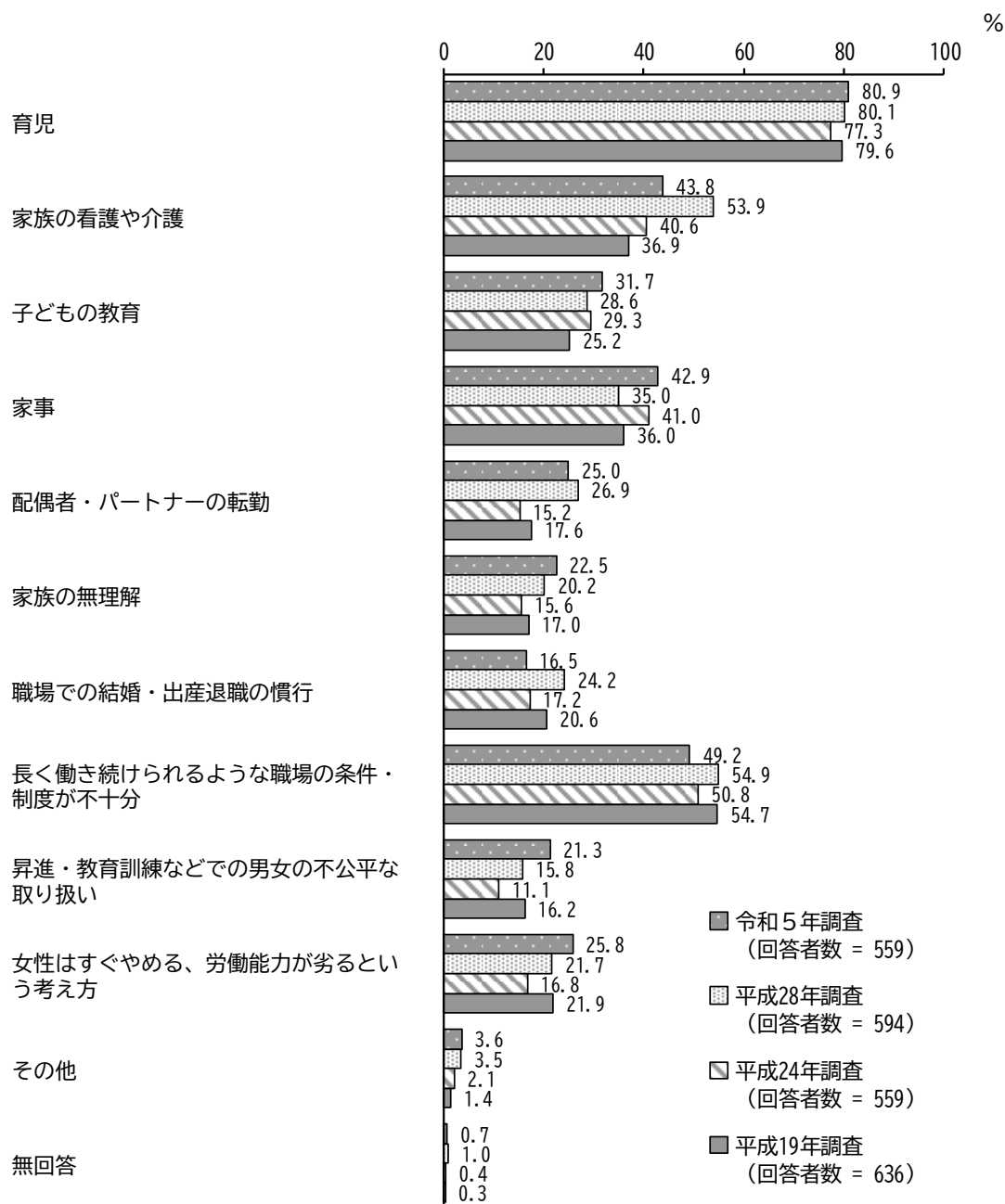


問 21 で「1. 非常に感じる」「2. やや感じる」とお答えの方のみ

問 21－1 女性が長く働き続けることを困難にしたり、さまたげになっていることは、どのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「育児」の割合が 80.9%と最も高く、次いで「長く働き続けられるような職場の条件・制度が不十分」の割合が 49.2%、「家族の看護や介護」の割合が 43.8%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「家事」「昇進・教育訓練などでの男女の不公平な取り扱い」の割合が増加しています。一方、「家族の看護や介護」「職場での結婚・出産退職の慣行」「長く働き続けられるような職場の条件・制度が不十分」の割合が減少しています。



【性別】

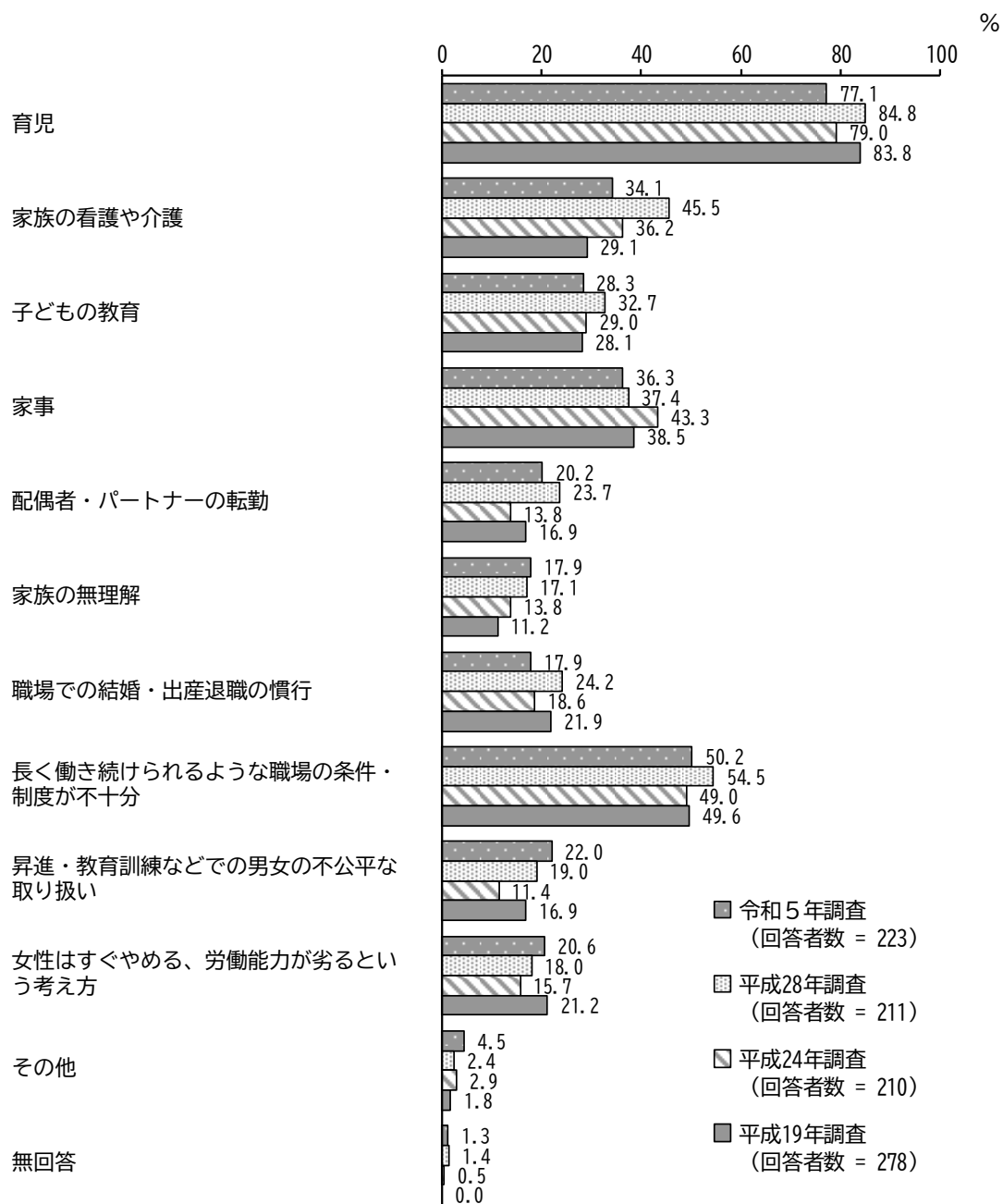
性別にみると、女性で「家族の看護や介護」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	育児	家族の看護や介護	子どもの教育	家事	配偶者・パートナーの転勤	家族の無理解	職場での結婚・出産退職の慣行	長く働き続けられるような職場の条件・制度が不十分	昇進・教育訓練などでの男女の不公平な取り扱い	女性はずぐやめる、労働能力が劣るという考え方	その他	無回答
全 体	559	80.9	43.8	31.7	42.9	25.0	22.5	16.5	49.2	21.3	25.8	3.6	0.7
男性	223	77.1	34.1	28.3	36.3	20.2	17.9	17.9	50.2	22.0	20.6	4.5	1.3
女性	329	83.3	50.5	33.7	46.8	28.3	25.5	15.2	48.3	20.7	28.6	3.0	—
その他	5	100.0	40.0	40.0	80.0	40.0	20.0	40.0	60.0	40.0	80.0	—	—

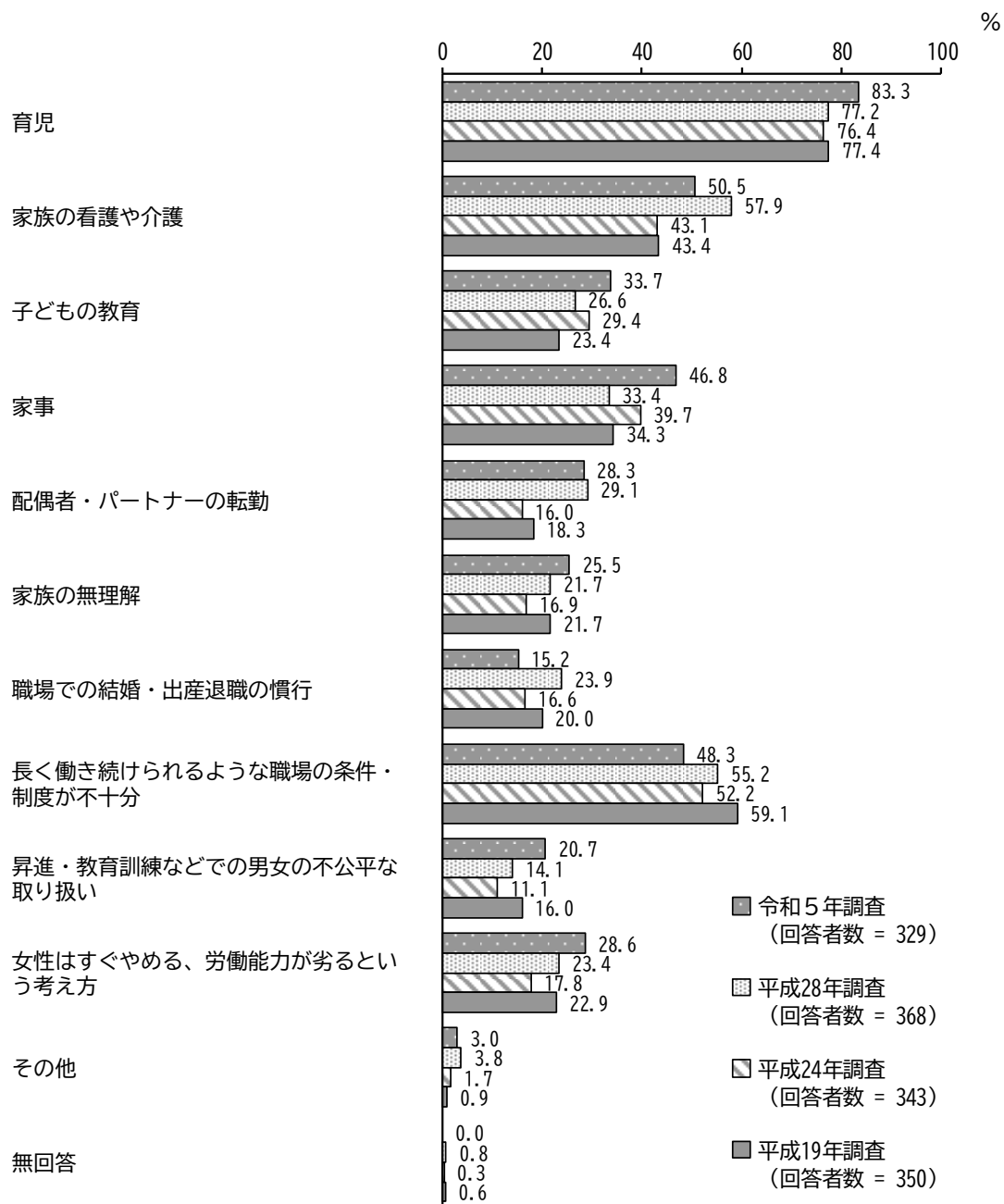
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「育児」「家族の看護や介護」「職場での結婚・出産退職の慣行」の割合が減少しています。



【経年比較・女性】

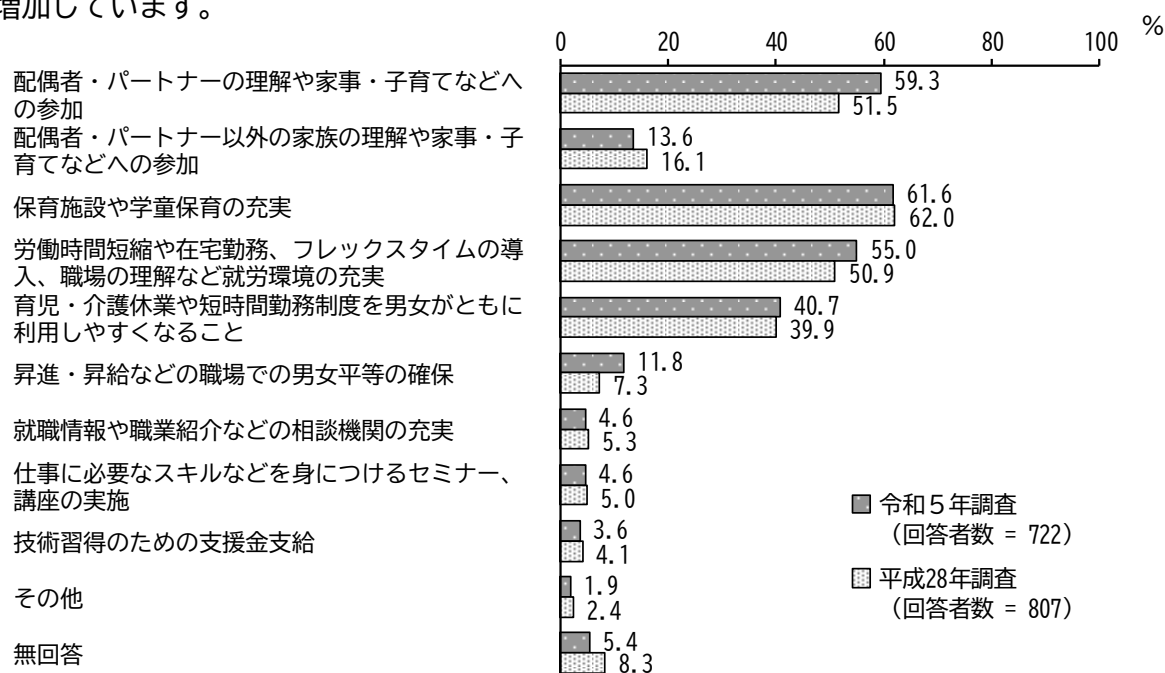
平成 28 年調査と比較すると、「育児」「子どもの教育」「家事」「昇進・教育訓練などでの男女の不公平な取り扱い」「女性はすぐやめる、労働能力が劣るという考え方」の割合が増加しています。一方、「家族の看護や介護」「職場での結婚・出産退職の慣行」「長く働き続けられるような職場の条件・制度が不十分」の割合が減少しています。



問 22 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けたり、一度離職しても再び働くことができるようにするためには、どのようなことが必要だと考えますか。
(3つまでに○)

「保育施設や学童保育の充実」の割合が 61.6%と最も高く、次いで「配偶者・パートナーの理解や家事・子育てなどへの参加」の割合が 59.3%、「労働時間短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入、職場の理解など就労環境の充実」の割合が 55.0%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「配偶者・パートナーの理解や家事・子育てなどへの参加」の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	配偶者・パートナーの理解や家事・子育てなどへの参加	配偶者・パートナー以外の家族の理解や家事・子育てなどへの参加	保育施設や学童保育の充実	労働時間短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入、職場の理解など就労環境の充実	育児・介護休業や短時間勤務制度を男女がともに利用しやすくなること	昇進・昇給などの職場での男女平等の確保	就職情報や職業紹介などの相談機関の充実	仕事に必要なスキルなどを身につけるセミナー、講座の実施	技術習得のための支援金支給	その他	無回答
全 体	722	59.3	13.6	61.6	55.0	40.7	11.8	4.6	4.6	3.6	1.9	5.4
男性	293	54.9	12.6	60.8	55.6	41.0	12.3	4.4	5.5	2.4	3.1	4.4
女性	421	62.0	14.3	62.5	54.9	40.6	11.4	4.3	3.8	4.5	1.2	5.9
その他	6	66.7	16.7	50.0	33.3	33.3	16.7	33.3	—	—	—	16.7

【男性・職業別】

男性・職業別にみると、学生で「配偶者・パートナー以外の家族の理解や家事・子育てなどへの参加」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	配偶者・パートナーの理解や家事・子育てなどへの参加	配偶者・パートナー以外の家族の理解や家事・子育てなどへの参加	保育施設や学童保育の充実	労働時間短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入、職場の理解など就労環境の充実	育児・介護休業や短時間勤務制度を男女がともに利用しやすくなること	昇進・昇給などの職場での男女平等の確保	就職情報や職業紹介などの相談機関の充実	仕事に必要なスキルなどを身につけるセミナー、講座の実施	技術習得のための支援金支給	その他	無回答
全 体	293	54.9	12.6	60.8	55.6	41.0	12.3	4.4	5.5	2.4	3.1	4.4
自営業・自由業	35	48.6	14.3	68.6	37.1	42.9	17.1	—	—	2.9	2.9	5.7
正社員・正職員	138	60.1	15.9	63.8	62.3	37.0	9.4	5.1	5.1	0.7	3.6	2.2
契約社員・派遣社員	15	53.3	6.7	66.7	53.3	46.7	13.3	—	6.7	—	6.7	6.7
アルバイト・パート	13	53.8	—	61.5	53.8	23.1	23.1	—	7.7	15.4	—	7.7
非常勤・嘱託	4	50.0	—	50.0	75.0	100.0	—	—	—	—	—	—
家事専業	1	—	—	100.0	—	100.0	100.0	—	—	—	—	—
学生	10	30.0	30.0	20.0	50.0	30.0	20.0	20.0	—	20.0	—	10.0
無職	65	55.4	7.7	52.3	49.2	47.7	12.3	4.6	10.8	1.5	3.1	7.7
その他	5	20.0	—	80.0	80.0	40.0	—	20.0	—	—	—	—

【女性・職業別】

女性・職業別にみると、非常勤・嘱託で「保育施設や学童保育の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	配偶者・パートナーの理解や家事・子育てなどへの参加	配偶者・パートナー以外の家族の理解や家事・子育てなどへの参加	保育施設や学童保育の充実	労働時間短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入、職場の理解など就労環境の充実	育児・介護休業や短時間勤務制度を男女がともに利用しやすくなること	昇進・昇給などの職場での男女平等の確保	就職情報や職業紹介などの相談機関の充実	仕事に必要なスキルなどを身につけるセミナー、講座の実施	技術習得のための支援金支給	その他	無回答
全 体	421	62.0	14.3	62.5	54.9	40.6	11.4	4.3	3.8	4.5	1.2	5.9
自営業・自由業	21	52.4	33.3	38.1	42.9	19.0	14.3	4.8	4.8	14.3	—	14.3
正社員・正職員	94	63.8	13.8	61.7	58.5	40.4	12.8	5.3	6.4	2.1	3.2	3.2
契約社員・派遣社員	21	38.1	—	71.4	66.7	47.6	14.3	4.8	4.8	—	4.8	4.8
アルバイト・パート	103	68.0	12.6	64.1	60.2	38.8	7.8	3.9	2.9	3.9	—	4.9
非常勤・嘱託	11	45.5	27.3	81.8	18.2	36.4	27.3	—	—	—	—	18.2
家事専業	84	63.1	11.9	58.3	61.9	40.5	8.3	1.2	3.6	7.1	1.2	8.3
学生	3	66.7	33.3	100.0	33.3	66.7	—	—	—	—	—	—
無職	67	65.7	14.9	64.2	44.8	50.7	11.9	7.5	1.5	4.5	—	3.0
その他	2	50.0	—	100.0	50.0	—	—	—	—	—	—	—

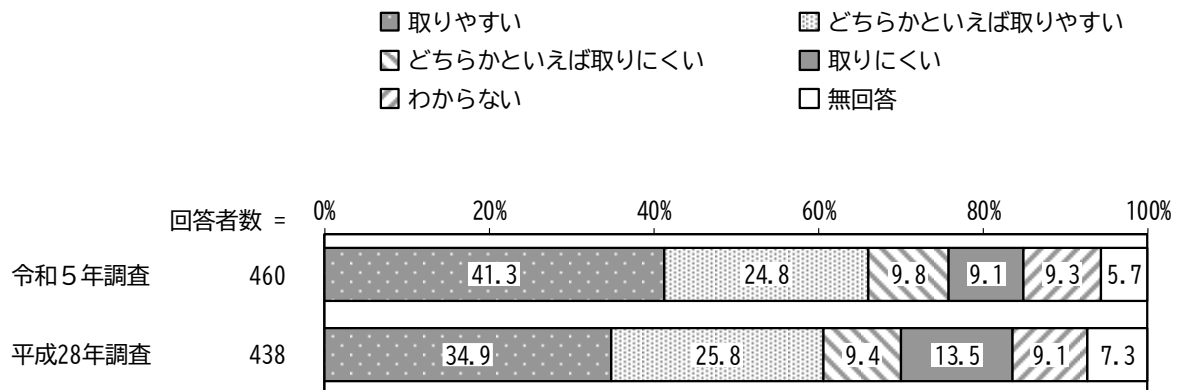
現在働いている方のみ

問 23 あなたの職場では、有給休暇や育児・介護休業を取りたい場合、取りやすい環境にありますか。（それぞれの項目について1つに○）

①有給休暇

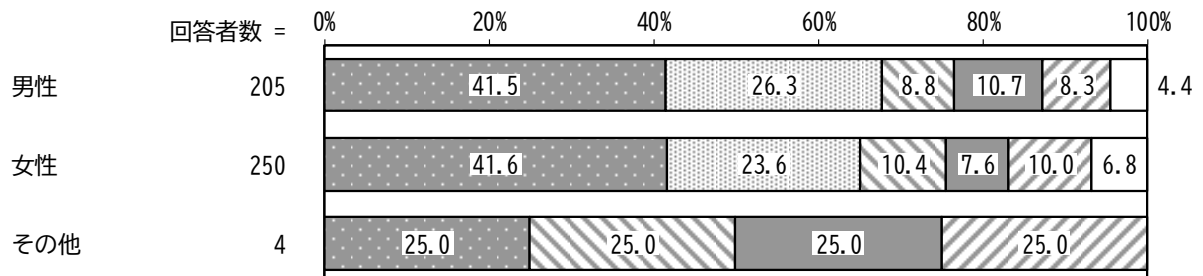
「取りやすい」と「どちらかといえば取りやすい」を合わせた＜取りやすい＞の割合が 66.1% となっています。

平成 28 年調査と比較すると、＜取りやすい＞の割合が増加しています。



【性別】

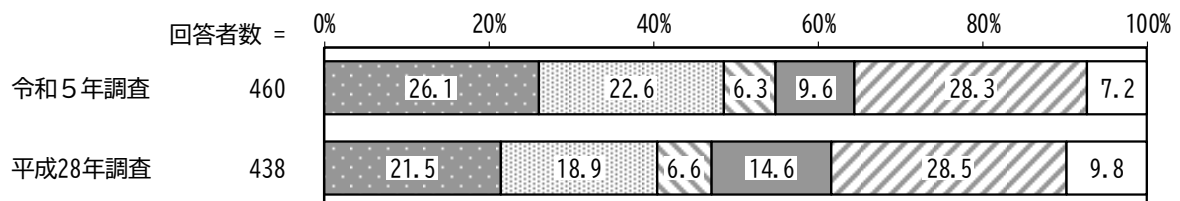
性別にみると、大きな差はみられません。



②育児休業

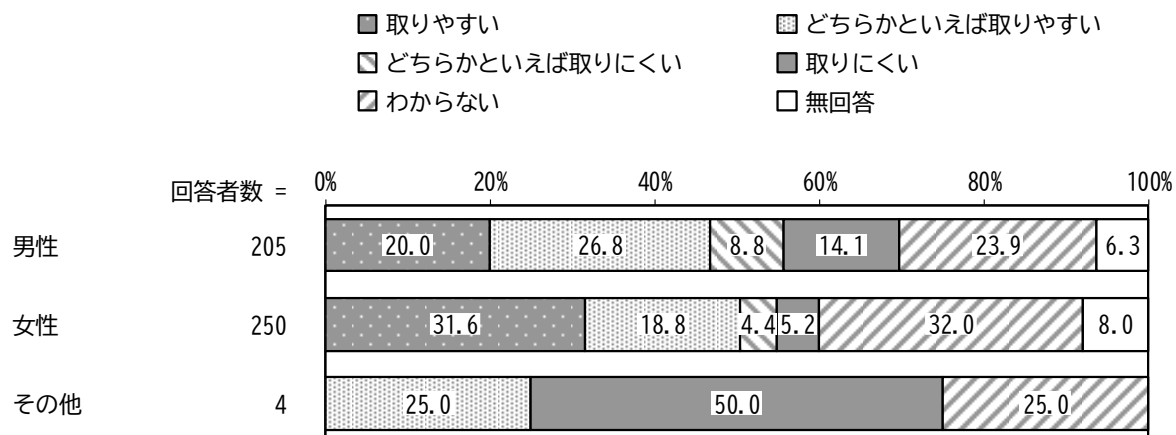
＜取りやすい＞の割合が 48.7%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、＜取りやすい＞の割合が増加しています。



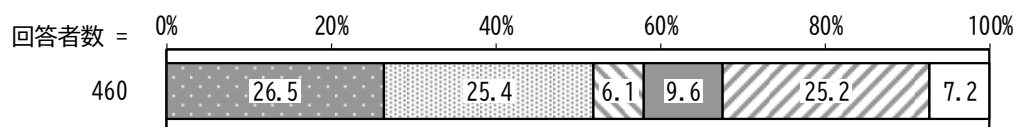
【性別】

性別にみると、女性で「取りやすい」の割合が高くなっています。



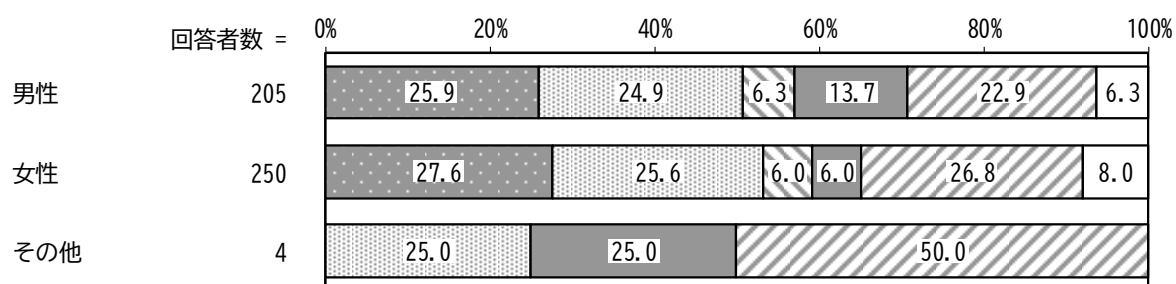
③子の看護休暇

<取りやすい>の割合が 51.9%となっています。



【性別】

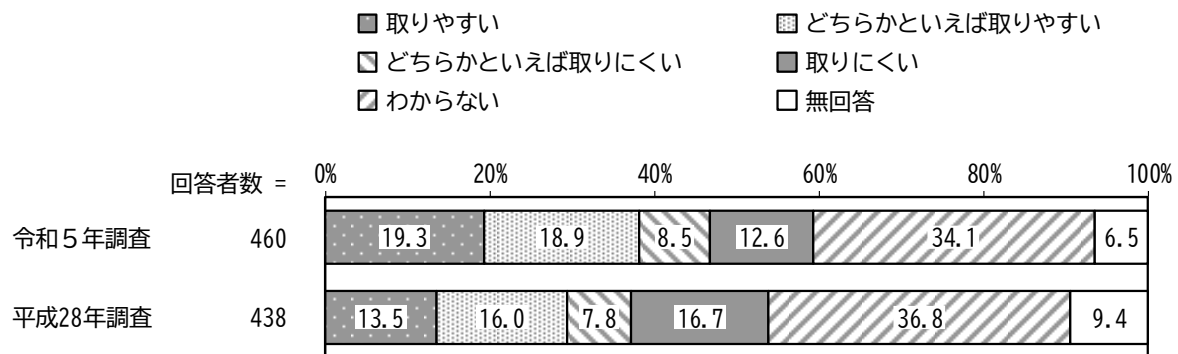
性別にみると、大きな差はみられません。



④介護休業

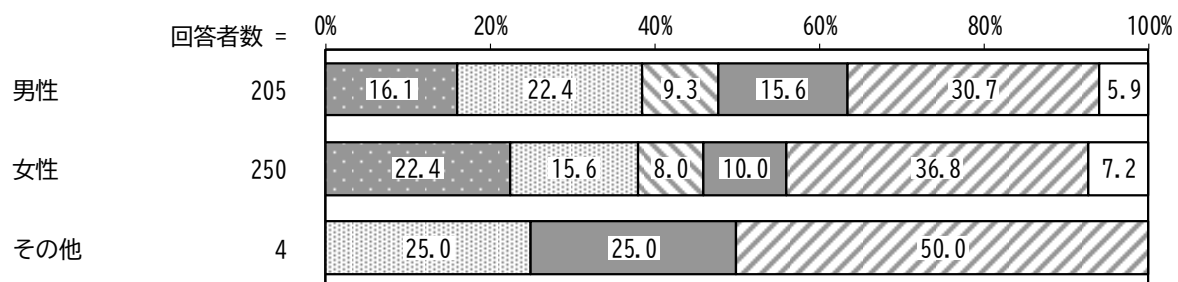
<取りやすい>の割合が 38.2%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、<取りやすい>の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

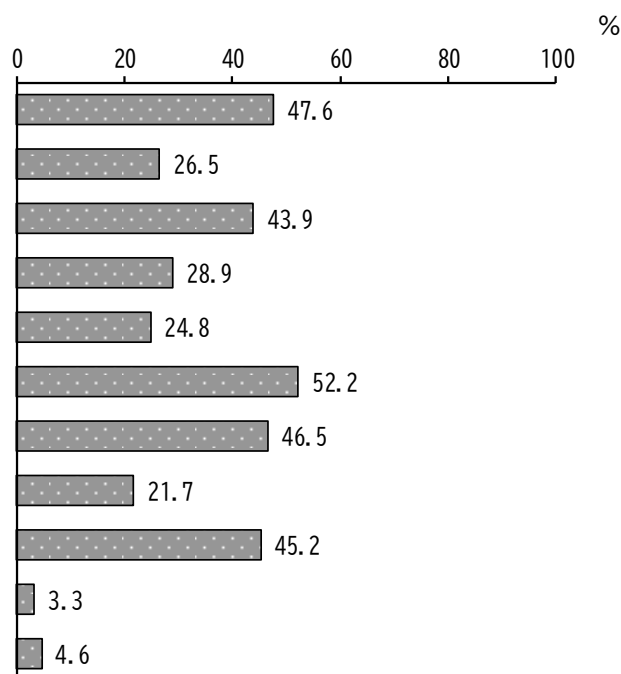


問 24 問 23 の制度は、男女とも利用できるようになっていますが、男性の利用者は少ないのが現状です。その理由は何だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「仕事が忙しく、利用する暇がないから」の割合が 52.2%と最も高く、次いで「子育てや介護・看護は女性の役割であるという意識が強いから」の割合が 47.6%、「収入減になるから」の割合が 46.5%となっています。

回答者数 = 460

子育てや介護・看護は女性の役割であるという意識が強いから
男性が子育てや介護・看護に参加することへの周囲の偏見があるから
職場での理解が得られないから
将来のキャリアアップへの影響が心配だから
制度利用後の待遇面が心配だから
仕事が忙しく、利用する暇がないから
収入減になるから
子育てや看護・介護に参加することへの男性自身の心理抵抗があるから
同僚に迷惑をかけるから
その他
無回答



【性別】

性別にみると、女性で「子育てや介護・看護は女性の役割であるという意識が強いから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	子育てや介護・看護は女性の役割であるという意識が強いから	男性が子育てや介護・看護に参加することへの周囲の偏見があるから	職場での理解が得られないから	将来のキャリアアップへの影響が心配だから	制度利用後の待遇面が心配だから	仕事が忙しく、利用する暇がないから	収入減になるから	子育てや看護・介護に参加することへの男性自身の心理抵抗があるから	同僚に迷惑をかけるから	その他	無回答
全 体	460	47.6	26.5	43.9	28.9	24.8	52.2	46.5	21.7	45.2	3.3	4.6
男性	205	30.2	21.0	38.0	20.5	20.5	55.1	43.4	11.2	44.4	3.4	4.9
女性	250	60.8	30.0	47.6	35.2	27.6	49.2	48.0	29.2	45.6	3.2	4.4
その他	4	100.0	75.0	100.0	50.0	75.0	75.0	100.0	75.0	50.0	—	—

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性 20 歳代で「将来のキャリアアップへの影響が心配だから」の割合が高くなっています。

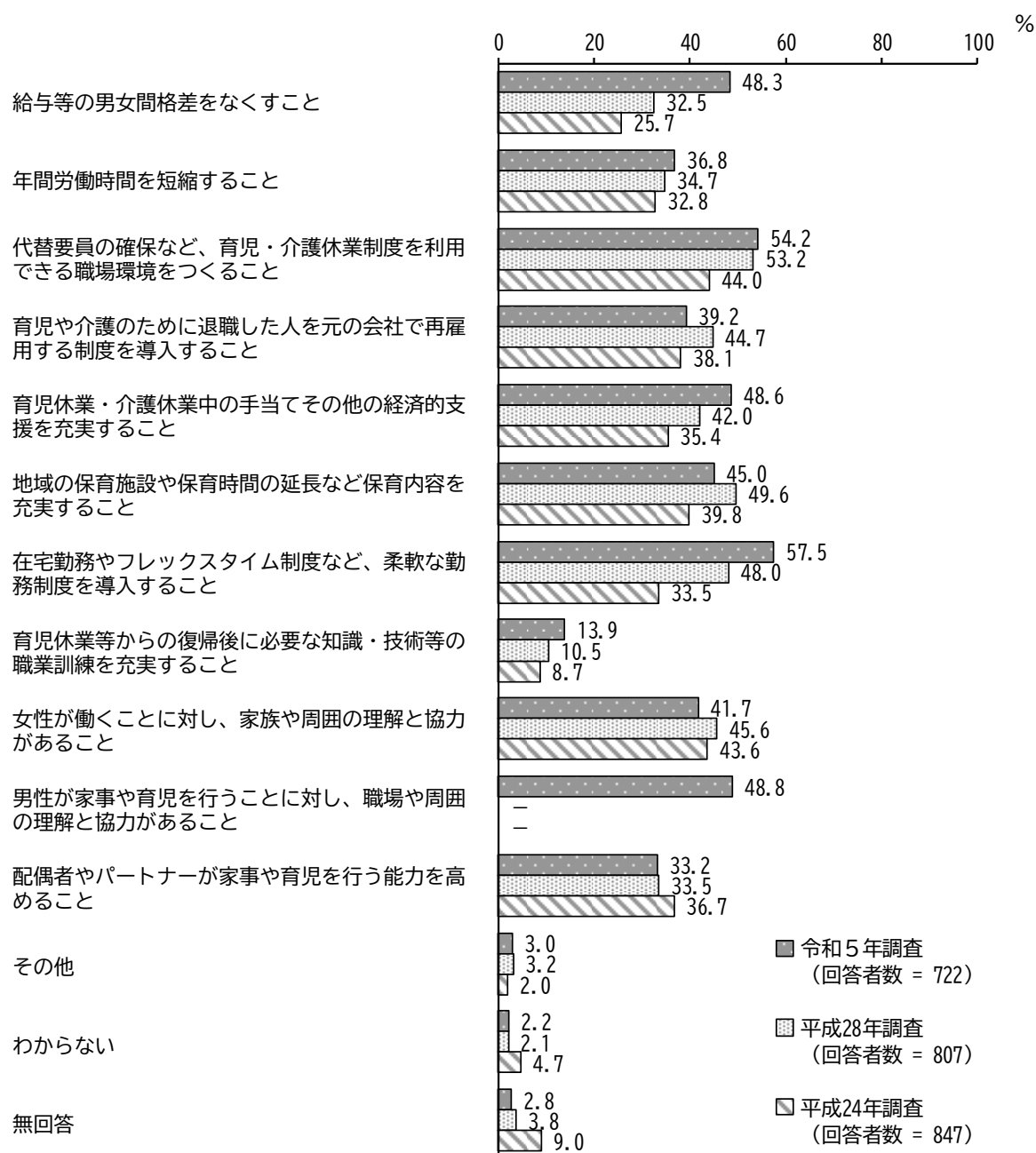
単位：％

区分	回答者数(件)	子育てや介護・看護は女性の役割であるという意識が強いから	男性が子育てや介護・看護に参加することへの周囲の偏見があるから	職場での理解が得られないから	将来のキャリアアップへの影響が心配だから	制度利用後の待遇面が心配だから	仕事が多忙で、利用する暇がないから	収入減になるから	子育てや看護・介護に参加することへの男性自身の心理抵抗があるから	同僚に迷惑をかけるから	その他	無回答
全 体	460	47.6	26.5	43.9	28.9	24.8	52.2	46.5	21.7	45.2	3.3	4.6
男性 18・19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20 歳代	12	41.7	16.7	41.7	25.0	25.0	41.7	41.7	8.3	41.7	—	—
30 歳代	19	31.6	21.1	47.4	42.1	31.6	36.8	47.4	15.8	26.3	5.3	5.3
40 歳代	50	24.0	14.0	38.0	18.0	14.0	60.0	56.0	10.0	40.0	2.0	2.0
50 歳代	75	30.7	24.0	38.7	20.0	18.7	57.3	42.7	6.7	48.0	6.7	2.7
60 歳代	30	30.0	23.3	33.3	16.7	23.3	66.7	36.7	20.0	60.0	—	3.3
70 歳以上	19	36.8	26.3	31.6	10.5	26.3	42.1	21.1	15.8	36.8	—	26.3
女性 18・19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20 歳代	19	52.6	42.1	68.4	68.4	52.6	42.1	73.7	31.6	47.4	—	—
30 歳代	48	58.3	16.7	43.8	47.9	35.4	45.8	54.2	27.1	52.1	—	2.1
40 歳代	49	71.4	40.8	57.1	32.7	26.5	55.1	38.8	32.7	55.1	4.1	2.0
50 歳代	68	63.2	26.5	47.1	23.5	19.1	54.4	41.2	29.4	41.2	2.9	5.9
60 歳代	49	51.0	36.7	34.7	34.7	20.4	49.0	49.0	32.7	38.8	6.1	6.1
70 歳以上	17	64.7	17.6	47.1	17.6	35.3	29.4	52.9	11.8	35.3	5.9	11.8

問 25 男女が共に仕事と家庭の両立をしていくためには、どのような条件が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」の割合が 57.5%と最も高く、次いで「代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」の割合が 54.2%、「男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること」の割合が 48.8%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「給与等の男女間格差をなくすこと」「育児休業・介護休業中の手当てその他の経済的支援を充実すること」「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」の割合が増加しています。一方、「育児や介護のために退職した人を元の会社で再雇用する制度を導入すること」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、女性で「配偶者やパートナーが家事や育児を行う能力を高めること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	給与等の男女間格差をなくすこと	年間労働時間を短縮すること	代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	育児や介護のために退職した人を元の会社で再雇用する制度を導入すること	育児休業・介護休業中の手当てその他の経済的支援を充実すること	地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること
全 体	722	48.3	36.8	54.2	39.2	48.6	45.0	57.5
男性	293	49.1	38.6	53.6	37.9	49.1	45.1	55.3
女性	421	47.5	35.4	54.4	40.1	48.0	44.4	58.4
その他	6	66.7	66.7	50.0	33.3	66.7	66.7	83.3

区分	育児休業等からの復帰後に必要な知識・技術等の職業訓練を充実すること	女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること	男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること	配偶者やパートナーが家事や育児を行う能力を高めること	その他	わからない	無回答
全 体	13.9	41.7	48.8	33.2	3.0	2.2	2.8
男性	13.0	36.9	45.7	21.8	4.4	2.0	3.4
女性	13.8	45.4	51.3	40.9	2.1	2.1	2.4
その他	66.7	16.7	16.7	33.3	—	16.7	—

【性・年代別】

性・年代別にみると、男性 20 歳代で「年間労働時間を短縮すること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	給与等の男女間格差をなくすること	年間労働時間を短縮すること	代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	育児や介護のために退職した人を元の会社で再雇用する制度を導入すること	育児休業・介護休業中の手当でその他の経済的支援を充実すること	地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること
全 体	722	48.3	36.8	54.2	39.2	48.6	45.0	57.5
男性 18・19 歳	4	75.0	25.0	25.0	25.0	50.0	50.0	50.0
20 歳代	20	30.0	60.0	60.0	30.0	65.0	30.0	65.0
30 歳代	22	45.5	50.0	40.9	40.9	59.1	63.6	63.6
40 歳代	51	45.1	47.1	56.9	27.5	47.1	31.4	54.9
50 歳代	83	48.2	39.8	59.0	37.3	50.6	45.8	50.6
60 歳代	52	50.0	30.8	51.9	34.6	48.1	51.9	57.7
70 歳以上	61	59.0	26.2	49.2	52.5	41.0	47.5	54.1
女性 18・19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—
20 歳代	24	45.8	45.8	54.2	37.5	70.8	50.0	75.0
30 歳代	60	38.3	46.7	50.0	35.0	53.3	46.7	66.7
40 歳代	67	50.7	31.3	56.7	38.8	50.7	41.8	65.7
50 歳代	93	55.9	31.2	51.6	38.7	47.3	36.6	60.2
60 歳代	85	49.4	35.3	51.8	48.2	50.6	48.2	51.8
70 歳以上	92	41.3	32.6	60.9	39.1	34.8	47.8	47.8
その他 18・19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—
20 歳代	1	100.0	100.0	—	—	—	—	100.0
30 歳代	3	66.7	66.7	100.0	66.7	100.0	100.0	100.0
40 歳代	1	100.0	100.0	—	—	100.0	100.0	100.0
50 歳代	—	—	—	—	—	—	—	—
60 歳代	1	—	—	—	—	—	—	—
70 歳以上	—	—	—	—	—	—	—	—

区分	育児休業等からの復帰後に必要な知識・技術等の職業訓練を充実すること	女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があ ること	男性が家事や育児を行うこ とに対し、職場や周囲の理 解と協力があること	配偶者やパートナーが家事 や育児を行う能力を高める こと	その他	わからない	無回答
全 体	13.9	41.7	48.8	33.2	3.0	2.2	2.8
男性 18・19 歳	25.0	25.0	75.0	50.0	—	—	25.0
20 歳代	5.0	25.0	45.0	10.0	—	—	—
30 歳代	18.2	27.3	50.0	36.4	13.6	—	4.5
40 歳代	11.8	23.5	41.2	17.6	9.8	3.9	3.9
50 歳代	15.7	45.8	49.4	20.5	3.6	3.6	1.2
60 歳代	13.5	38.5	38.5	23.1	1.9	1.9	1.9
70 歳以上	9.8	42.6	47.5	23.0	1.6	—	6.6
女性 18・19 歳	—	—	—	—	—	—	—
20 歳代	25.0	33.3	66.7	41.7	4.2	4.2	—
30 歳代	5.0	36.7	43.3	41.7	3.3	—	—
40 歳代	14.9	43.3	62.7	46.3	1.5	3.0	1.5
50 歳代	9.7	51.6	53.8	31.2	1.1	2.2	—
60 歳代	17.6	43.5	48.2	41.2	3.5	1.2	4.7
70 歳以上	16.3	51.1	44.6	45.7	1.1	3.3	5.4
その他 18・19 歳	—	—	—	—	—	—	—
20 歳代	—	—	—	—	—	—	—
30 歳代	100.0	33.3	33.3	66.7	—	—	—
40 歳代	100.0	—	—	—	—	—	—
50 歳代	—	—	—	—	—	—	—
60 歳代	—	—	—	—	—	100.0	—
70 歳以上	—	—	—	—	—	—	—

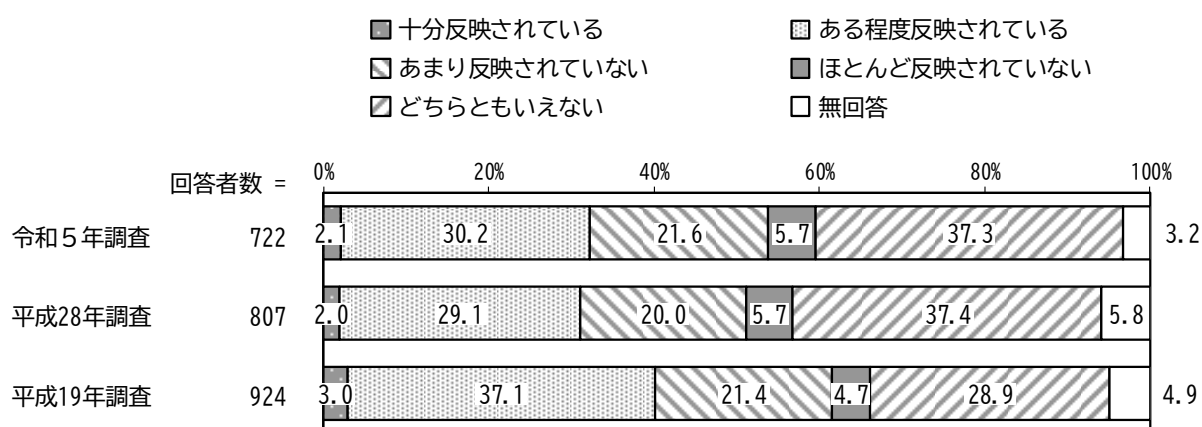
(前ページの表 続き)

(5) 社会参加について

問 26 あなたは、地方自治体（県や市町村）などの施策について、女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか。（1つに○）

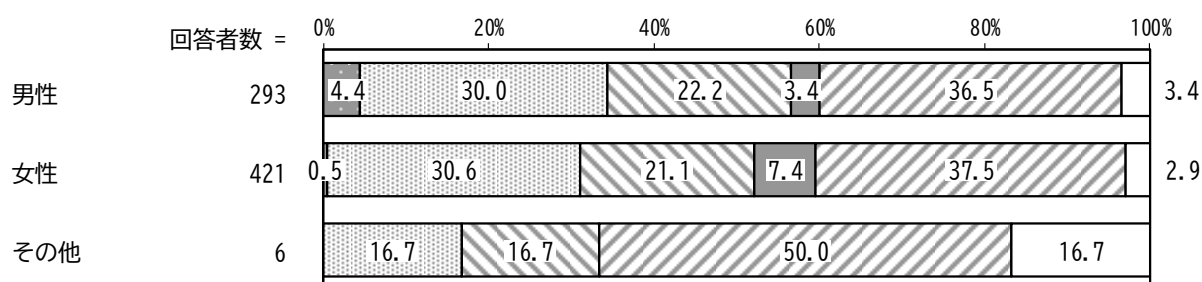
地方自治体の施策への女性の意見や考えの反映度については、「十分反映されている」と「ある程度反映されている」を合わせた＜反映されている＞の割合が 32.3%、「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」を合わせた＜反映されていない＞の割合が 27.3%となっている。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



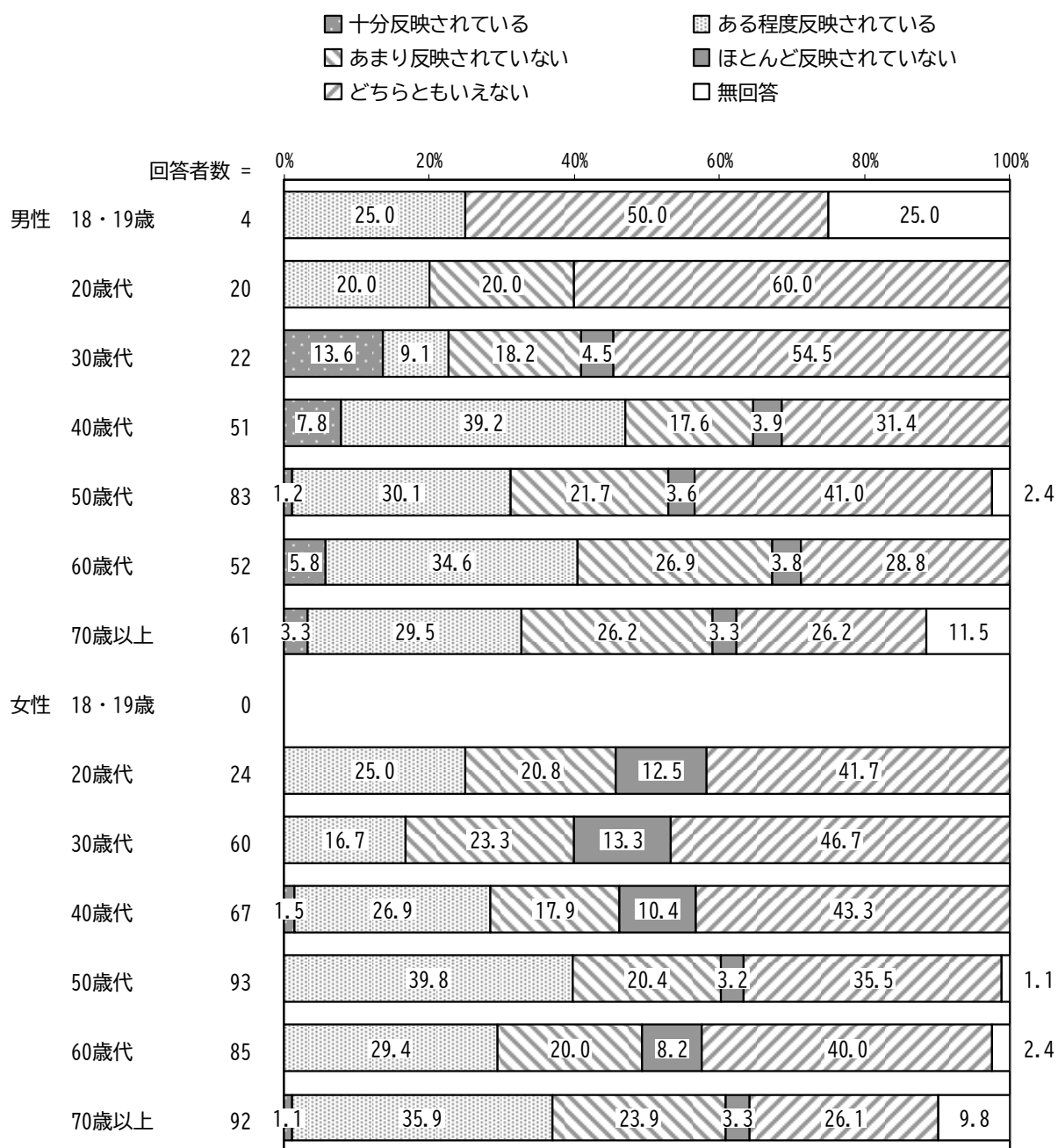
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【性・年代別】

性・年代別にみると、男性 40 歳代で＜反映されている＞の割合が高くなっています。

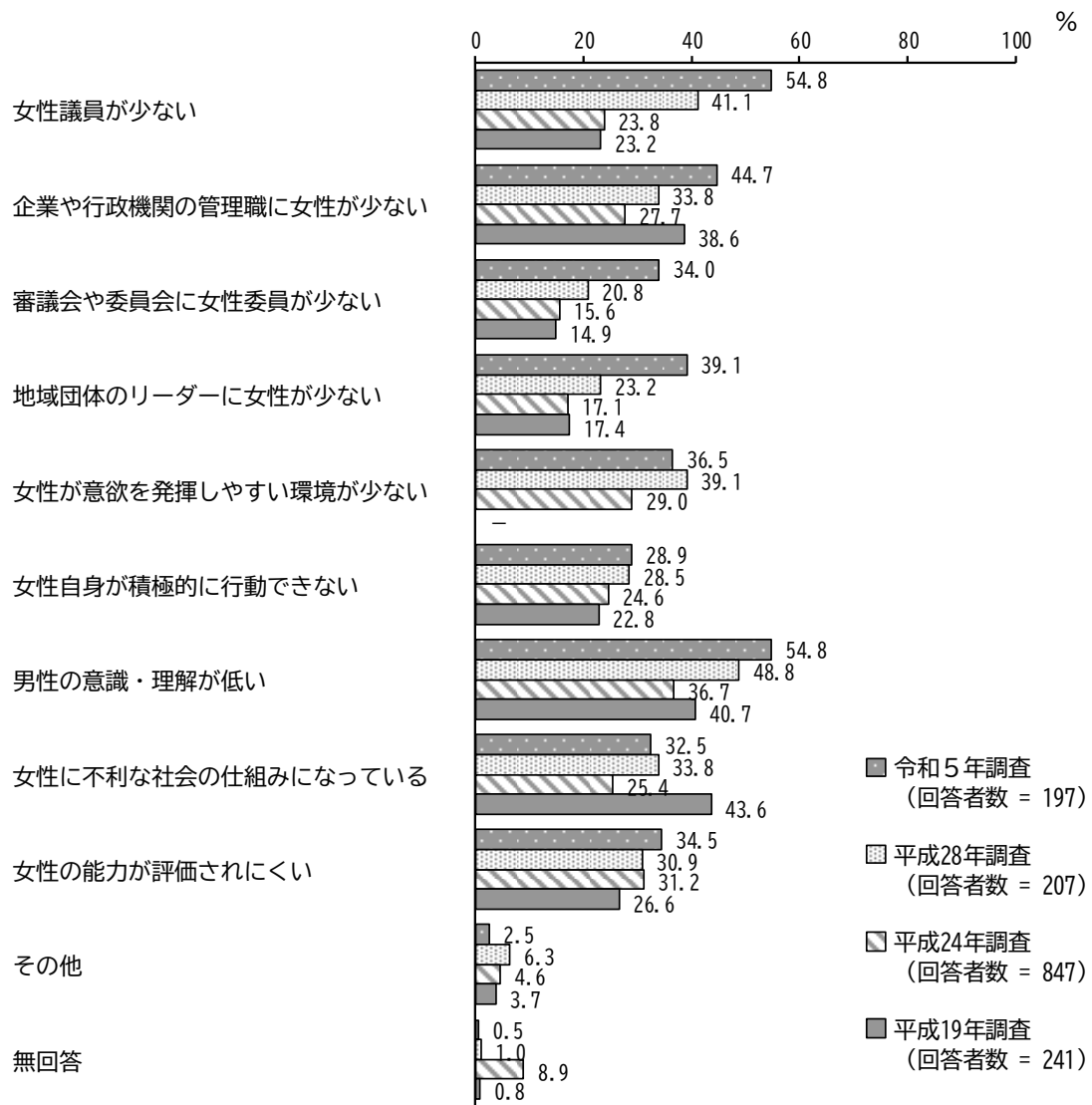


問 26 で「3. あまり反映されていない」「4. ほとんど反映されていない」とお答えの方のみ

問 26－1 女性の意見や考え方が社会に反映されにくい理由は何だと思いませんか。
(あてはまるものすべてに○)

「女性議員が少ない」、「男性の意識・理解が低い」の割合が 54.8%と最も高く、次いで「企業や行政機関の管理職に女性が少ない」の割合が 44.7%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「女性議員が少ない」「企業や行政機関の管理職に女性が少ない」「審議会や委員会に女性委員が少ない」「地域団体のリーダーに女性が少ない」「男性の意識・理解が低い」の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、男性で「女性の能力が評価されにくい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	女性議員が少ない	企業や行政機関の管理職に女性が少ない	審議会や委員会に女性委員が少ない	地域団体のリーダーに女性が少ない	女性が意欲を発揮しやすい環境が少ない	女性が自身が積極的に行動できない	男性の意識・理解が低い	女性に不利な社会の仕組みになっている	女性の能力が評価されにくい	その他	無回答
全 体	197	54.8	44.7	34.0	39.1	36.5	28.9	54.8	32.5	34.5	2.5	0.5
男性	75	53.3	46.7	28.0	36.0	36.0	29.3	46.7	28.0	41.3	2.7	—
女性	120	55.0	42.5	36.7	40.8	35.8	27.5	59.2	35.0	30.0	2.5	0.8
その他	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—	—

【性・年代別】

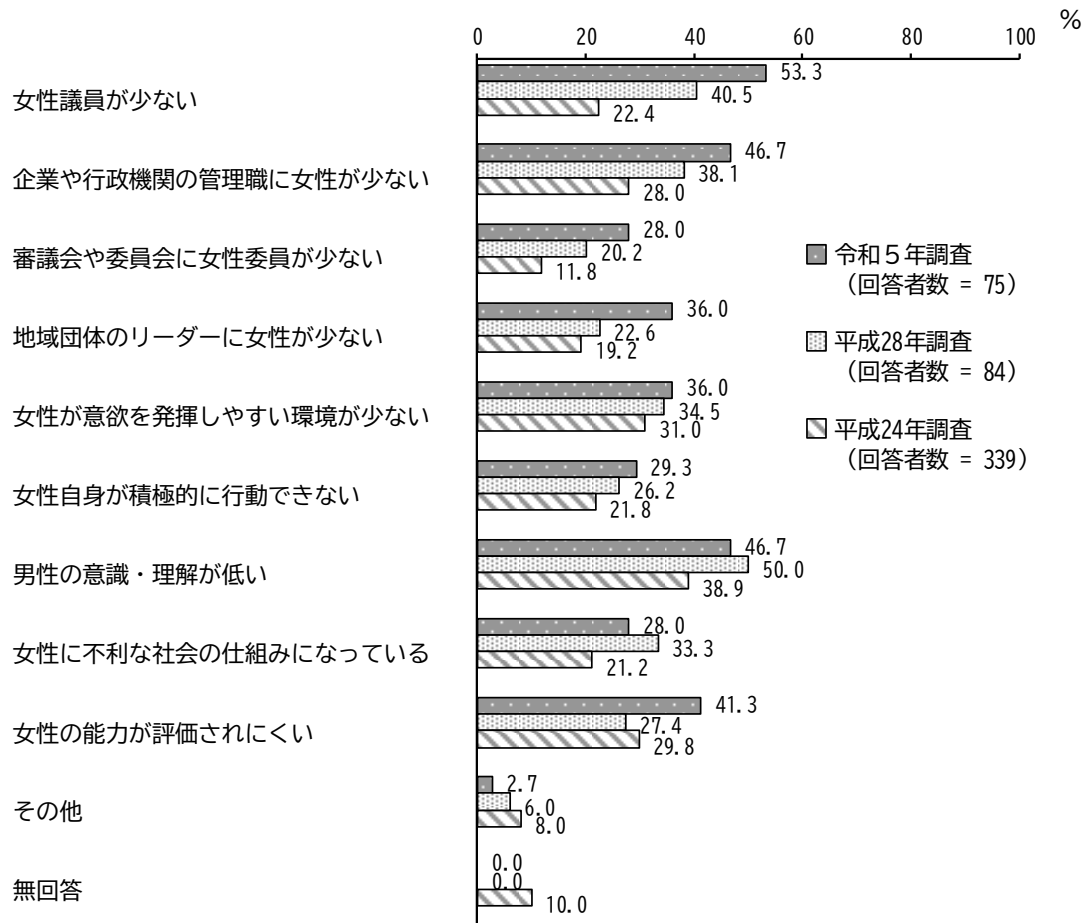
性・年代別にみると、女性 50 歳代で「男性の意識・理解が低い」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	女性議員が少ない	企業や行政機関の管理職に女性が少ない	審議会や委員会に女性委員が少ない	地域団体のリーダーに女性が少ない	女性が意欲を発揮しやすい環境が少ない	女性が自身が積極的に行動できない	男性の意識・理解が低い	女性に不利な社会の仕組みになっている	女性の能力が評価されにくい	その他	無回答
全 体	197	54.8	44.7	34.0	39.1	36.5	28.9	54.8	32.5	34.5	2.5	0.5
男性 18・19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20 歳代	4	50.0	25.0	25.0	25.0	—	25.0	50.0	—	50.0	—	—
30 歳代	5	80.0	100.0	40.0	60.0	40.0	40.0	100.0	60.0	60.0	—	—
40 歳代	11	36.4	54.5	—	27.3	45.5	18.2	18.2	—	27.3	9.1	—
50 歳代	21	52.4	38.1	23.8	38.1	38.1	42.9	47.6	28.6	33.3	—	—
60 歳代	16	37.5	37.5	43.8	43.8	31.3	31.3	43.8	31.3	50.0	6.3	—
70 歳以上	18	72.2	50.0	33.3	27.8	38.9	16.7	50.0	38.9	44.4	—	—
女性 18・19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20 歳代	8	62.5	50.0	37.5	62.5	37.5	37.5	75.0	50.0	50.0	—	—
30 歳代	22	50.0	45.5	27.3	27.3	45.5	31.8	54.5	40.9	36.4	—	—
40 歳代	19	52.6	36.8	42.1	36.8	26.3	26.3	57.9	36.8	42.1	5.3	—
50 歳代	22	54.5	50.0	36.4	45.5	31.8	18.2	77.3	22.7	18.2	4.5	—
60 歳代	24	66.7	41.7	37.5	45.8	41.7	20.8	50.0	37.5	25.0	4.2	—
70 歳以上	25	48.0	36.0	40.0	40.0	32.0	36.0	52.0	32.0	24.0	—	4.0

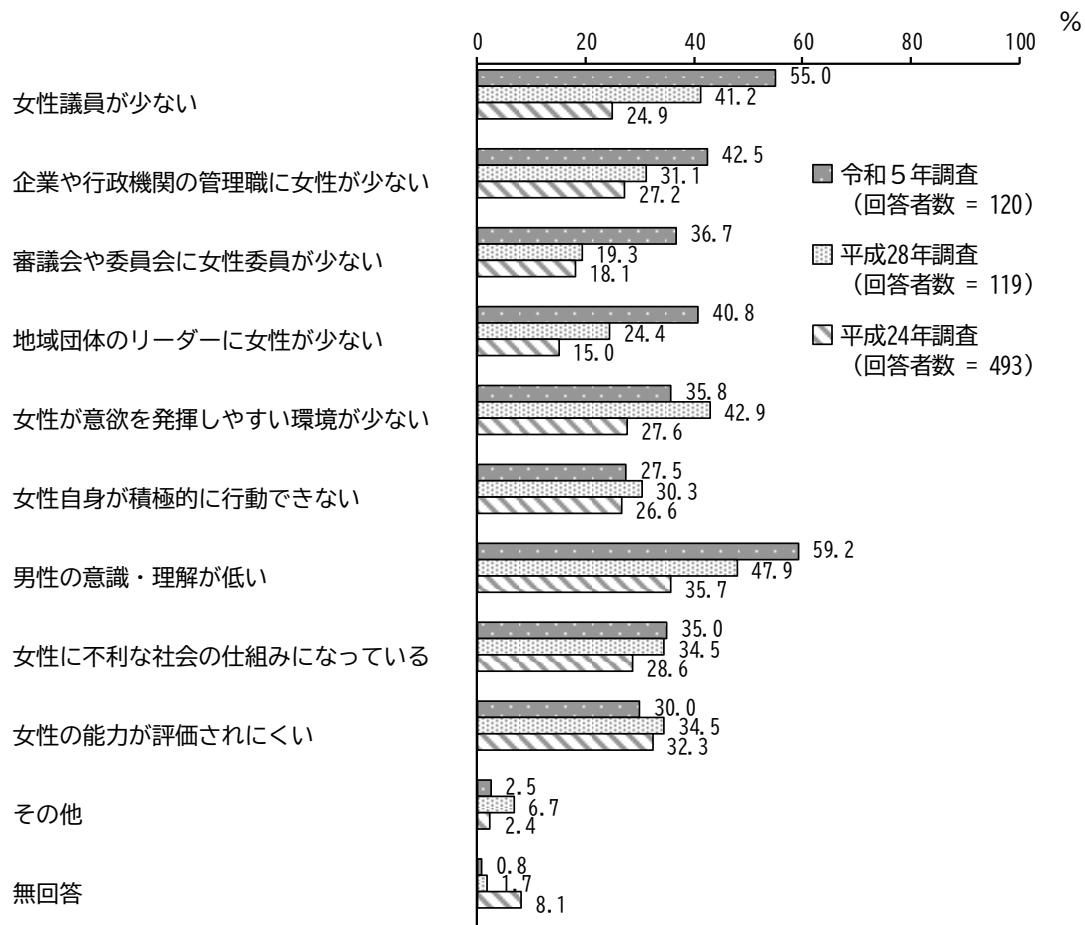
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「女性議員が少ない」「企業や行政機関の管理職に女性が少ない」「審議会や委員会に女性委員が少ない」「地域団体のリーダーに女性が少ない」「女性の能力が評価されにくい」の割合が増加しています。一方、「女性に不利な社会の仕組みになっている」の割合が減少しています。



【経年比較・女性】

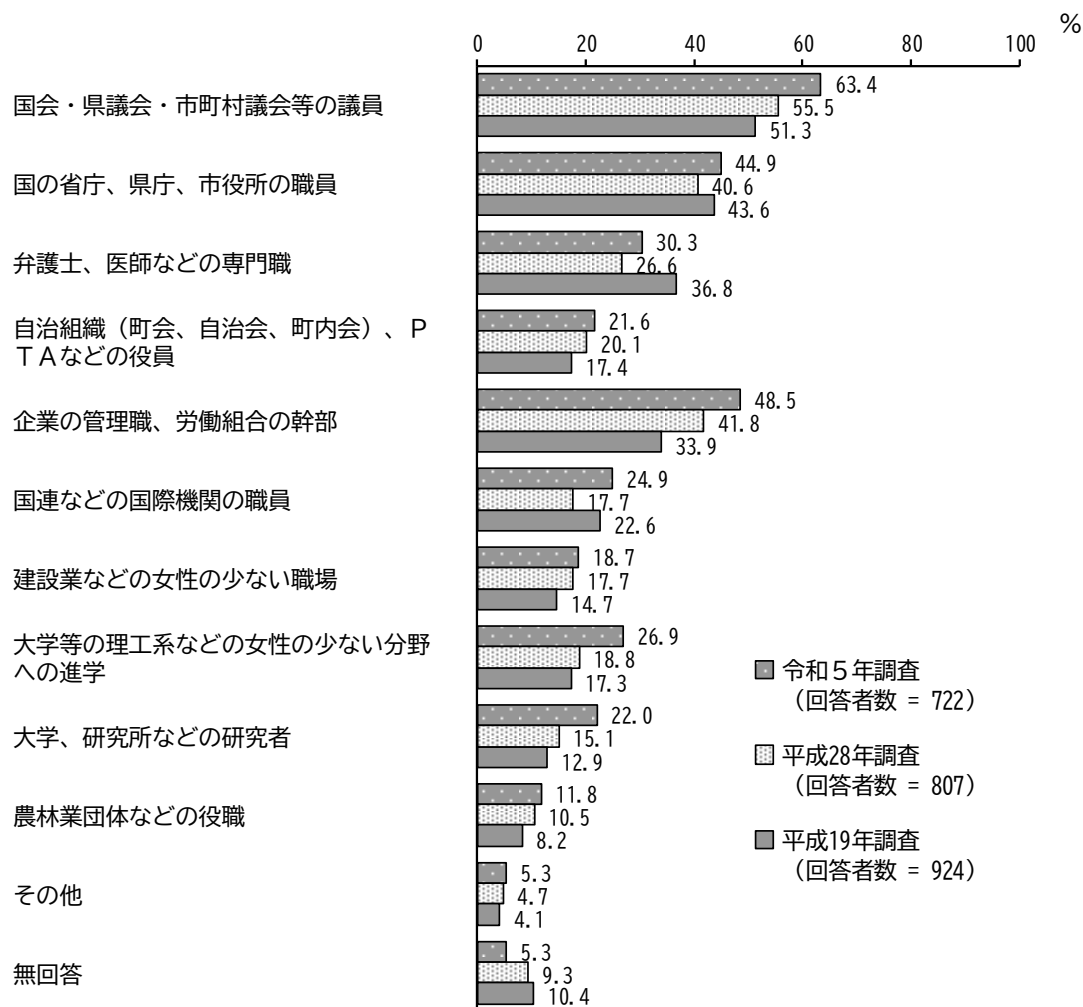
平成 28 年調査と比較すると、「女性議員が少ない」「企業や行政機関の管理職に女性が少ない」「審議会や委員会に女性委員が少ない」「地域団体のリーダーに女性が少ない」「男性の意識・理解が低い」の割合が増加しています。一方、「女性が意欲を発揮しやすい環境が少ない」の割合が減少しています。



問 27 あなたは、今後どのような分野で、特に女性の参画が進むべきだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

「国会・県議会・市町村議会等の議員」の割合が 63.4%と最も高く、次いで「企業の管理職、労働組合の幹部」の割合が 48.5%、「国の省庁、県庁、市役所の職員」の割合が 44.9%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「国会・県議会・市町村議会等の議員」「企業の管理職、労働組合の幹部」「国連などの国際機関の職員」「大学等の理工系などの女性の少ない分野への進学」「大学、研究所などの研究者」の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	国会・県議会・市町村議会等の議員	国の省庁、県庁、市役所の職員	弁護士、医師などの専門職	自治組織(町会、自治会、町内会)、PTAなどの役員	企業の管理職、労働組合の幹部	国連などの国際機関の職員	建設業などの女性の少ない職場	大学の理工系などの女性の少ない分野への進学	大学、研究所などの研究者	農林業団体などの役職	その他	無回答
全 体	722	63.4	44.9	30.3	21.6	48.5	24.9	18.7	26.9	22.0	11.8	5.3	5.3
男性	293	60.4	42.3	24.6	21.5	49.1	24.2	21.8	30.4	19.8	10.9	5.8	4.4
女性	421	64.8	46.6	34.0	21.9	48.0	24.7	16.4	24.2	23.3	12.1	5.0	5.9
その他	6	100.0	50.0	50.0	16.7	50.0	66.7	33.3	50.0	50.0	33.3	—	—

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性 20 歳代で「国の省庁、県庁、市役所の職員」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	国会・県議会・市町 村議会等の議員	国の省庁、県庁、市 役所の職員	弁護士、医師などの 専門職	自治組織（町会、自 治会、町内会）、PT Aなどの役員	企業の管理職、労働 組合の幹部	国連などの国際機 関の職員
全 体	722	63.4	44.9	30.3	21.6	48.5	24.9
男性 18・19 歳	4	75.0	75.0	50.0	50.0	50.0	50.0
20 歳代	20	60.0	55.0	50.0	25.0	40.0	35.0
30 歳代	22	50.0	40.9	22.7	31.8	54.5	27.3
40 歳代	51	52.9	39.2	19.6	17.6	49.0	25.5
50 歳代	83	61.4	37.3	27.7	14.5	48.2	16.9
60 歳代	52	61.5	42.3	21.2	21.2	55.8	25.0
70 歳以上	61	67.2	45.9	18.0	27.9	45.9	26.2
女性 18・19 歳	—	—	—	—	—	—	—
20 歳代	24	75.0	70.8	37.5	12.5	50.0	37.5
30 歳代	60	65.0	45.0	35.0	10.0	45.0	20.0
40 歳代	67	67.2	53.7	32.8	13.4	53.7	19.4
50 歳代	93	66.7	44.1	28.0	19.4	49.5	25.8
60 歳代	85	68.2	47.1	44.7	30.6	52.9	29.4
70 歳以上	92	55.4	38.0	29.3	32.6	39.1	22.8
その他 18・19 歳	—	—	—	—	—	—	—
20 歳代	1	100.0	100.0	—	—	—	—
30 歳代	3	100.0	33.3	66.7	33.3	100.0	66.7
40 歳代	1	100.0	100.0	100.0	—	—	100.0
50 歳代	—	—	—	—	—	—	—
60 歳代	1	100.0	—	—	—	—	100.0
70 歳以上	—	—	—	—	—	—	—

単位：％

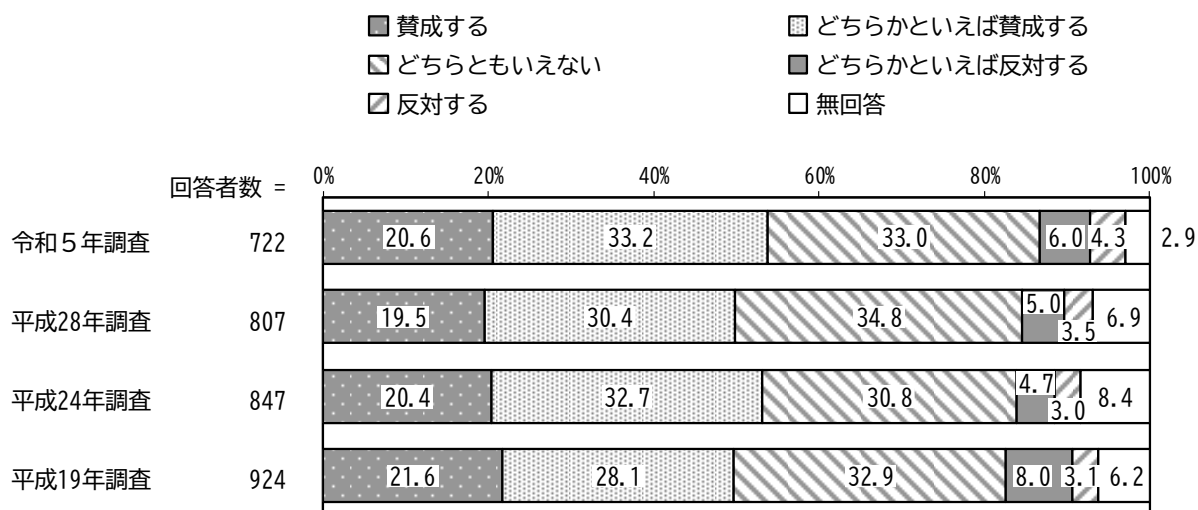
区分	建設業などの女性 の少ない職場	大学等の理工系な どの女性の少ない 分野への進学	大学、研究所などの 研究者	農林業団体などの 役職	その他	無回答
全 体	18.7	26.9	22.0	11.8	5.3	5.3
男性 18・19 歳	50.0	50.0	50.0	50.0	—	25.0
20 歳代	25.0	45.0	20.0	15.0	—	—
30 歳代	27.3	45.5	22.7	13.6	9.1	—
40 歳代	15.7	27.5	25.5	9.8	11.8	2.0
50 歳代	26.5	30.1	15.7	7.2	3.6	2.4
60 歳代	17.3	23.1	23.1	11.5	5.8	5.8
70 歳以上	19.7	27.9	14.8	11.5	4.9	9.8
女性 18・19 歳	—	—	—	—	—	—
20 歳代	12.5	25.0	20.8	12.5	—	—
30 歳代	11.7	21.7	23.3	3.3	6.7	1.7
40 歳代	22.4	34.3	28.4	14.9	6.0	1.5
50 歳代	15.1	18.3	21.5	16.1	6.5	3.2
60 歳代	21.2	25.9	24.7	15.3	7.1	4.7
70 歳以上	13.0	22.8	20.7	8.7	1.1	17.4
その他 18・19 歳	—	—	—	—	—	—
20 歳代	—	—	—	—	—	—
30 歳代	33.3	66.7	66.7	33.3	—	—
40 歳代	100.0	100.0	100.0	100.0	—	—
50 歳代	—	—	—	—	—	—
60 歳代	—	—	—	—	—	—
70 歳以上	—	—	—	—	—	—

(前ページの表 続き)

問 28 「男女の不平等を是正するため、女性があまり進出していない分野で一時的に女性の優先枠を設けるなどして、男女の実質的な機会の均等を確保すべきである」（＝ポジティブ・アクション）という考え方についてどのように思いますか。
（1つに○）

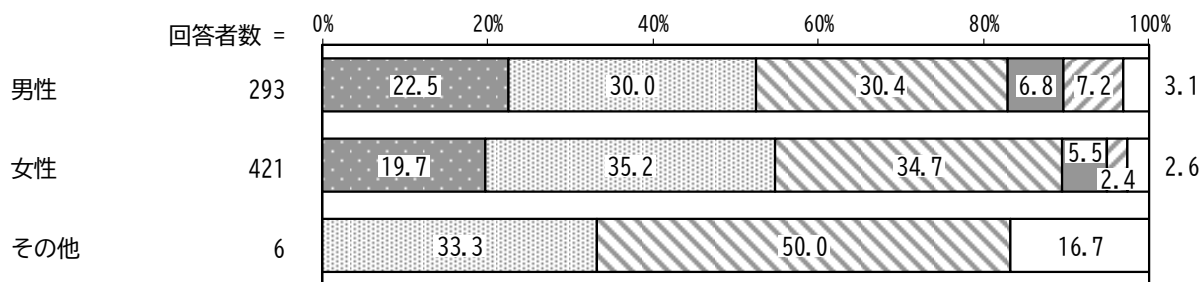
ポジティブ・アクションに対する考えは、「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を合わせた＜賛成する＞の割合は 53.8%、「どちらかといえば反対する」と「反対する」を合わせた＜反対する＞の割合は 10.3%であり、「どちらともいえない」は 33.0%となっている。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



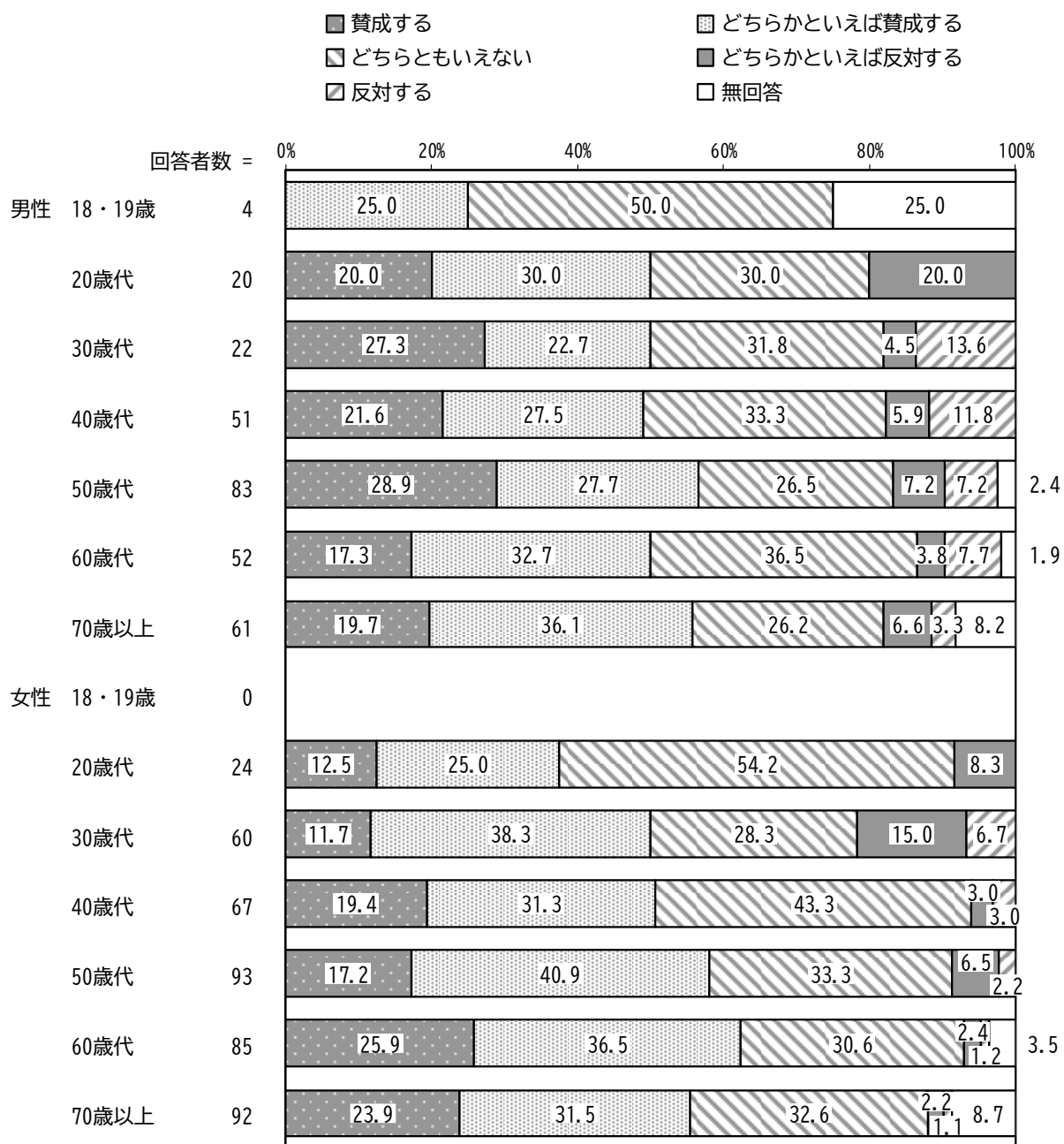
【性別】

性別にみると、男性で＜反対する＞の割合が高くなっています。



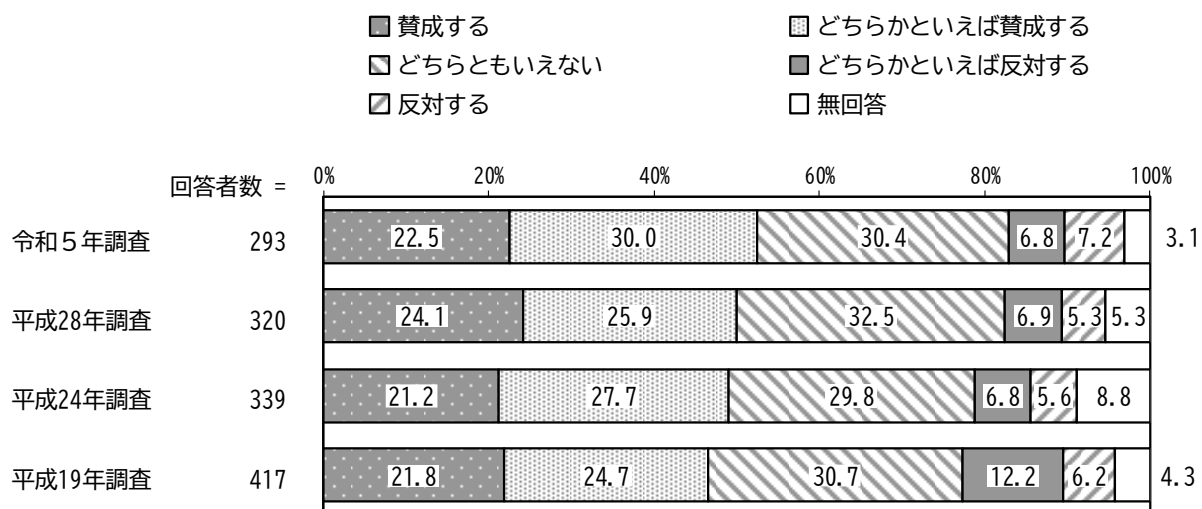
【性・年代別】

性・年代別にみると、女性 60 歳代で＜賛成する＞の割合が高くなっています。



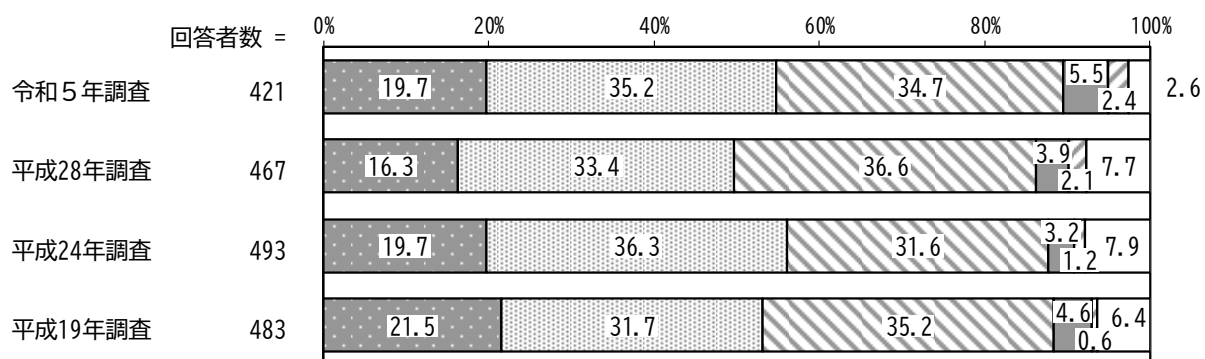
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【経年比較・女性】

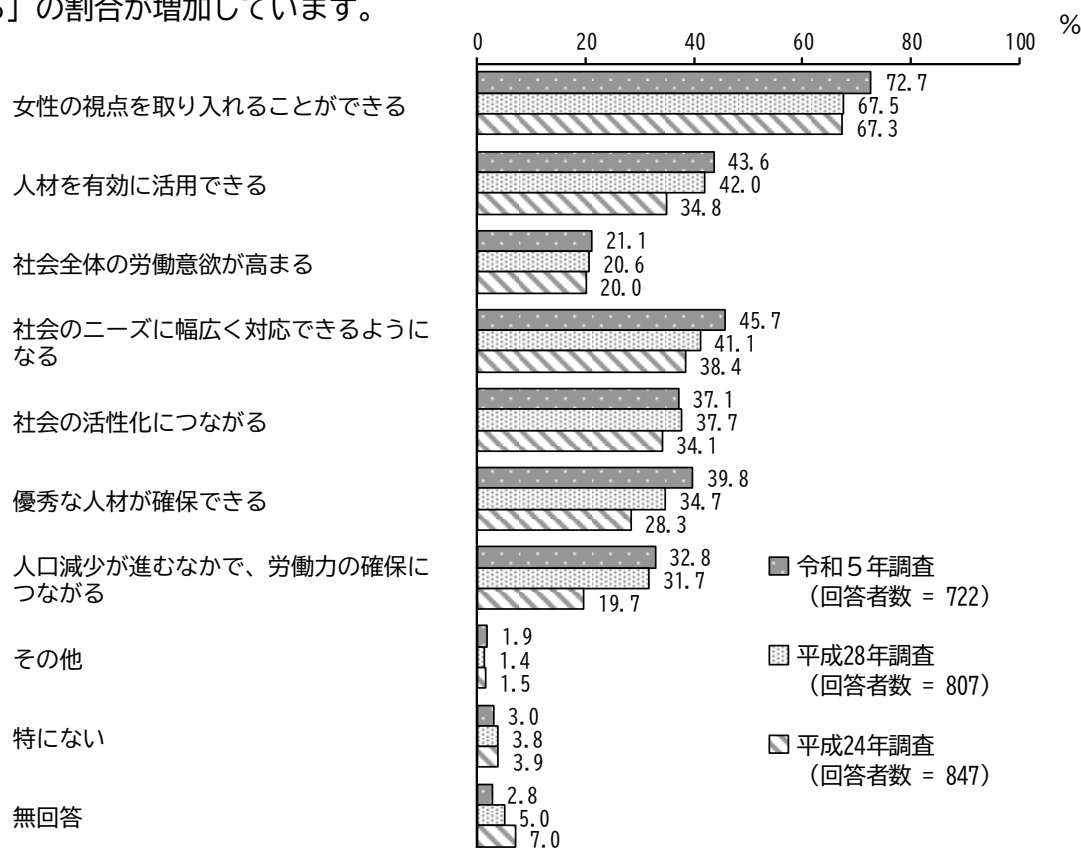
平成 28 年調査と比較すると、＜賛成する＞の割合が増加しています。



問 29 女性を積極的に活用することによって、社会全体にどのような効果があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「女性の視点を取り入れることができる」の割合が 72.7%と最も高く、次いで「社会のニーズに幅広く対応できるようになる」の割合が 45.7%、「人材を有効に活用できる」の割合が 43.6%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「女性の視点を取り入れることができる」「優秀な人材が確保できる」の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、男性で「人口減少が進むなかで、労働力の確保につながる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	女性の視点を取り入れることができる	人材を有効に活用できる	社会全体の労働意欲が高まる	社会のニーズに幅広く対応できるようになる	社会の活性化につながる	優秀な人材が確保できる	人口減少が進むなかで、労働力の確保につながる	その他	特にない	無回答
全 体	722	72.7	43.6	21.1	45.7	37.1	39.8	32.8	1.9	3.0	2.8
男性	293	64.5	46.4	20.8	42.0	38.6	42.3	41.6	2.7	4.1	3.1
女性	421	78.9	41.3	20.4	48.0	35.6	37.3	26.4	1.4	2.4	2.6
その他	6	50.0	66.7	50.0	66.7	66.7	66.7	33.3	—	—	—

【性・年代別】

性・年代別にみると、男性 30 歳代で「人口減少が進むなかで、労働力の確保につながる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	女性の視 点をとり 入れるこ とができ る	人材を有 効に活用 できる	社会全体 の労働意 欲が高ま る	社会のニ ーズに幅 広く対応 できるよ うになる	社会の活 性化につ ながる
全 体	722	72.7	43.6	21.1	45.7	37.1
男性 18・19 歳	4	75.0	25.0	25.0	75.0	25.0
20 歳代	20	55.0	50.0	25.0	65.0	40.0
30 歳代	22	63.6	59.1	18.2	50.0	36.4
40 歳代	51	60.8	43.1	17.6	37.3	39.2
50 歳代	83	63.9	42.2	19.3	37.3	37.3
60 歳代	52	65.4	50.0	17.3	53.8	36.5
70 歳以上	61	70.5	47.5	27.9	29.5	42.6
女性 18・19 歳	—	—	—	—	—	—
20 歳代	24	83.3	41.7	25.0	54.2	29.2
30 歳代	60	86.7	31.7	21.7	38.3	36.7
40 歳代	67	76.1	46.3	20.9	52.2	38.8
50 歳代	93	80.6	33.3	21.5	47.3	25.8
60 歳代	85	82.4	49.4	21.2	56.5	41.2
70 歳以上	92	69.6	44.6	16.3	42.4	39.1
その他 18・19 歳	—	—	—	—	—	—
20 歳代	1	—	100.0	—	100.0	—
30 歳代	3	66.7	33.3	66.7	66.7	100.0
40 歳代	1	100.0	100.0	—	100.0	100.0
50 歳代	—	—	—	—	—	—
60 歳代	1	—	100.0	100.0	—	—
70 歳以上	—	—	—	—	—	—

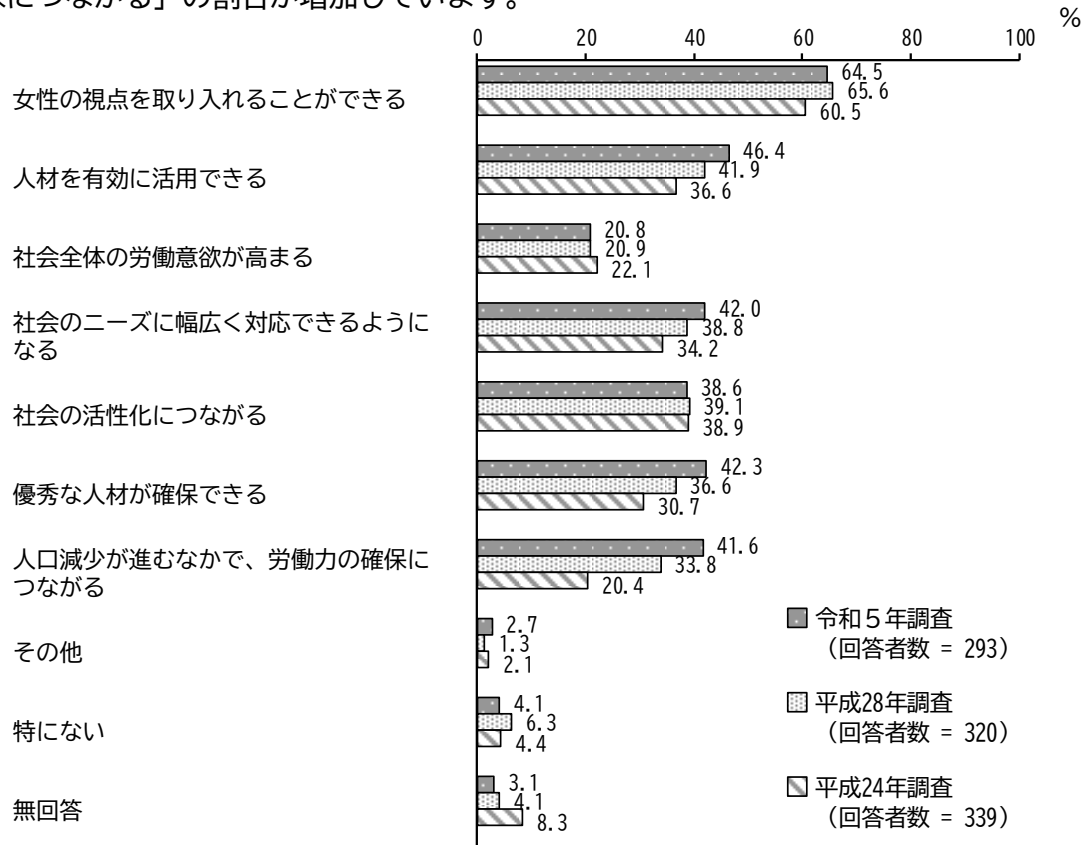
単位：％

区分	優秀な人材が確保 できる	人口減少が進むな かで、労働力の確保 につながる	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	39.8	32.8	1.9	3.0	2.8
男性 18・19 歳	50.0	25.0	—	—	25.0
20 歳代	50.0	35.0	—	—	5.0
30 歳代	50.0	54.5	4.5	4.5	—
40 歳代	35.3	35.3	2.0	5.9	—
50 歳代	39.8	50.6	6.0	6.0	1.2
60 歳代	44.2	34.6	1.9	3.8	1.9
70 歳以上	44.3	39.3	—	1.6	8.2
女性 18・19 歳	—	—	—	—	—
20 歳代	33.3	29.2	—	—	—
30 歳代	31.7	28.3	1.7	1.7	—
40 歳代	38.8	25.4	3.0	3.0	—
50 歳代	40.9	21.5	2.2	4.3	—
60 歳代	44.7	28.2	1.2	2.4	1.2
70 歳以上	30.4	28.3	—	1.1	10.9
その他 18・19 歳	—	—	—	—	—
20 歳代	100.0	—	—	—	—
30 歳代	66.7	66.7	—	—	—
40 歳代	100.0	—	—	—	—
50 歳代	—	—	—	—	—
60 歳代	—	—	—	—	—
70 歳以上	—	—	—	—	—

(前ページの表 続き)

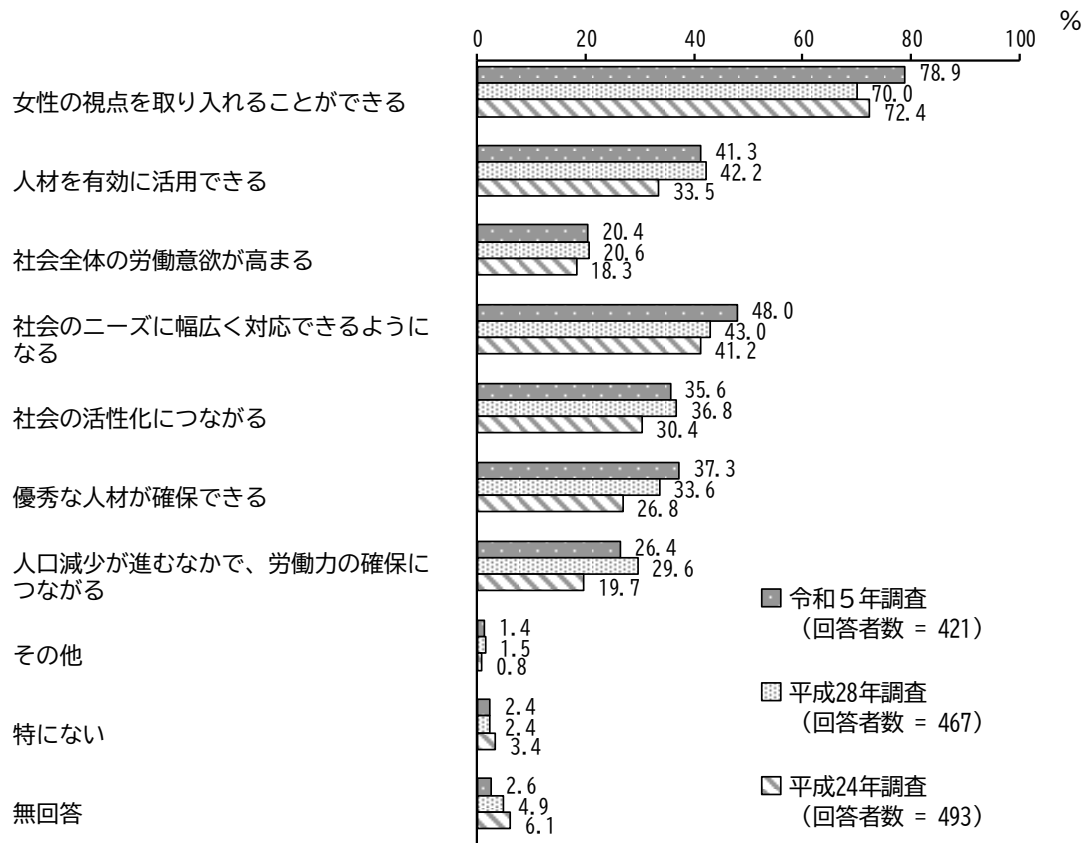
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「優秀な人材が確保できる」「人口減少が進むなかで、労働力の確保につながる」の割合が増加しています。



【経年比較・女性】

平成 28 年調査と比較すると、「女性の視点を取り入れることができる」の割合が増加しています。

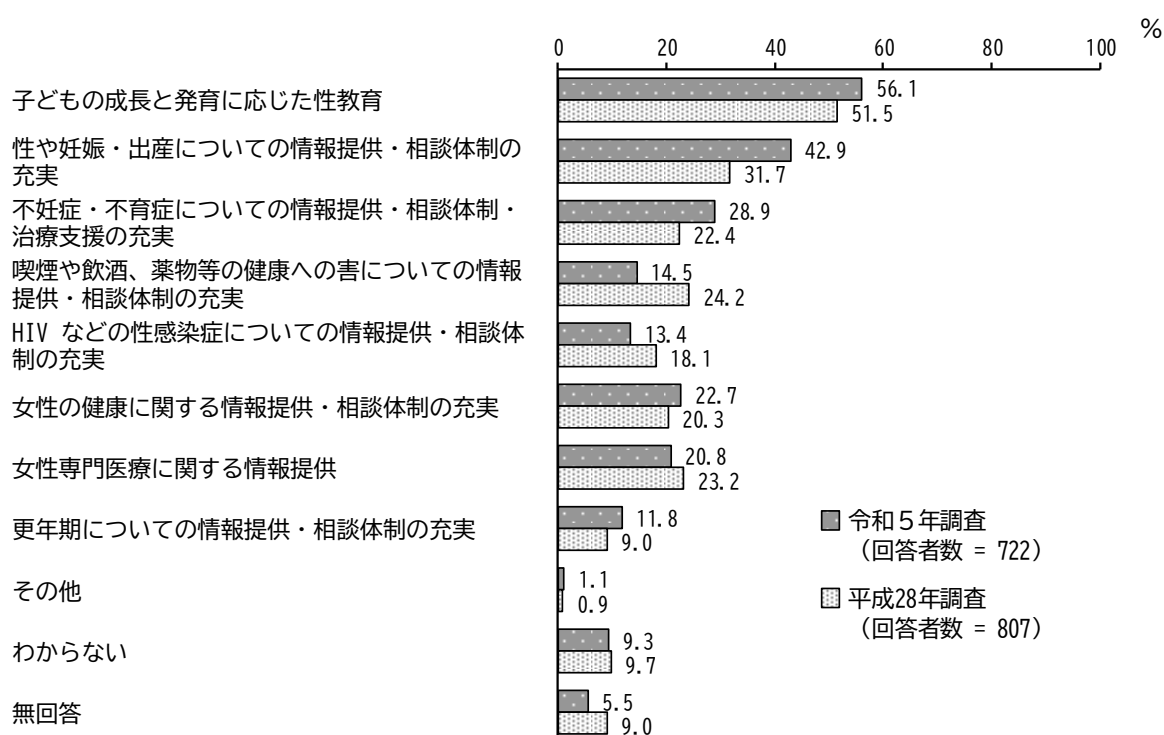


(6) 健康・人権について

問 30 性別に関わらず性と生殖に関する健康を保持し、性や妊娠・出産に関して自己決定できるよう支援するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(3つまでに○)

「子どもの成長と発育に応じた性教育」の割合が 56.1%と最も高く、次いで「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」の割合が 42.9%、「不妊症・不育症についての情報提供・相談体制・治療支援の充実」の割合が 28.9%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」「不妊症・不育症についての情報提供・相談体制・治療支援の充実」の割合が増加しています。一方、「喫煙や飲酒、薬物等の健康への害についての情報提供・相談体制の充実」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数（件）	子どもの成長と発育に応じた性教育	性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実	不妊症・不育症についての情報提供・相談体制・治療支援の充実	喫煙や飲酒、薬物等の健康への害についての情報提供・相談体制の充実	HIVなどの性感染症についての情報提供・相談体制の充実
全 体	722	56.1	42.9	28.9	14.5	13.4
男性	293	54.9	42.7	27.6	12.3	11.9
女性	421	56.5	42.8	29.9	16.2	13.8
その他	6	66.7	50.0	33.3	16.7	50.0

区分	女性の健康に関する情報提供・相談体制の充実	女性専門医療に関する情報提供	更年期についての情報提供・相談体制の充実	その他	わからない	無回答
全 体	22.7	20.8	11.8	1.1	9.3	5.5
男性	19.5	17.4	7.8	2.0	12.3	5.8
女性	25.4	23.3	14.5	0.5	7.4	5.5
その他	—	16.7	16.7	—	—	—

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性 20 歳代で「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	子どもの成長と発 育に応じた性教育	性や妊娠・出産につ いての情報提供・相 談体制の充実	不妊症・不育症につ いての情報提供・相 談体制・治療支援の 充実	喫煙や飲酒、薬物等 の健康への害につ いての情報提供・相 談体制の充実	H I V などの性 感染症についての 情報提供・相談体制 の充実
全 体	722	56.1	42.9	28.9	14.5	13.4
男性 18・19 歳	4	50.0	—	25.0	25.0	25.0
20 歳代	20	65.0	65.0	20.0	10.0	20.0
30 歳代	22	68.2	59.1	36.4	9.1	—
40 歳代	51	58.8	43.1	41.2	7.8	9.8
50 歳代	83	45.8	38.6	25.3	7.2	10.8
60 歳代	52	51.9	40.4	17.3	9.6	13.5
70 歳以上	61	59.0	39.3	27.9	26.2	14.8
女性 18・19 歳	—	—	—	—	—	—
20 歳代	24	62.5	79.2	29.2	4.2	25.0
30 歳代	60	71.7	50.0	40.0	15.0	16.7
40 歳代	67	58.2	41.8	40.3	10.4	6.0
50 歳代	93	53.8	43.0	25.8	16.1	9.7
60 歳代	85	52.9	35.3	29.4	21.2	15.3
70 歳以上	92	50.0	35.9	20.7	19.6	17.4
その他 18・19 歳	—	—	—	—	—	—
20 歳代	1	100.0	100.0	—	—	100.0
30 歳代	3	66.7	33.3	33.3	33.3	66.7
40 歳代	1	100.0	100.0	100.0	—	—
50 歳代	—	—	—	—	—	—
60 歳代	1	—	—	—	—	—
70 歳以上	—	—	—	—	—	—

単位：％

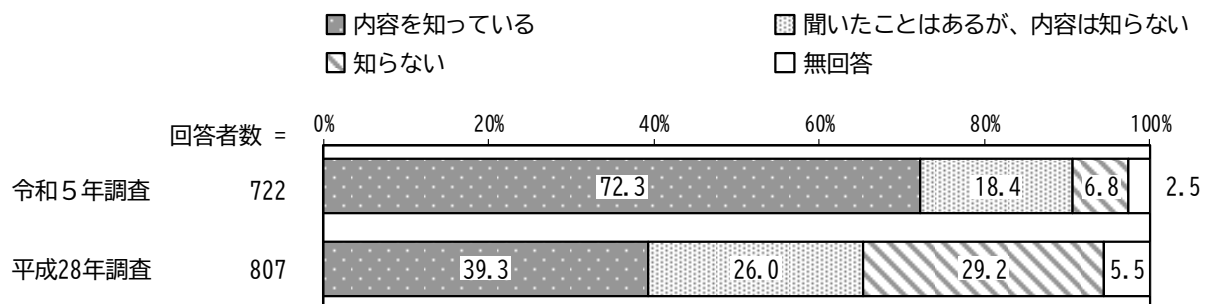
区分	女性の健康に関する 情報提供・相談体 制の充実	女性専門医療に 関する情報提供	更年期についての 情報提供・相談体 制の充実	その他	わからない	無回答
全 体	22.7	20.8	11.8	1.1	9.3	5.5
男性 18・19 歳	—	25.0	—	—	25.0	25.0
20 歳代	20.0	15.0	—	—	10.0	5.0
30 歳代	18.2	18.2	—	9.1	13.6	4.5
40 歳代	27.5	5.9	9.8	2.0	9.8	2.0
50 歳代	16.9	16.9	9.6	2.4	18.1	2.4
60 歳代	21.2	19.2	5.8	1.9	11.5	7.7
70 歳以上	16.4	26.2	11.5	—	6.6	11.5
女性 18・19 歳	—	—	—	—	—	—
20 歳代	29.2	12.5	—	—	8.3	—
30 歳代	20.0	15.0	6.7	1.7	8.3	—
40 歳代	19.4	23.9	23.9	1.5	6.0	7.5
50 歳代	21.5	25.8	20.4	—	10.8	4.3
60 歳代	34.1	32.9	14.1	—	4.7	3.5
70 歳以上	28.3	19.6	10.9	—	6.5	12.0
その他 18・19 歳	—	—	—	—	—	—
20 歳代	—	—	—	—	—	—
30 歳代	—	—	33.3	—	—	—
40 歳代	—	—	—	—	—	—
50 歳代	—	—	—	—	—	—
60 歳代	—	100.0	—	—	—	—
70 歳以上	—	—	—	—	—	—

(前ページの表 続き)

問 31 あなたは性的マイノリティ（LGBTQ 等）という言葉を知っていますか。
（1 つに○）

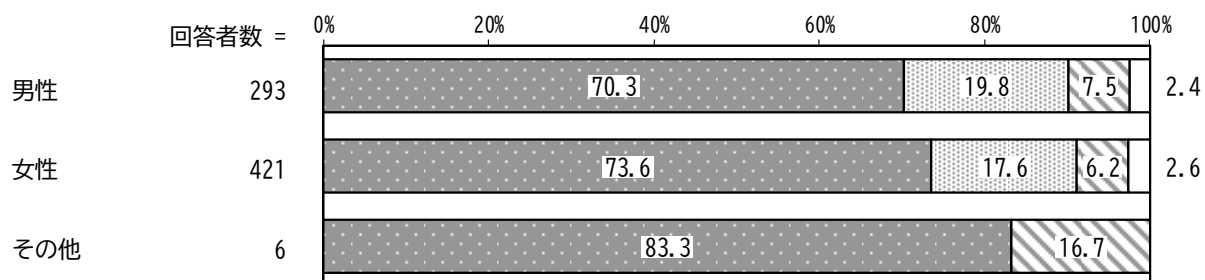
「内容を知っている」の割合が 72.3%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が 18.4%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「内容を知っている」の割合が増加しています。一方、「聞いたことはあるが、内容は知らない」「知らない」の割合が減少しています。



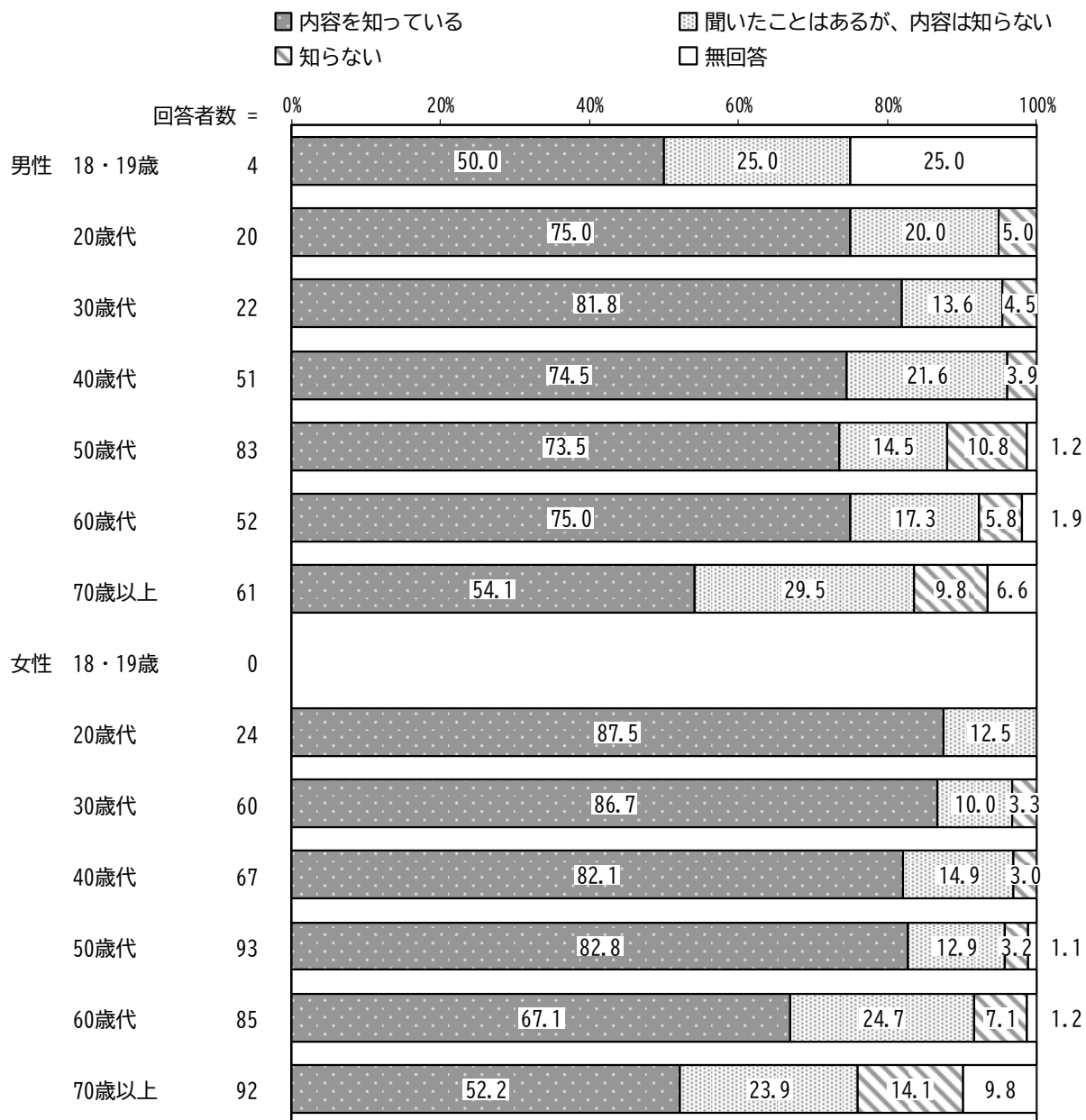
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【性・年代別】

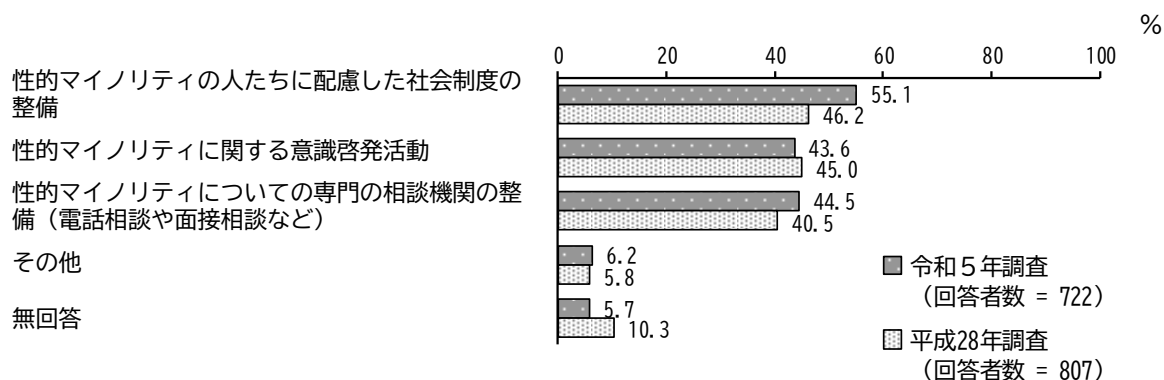
性・年代別にみると、女性 20 歳代で「内容を知っている」の割合が高くなっています。



問 32 あなたは性的マイノリティ（LGBTQ 等）の人たちが暮らしやすい社会をつくるためにどのような取り組みが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「性的マイノリティの人たちに配慮した社会制度の整備」の割合が 55.1%と最も高く、次いで「性的マイノリティについての専門の相談機関の整備（電話相談や面接相談など）」の割合が 44.5%、「性的マイノリティに関する意識啓発活動」の割合が 43.6%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「性的マイノリティの人たちに配慮した社会制度の整備」の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、女性で「性的マイノリティの人たちに配慮した社会制度の整備」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	性的マイノリティの人たちに配慮した社会制度の整備	性的マイノリティに関する意識啓発活動	性的マイノリティについての専門の相談機関の整備（電話相談や面接相談など）	その他	無回答
全 体	722	55.1	43.6	44.5	6.2	5.7
男性	293	48.1	41.6	38.9	7.2	7.2
女性	421	60.1	44.9	48.0	5.7	4.5
その他	6	50.0	33.3	66.7	—	16.7

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性 20 歳代で「性的マイノリティについての専門の相談機関の整備（電話相談や面接相談など）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	性的マイノリティの人たちに配慮した社会制度の整備	性的マイノリティに関する意識啓発活動	性的マイノリティについての専門の相談機関の整備（電話相談や面接相談など）	その他	無回答
全 体	722	55.1	43.6	44.5	6.2	5.7
男性 18・19 歳	4	50.0	—	50.0	—	25.0
20 歳代	20	45.0	45.0	40.0	15.0	—
30 歳代	22	63.6	50.0	36.4	22.7	4.5
40 歳代	51	43.1	45.1	43.1	7.8	2.0
50 歳代	83	43.4	38.6	41.0	4.8	6.0
60 歳代	52	51.9	42.3	34.6	5.8	7.7
70 歳以上	61	50.8	41.0	36.1	3.3	14.8
女性 18・19 歳	—	—	—	—	—	—
20 歳代	24	54.2	50.0	62.5	—	—
30 歳代	60	46.7	31.7	45.0	13.3	1.7
40 歳代	67	67.2	52.2	53.7	6.0	1.5
50 歳代	93	60.2	44.1	43.0	8.6	—
60 歳代	85	67.1	51.8	56.5	3.5	3.5
70 歳以上	92	58.7	41.3	39.1	1.1	15.2
その他 18・19 歳	—	—	—	—	—	—
20 歳代	1	—	—	—	—	100.0
30 歳代	3	66.7	33.3	66.7	—	—
40 歳代	1	100.0	100.0	100.0	—	—
50 歳代	—	—	—	—	—	—
60 歳代	1	—	—	100.0	—	—
70 歳以上	—	—	—	—	—	—

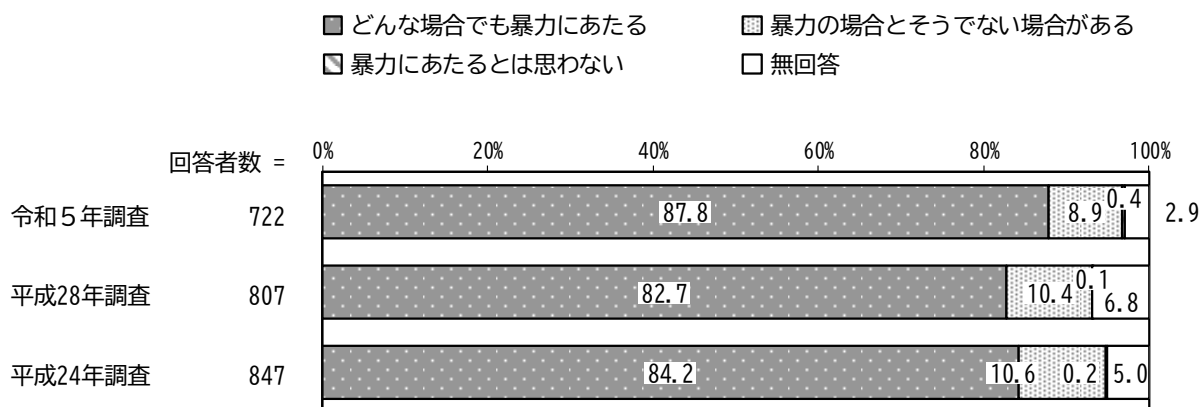
(7) DV（配偶者等からの暴力）について

問 33 次のようなことが配偶者（事実婚や別居中を含む）やパートナー・恋人の間で行われた場合、それを暴力であると思いますか。（それぞれの項目について1つに○）

①骨折させる

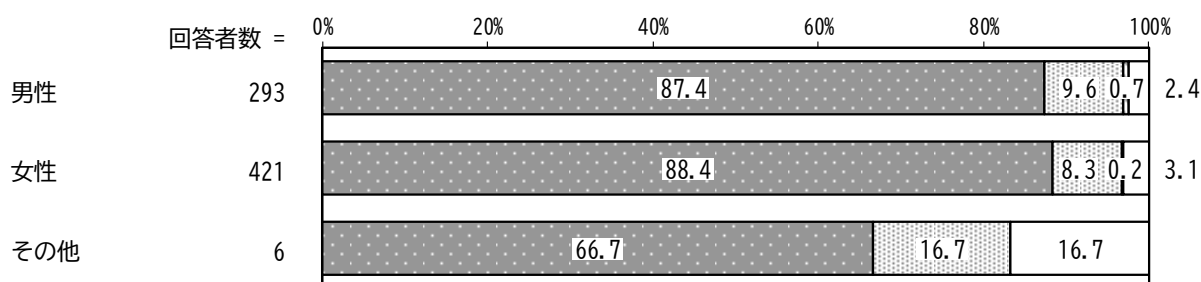
「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 87.8%と最も高くなっています。

平成 28 年調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が増加しています。



【性別】

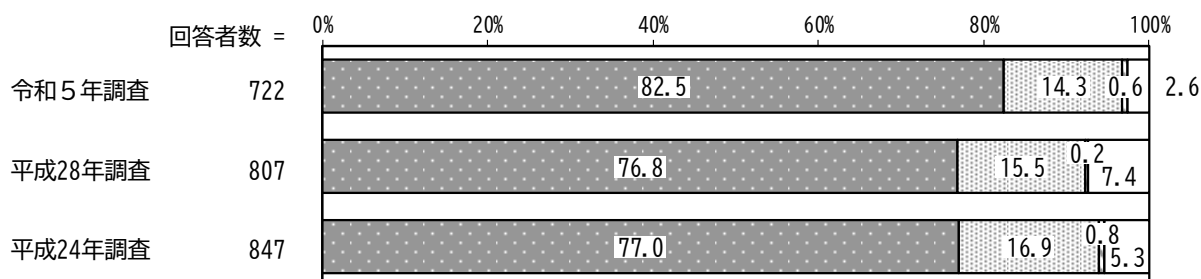
性別にみると、大きな差はみられません。



②打ち身や切り傷などのケガをさせる

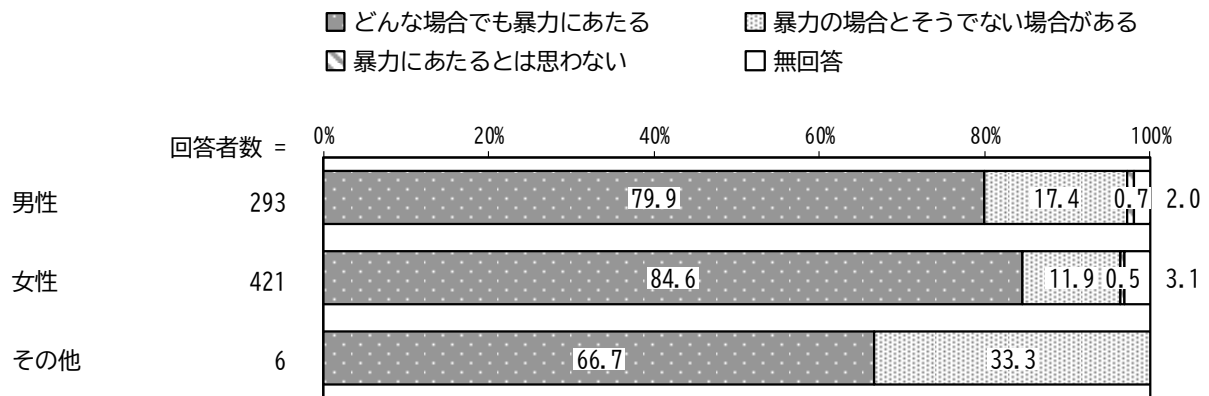
「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 82.5%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が 14.3%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が増加しています。



【性別】

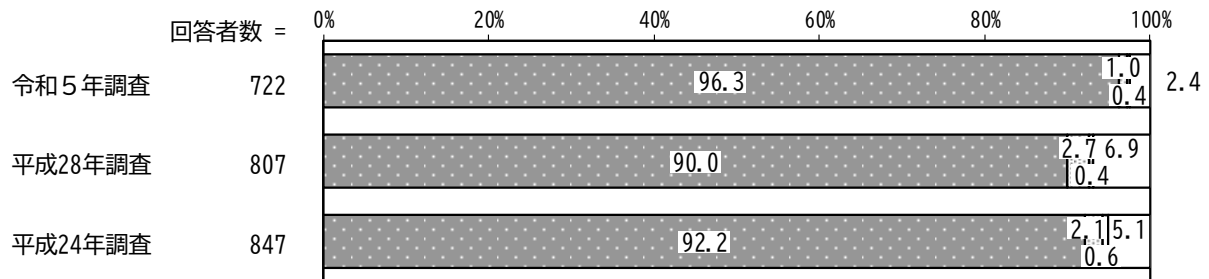
性別にみると、大きな差はみられません。



③刃物などを突きつけて、おどす

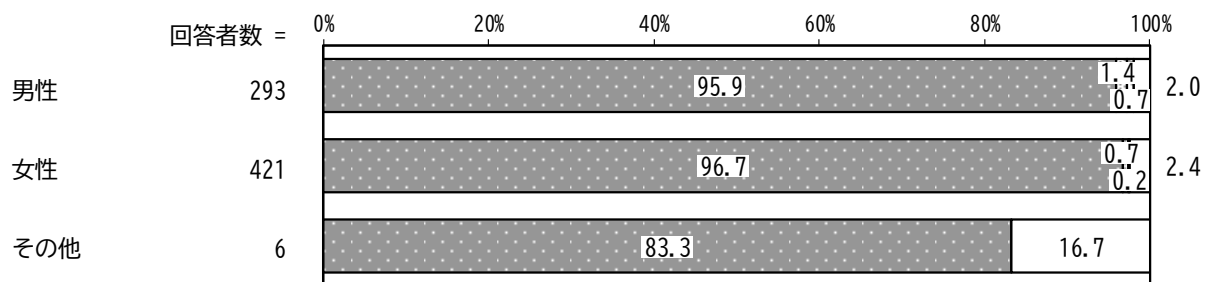
「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 96.3%と最も高くなっています。

平成 28 年調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が増加しています。



【性別】

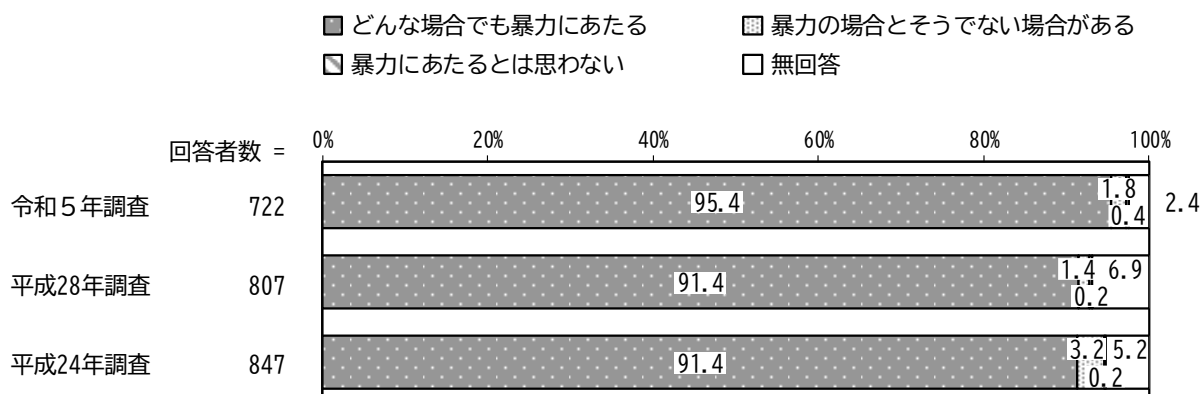
性別にみると、大きな差はみられません。



④身体を傷つける可能性のある物で、なぐる

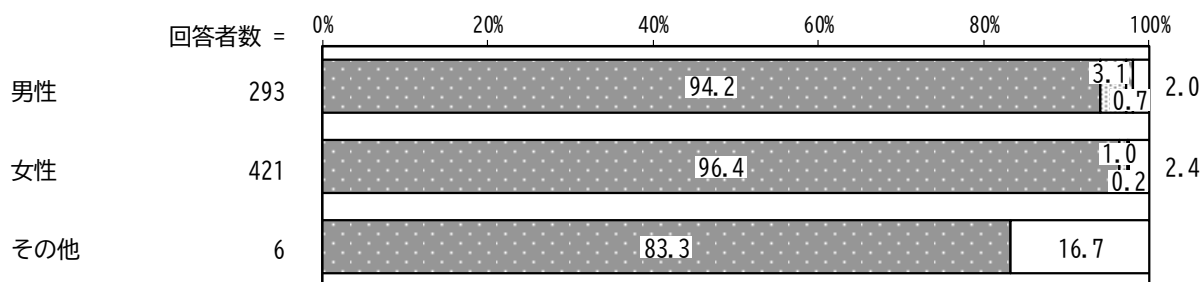
「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 95.4%と最も高くなっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

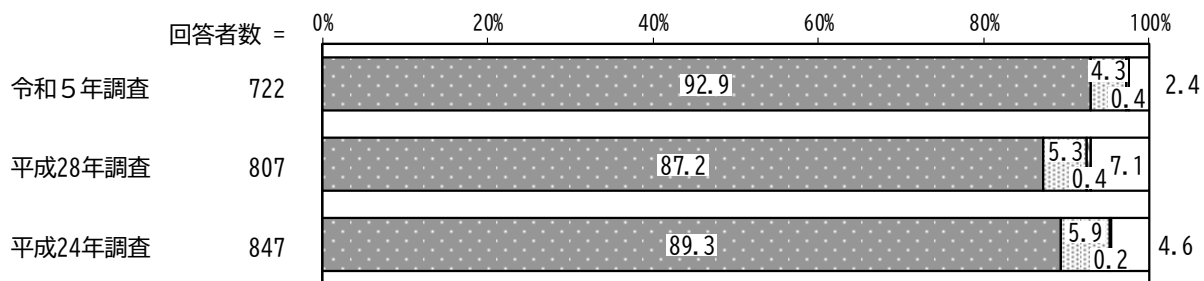
性別にみると、大きな差はみられません。



⑤突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする

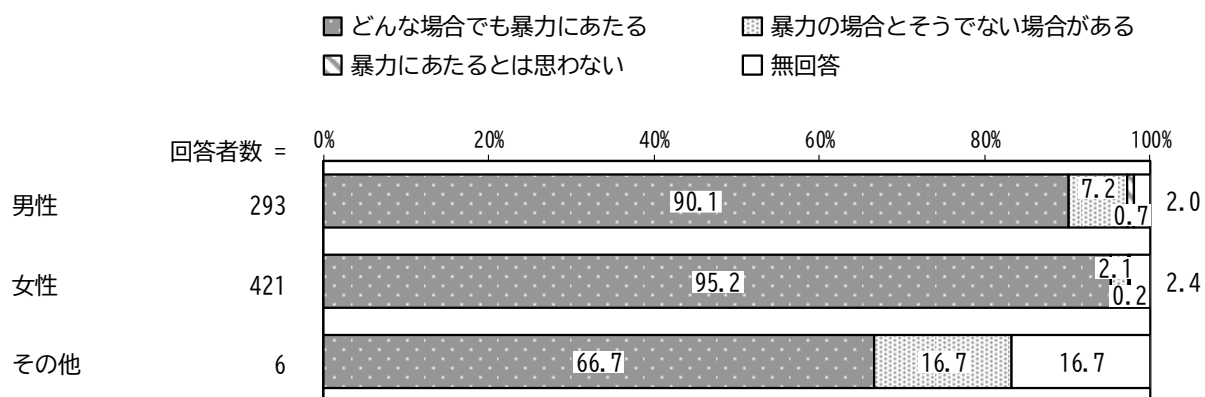
「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 92.9%と最も高くなっています。

平成 28 年調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が増加しています。



【性別】

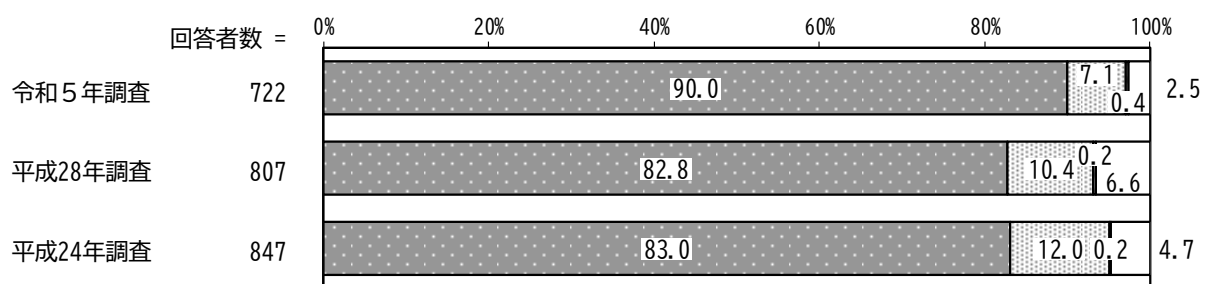
性別にみると、大きな差はみられません。



⑥平手でぶつ、足でける

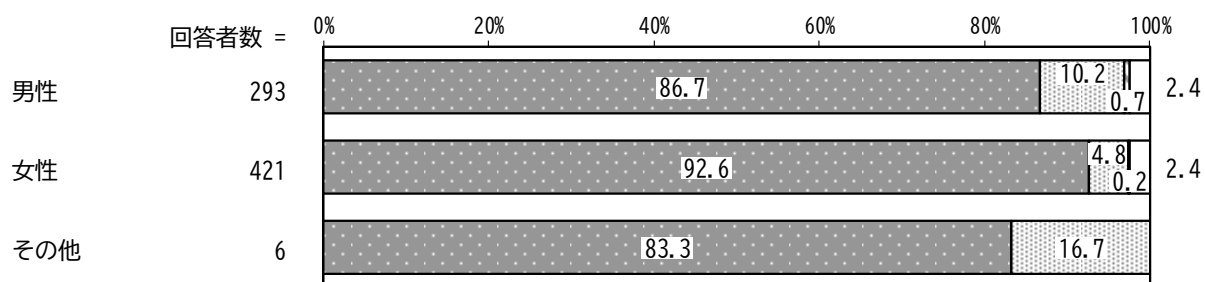
「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 90.0%と最も高くなっています。

平成 28 年調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が増加しています。



【性別】

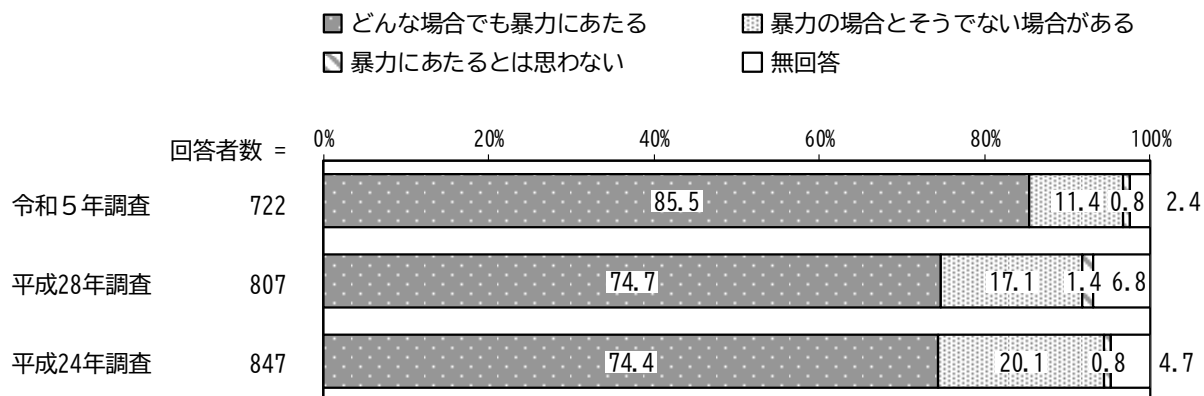
性別にみると、大きな差はみられません。



⑦物を投げつける

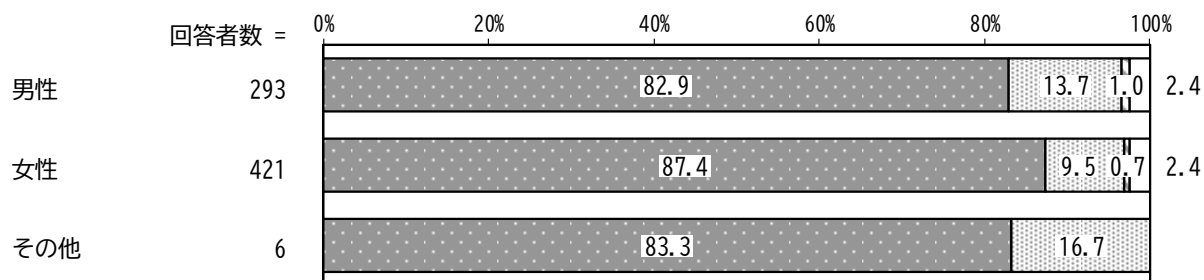
「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 85.5%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が 11.4%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が増加しています。一方、「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が減少しています。



【性別】

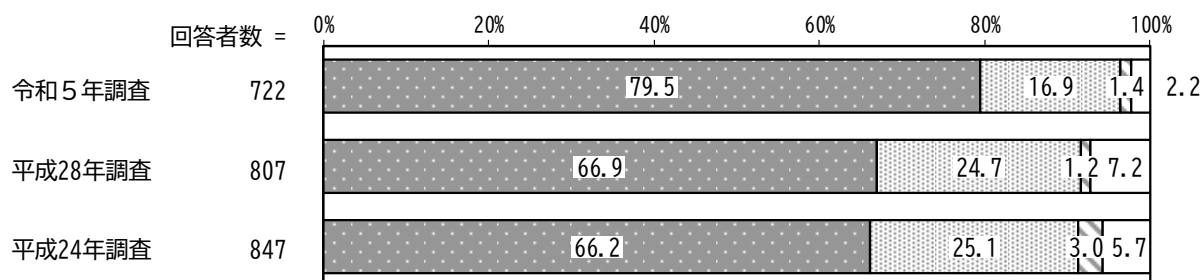
性別にみると、大きな差はみられません。



⑧なぐるふりをして、おどす

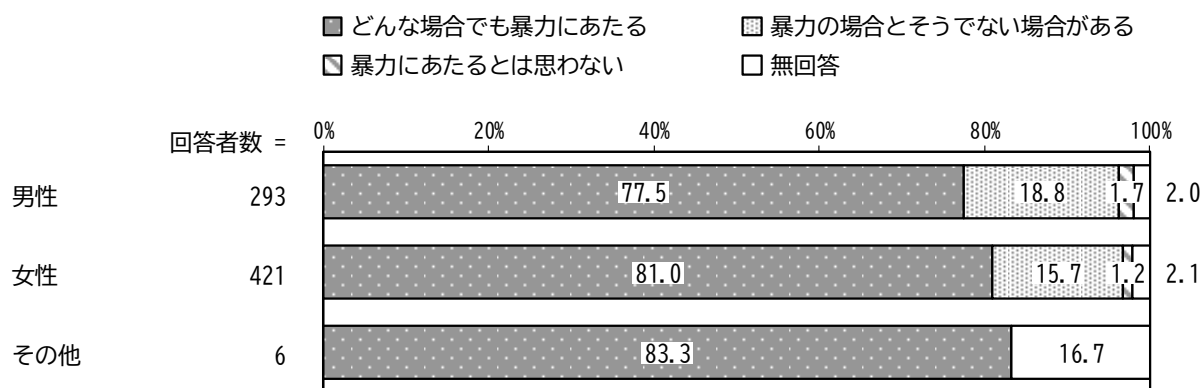
「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 79.5%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が 16.9%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が増加しています。一方、「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が減少しています。



【性別】

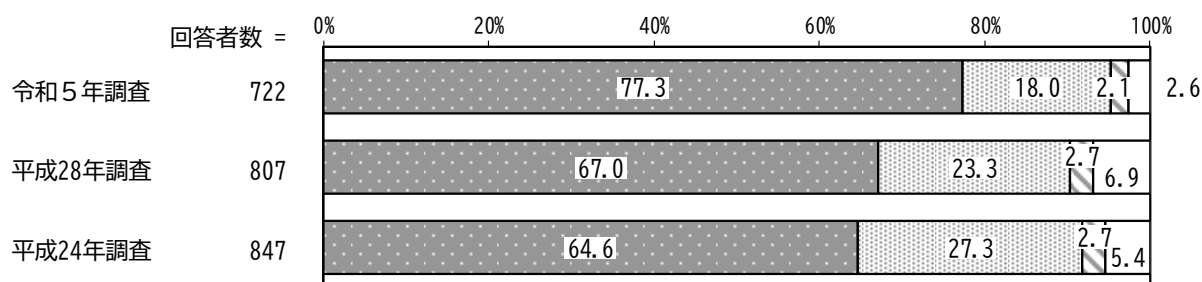
性別にみると、大きな差はみられません。



⑨ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす

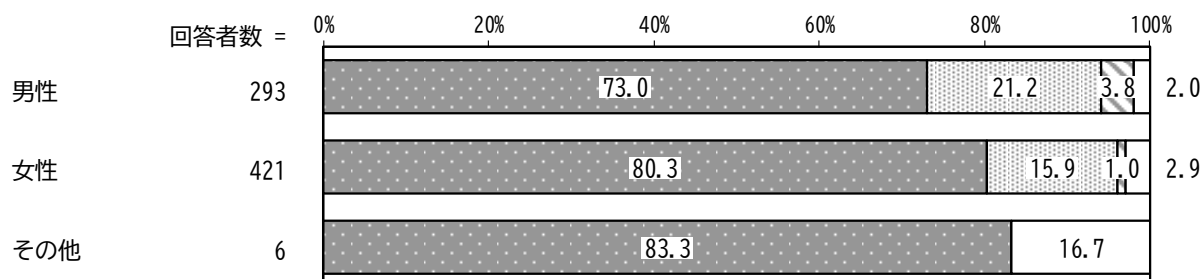
「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 77.3%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が 18.0%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が増加しています。一方、「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が減少しています。



【性別】

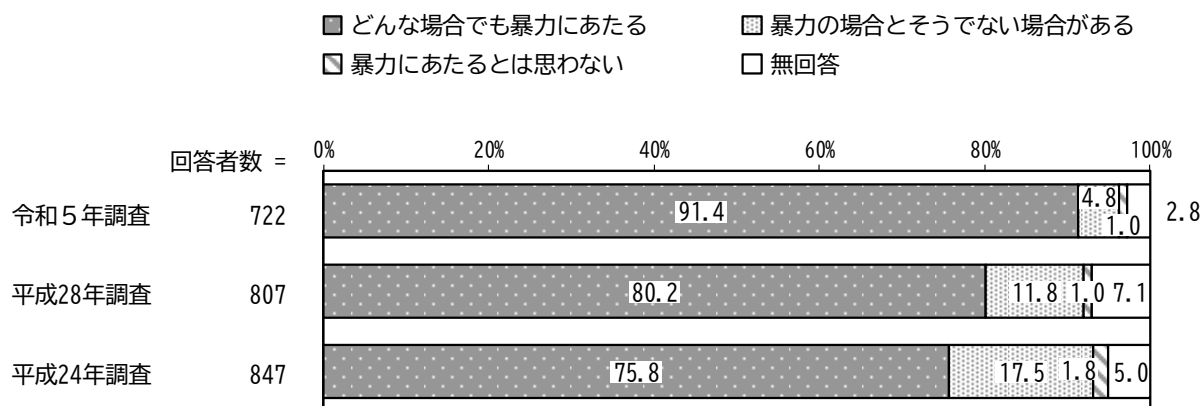
性別にみると、大きな差はみられません。



⑩いやがるのに、性的な行為を強要する

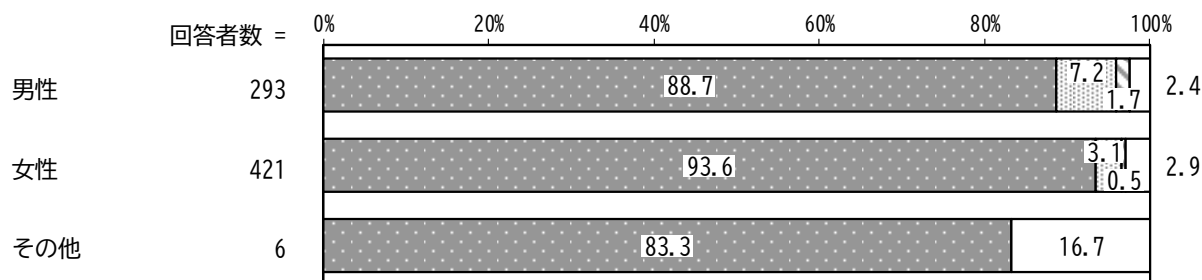
「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 91.4%と最も高くなっています。

平成 28 年調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が増加しています。一方、「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が減少しています。



【性別】

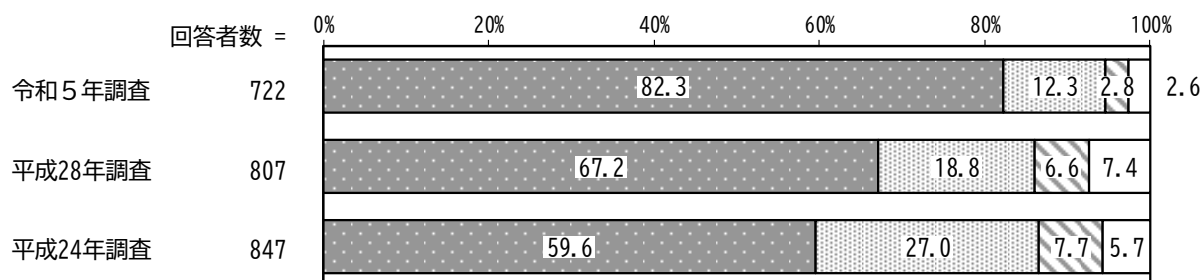
性別にみると、大きな差はみられません。



⑪見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

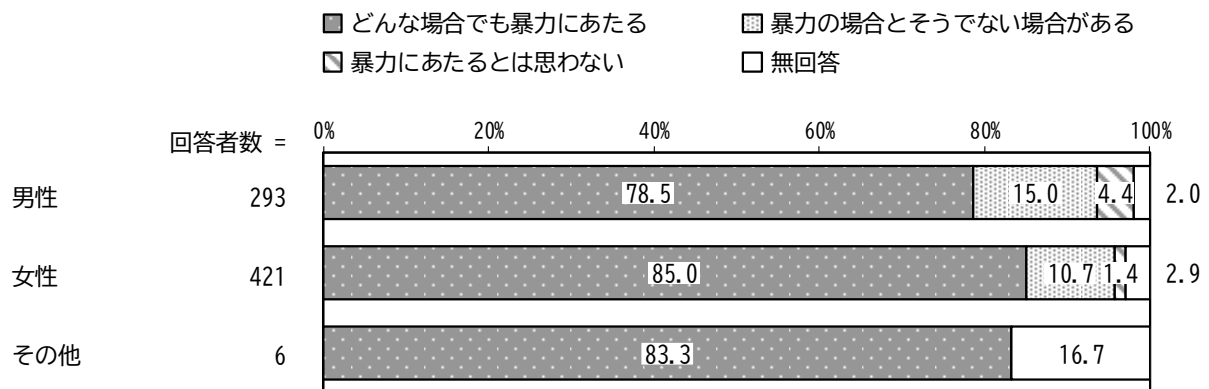
「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 82.3%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が 12.3%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が増加しています。一方、「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が減少しています。



【性別】

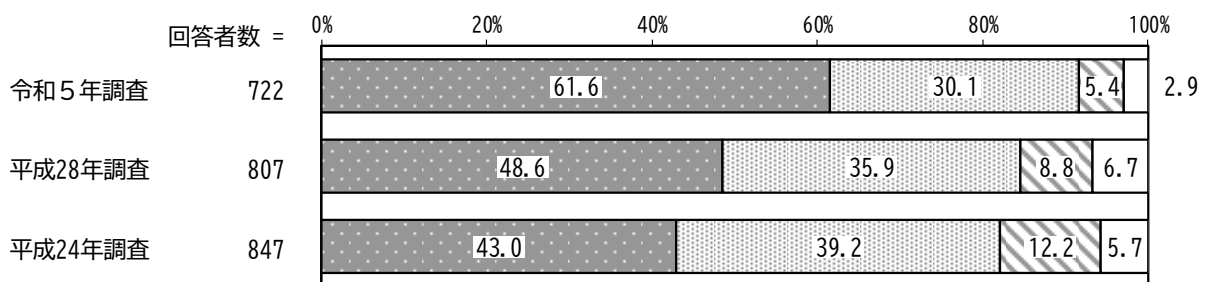
性別にみると、大きな差はみられません。



⑫何を言っても、長時間無視し続ける

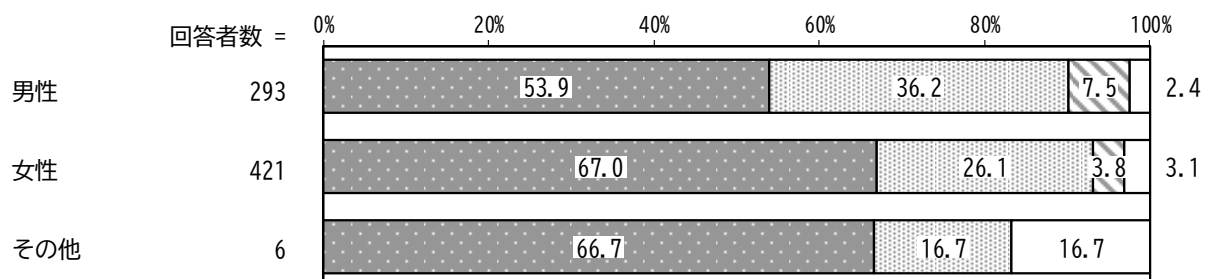
「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 61.6%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が 30.1%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が増加しています。一方、「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が減少しています。



【性別】

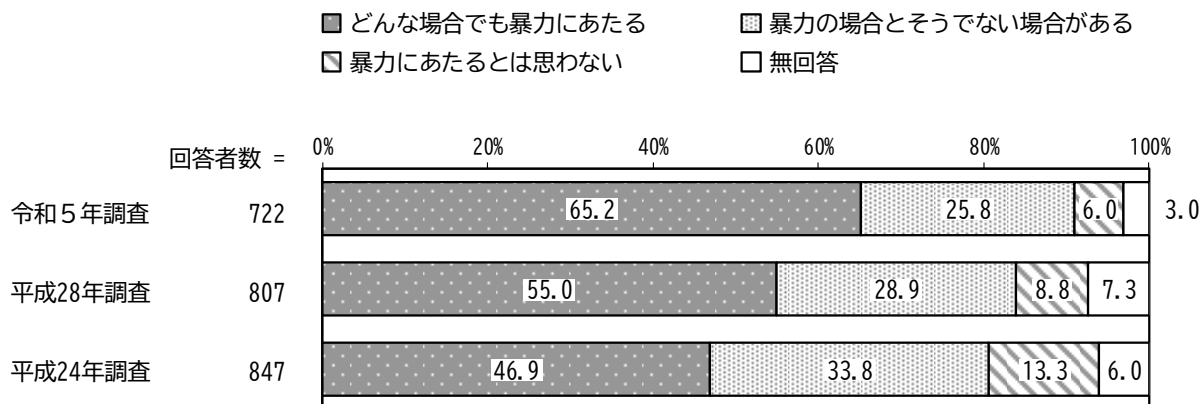
性別にみると、男性で「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が高くなっています。



⑬交友関係やメール、SNS、電話、郵便物を細かく監視する

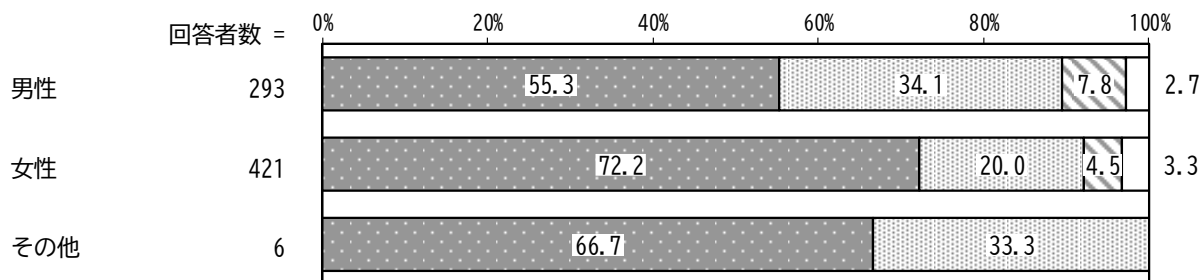
「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 65.2%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が 25.8%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が増加しています。



【性別】

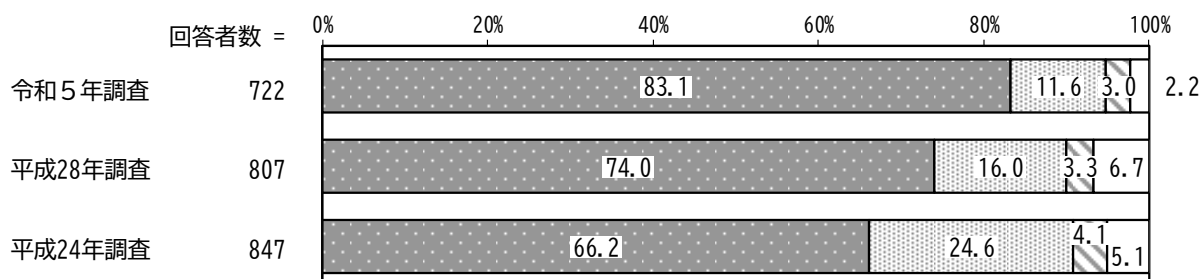
性別にみると、男性で「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が高くなっています。



⑭人権を否定するような暴言を言う

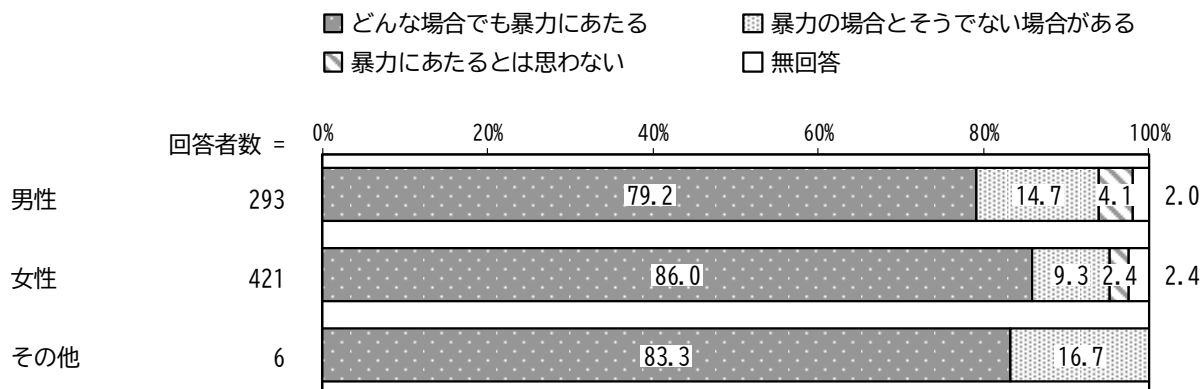
「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 83.1%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が 11.6%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が増加しています。



【性別】

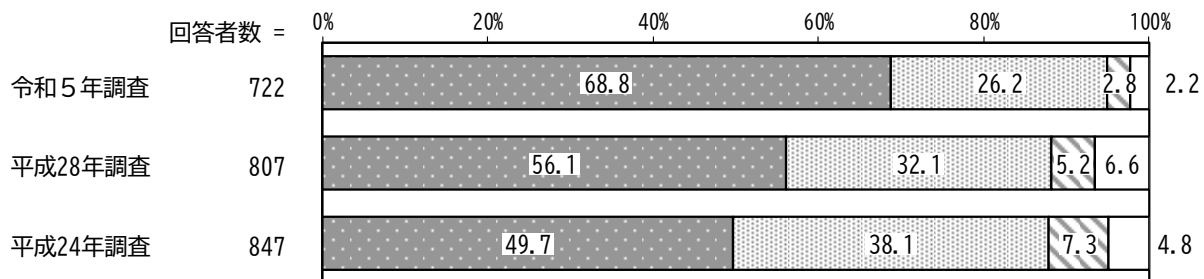
性別にみると、大きな差はみられません。



⑮大声でどなる

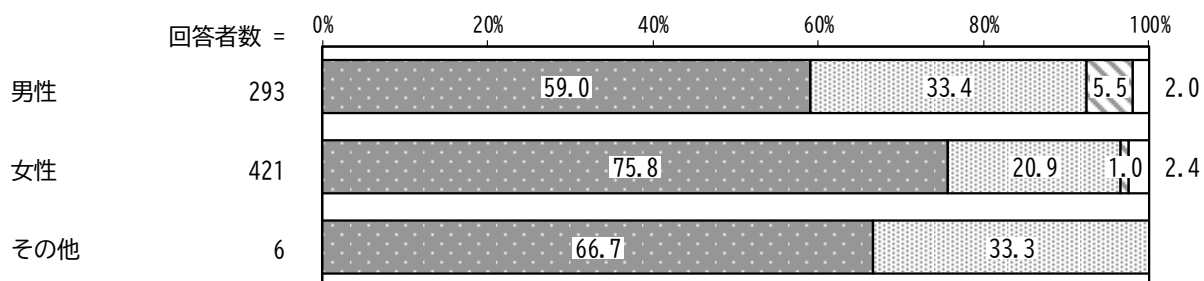
「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 68.8%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が 26.2%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が増加しています。一方、「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が減少しています。



【性別】

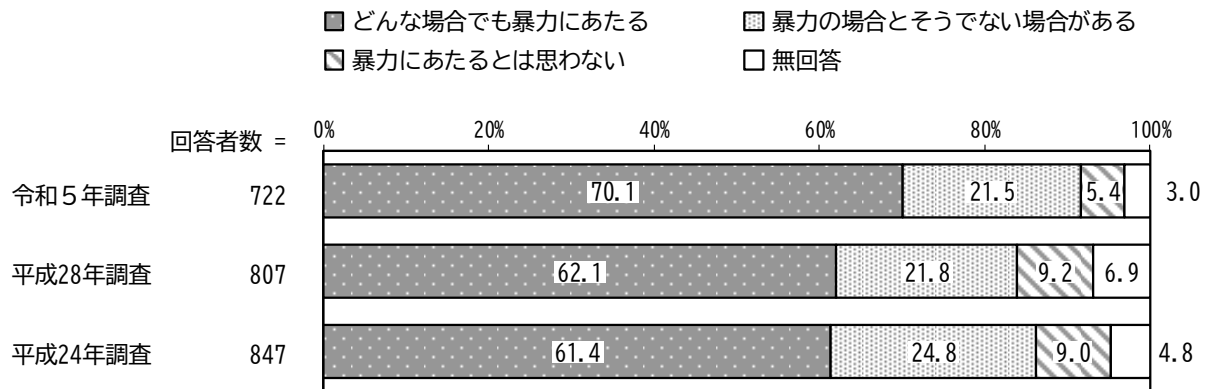
性別にみると、男性で「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が高くなっています。



⑩生活費を渡さない

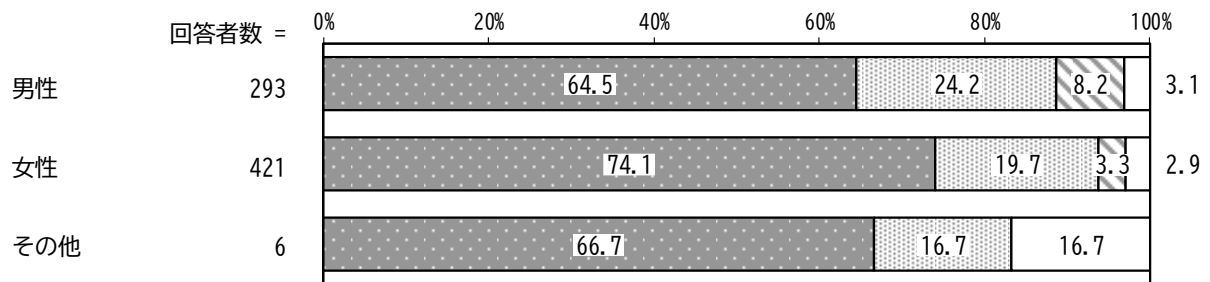
「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が70.1%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が21.5%となっています。

平成28年調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が増加しています。



【性別】

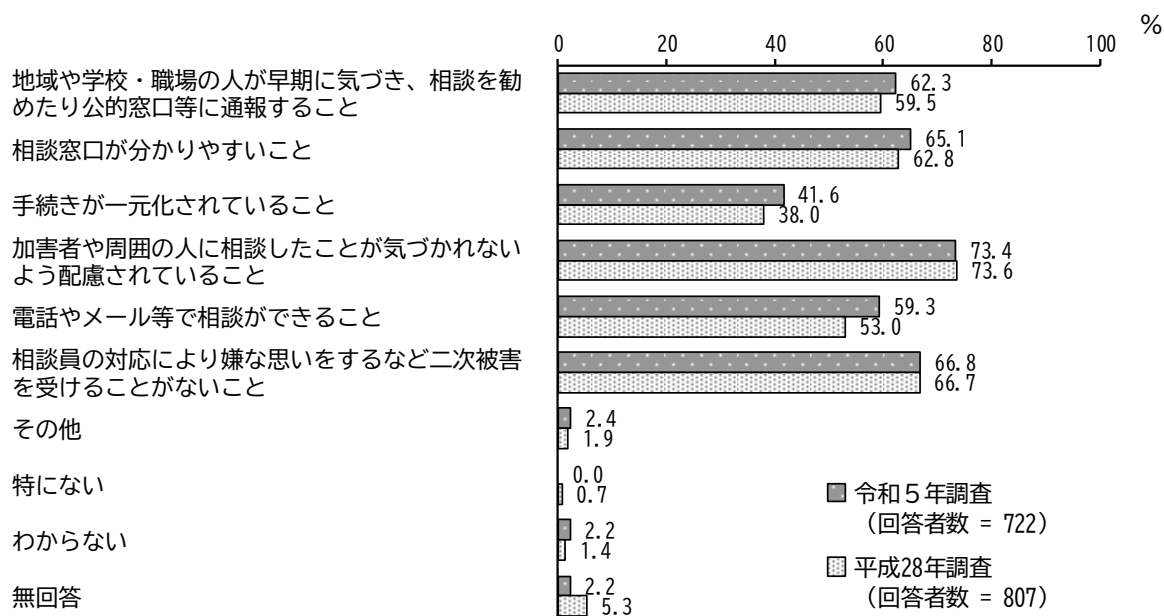
性別にみると、大きな差はみられません。



問 34 DV の被害発見や相談しやすい環境をつくるには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものはすべてに○）

「加害者や周囲の人に相談したことが気づかれないよう配慮されていること」の割合が 73.4%と最も高く、次いで「相談員の対応により嫌な思いをするなど二次被害を受けることがないこと」の割合が 66.8%、「相談窓口が分かりやすいこと」の割合が 65.1%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「電話やメール等で相談ができること」の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	地域や学校・職場の 人が早期に気づき、 相談を勧めたり公 的窓口等に通報す ること	相談窓口が分か りやすいこと	手続きが一元化さ れていること	加害者や周囲の人 に相談したことが 気づかれないよう 配慮されているこ と	電話やメール等で 相談ができること
全 体	722	62.3	65.1	41.6	73.4	59.3
男性	293	60.8	60.8	38.2	70.6	59.4
女性	421	63.4	67.7	43.5	75.3	59.6
その他	6	50.0	100.0	66.7	66.7	33.3

区分	相談員の対応によ り嫌な思いをする など二次被害を受 けることがないこ と	その他	特 に ない	わ か ら ない	無 回 答
全 体	66.8	2.4	—	2.2	2.2
男性	60.1	2.4	—	2.7	2.4
女性	71.0	2.4	—	1.9	2.1
その他	83.3	—	—	—	—

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性 20 歳代で「手続きが一元化されていること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	地域や学校・職場の 人が早期に気づき、 相談を勧めたり公 的窓口等に通報す ること	相談窓口が分か りやすいこと	手続きが一元化さ れていること	加害者や周囲の人 に相談したことが 気づかれないう と配慮されているこ と	電話やメール等で 相談ができること
全 体	722	62.3	65.1	41.6	73.4	59.3
男性 18・19 歳	4	25.0	25.0	50.0	50.0	25.0
20 歳代	20	60.0	65.0	45.0	70.0	60.0
30 歳代	22	72.7	54.5	50.0	72.7	68.2
40 歳代	51	51.0	62.7	37.3	72.5	56.9
50 歳代	83	53.0	63.9	36.1	69.9	57.8
60 歳代	52	61.5	53.8	38.5	65.4	51.9
70 歳以上	61	77.0	63.9	34.4	75.4	68.9
女性 18・19 歳	—	—	—	—	—	—
20 歳代	24	62.5	62.5	58.3	70.8	58.3
30 歳代	60	60.0	58.3	45.0	80.0	51.7
40 歳代	67	58.2	70.1	46.3	79.1	58.2
50 歳代	93	58.1	74.2	43.0	74.2	59.1
60 歳代	85	70.6	74.1	43.5	80.0	68.2
70 歳以上	92	68.5	60.9	37.0	67.4	58.7
その他 18・19 歳	—	—	—	—	—	—
20 歳代	1	—	100.0	—	100.0	—
30 歳代	3	66.7	100.0	100.0	66.7	33.3
40 歳代	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
50 歳代	—	—	—	—	—	—
60 歳代	1	—	100.0	—	—	—
70 歳以上	—	—	—	—	—	—

単位：％

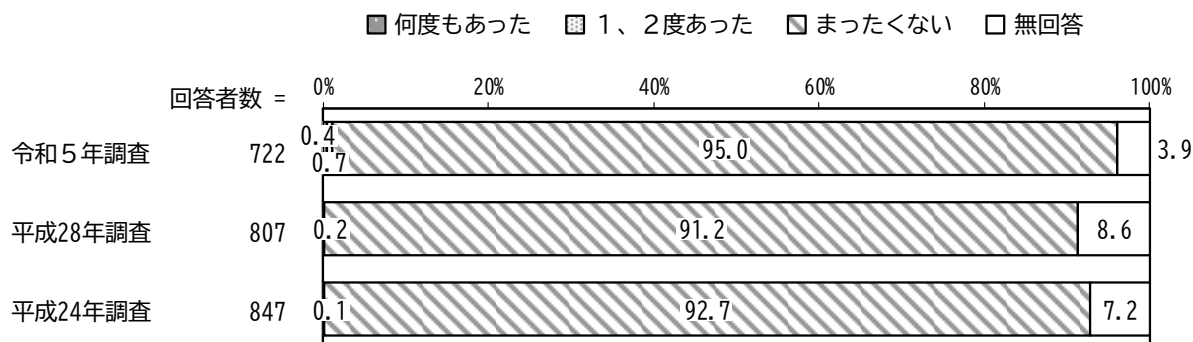
区分	相談員の対応により 二次被害を受ける ことのないこ と	その他	特 に ない	わ か ら ない	無 回 答
全 体	66.8	2.4	—	2.2	2.2
男性 18・19 歳	50.0	—	—	25.0	25.0
20 歳代	65.0	5.0	—	5.0	—
30 歳代	63.6	9.1	—	—	4.5
40 歳代	58.8	2.0	—	—	—
50 歳代	53.0	2.4	—	6.0	2.4
60 歳代	73.1	1.9	—	1.9	1.9
70 歳以上	57.4	—	—	—	3.3
女性 18・19 歳	—	—	—	—	—
20 歳代	79.2	4.2	—	4.2	—
30 歳代	61.7	5.0	—	1.7	—
40 歳代	68.7	4.5	—	3.0	3.0
50 歳代	71.0	1.1	—	3.2	2.2
60 歳代	76.5	2.4	—	—	—
70 歳以上	71.7	—	—	1.1	5.4
その他 18・19 歳	—	—	—	—	—
20 歳代	100.0	—	—	—	—
30 歳代	100.0	—	—	—	—
40 歳代	100.0	—	—	—	—
50 歳代	—	—	—	—	—
60 歳代	—	—	—	—	—
70 歳以上	—	—	—	—	—

(前ページの表 続き)

問 35 あなたは、これまでに配偶者（事実婚や別居中、離別・死別を含む）やパートナー・恋人から、次のようなことをされたことがありますか。
（それぞれの項目について1つに○）

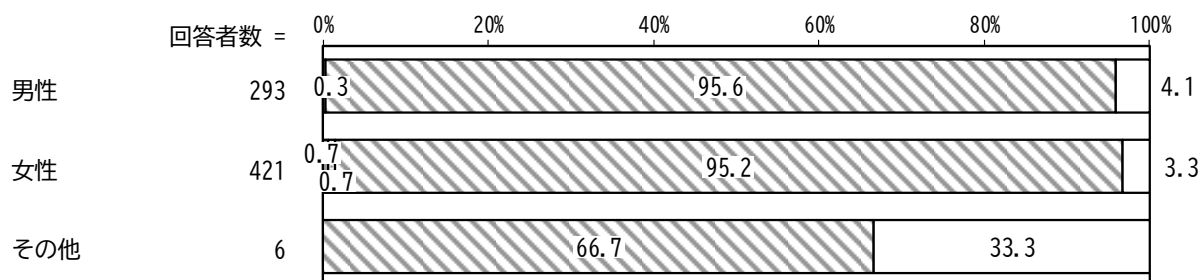
①骨折させる

「まったくない」の割合が95.0%と最も高くなっています。
平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



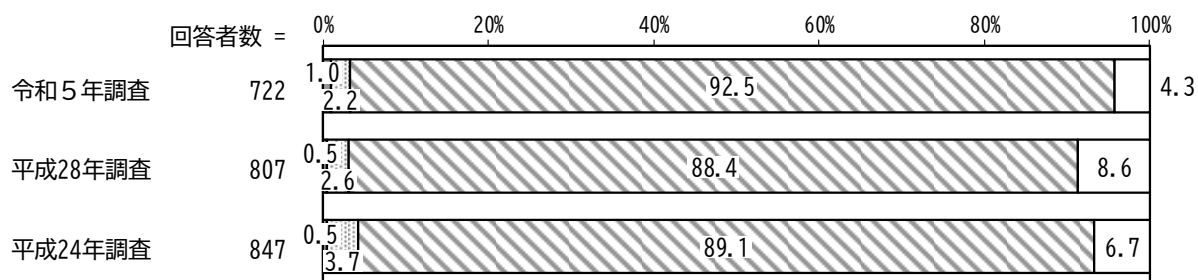
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



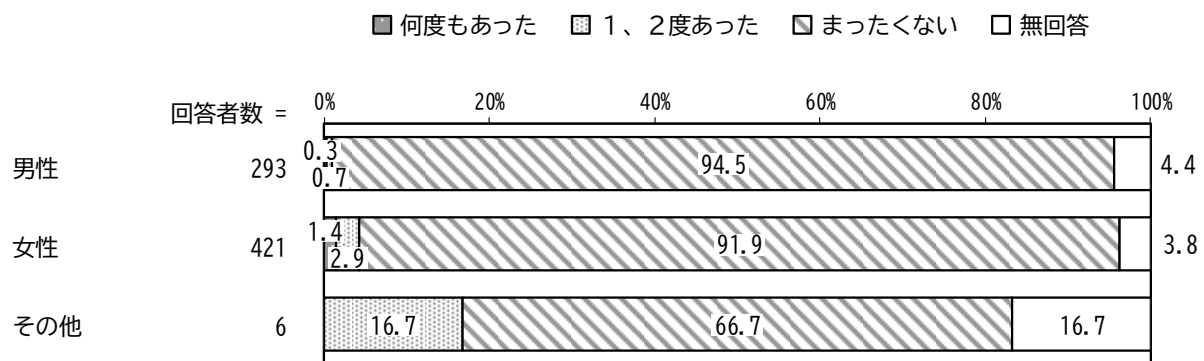
②打ち身や切り傷などのケガをさせる

「まったくない」の割合が92.5%と最も高くなっています。
平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

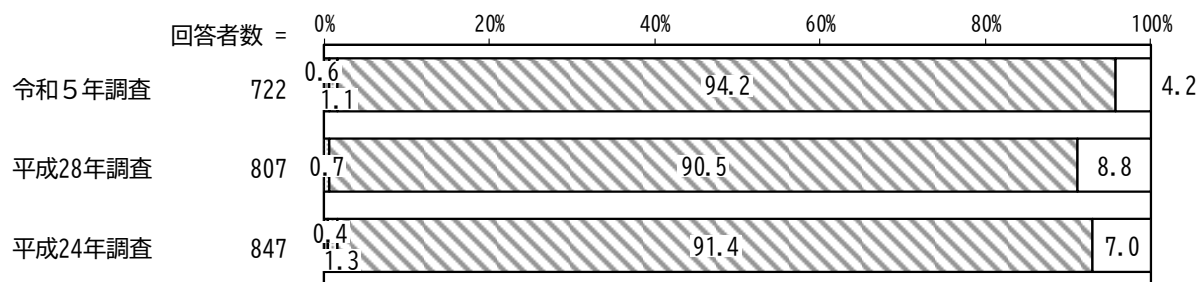
性別にみると、大きな差はみられません。



③刃物などを突きつけて、おどす

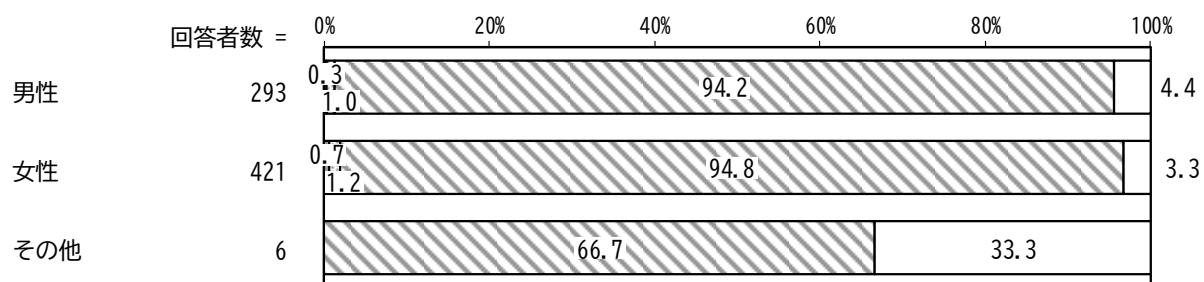
「まったくくない」の割合が94.2%と最も高くなっています。

平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

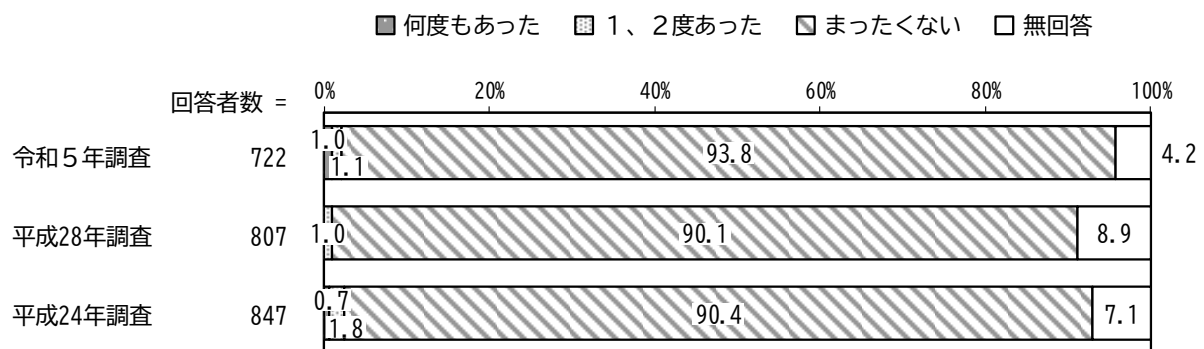
性別にみると、大きな差はみられません。



④身体を傷つける可能性のある物で、なぐる

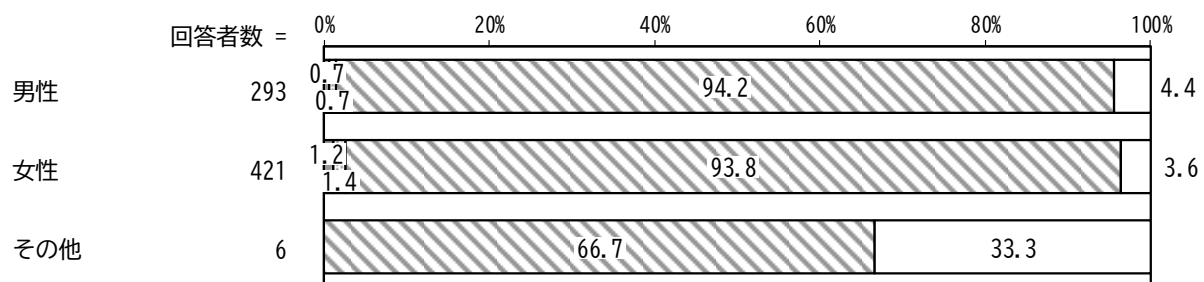
「まったくない」の割合が93.8%と最も高くなっています。

平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

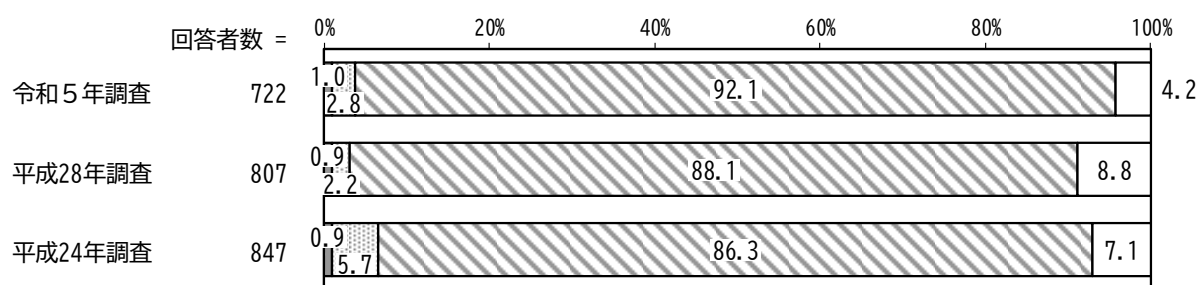
性別にみると、大きな差はみられません。



⑤突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする

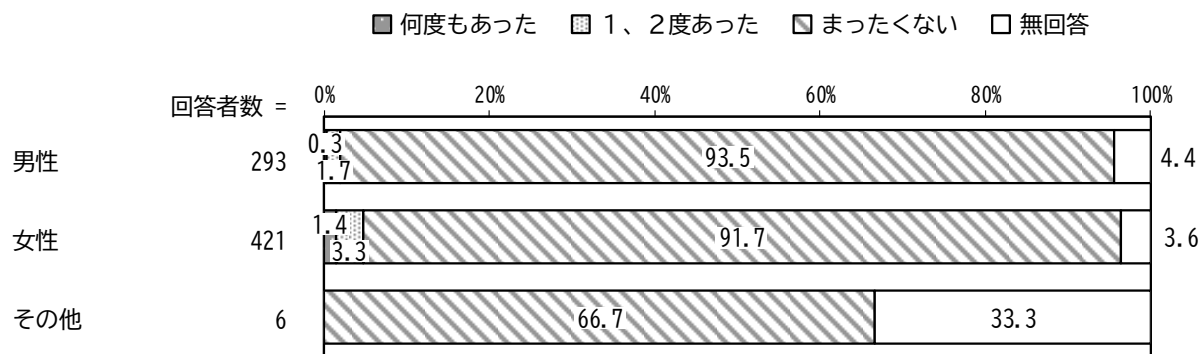
「まったくない」の割合が92.1%と最も高くなっています。

平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

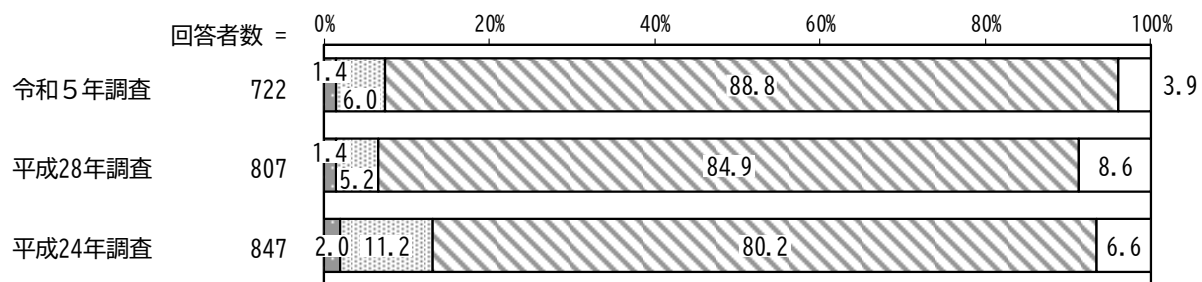
性別にみると、大きな差はみられません。



⑥平手でぶつ、足でける

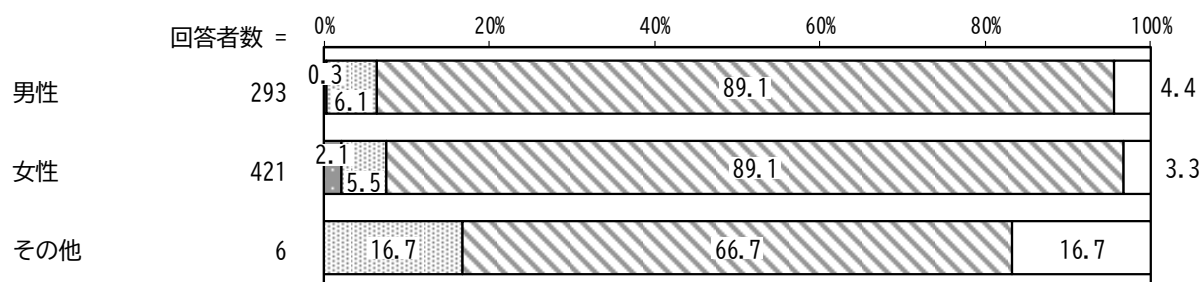
「まったくない」の割合が88.8%と最も高くなっています。

平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

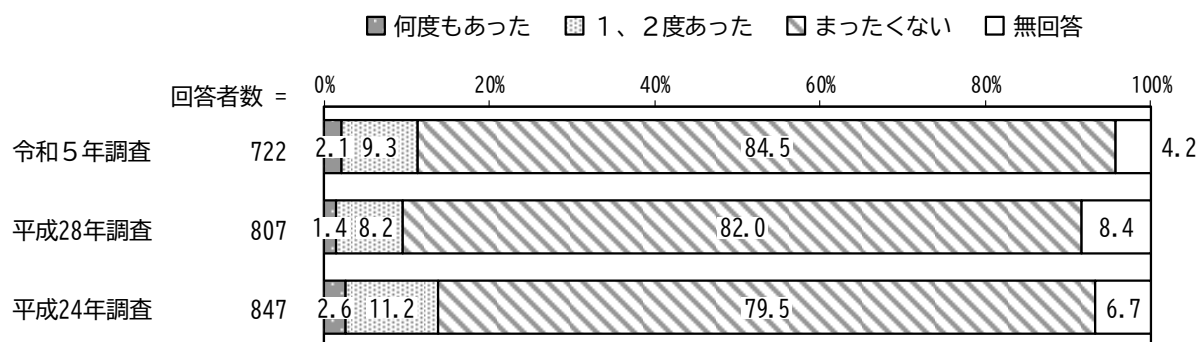
性別にみると、大きな差はみられません。



⑦物を投げつける

「まったくない」の割合が84.5%と最も高くなっています。

平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

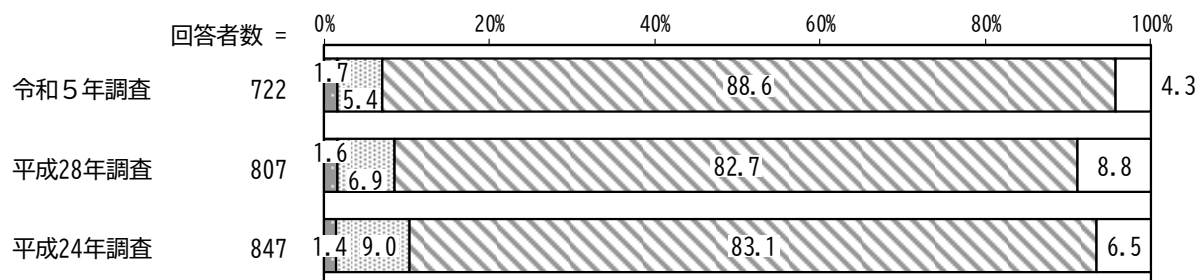
性別にみると、大きな差はみられません。



⑧なぐるふりをして、おどす

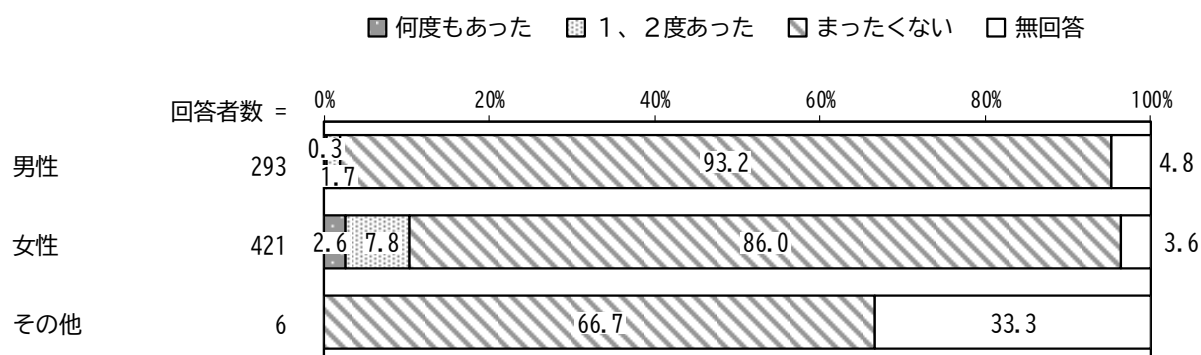
「まったくない」の割合が88.6%と最も高くなっています。

平成28年調査と比較すると、「まったくない」の割合が増加しています。



【性別】

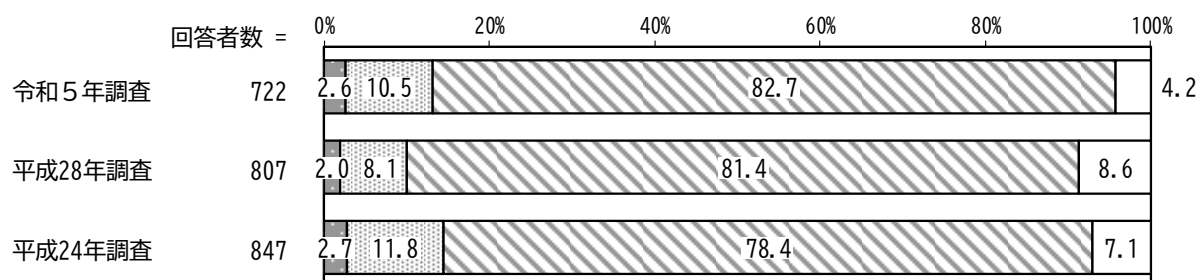
性別にみると、女性で「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた＜あった＞の割合が高くなっています。



⑨ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす

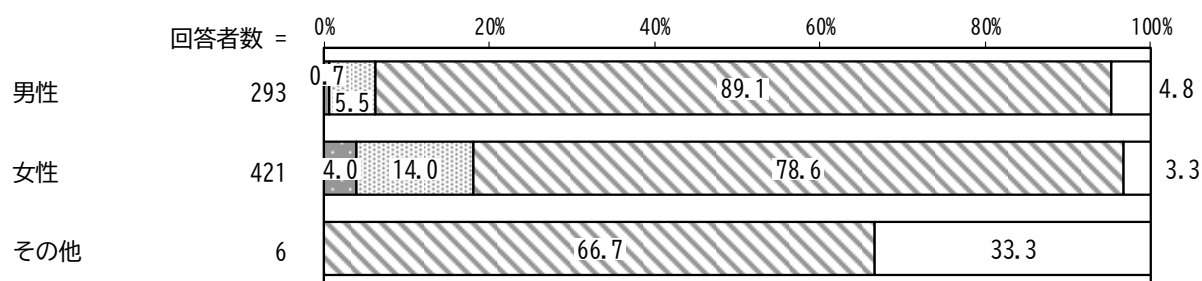
「まったくくない」の割合が82.7%と最も高くなっています。

平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

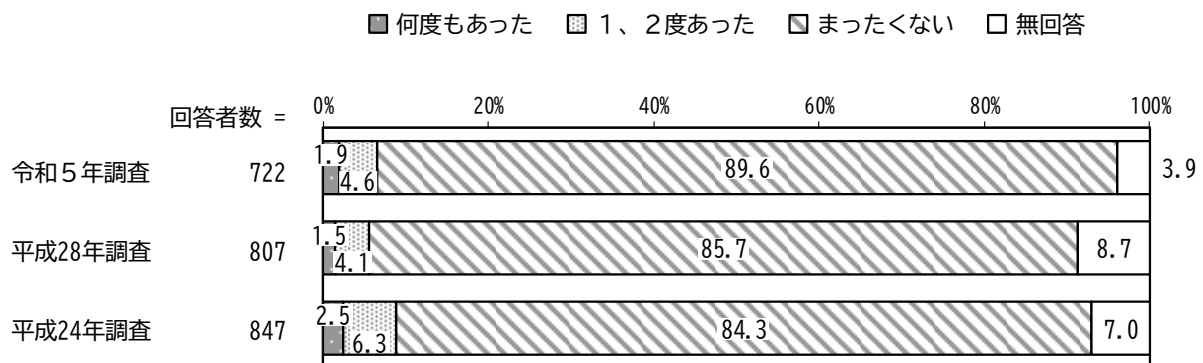
性別にみると、男性で「まったくくない」の割合が、女性で＜あった＞の割合が高くなっています。



⑩いやがるのに、性的な行為を強要する

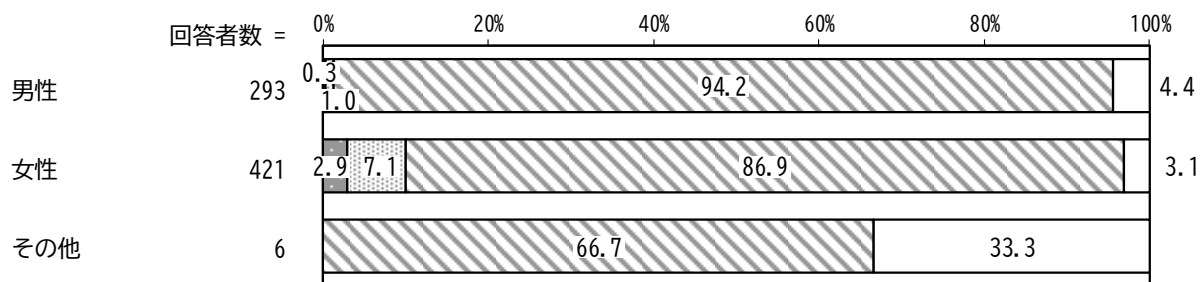
「まったくない」の割合が89.6%と最も高くなっています。

平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

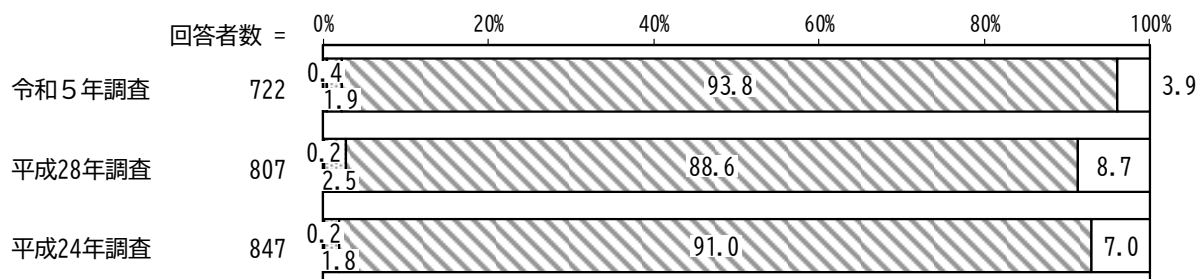
性別にみると、女性で<あった>の割合が高くなっています。



⑪見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

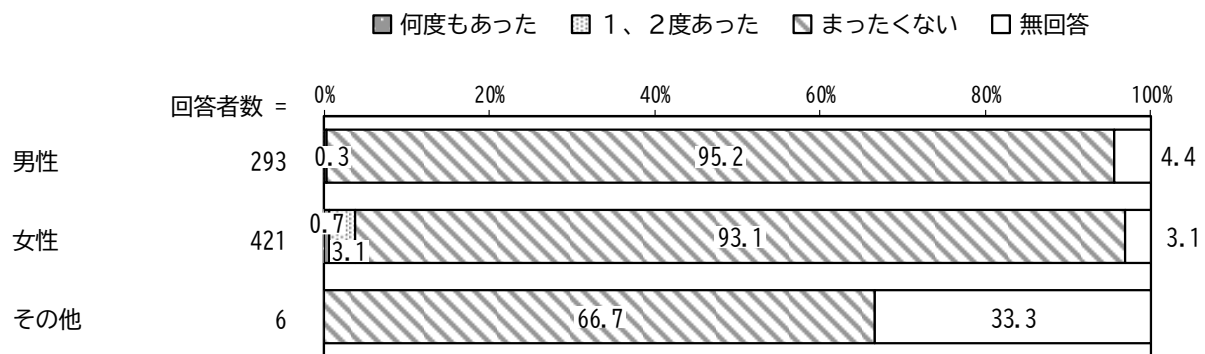
「まったくない」の割合が93.8%と最も高くなっています。

平成28年調査と比較すると、「まったくない」の割合が増加しています。



【性別】

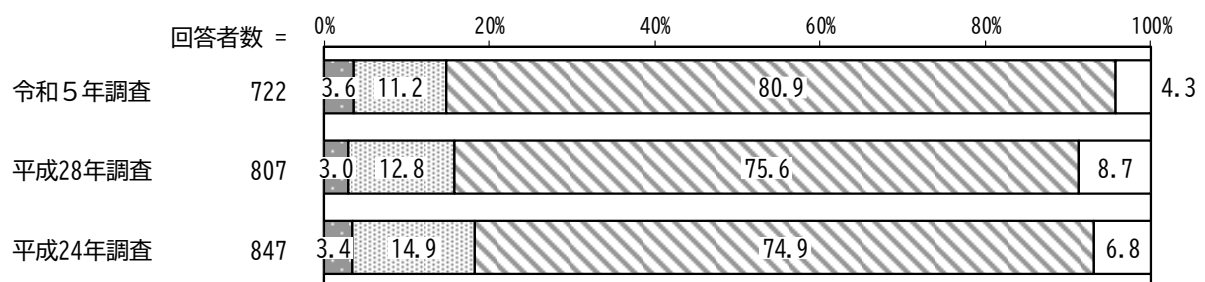
性別にみると、大きな差はみられません。



⑫何を言っても、長時間無視し続ける

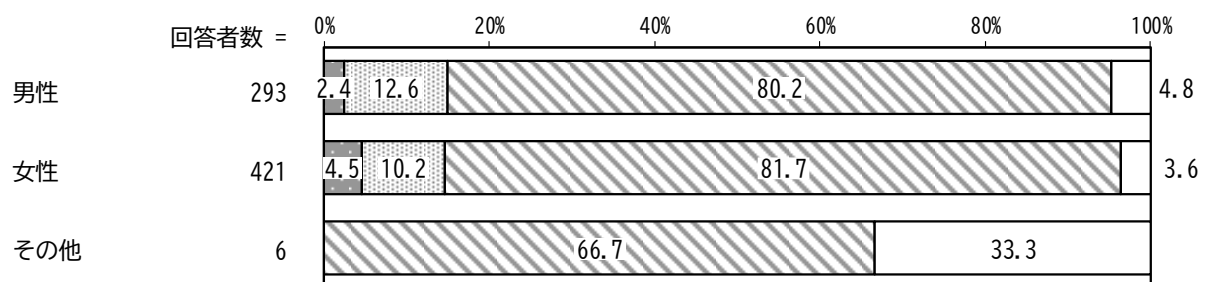
「まったくくない」の割合が80.9%と最も高くなっています。

平成28年調査と比較すると、「まったくくない」の割合が増加しています。



【性別】

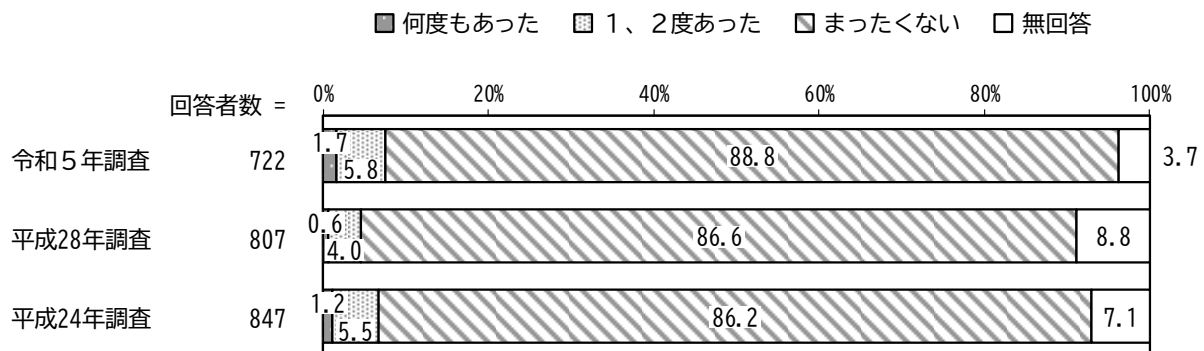
性別にみると、大きな差はみられません。



⑬交友関係やメール、SNS、電話、郵便物を細かく監視する

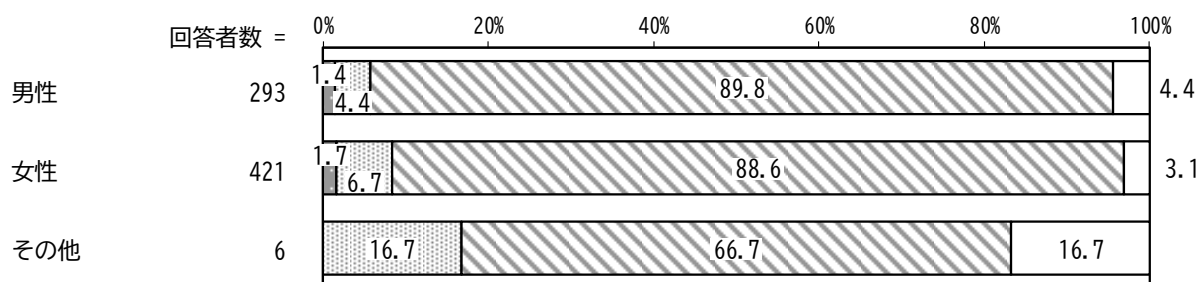
「まったくない」の割合が88.8%と最も高くなっています。

平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

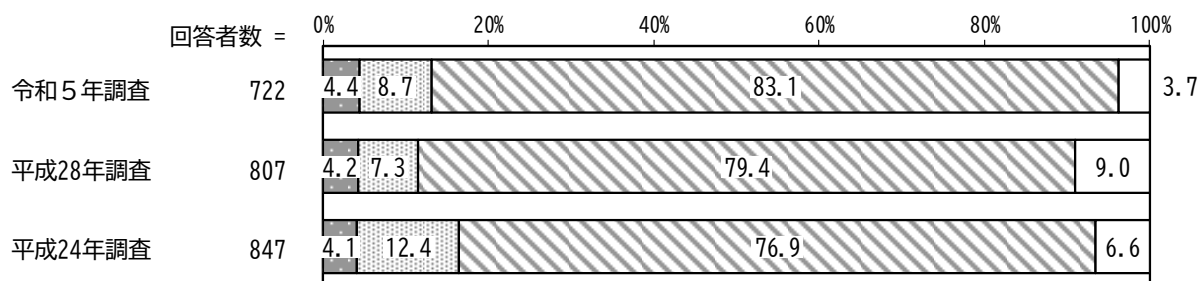
性別にみると、大きな差はみられません。



⑭人権を否定するような暴言を言う

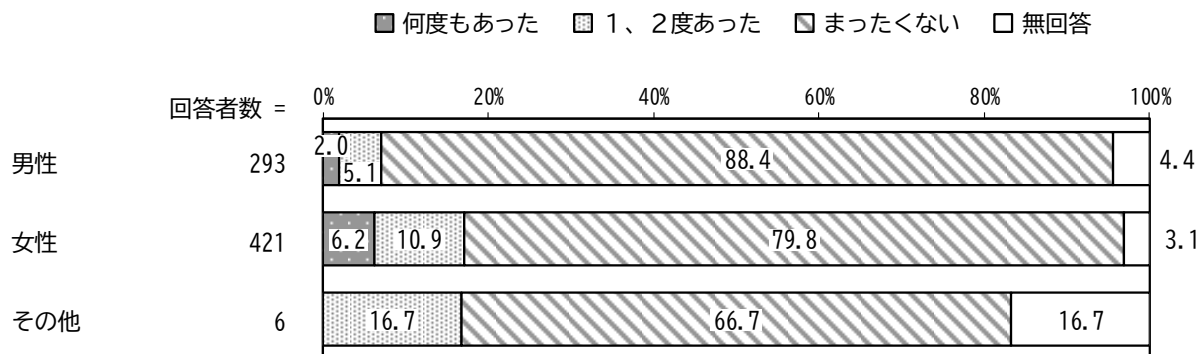
「まったくない」の割合が83.1%と最も高くなっています。

平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



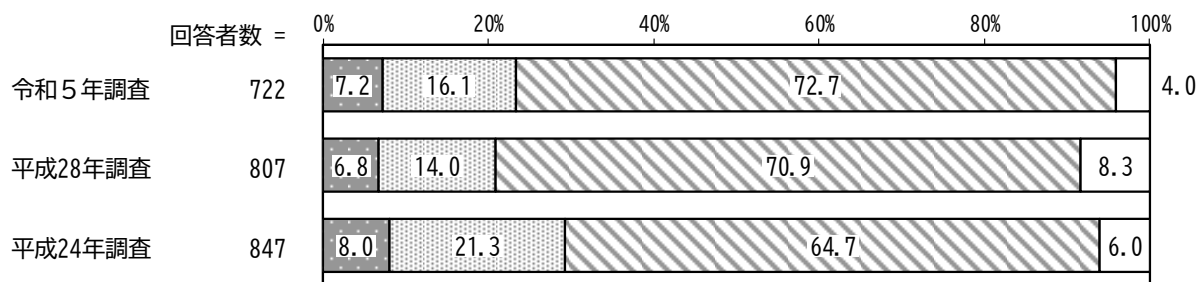
【性別】

性別にみると、男性で「まったくない」の割合が、女性で<あった>の割合が高くなっています。



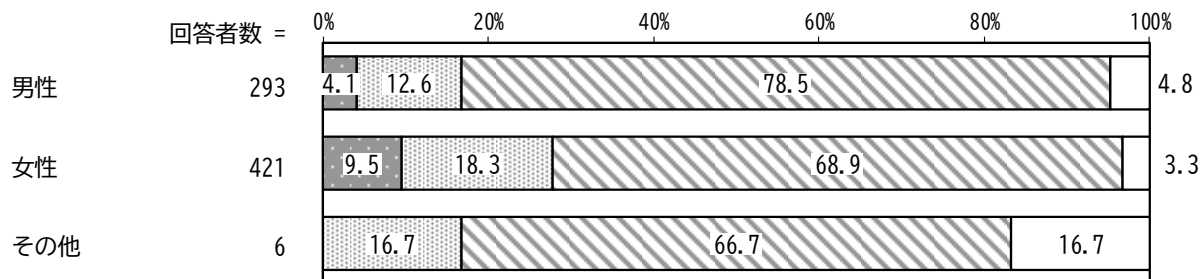
⑮大声でどなる

「まったくない」の割合が72.7%と最も高くなっています。
平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



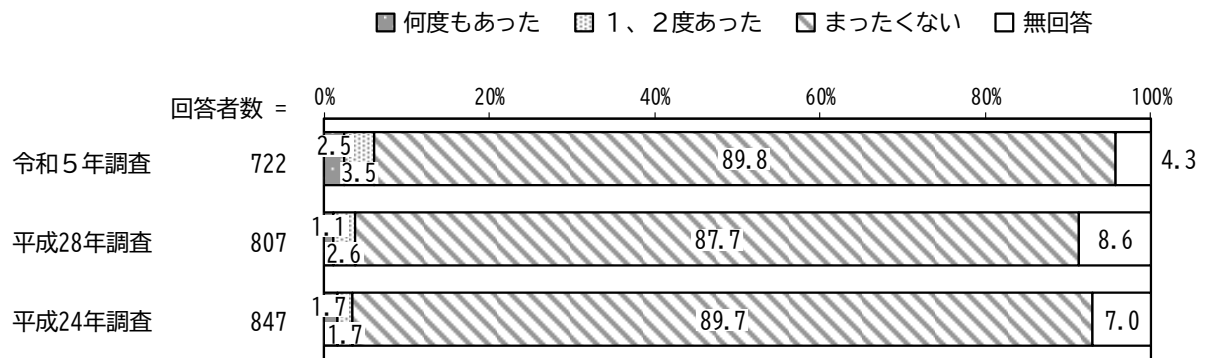
【性別】

性別にみると、男性で「まったくない」の割合が、女性で<あった>の割合が高くなっています。



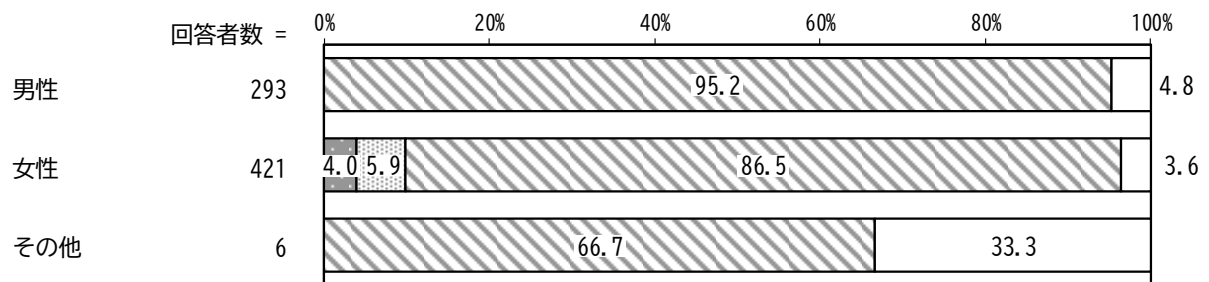
⑩生活費を渡さない

「まったくない」の割合が89.8%と最も高くなっています。
平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

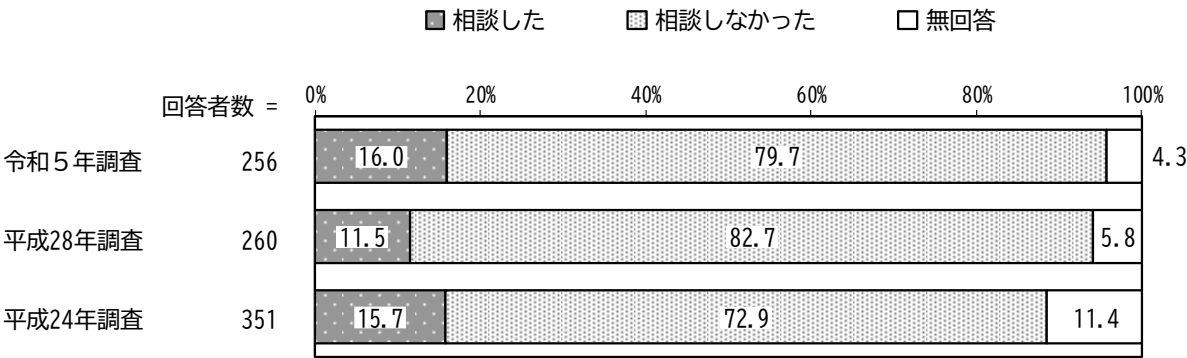
性別にみると、男性で「まったくない」の割合が、女性で<あった>の割合が高くなっています。



問 35 のいずれかの項目で「1. 何度もあった」または「2. 1、2度あった」とお答えの方のみ

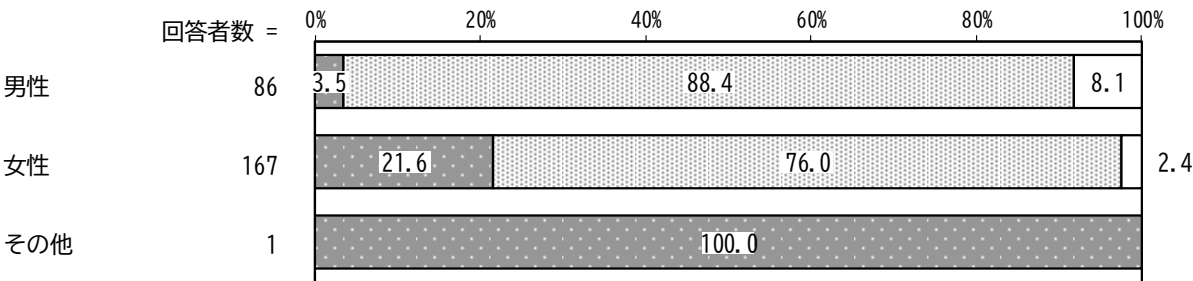
問 35－1 その行為を受けたことをどなたか（どこか）に相談しましたか。
（1 つに○）

「相談した」の割合が 16.0%、「相談しなかった」の割合が 79.7%となっています。
平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



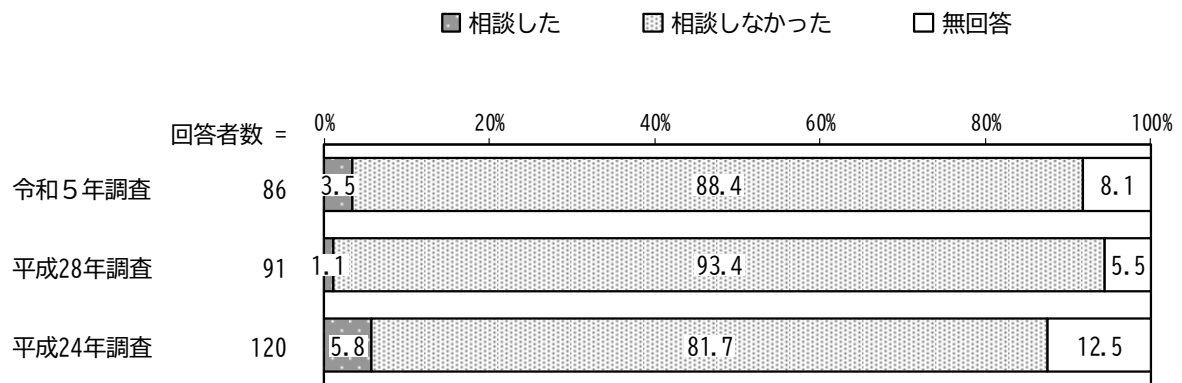
【性別】

性別にみると、男性で「相談しなかった」の割合が高くなっています。



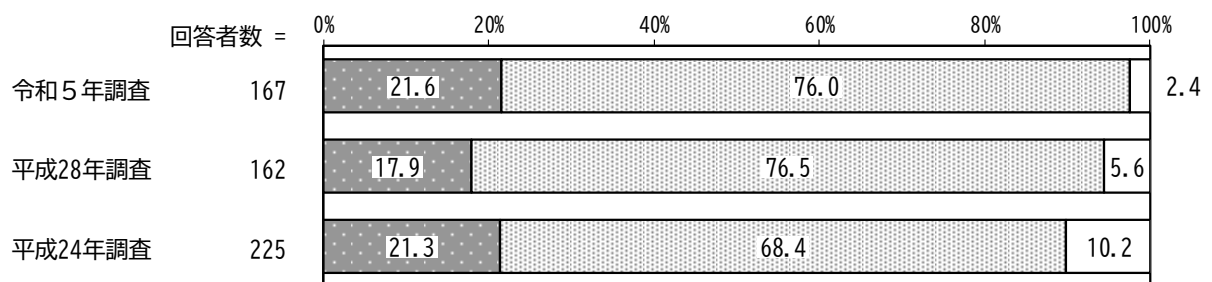
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【経年比較・女性】

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。

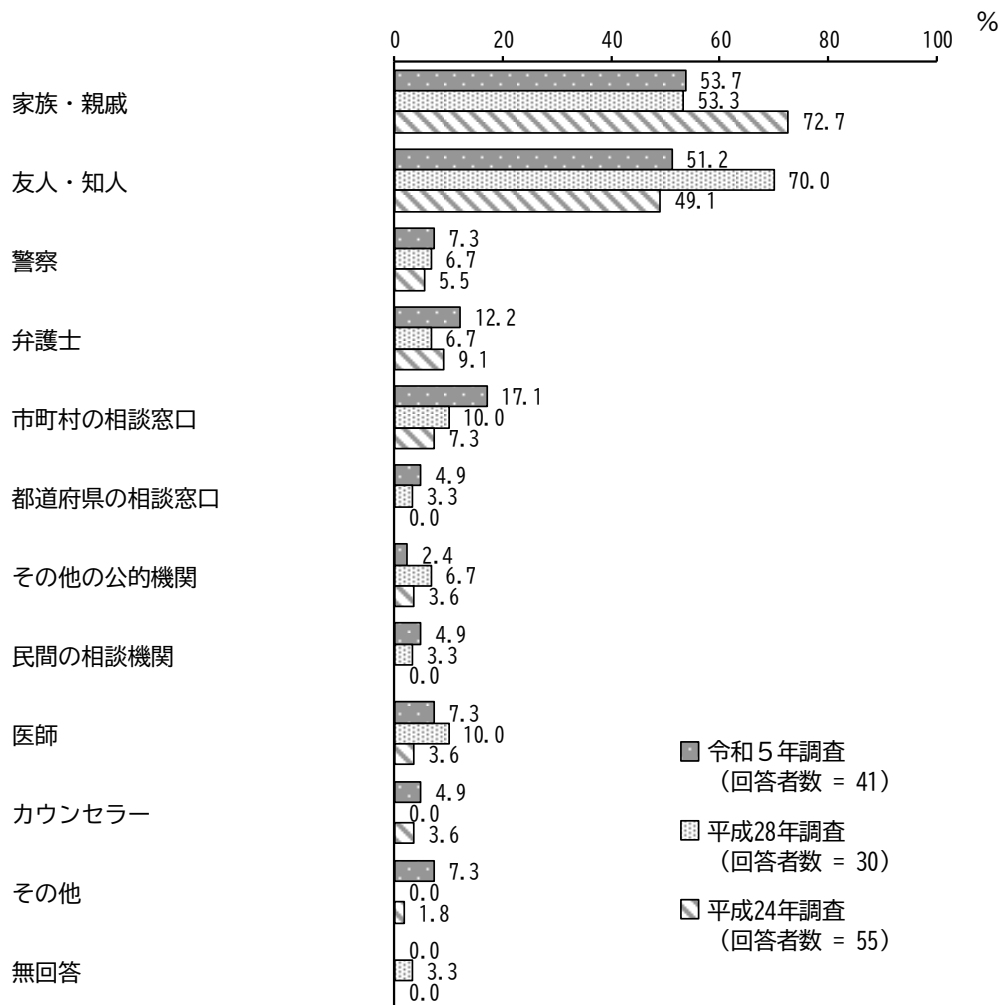


問 35－1 で「1. 相談した」とお答えの方のみ

問 35－2 どなた（どこ）に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

「家族・親戚」の割合が 53.7%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が 51.2%、「市町村の相談窓口」の割合が 17.1%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「弁護士」「市町村の相談窓口」の割合が増加しています。一方、「友人・知人」の割合が減少しています。



【性別】

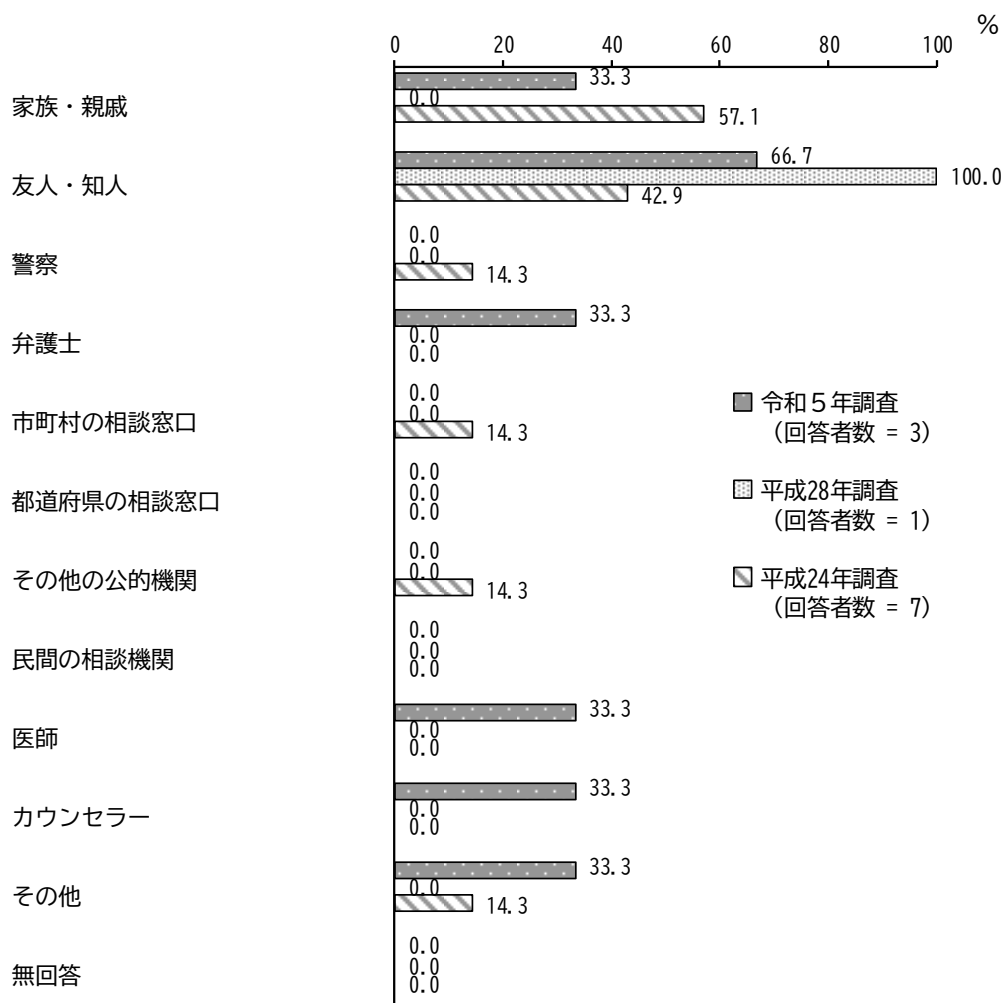
性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家族・親戚	友人・知人	警察	弁護士	市町村の相談窓口	都道府県の相談窓口	その他の公的機関	民間の相談機関	医師	カウンセラー	その他	無回答
全 体	41	53.7	51.2	7.3	12.2	17.1	4.9	2.4	4.9	7.3	4.9	7.3	－
男性	3	33.3	66.7	－	33.3	－	－	－	－	33.3	33.3	33.3	－
女性	36	58.3	52.8	5.6	8.3	16.7	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	－
その他	1	－	－	100.0	100.0	100.0	100.0	－	100.0	100.0	－	－	－

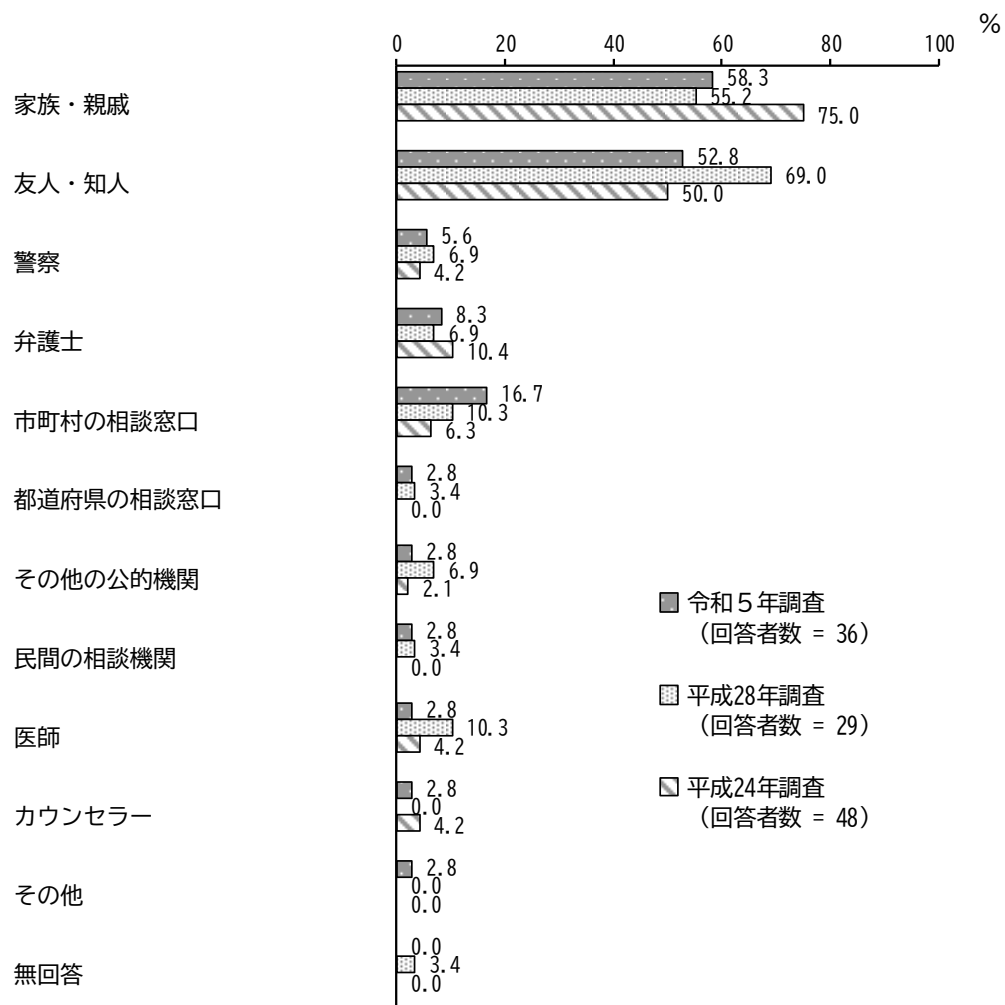
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「家族・親戚」「弁護士」「医師」「カウンセラー」の割合が増加しています。一方、「友人・知人」の割合が減少しています。



【経年比較・女性】

平成 28 年調査と比較すると、「市町村の相談窓口」の割合が増加しています。一方、「友人・知人」「医師」の割合が減少しています。

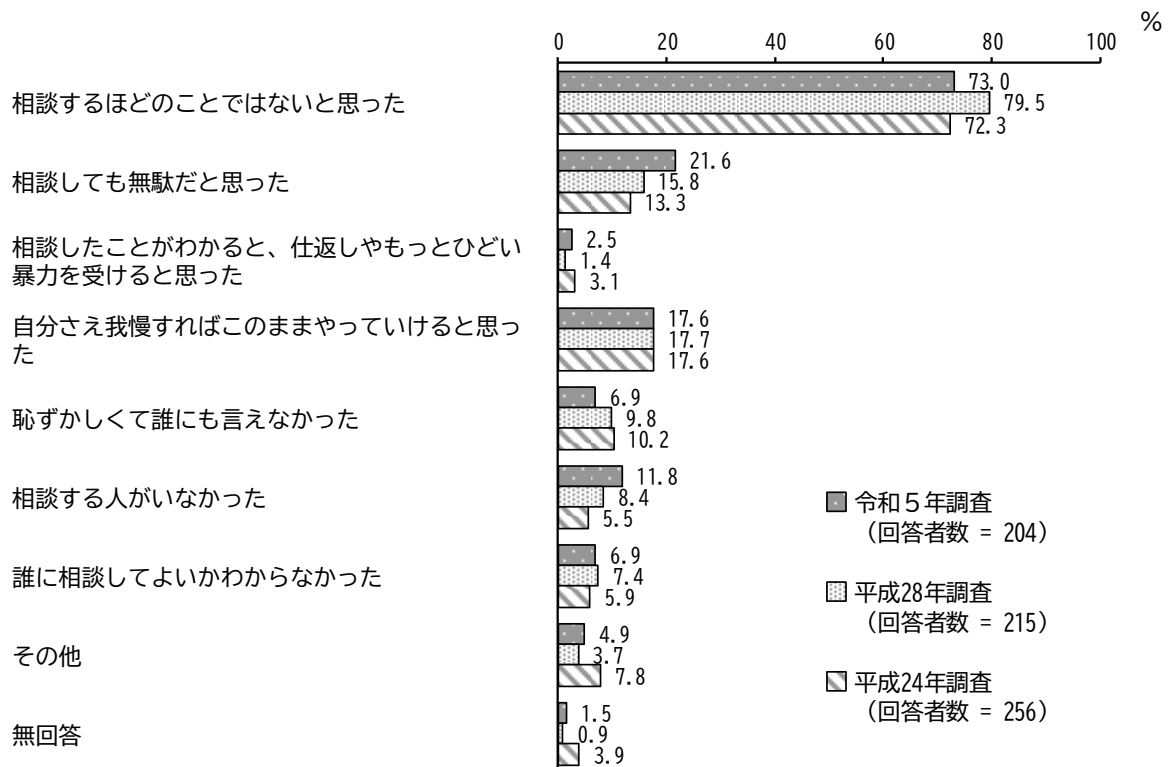


問 35－1 で「2. 相談しなかった」とお答えの方のみ

問 35－3 相談しなかったのはなぜですか。（あてはまるものはすべてに○）

「相談するほどのことではないと思った」の割合が 73.0%と最も高く、次いで「相談しても無駄だと思った」の割合が 21.6%、「自分さえ我慢すればこのままやっていけると思った」の割合が 17.6%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「相談しても無駄だと思った」の割合が増加しています。一方、「相談するほどのことではないと思った」の割合が減少しています。



【性別】

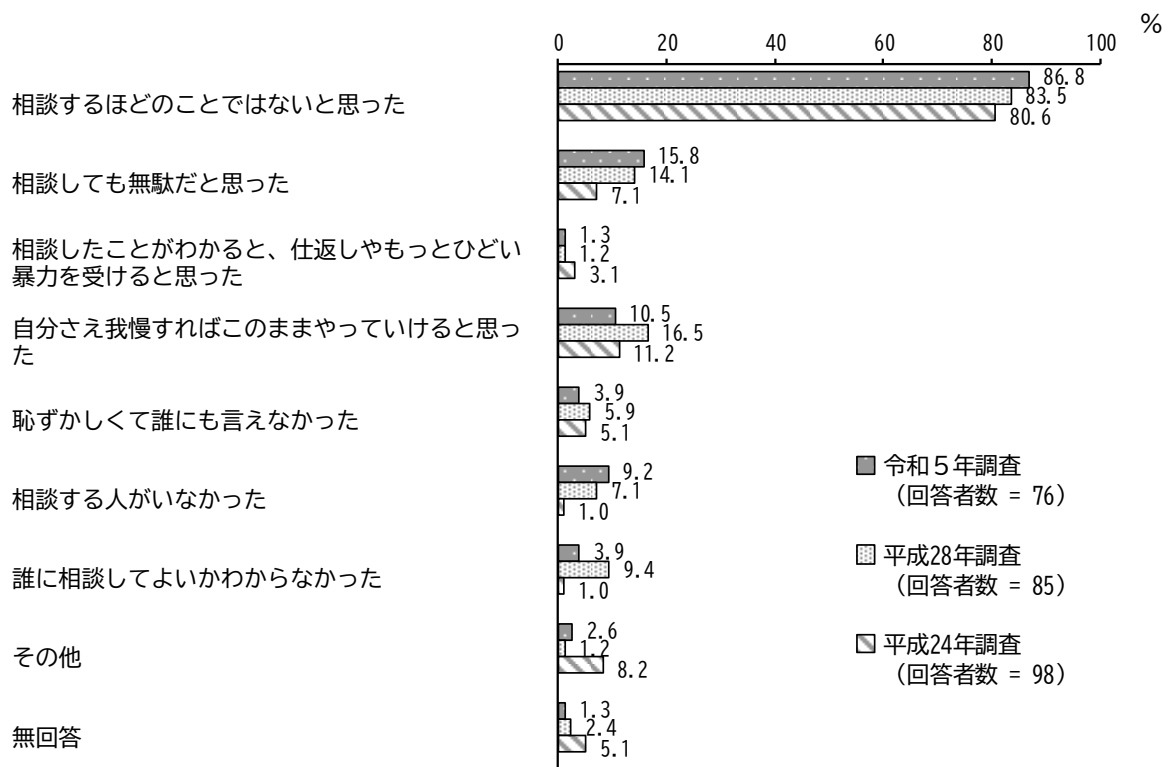
性別にみると、男性で「相談するほどのことではないと思った」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	相談するほどのことではない と思った	相談しても無駄だと思っ た	相談したことがわかると、 仕返しやもっとひどい暴 力を受けると思った	自分さえ我慢すればこの ままやっていけると思っ た	恥ずかしくて誰にも言え なかった	相談する人がいなかった	誰に相談してよいかわか らなかった	その他	無回 答
全 体	204	73.0	21.6	2.5	17.6	6.9	11.8	6.9	4.9	1.5
男性	76	86.8	15.8	1.3	10.5	3.9	9.2	3.9	2.6	1.3
女性	127	64.6	24.4	3.1	21.3	8.7	13.4	8.7	6.3	1.6
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

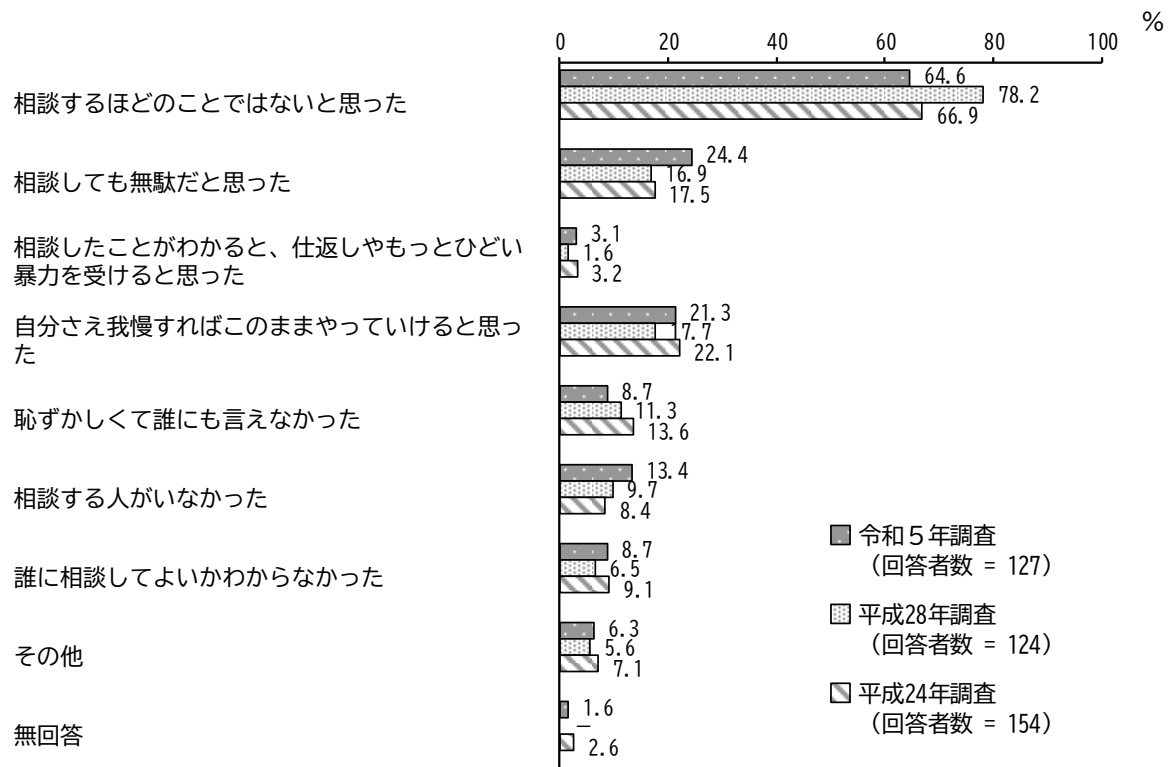
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「自分さえ我慢すればこのままやっていけると思った」「誰に相談してよいかわからなかった」の割合が減少しています。



【経年比較・女性】

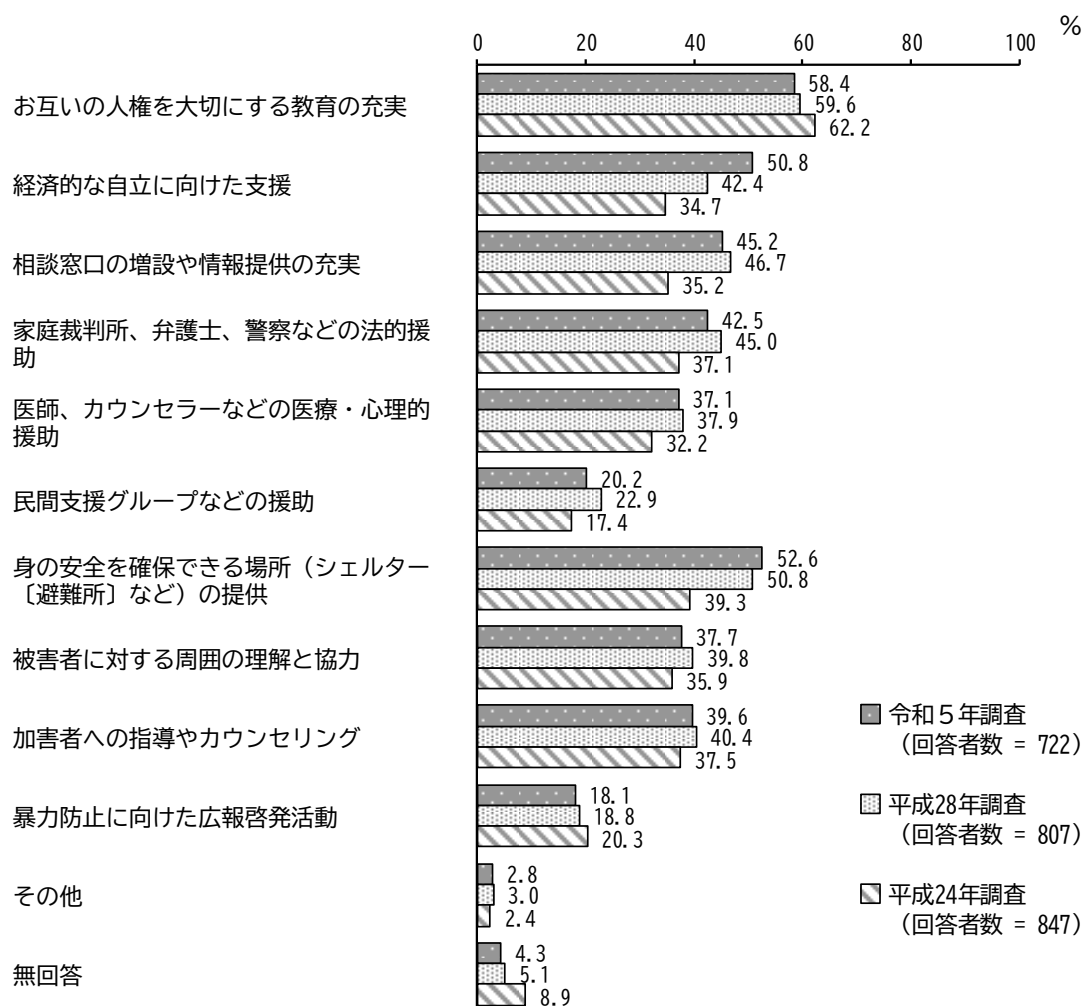
平成 28 年調査と比較すると、「相談しても無駄だと思った」の割合が増加しています。一方、「相談するほどのことではないと思った」の割合が減少しています。



問 36 配偶者（事実婚や別居中を含む）やパートナー・恋人における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。（あてはまるものはすべてに○）

「お互いの人権を大切にする教育の充実」の割合が 58.4%と最も高く、次いで「身の安全を確保できる場所（シェルター〔避難所〕など）の提供」の割合が 52.6%、「経済的な自立に向けた支援」の割合が 50.8%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「経済的な自立に向けた支援」の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、女性で「経済的な自立に向けた支援」の割合が高くなっています。

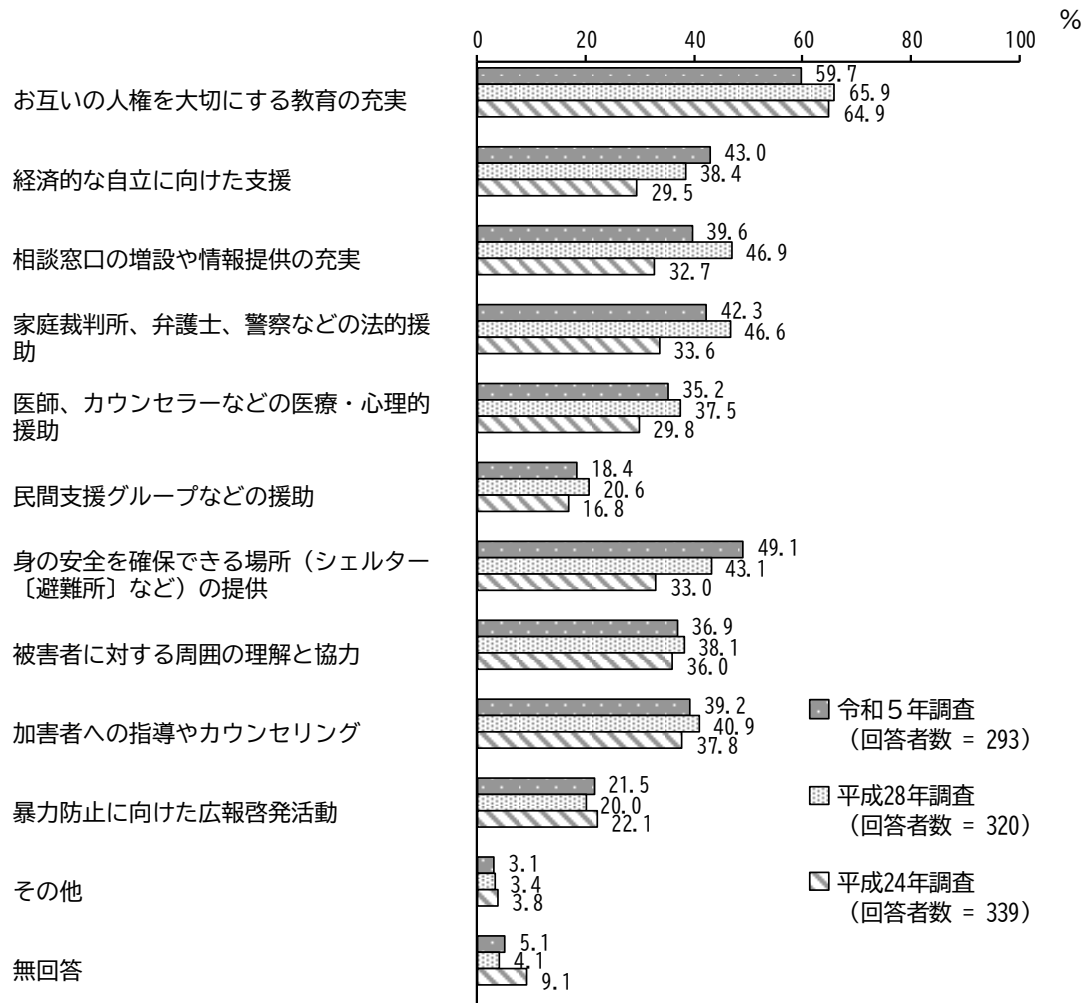
単位：％

区分	回答者数（件）	お互いの人権を大切にする教育の充実	経済的な自立に向けた支援	相談窓口の増設や情報提供の充実	家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助	医師、カウンセラーなどの医療・心理的援助	民間支援グループなどの援助
全 体	722	58.4	50.8	45.2	42.5	37.1	20.2
男性	293	59.7	43.0	39.6	42.3	35.2	18.4
女性	421	57.2	56.1	48.7	42.3	38.2	21.1
その他	6	83.3	66.7	83.3	66.7	50.0	33.3

区分	身の安全を確保できる場所（シェルター〔避難所〕など）の提供	被害者に対する周囲の理解と協力	加害者への指導やカウンセリング	暴力防止に向けた広報啓発活動	その他	無回答
全 体	52.6	37.7	39.6	18.1	2.8	4.3
男性	49.1	36.9	39.2	21.5	3.1	5.1
女性	54.6	38.2	39.7	15.9	2.6	3.6
その他	83.3	50.0	50.0	16.7	—	—

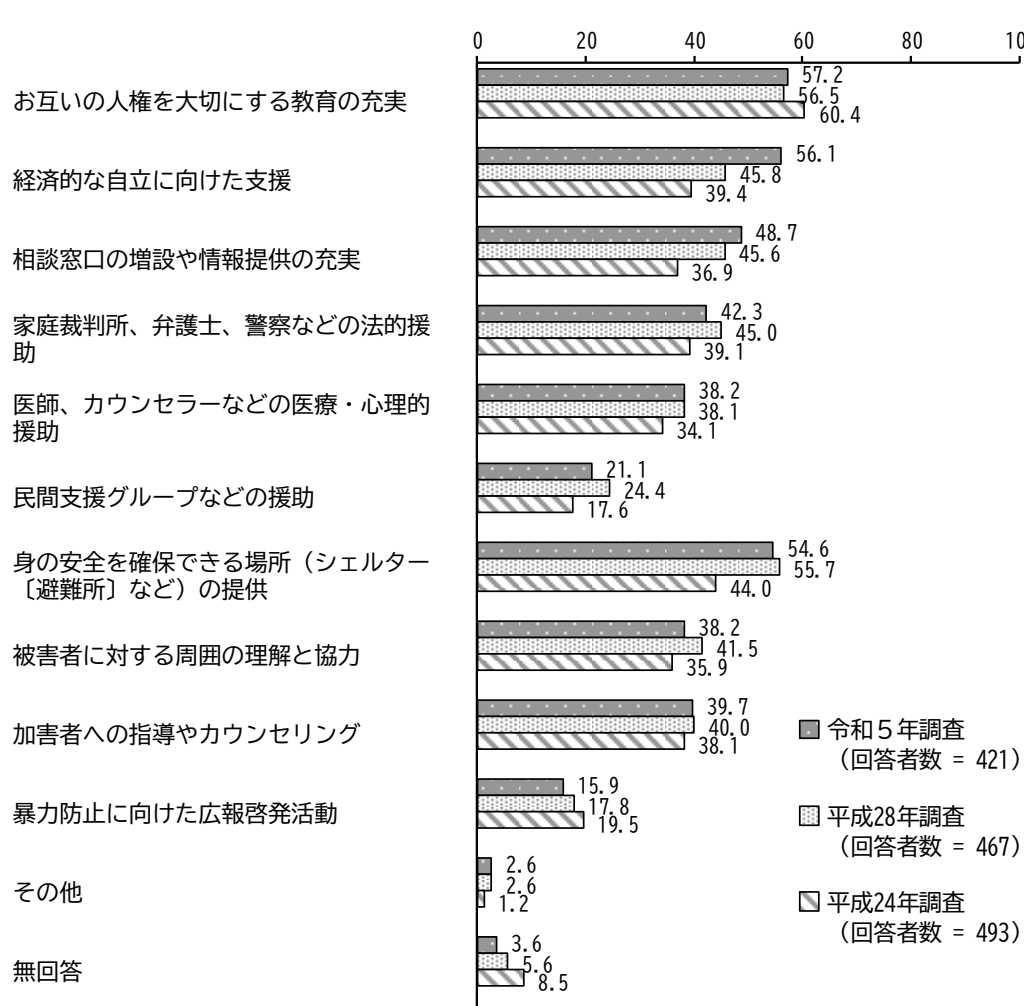
【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「身の安全を確保できる場所（シェルター〔避難所〕など）の提供」の割合が増加しています。一方、「お互いの人権を大切にする教育の充実」「相談窓口の増設や情報提供の充実」の割合が減少しています。



【経年比較・女性】

平成 28 年調査と比較すると、「経済的な自立に向けた支援」の割合が増加しています。

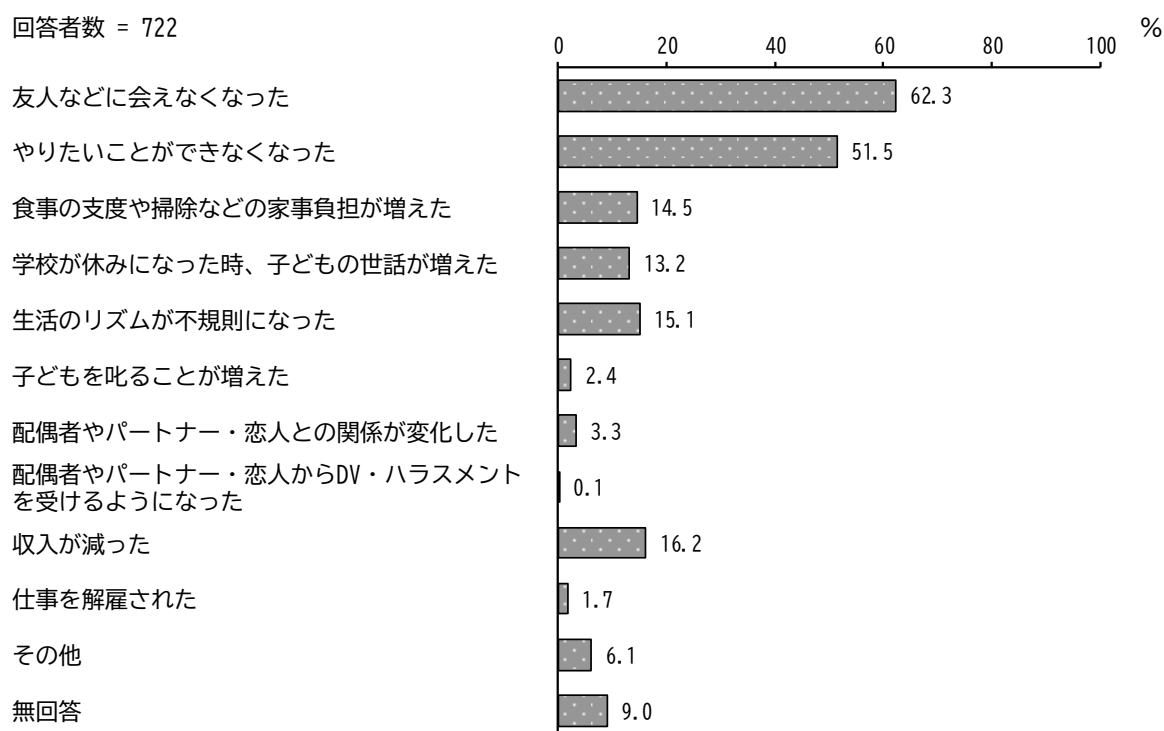


(8) 新型コロナウイルス感染症の影響について

問 37 新型コロナウイルス感染症の影響で、あなたの生活や行動に変化はありましたか。(あてはまるものはすべてに○)

「友人などに会えなくなった」の割合が 62.3%と最も高く、次いで「やりたいことができなくなった」の割合が 51.5%、「収入が減った」の割合が 16.2%となっています。

回答者数 = 722



【性別】

性別にみると、女性で「友人などに会えなくなった」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	友人などに会えなくなった	やりたいことができなくなった	食事の支度や掃除などの家事負担が増えた	学校が休みになった時、子どもの世話が增えた	生活のリズムが不規則になった	子どもを叱ることが増えた
全 体	722	62.3	51.5	14.5	13.2	15.1	2.4
男性	293	52.2	50.5	6.1	6.8	17.4	1.4
女性	421	69.8	51.8	20.2	17.8	13.3	3.1
その他	6	33.3	83.3	33.3	－	33.3	－

区分	配偶者やパートナー・恋人との関係が変化した	配偶者やパートナー・恋人からDV・ハラスメントを受けるようになった	収入が減った	仕事を解雇された	その他	無回答
全 体	3.3	0.1	16.2	1.7	6.1	9.0
男性	2.7	－	19.1	1.7	6.5	10.2
女性	3.8	0.2	14.0	1.7	5.9	7.8
その他	－	－	16.7	－	－	16.7

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性 40 歳代で「学校が休みになった時、子どもの世話が增えた」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	友人などに会えな くなった	やりたいことがで きなくなった	食事の支度や掃除 などの家事負担が 増えた	学校が休みになっ た時、子どもの世 話が增えた	生活のリズムが不 規則になった	子どもを叱ること が増えた
全 体	722	62.3	51.5	14.5	13.2	15.1	2.4
男性 18・19 歳	4	25.0	—	—	—	75.0	—
20 歳代	20	45.0	50.0	5.0	—	35.0	—
30 歳代	22	68.2	40.9	9.1	22.7	9.1	4.5
40 歳代	51	54.9	62.7	7.8	17.6	11.8	3.9
50 歳代	83	48.2	48.2	6.0	7.2	13.3	1.2
60 歳代	52	46.2	55.8	1.9	—	9.6	—
70 歳以上	61	59.0	45.9	8.2	—	27.9	—
女性 18・19 歳	—	—	—	—	—	—	—
20 歳代	24	66.7	62.5	12.5	4.2	20.8	4.2
30 歳代	60	76.7	46.7	21.7	36.7	8.3	6.7
40 歳代	67	73.1	52.2	35.8	43.3	11.9	10.4
50 歳代	93	64.5	50.5	24.7	20.4	14.0	—
60 歳代	85	74.1	56.5	16.5	2.4	14.1	1.2
70 歳以上	92	65.2	48.9	8.7	2.2	14.1	—

単位：％

区分	配偶者やパートナー・恋人との関係が 変化した	配偶者やパートナー・恋人からＤＭ・ハ ラスメントを受ける ようになった	収入が減った	仕事を解雇された	その他	無回答
全 体	3.3	0.1	16.2	1.7	6.1	9.0
男性 18・19 歳	—	—	—	—	—	25.0
20 歳代	—	—	15.0	—	10.0	10.0
30 歳代	—	—	9.1	4.5	4.5	9.1
40 歳代	2.0	—	15.7	3.9	3.9	3.9
50 歳代	—	—	27.7	—	8.4	9.6
60 歳代	3.8	—	23.1	3.8	5.8	15.4
70 歳以上	8.2	—	13.1	—	6.6	11.5
女性 18・19 歳	—	—	—	—	—	—
20 歳代	4.2	—	20.8	4.2	4.2	8.3
30 歳代	6.7	—	16.7	—	3.3	3.3
40 歳代	9.0	1.5	22.4	3.0	6.0	3.0
50 歳代	1.1	—	16.1	3.2	9.7	5.4
60 歳代	1.2	—	9.4	—	4.7	8.2
70 歳以上	3.3	—	6.5	1.1	5.4	16.3

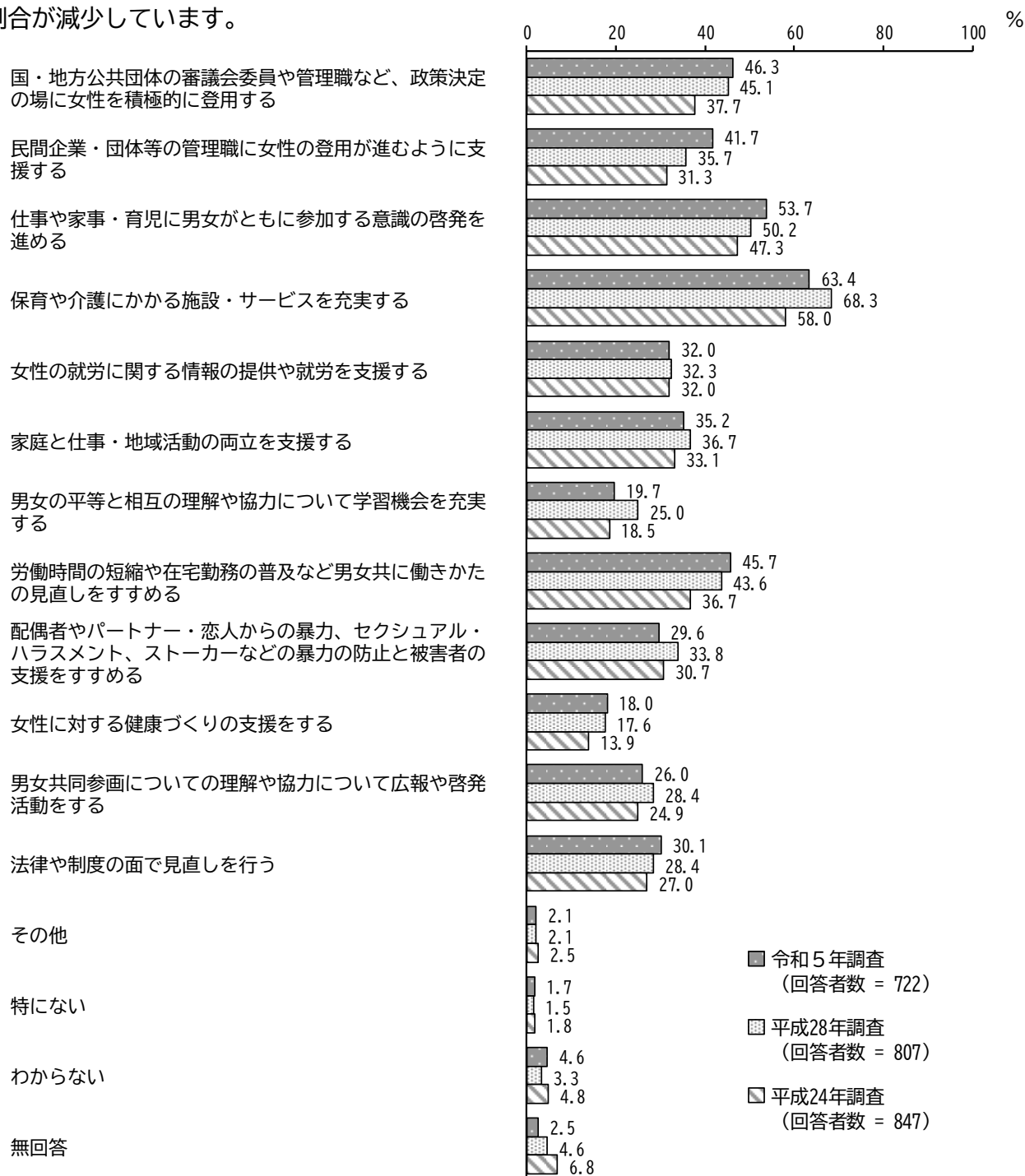
(前ページの表 続き)

(9) 男女共同参画行政について

問 38 今後、女性も男性も、ともに社会のあらゆる分野に積極的に参加していくために、「行政」はどのようなことに取り組む必要があると思いますか。
(あてはまるものはすべてに○)

「保育や介護にかかる施設・サービスを充実する」の割合が 63.4%と最も高く、次いで「仕事や家事・育児に男女がともに参加する意識の啓発を進める」の割合が 53.7%、「国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」の割合が 46.3%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むように支援する」の割合が増加しています。一方、「男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

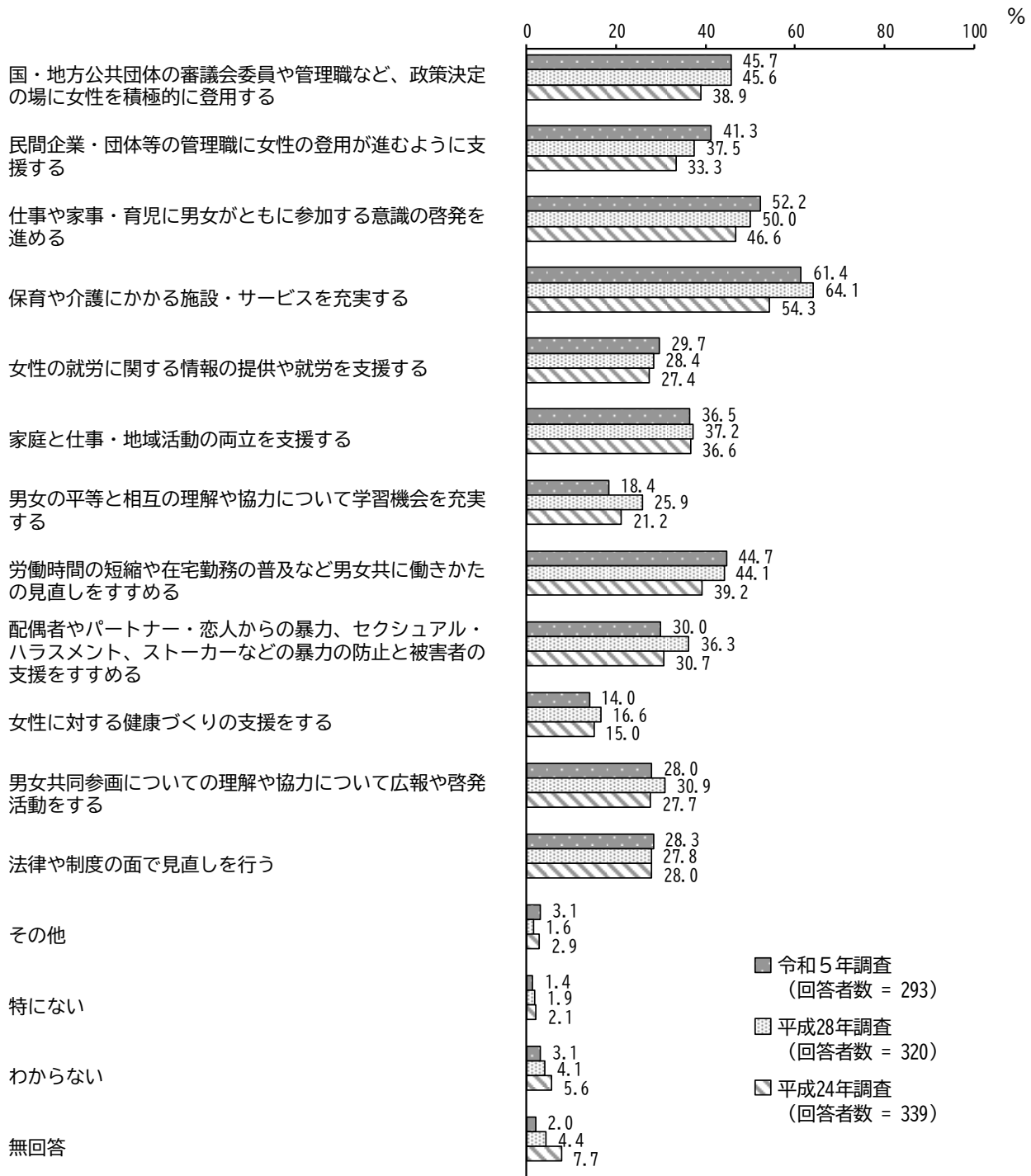
区分	回答者数 (件)	国・地方公共団体の審議会 委員や管理職など、政策決 定の場に女性を積極的に 登用する	民間企業・団体等の管理職 に女性の登用が進むよう に支援する	仕事や家事・育児に男女が ともに参加する意識の啓 発を進める	保育や介護にかかる施設・ サービスを充実する	女性の就労に関する情報 の提供や就労を支援する
全 体	722	46.3	41.7	53.7	63.4	32.0
男性	293	45.7	41.3	52.2	61.4	29.7
女性	421	46.3	41.8	54.6	65.3	33.3
その他	6	66.7	50.0	66.7	50.0	66.7

区分	家庭と仕事・地域活動の両 立を支援する	男女の平等と相互の理解 や協力について学習機会 を充実する	労働時間の短縮や在宅勤 務の普及など男女共に働 きかたの見直しをすすめ る	配偶者やパートナー・恋人 からの暴力、セクシユア ル・ハラスメント、ストー ーカーなどの暴力の防止と 被害者の支援をすすめる	女性に対する健康づくり の支援をする	男女共同参画についての 理解や協力について広報 や啓発活動をする
全 体	35.2	19.7	45.7	29.6	18.0	26.0
男性	36.5	18.4	44.7	30.0	14.0	28.0
女性	33.7	20.2	46.1	28.5	20.4	24.7
その他	66.7	50.0	66.7	83.3	50.0	33.3

区分	法律や制度の面で見直し を行う	その他	特にな い	わからない	無回答
全 体	30.1	2.1	1.7	4.6	2.5
男性	28.3	3.1	1.4	3.1	2.0
女性	30.6	1.4	1.9	5.7	2.6
その他	66.7	—	—	—	—

【経年比較・男性】

平成 28 年調査と比較すると、「男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する」「配偶者やパートナー・恋人からの暴力、セクシュアル・ハラスメント、ストーカーなどの暴力の防止と被害者の支援をすすめる」の割合が減少しています。



【経年比較・女性】

平成28年調査と比較すると、「民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むように支援する」の割合が増加しています。一方、「保育や介護にかかる施設・サービスを充実する」の割合が減少しています。

